

令和7年度
「群馬県 ヤングケアラー実態調査」
調査結果報告書

令和8年3月
群馬県

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の設計	2
3. 集計・分析にあたって	2
4. 標本補正について	3
5. 回収率	5
6. 回答者の属性	7
(1) 居住市町村	7
(2) 性別	8
(3) 年齢	8
(4) 職種	9
(5) 業種	10
(6) 婚姻状況	11
(7) こどもの有無	11
(8) こどもの年代	11
(9) 家族構成	12
7. 回答者の属性（地域別）	13
(1) 性別	13
(2) 年齢	14
(3) 職種	15
(4) 業種	17
(5) 婚姻状況	20
(6) こどもの有無	21
(7) こどもの年代	22
(8) 家族構成	23
II 調査結果	24
1. ヤングケアラーについて	25
2. 家庭や家族のことについて	39
3. 調査票	112
4. その他記述	126
III 分析結果	130
分析結果	131
1. お世話の大変さ別にみた平日のお世話時間の分布	131
2. お世話の大変さ別にみた生活への影響	132
3. お世話の大変さ別にみたお世話の内容	133
4. 相談経験の有無別にみた生活への影響	134
5. 周囲に助けてほしいこと別にみた生活への影響	135
6. 希望する相談方法別にみた生活への影響	137
7. お世話対象者の状況別にみたお世話の内容	138
8. お世話を他にする人別にみたお世話の内容	140
9. お世話の有無別にみたヤングケアラーの自己認識	141
分析のまとめ	142

I 調査概要

1. 調査の目的

子ども・若者育成支援推進法の改正により、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象にヤングケアラーが明記されました。ヤングケアラー支援の対象年齢は「おおむね 30 歳未満の者を中心として、施策内容によりおおむね 40 歳未満の者を対象」とされています。また、都道府県においては、広域的な調査を実施した上で、主に 18 歳以上のヤングケアラーである若者への支援体制の構築が求められていることから、当該対象年齢におけるヤングケアラーの実態を把握し、必要な支援を適切に行うことを目的に、調査を実施しました。

2. 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 群馬県内全域 |
| (2) 調査対象 | 県内在住の満 18 歳～満 39 歳の個人 |
| (3) 標本数 | 3,300 人 |
| (4) 抽出方法 | 選挙人名簿を用いた層化二段無作為抽出法
11 地域から 300 人ずつ |
| (5) 調査方法 | 郵送配付、郵送・WEB アンケートシステムによる無記名回収 |
| (6) 調査期間 | 令和 7 年 12 月 5 日～令和 8 年 1 月 16 日 |

3. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」は回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。
例：回答者総数 3 人で、「はい」：1 人（33.3%）、「いいえ」1 人（33.3%）、「無回答」：1 人（33.3%）の場合、合計は 100%となりません。
- (3) 複数回答の場合、回答者総数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が 100%を超えることがあります。
- (4) 本文及び図表中、意味を損なわない範囲で簡略化した選択肢があります。
- (5) 属性別分析の記載については、「無回答者」等は割愛しています。

4. 標本補正について

本調査では、地域別の状況把握ができるよう、各地域一律300標本を抽出しています。しかし、このままでは実際の人口との歪みが生じるため、県全体のアンケート結果の集計・分析にあたり、各地域の回答結果を単純に合計するのではなく、回答者の居住地域の偏りを補正し、回答者の構成が県全体の縮図となるよう、地域別の集計ウエイト（地域ウエイト）を乗じて規正しました。（地域区分は地域分布図を参照）

全体（全県）集計結果は、規正標本数を基に回答者の割合（百分率%）を補正しています。

なお、本章（Ⅰ 調査概要）の6. 回答者の属性の頁、及び、7. 回答者の属性（地域別）の頁については、全体（全県）集計結果への補正を行わない値（通常集計）を以って掲載しています。

加えて、規正標本数は乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。

地域別の有効回収数と「地域ウエイト」（推定母集団構成比÷有効回収構成比）

地域名		推定母集団 (18歳以上人口数)		有効回収数		地域ウエイト (A)／(B)
		実数(人)	構成比(%) (A)	実数(人)	構成比(%) (B)	
1	前橋地域	64,556	16.6	129	10.4	1.6053
2	北群馬・渋川地域	21,031	5.4	106	8.5	0.6365
3	佐波伊勢崎地域	57,312	14.8	114	9.1	1.6127
4	高崎・安中地域	87,193	22.4	131	10.5	2.1352
5	多野藤岡地域	12,103	3.1	109	8.7	0.3562
6	甘楽・富岡地域	10,726	2.8	114	9.1	0.3018
7	吾妻地域	7,883	2.0	100	8.0	0.2529
8	利根沼田地域	12,070	3.1	122	9.8	0.3174
9	太田地域	50,844	13.1	102	8.2	1.5990
10	桐生・みどり地域	26,394	6.8	113	9.1	0.7493
11	邑楽館林地域	38,306	9.9	106	8.5	1.1593
合計		388,418	100.0	1,246	100.0	-
無回答		-	-	3	-	1.0000

※人口数出典：群馬県年齢別人口統計調査結果（令和6年10月1日現在、年齢不詳は除く）

「規正標本数」（個々の回答者に「地域ウエイト」を乗じて規正した標本数）

地域	合計	性別		年齢				
		男性	女性	18～22歳	23歳～25歳	26歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳
合計	1249	501	718	290	131	172	307	346
	100.0	40.1	57.5	23.2	10.5	13.8	24.6	27.7
前橋市地域	207	96	106	50	22	24	48	63
	100.0	46.5	51.2	24	10.9	11.6	23.3	30.2
北群馬渋川地域	67	27	38	8	7	11	20	20
	100.0	39.6	56.6	12.3	10.4	17	30.2	30.2
佐波伊勢崎地域	184	73	106	44	18	21	45	55
	100.0	39.5	57.9	23.7	9.6	11.4	24.6	29.8
高崎・安中地域	280	109	167	58	32	34	64	92
	100.0	38.9	59.5	20.6	11.5	12.2	22.9	32.8
多野藤岡地域	39	15	24	11	2	6	11	9
	100.0	37.6	61.5	28.4	5.5	16.5	27.5	22
甘楽富岡地域	34	13	20	7	3	7	7	11
	100.0	38.6	58.8	19.3	9.6	20.2	20.2	30.7
吾妻地域	25	10	14	4	2	4	9	7
	100.0	41	56	16	7	14	34	29
利根沼田地域	39	17	22	11	5	7	7	8
	100.0	42.6	55.7	27.9	13.1	18.9	18.9	21.3
太田地域	163	64	96	38	18	22	46	38
	100.0	39.2	58.8	23.5	10.8	13.7	28.4	23.5
桐生・みどり地域	85	34	49	20	9	10	23	22
	100.0	40.7	58.4	23.9	10.6	12.4	27.4	25.7
邑楽・館林地域	123	42	75	38	13	24	26	22
	100.0	34	61.3	31.1	10.4	19.8	20.8	17.9

※「地域（市町村）」「性別」「年代」いずれか不明の人は補正除外としました。

5. 回収率

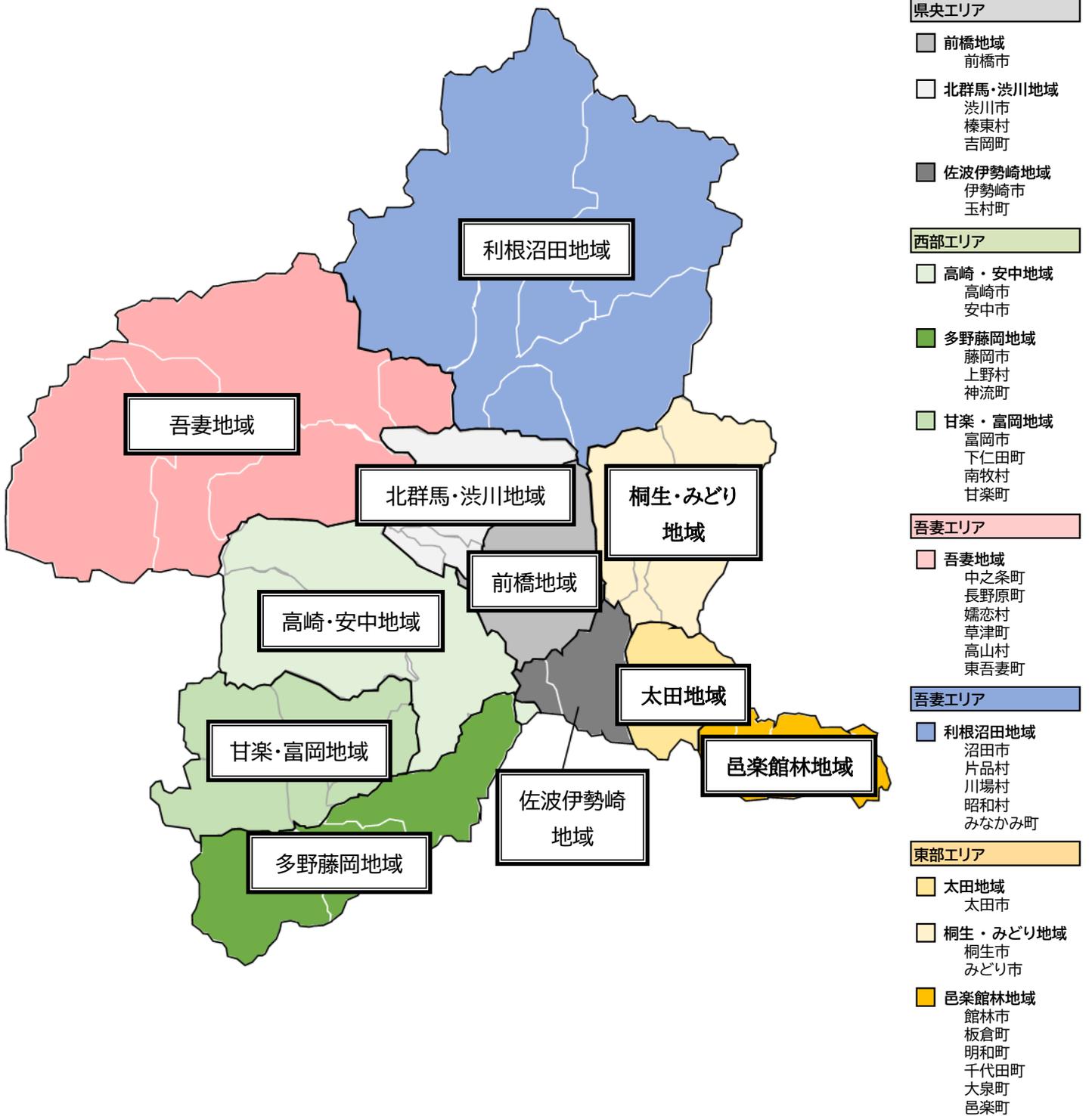
(1) 有効回収数：1,249 件

(郵送による回収数：354 件、
WEB アンケートシステムによる回収数：895 件)

(2) 有効回収率：37.8%

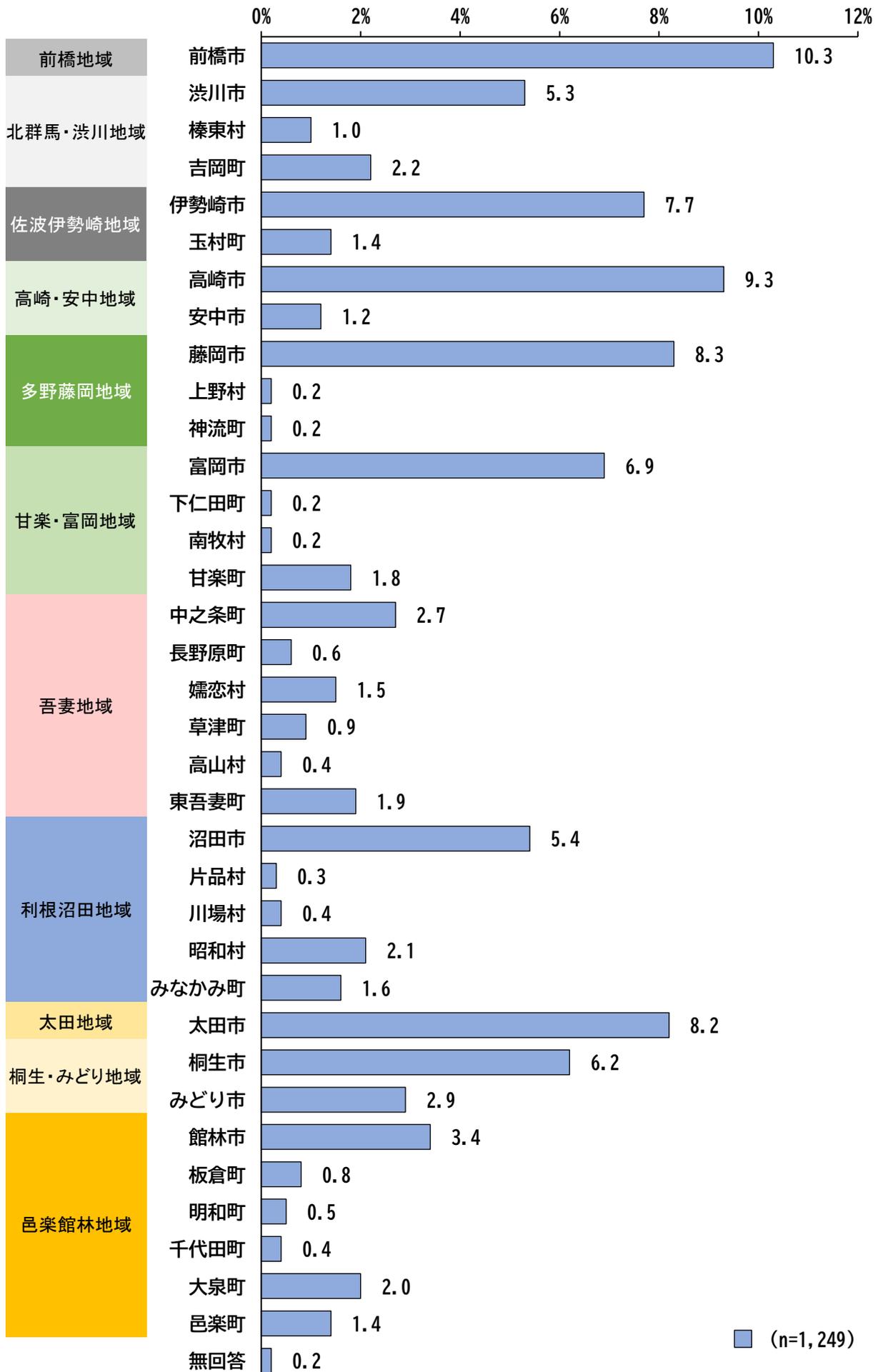
	地域	市町村	有効回収数	回収率
1	前橋地域	前橋市	129	43.0
2	北群馬・渋川地域	渋川市、榛東村、吉岡町	106	35.3
3	佐波伊勢崎地域	伊勢崎市、玉村町	114	38.0
4	高崎・安中地域	高崎市、安中市	131	43.7
5	多野藤岡地域	藤岡市、上野村、神流町	109	36.3
6	甘楽・富岡地域	富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町	114	38.0
7	吾妻地域	中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町	100	33.3
8	利根沼田地域	沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町	122	40.7
9	太田地域	太田市	102	34.0
10	桐生・みどり地域	桐生市、みどり市	113	37.7
11	邑楽館林地域	館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町	106	35.3
居住地域無回答			3	/
合計			1,249	37.8

【地域分布図】

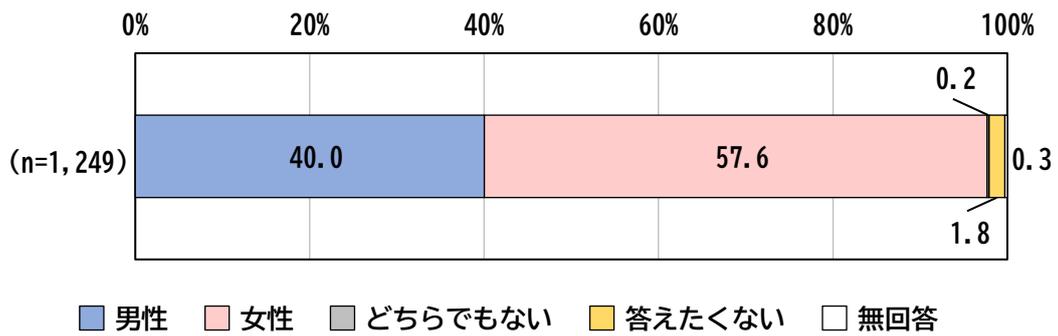


6. 回答者の属性

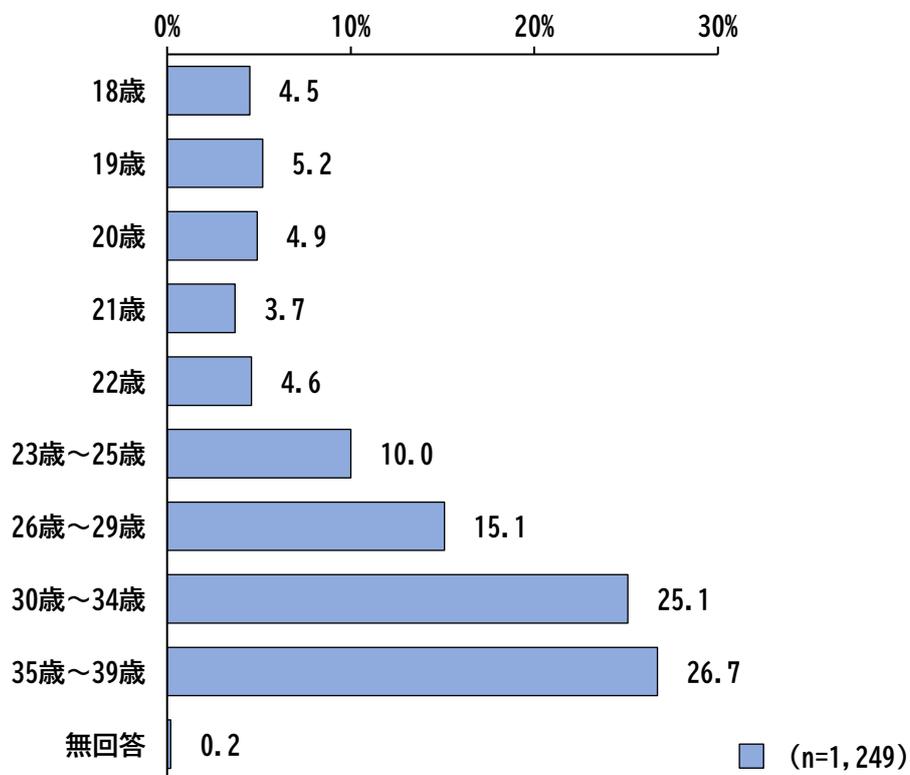
(1) 居住市町村



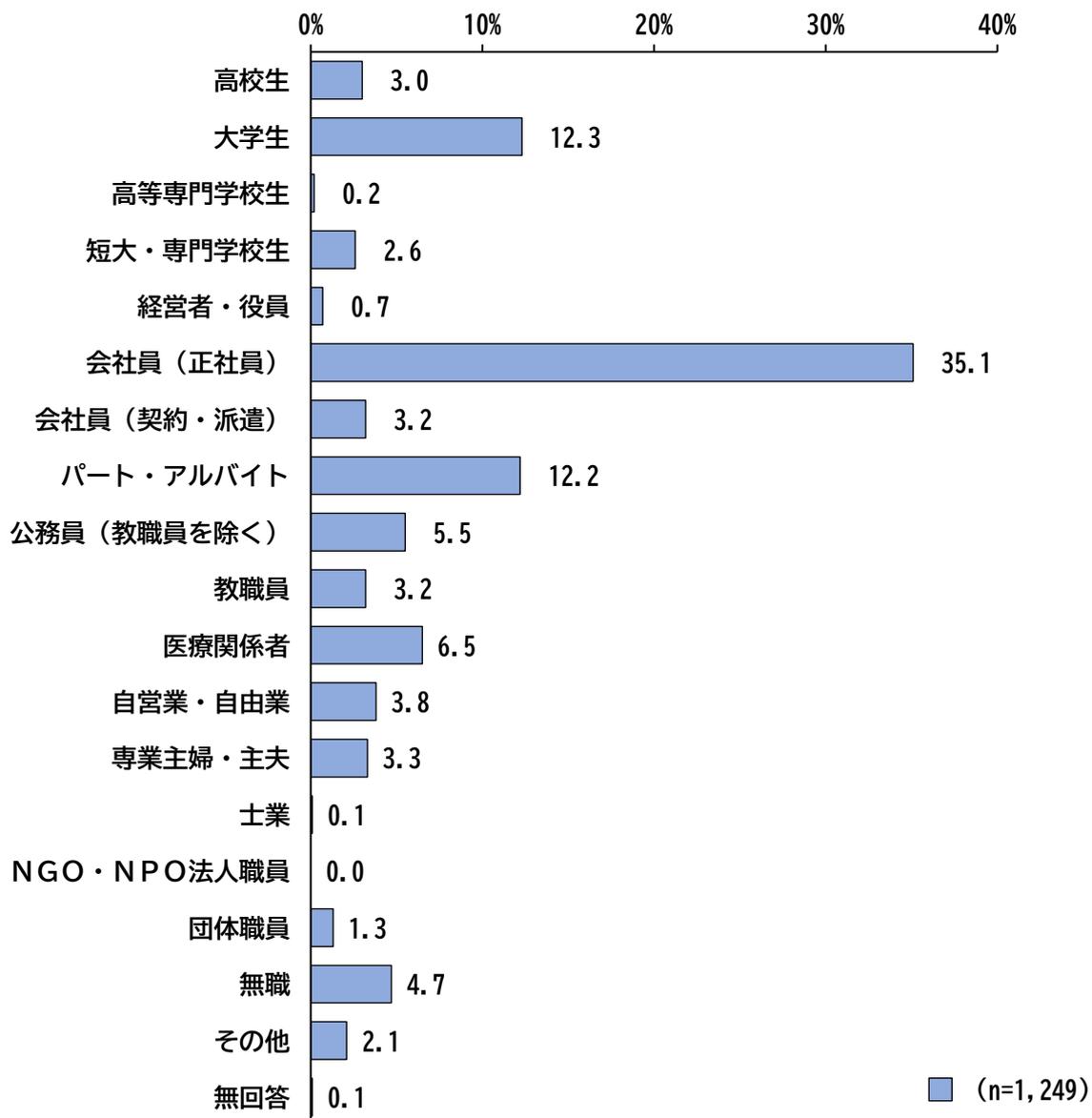
(2) 性別



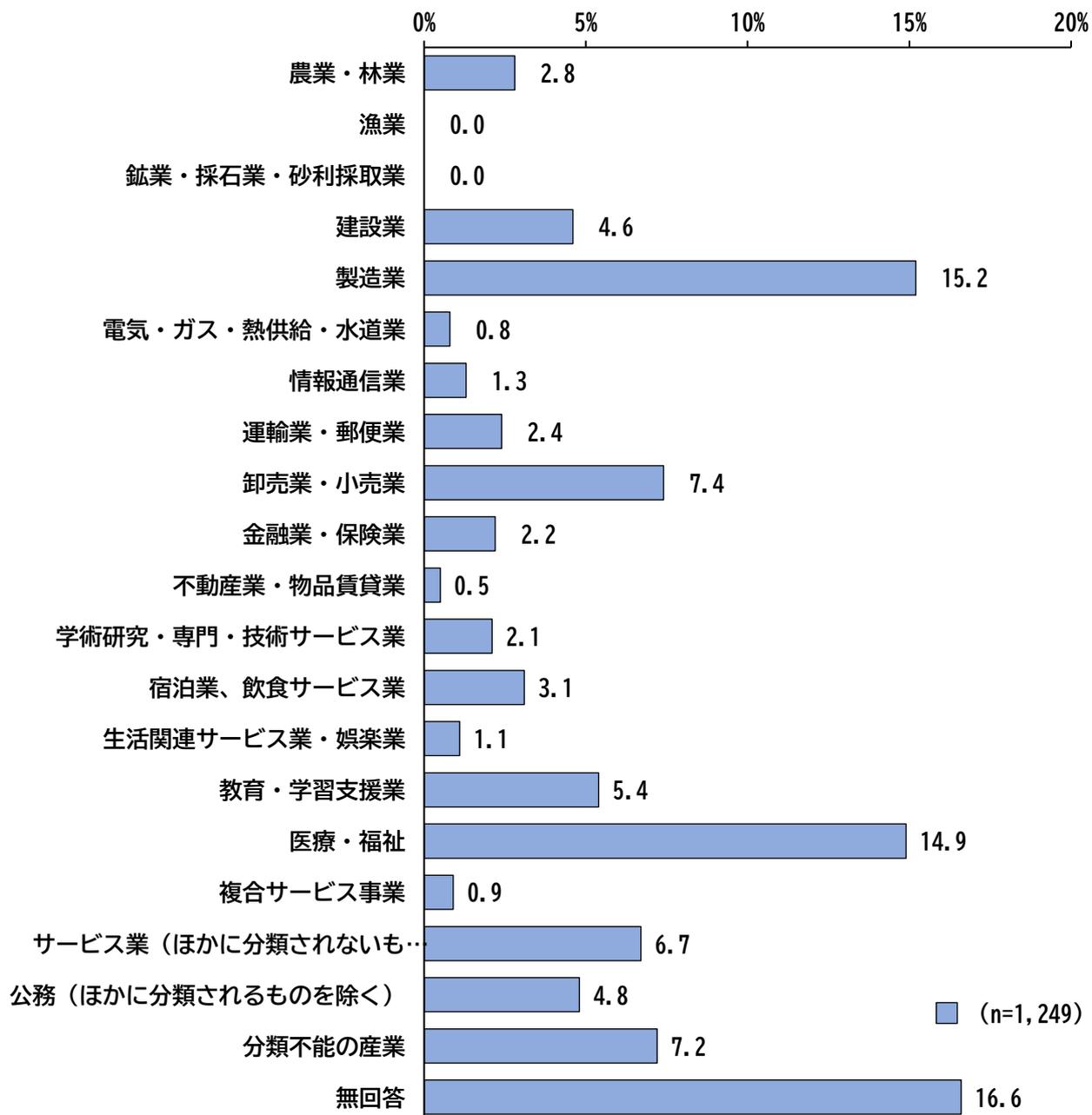
(3) 年齢



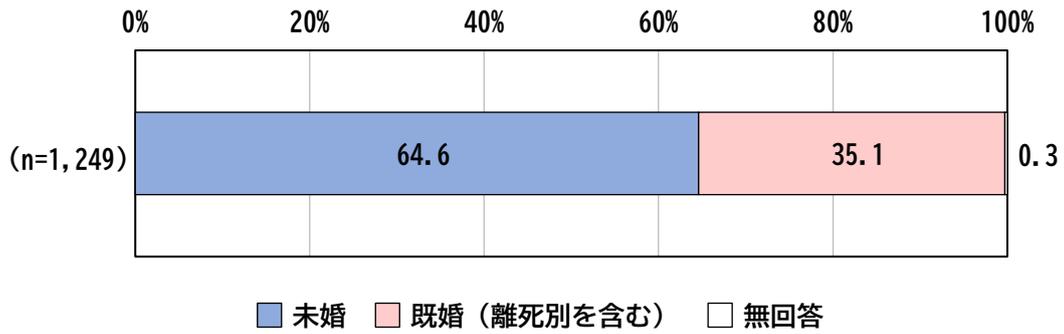
(4) 職種



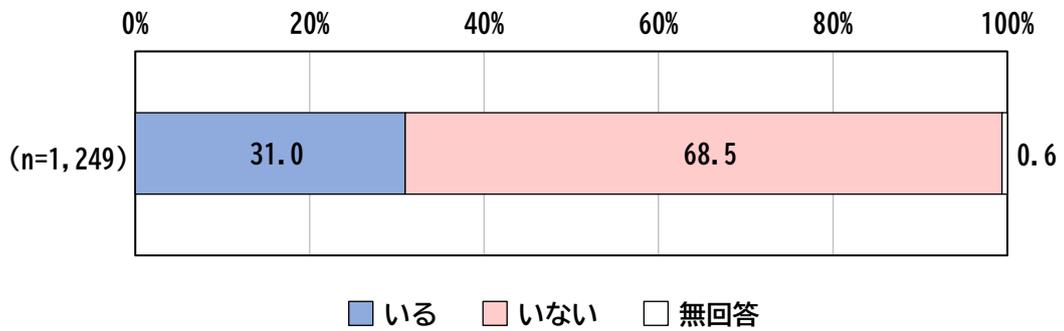
(5) 業種



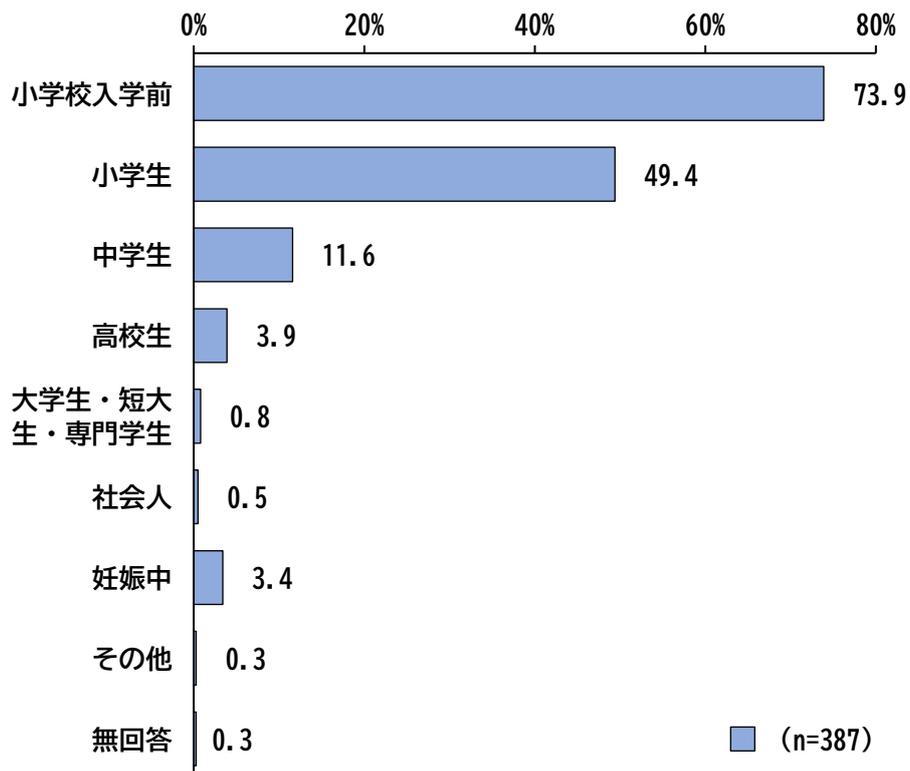
(6) 婚姻状況



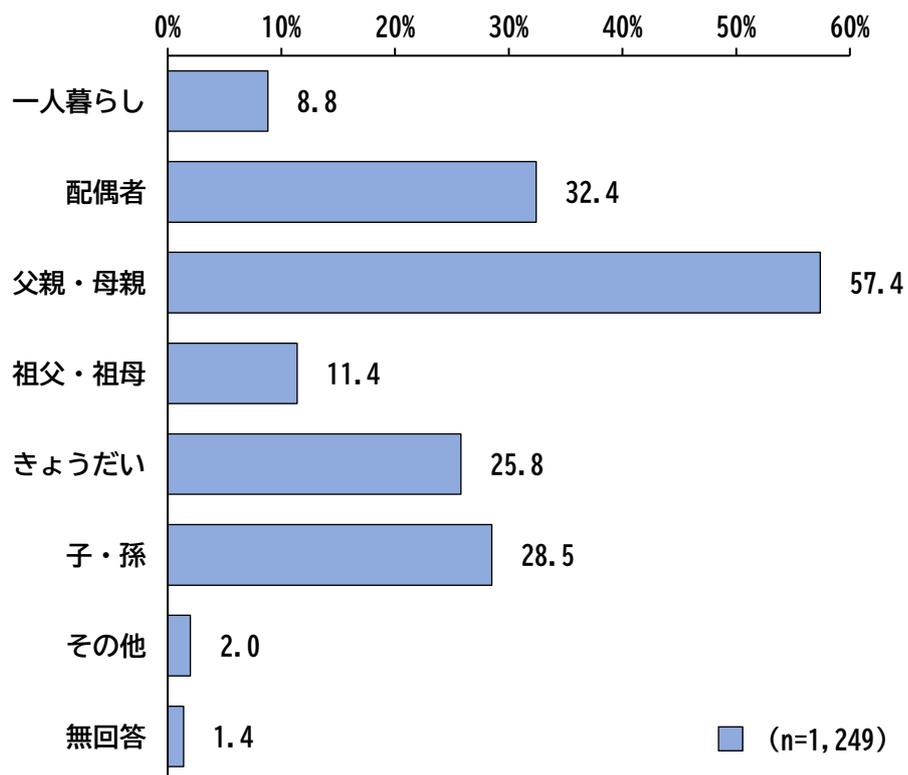
(7) こどもの有無



(8) こどもの年代

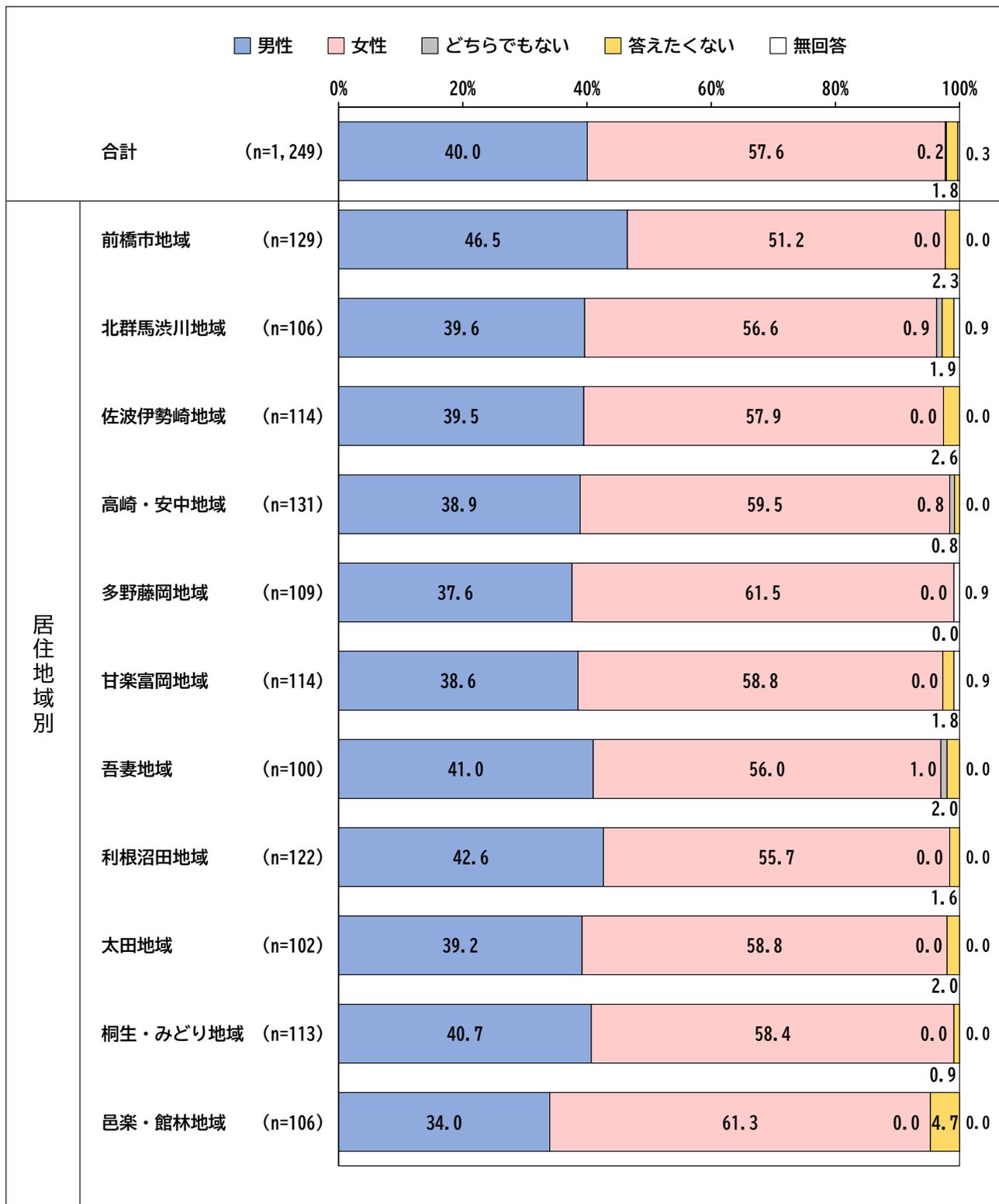


(9) 家族構成

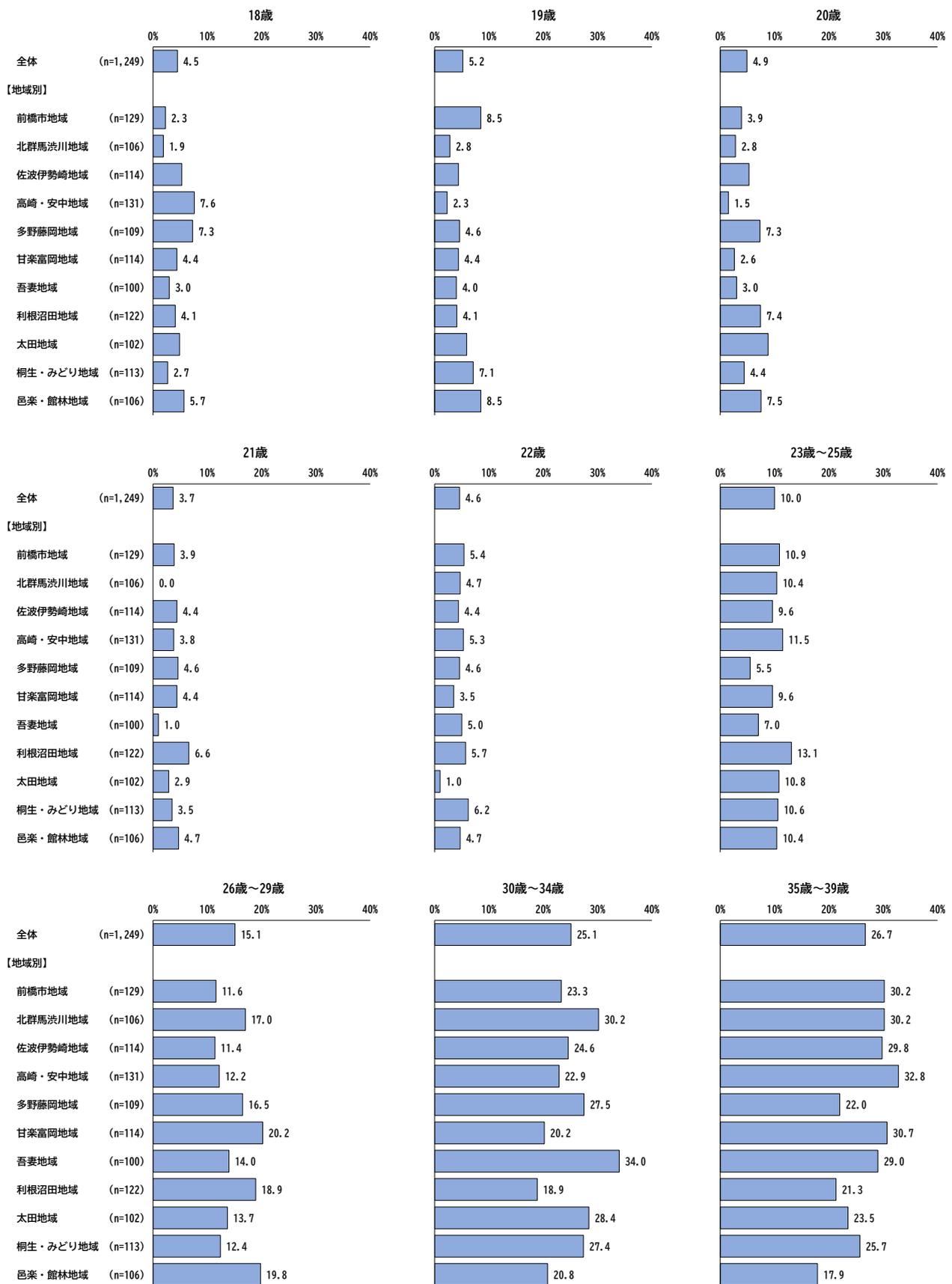


7. 回答者の属性（地域別）

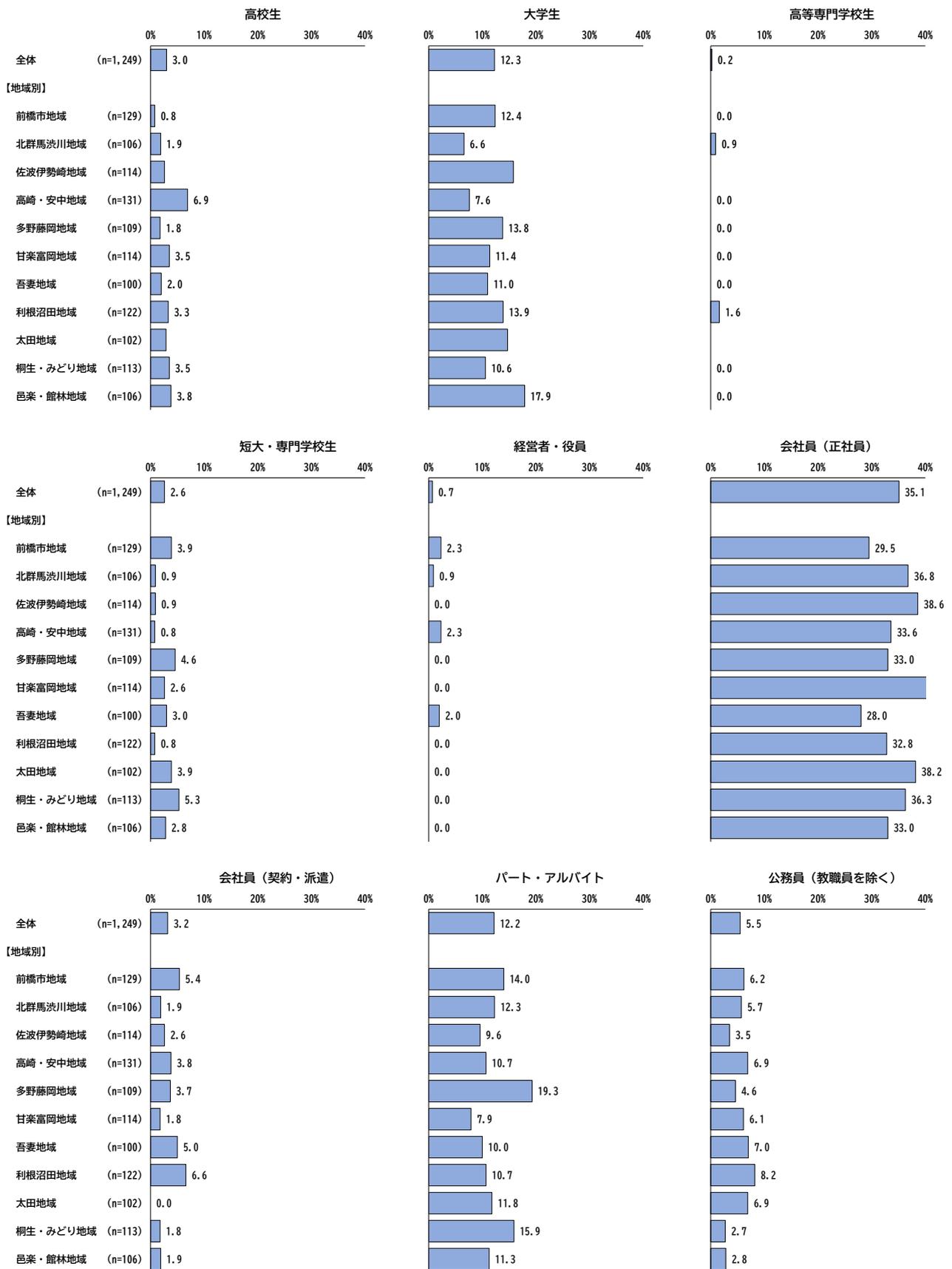
(1) 性別

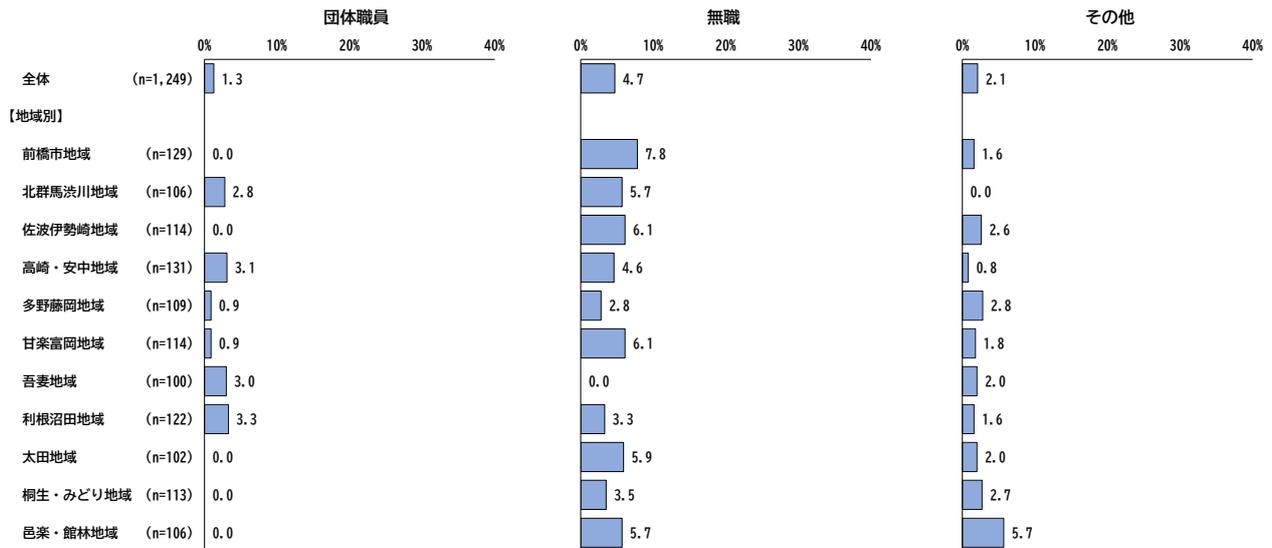
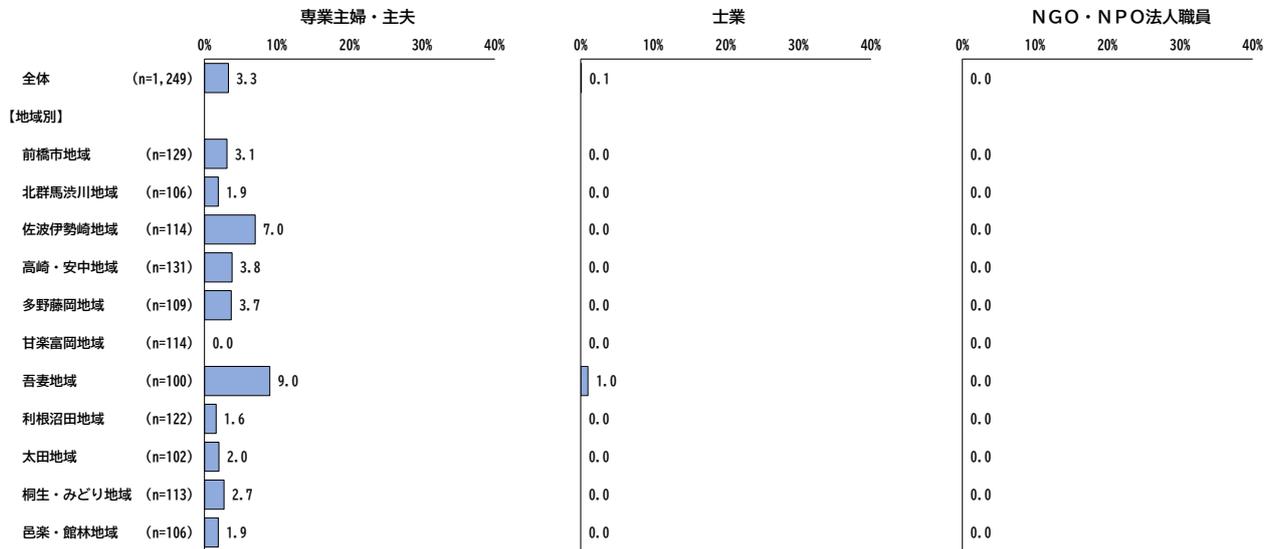
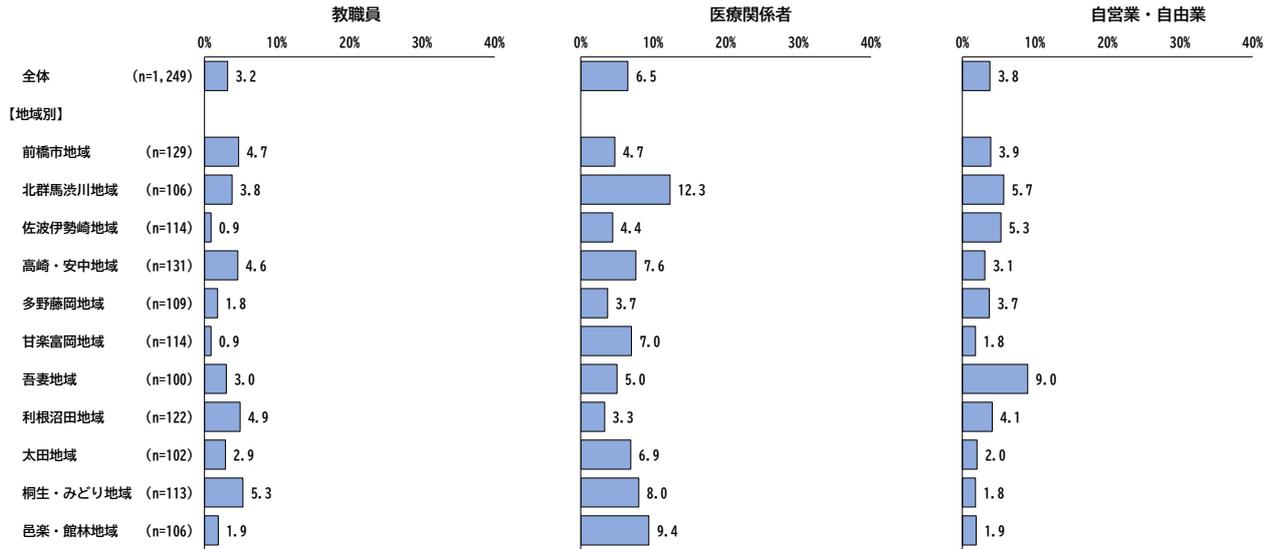


(2) 年齢

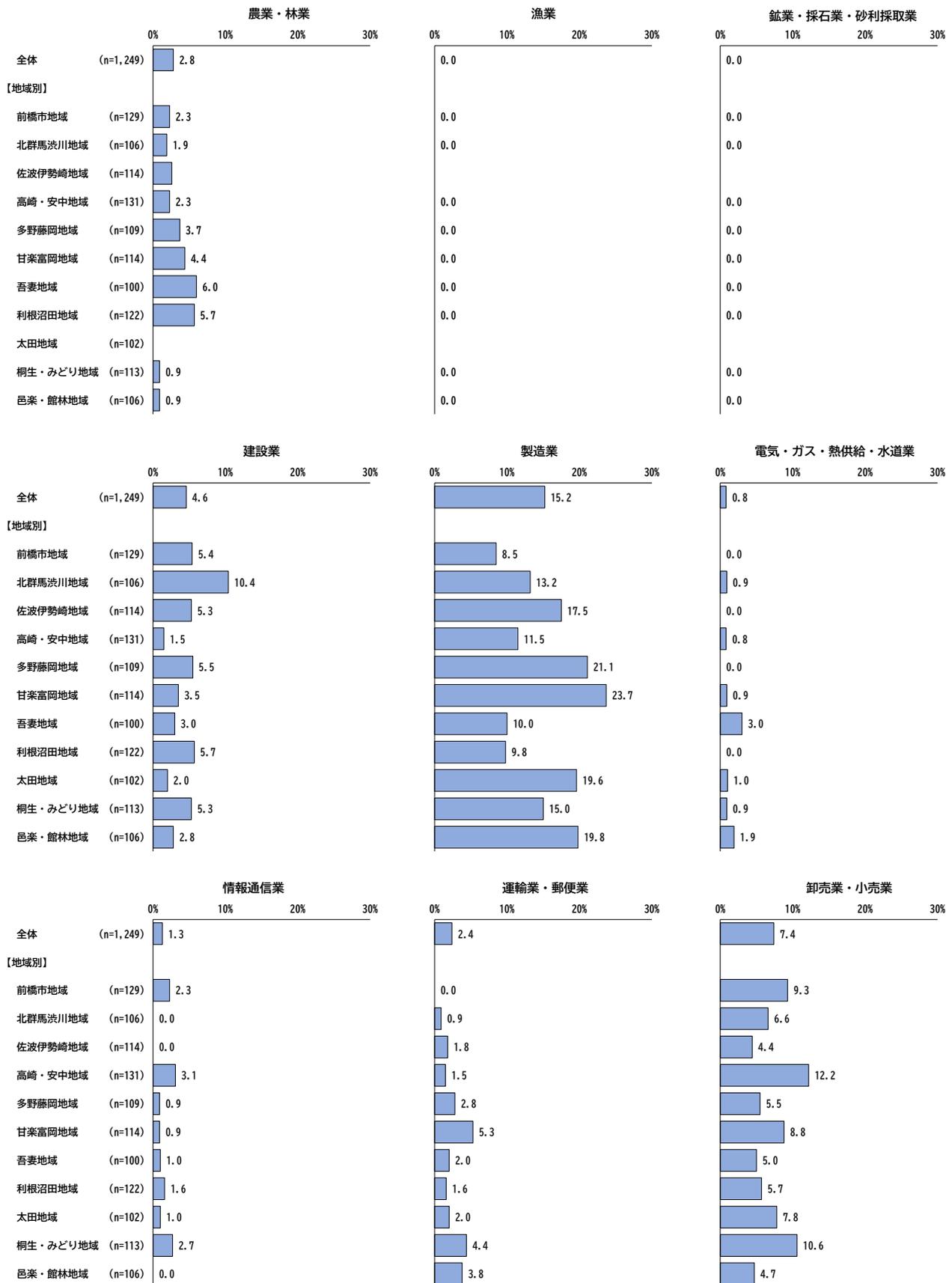


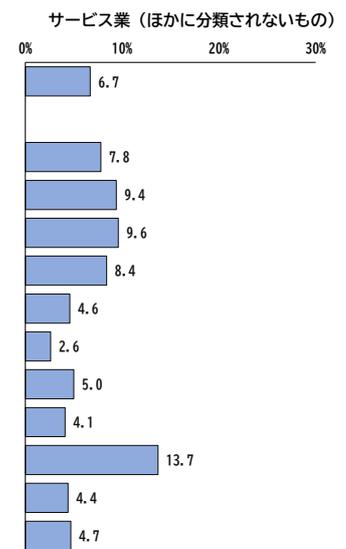
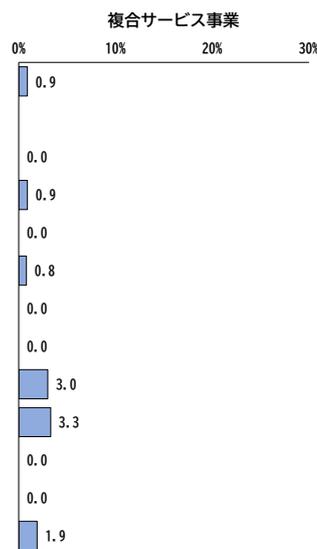
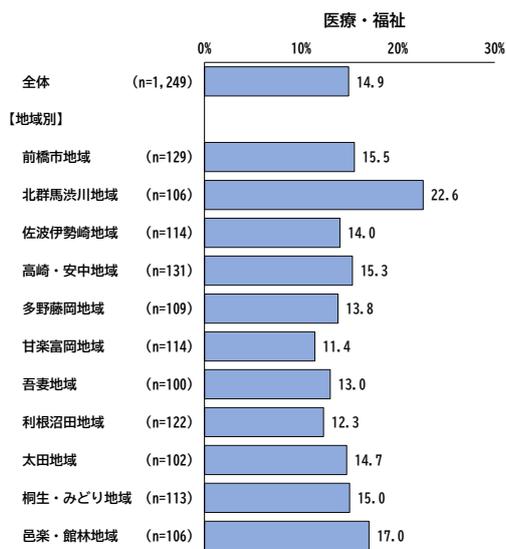
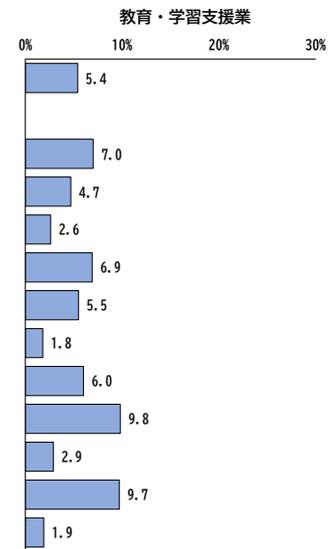
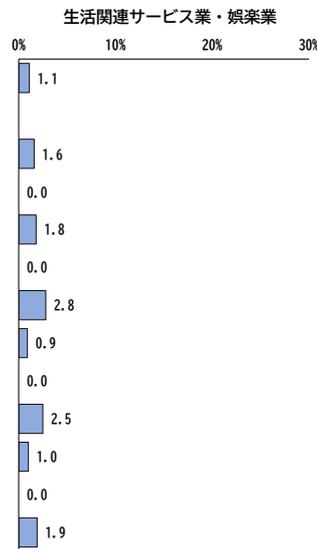
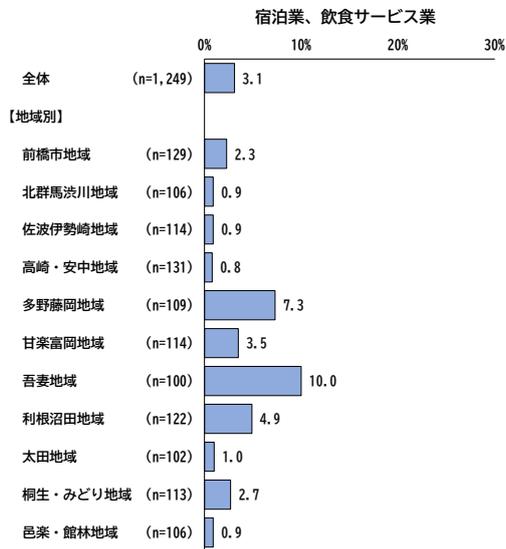
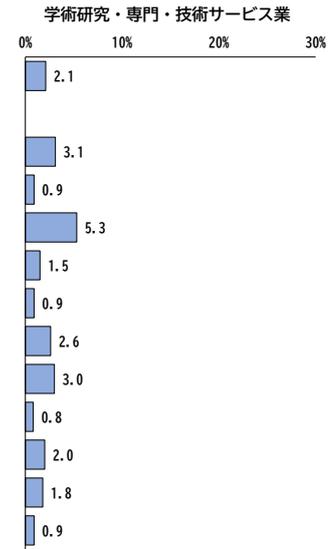
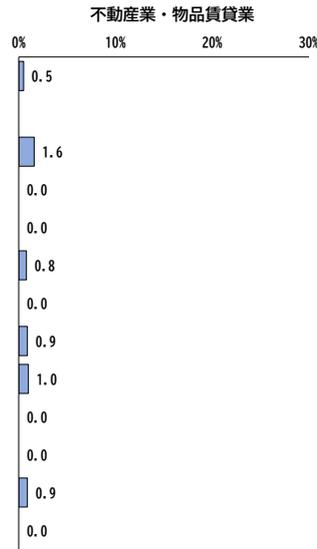
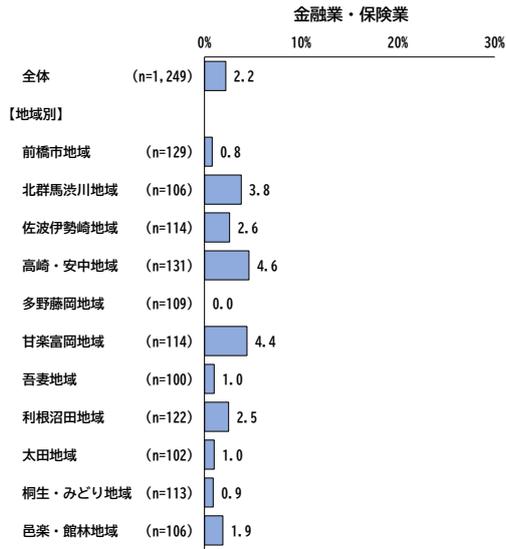
(3) 職種

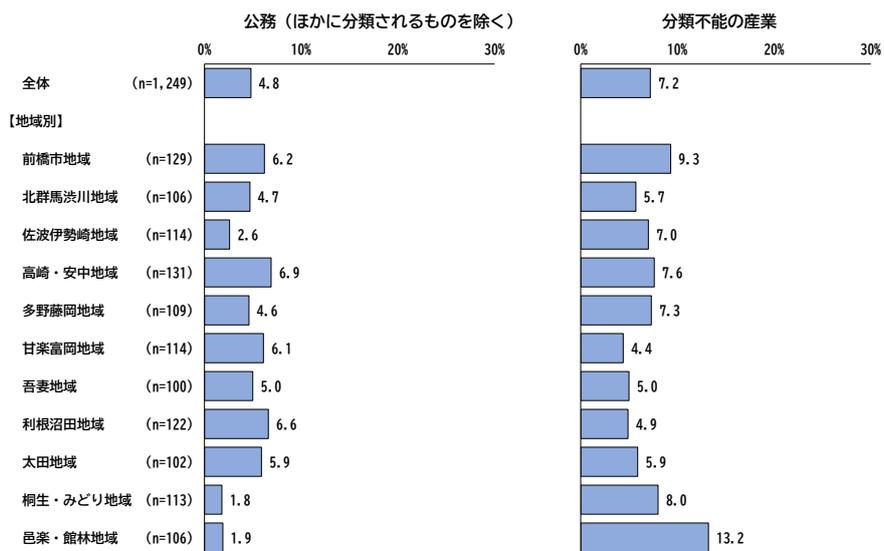




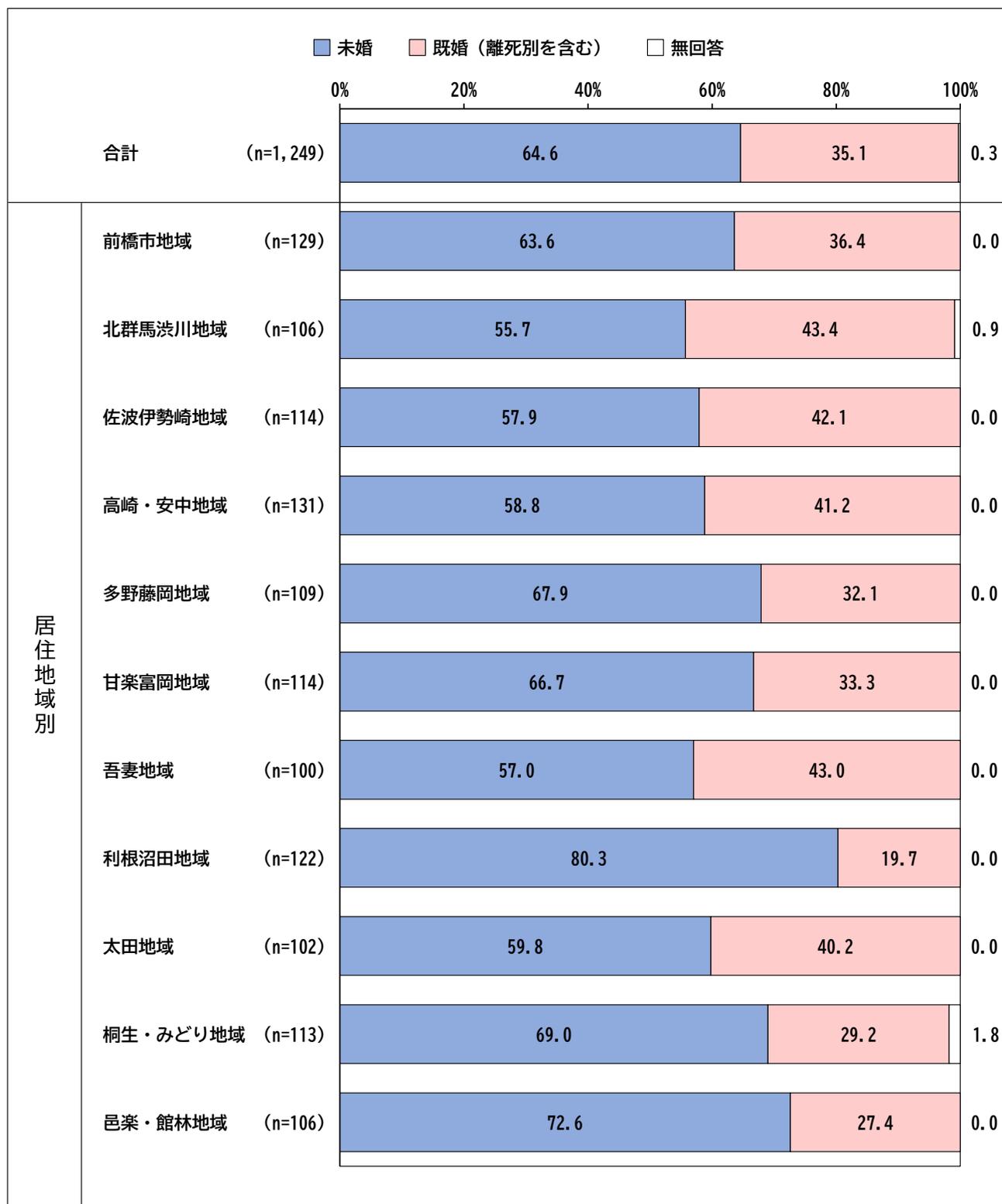
(4) 業種



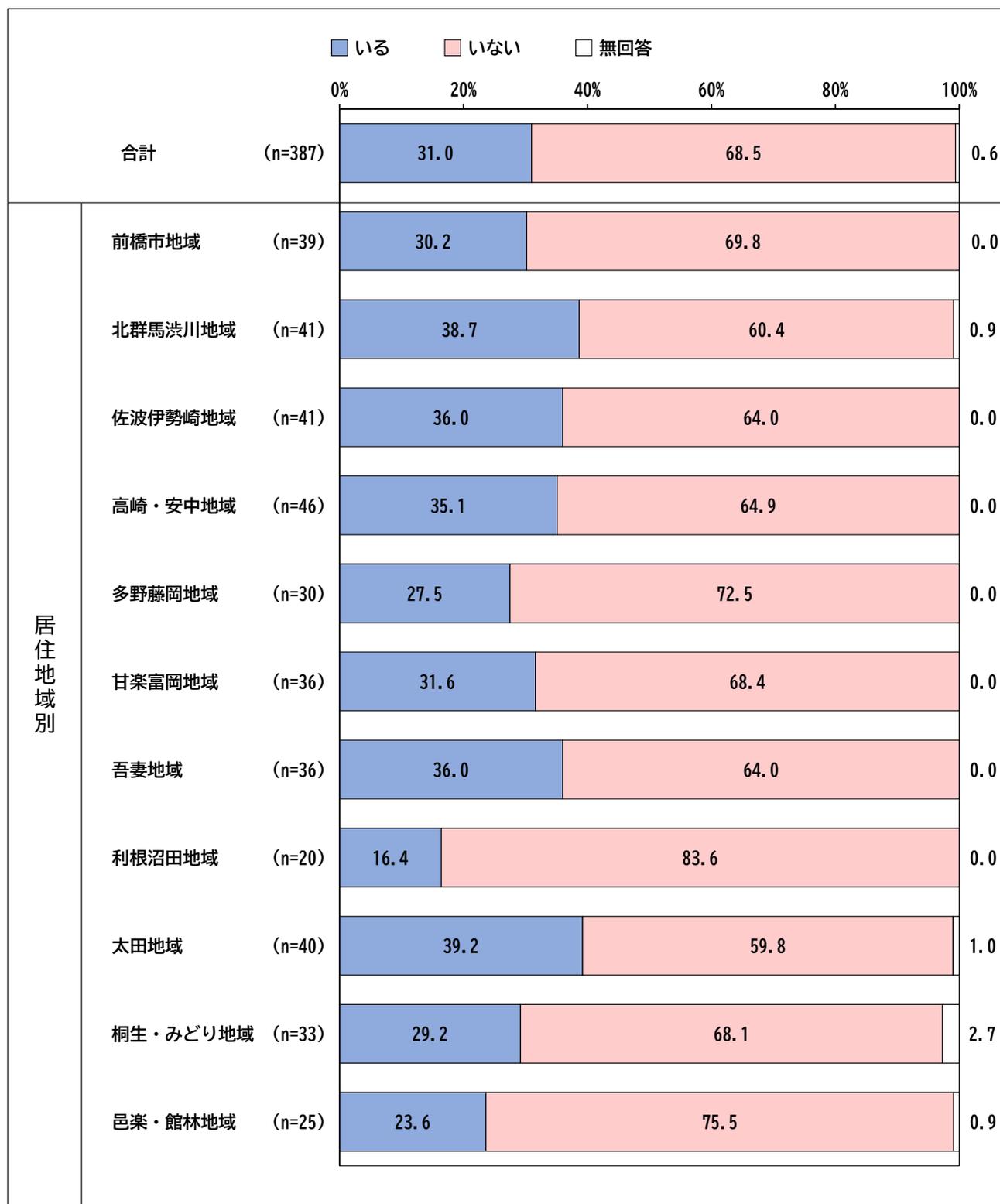




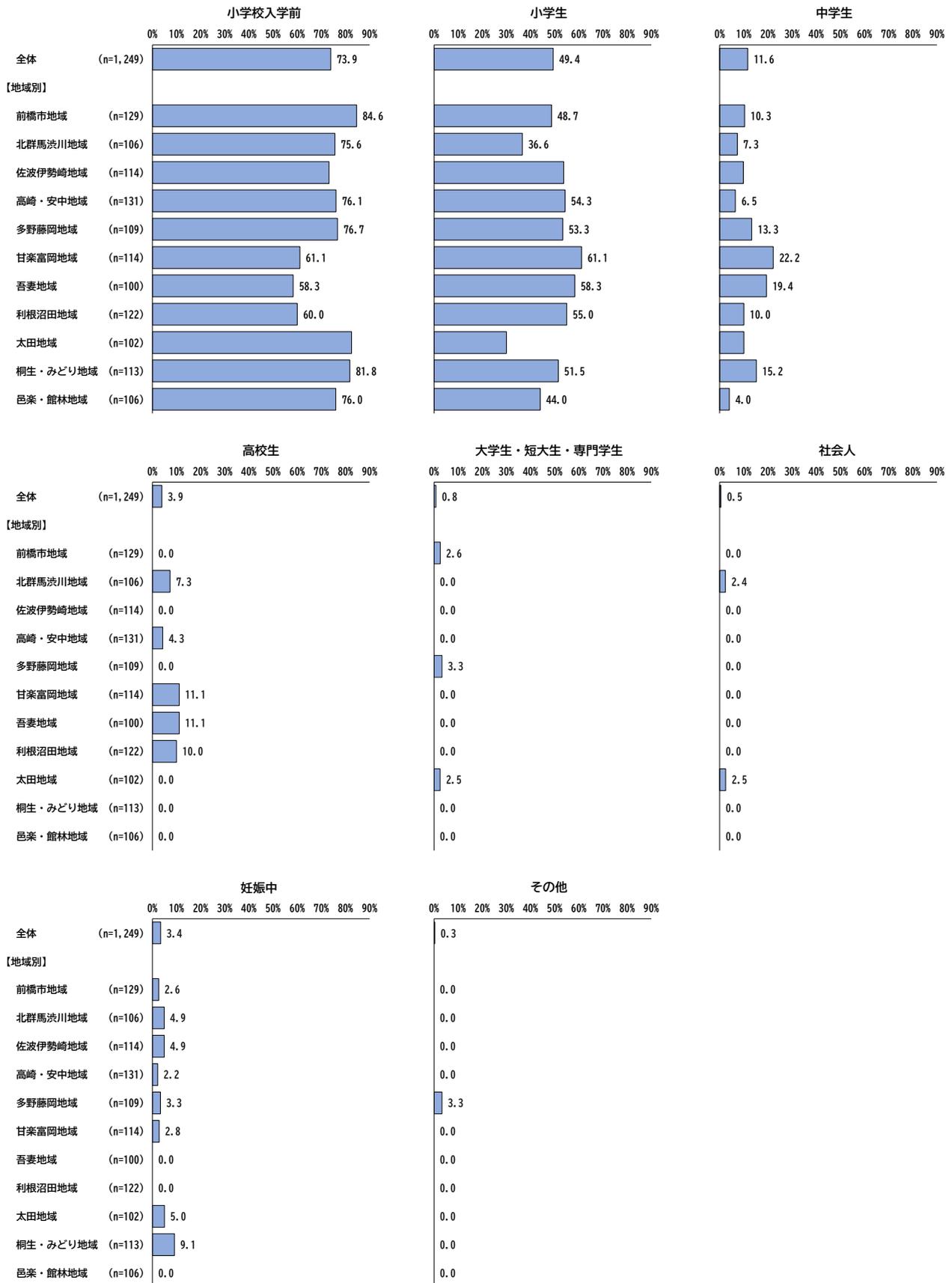
(5) 婚姻状況



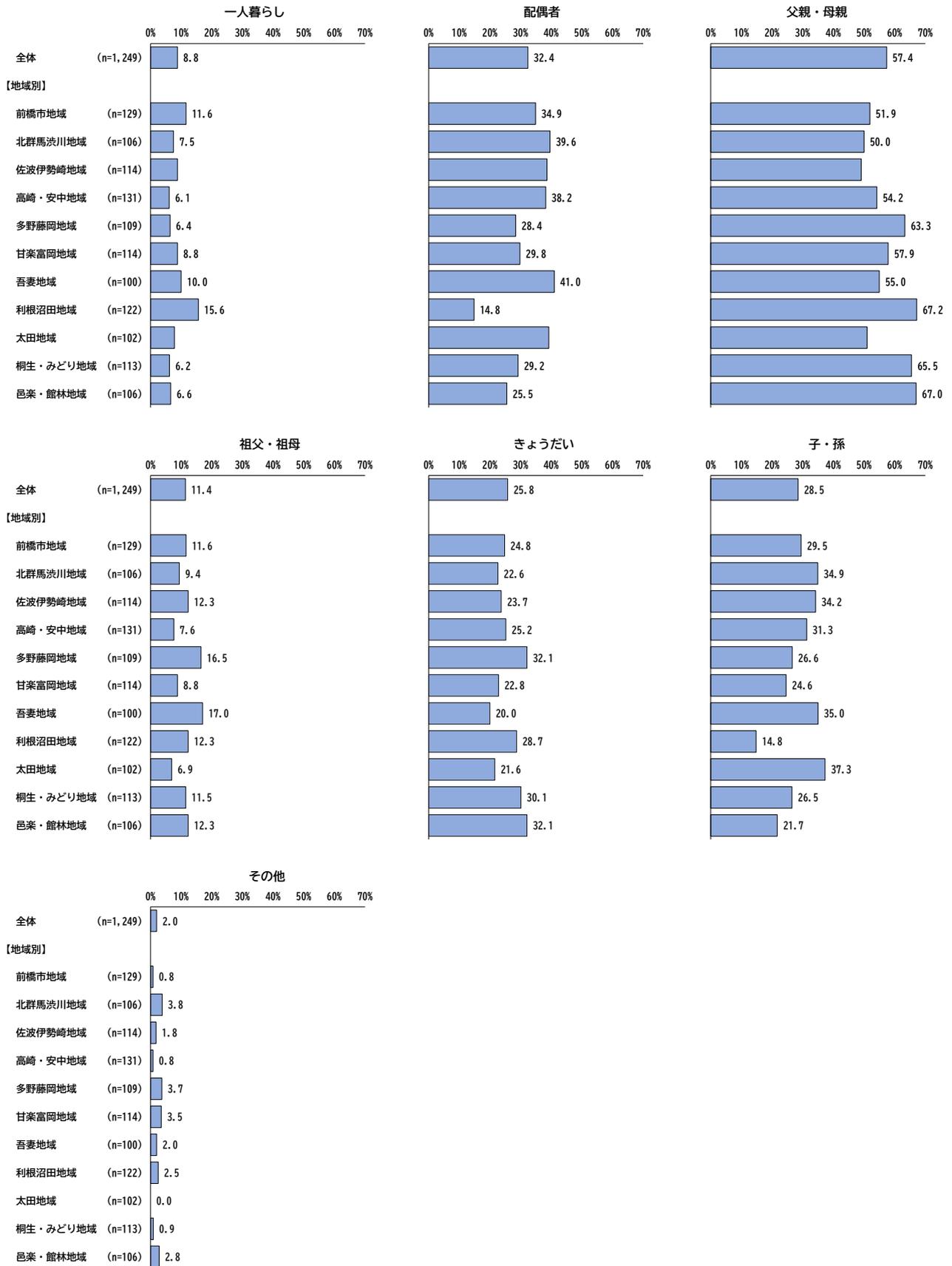
(6) こどもの有無



(7) こどもの年代



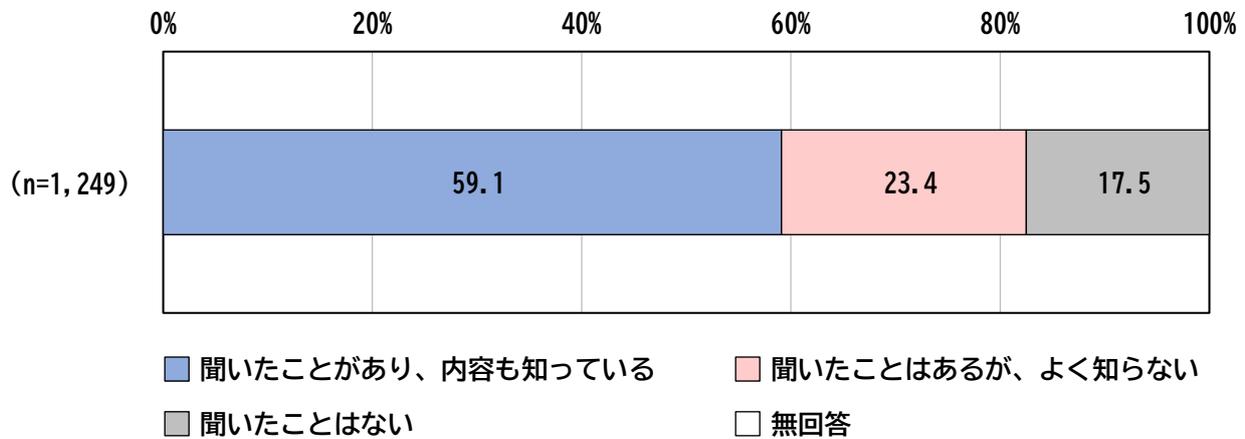
(8) 家族構成



II 調査結果

1. ヤングケアラーについて

問 10. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)



【全体結果】

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 59.1%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 23.4%、「聞いたことはない」が 17.5%となっています。

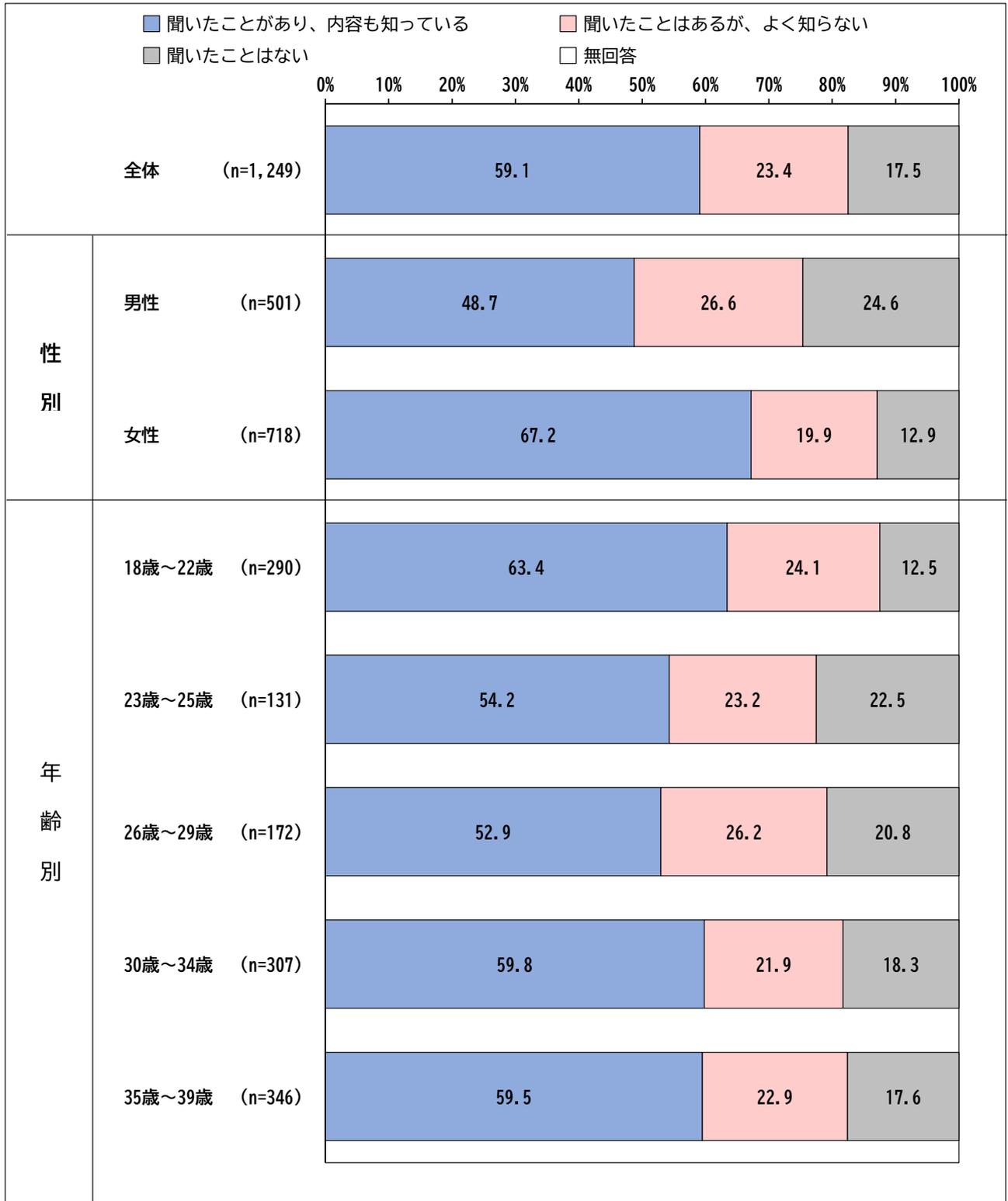
【属性別結果】

性別

男性は「聞いたことがあり、内容を知っている」が 48.7%と女性より低く、「聞いたことはない」が 24.6%と全体より高い割合です。一方、女性は「聞いたことがあり、内容を知っている」が 67.2%と男性より高く、「聞いたことはない」は 12.9%と男性より低くなっています。

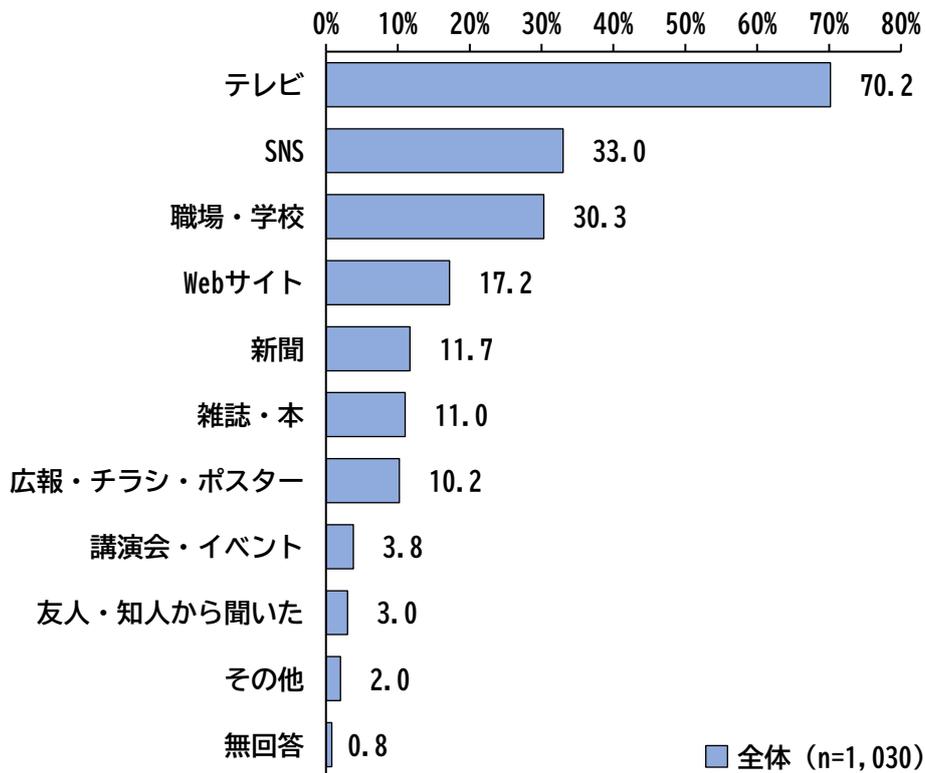
年代別

いずれの年代でも「聞いたことがあり、内容を知っている」が5割以上を占め、とくに 18～22 歳で 63.4%と最も高くなっています。「聞いたことはない」は 18～22 歳で 12.5%と最も低く、23～25 歳で 22.5%とやや高いものの、全体として年代間の差は大きくありません。



※【問 10 で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」または「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。】

問 11. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

ヤングケアラーという言葉を知ったかについては、「テレビ」が 70.2%で最も高く、次いで「SNS」が 33.0%、「職場・学校」が 30.3%となっています。

【属性別結果】

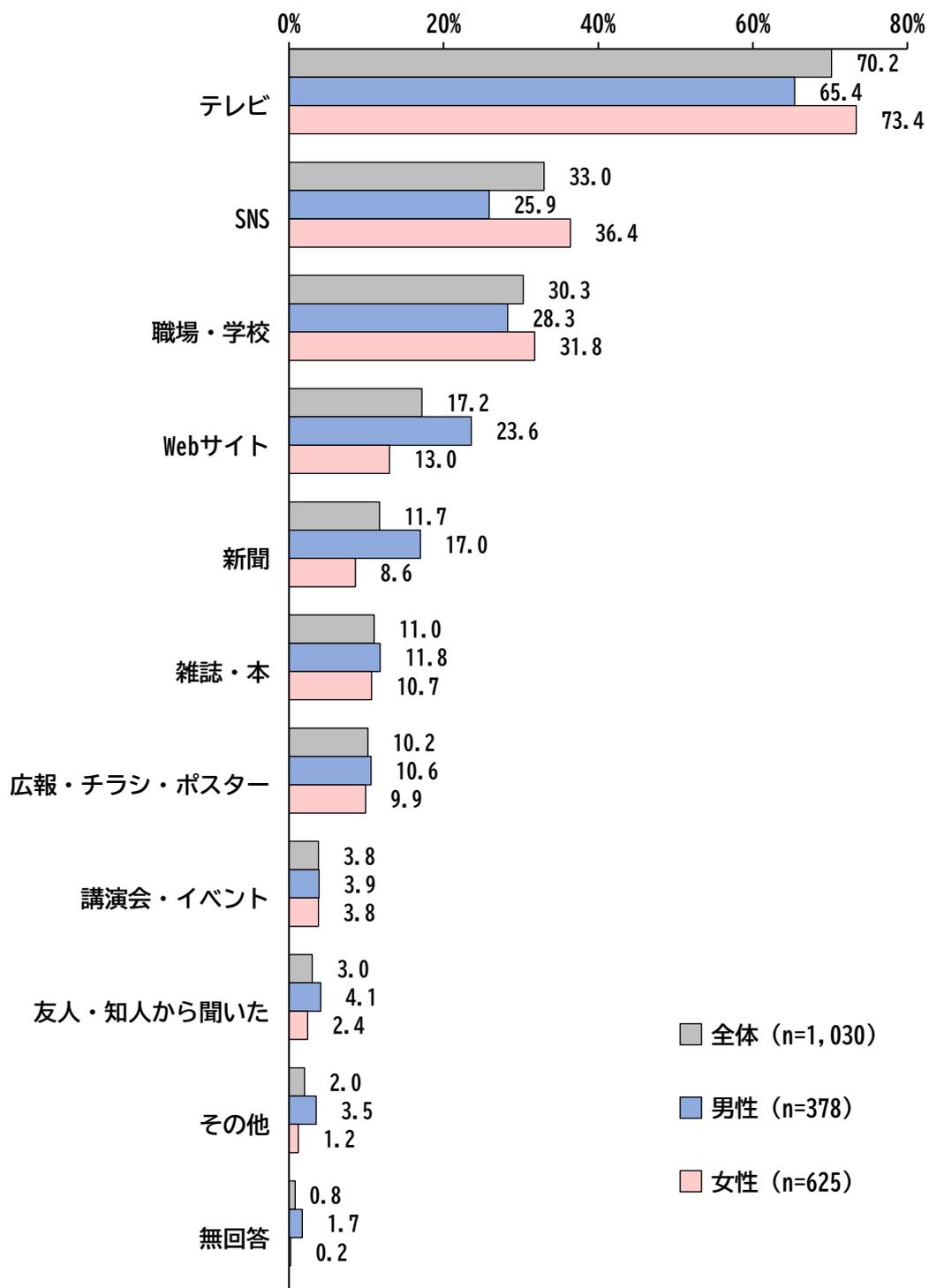
性別

男女ともに情報源としては「テレビ」が最も高く、男性で 65.4%、女性で 73.4%となっています。次いで、男性では「職場・学校」が 28.3%、女性では「SNS」が 36.4%と高くなっています。

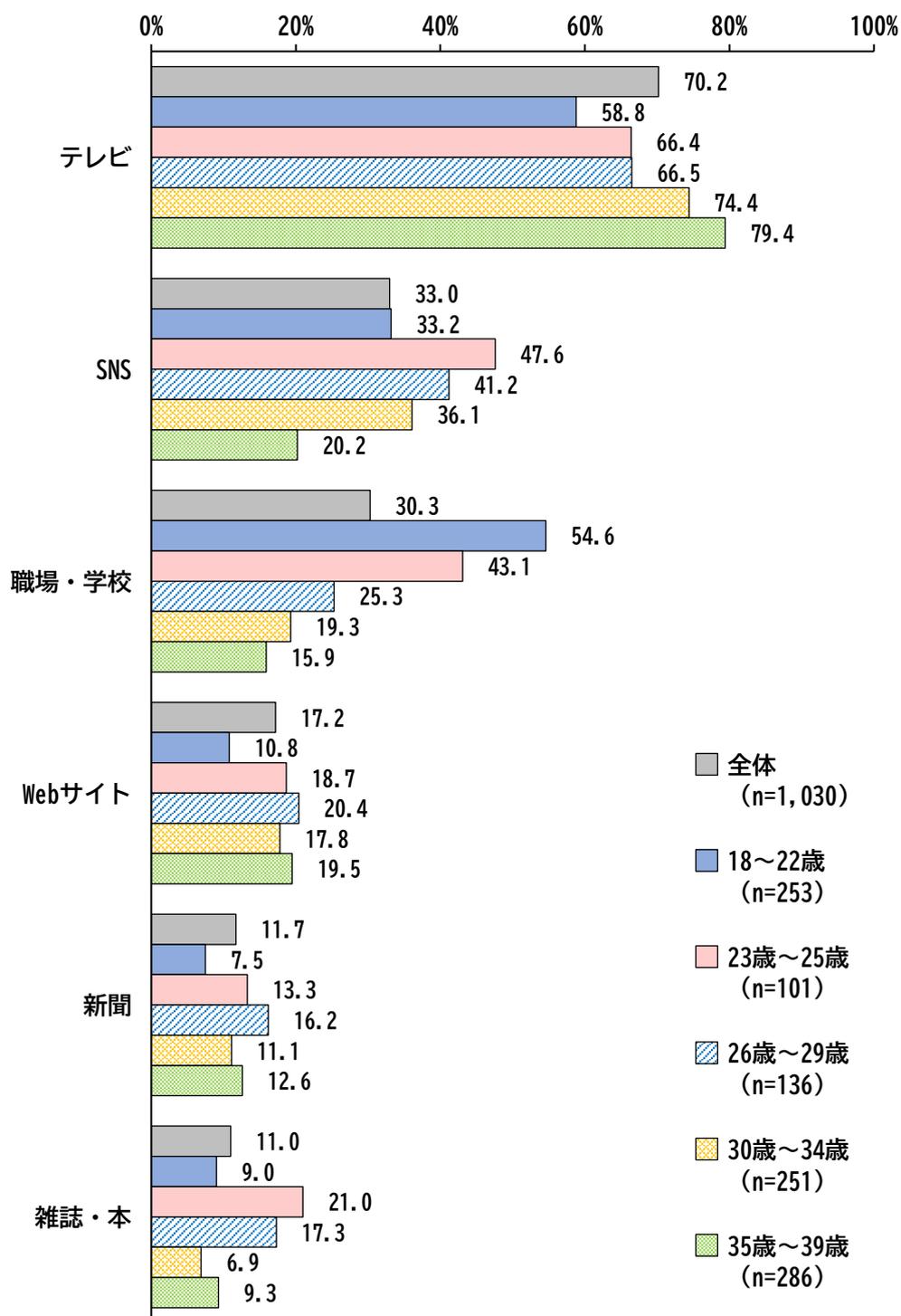
年齢別

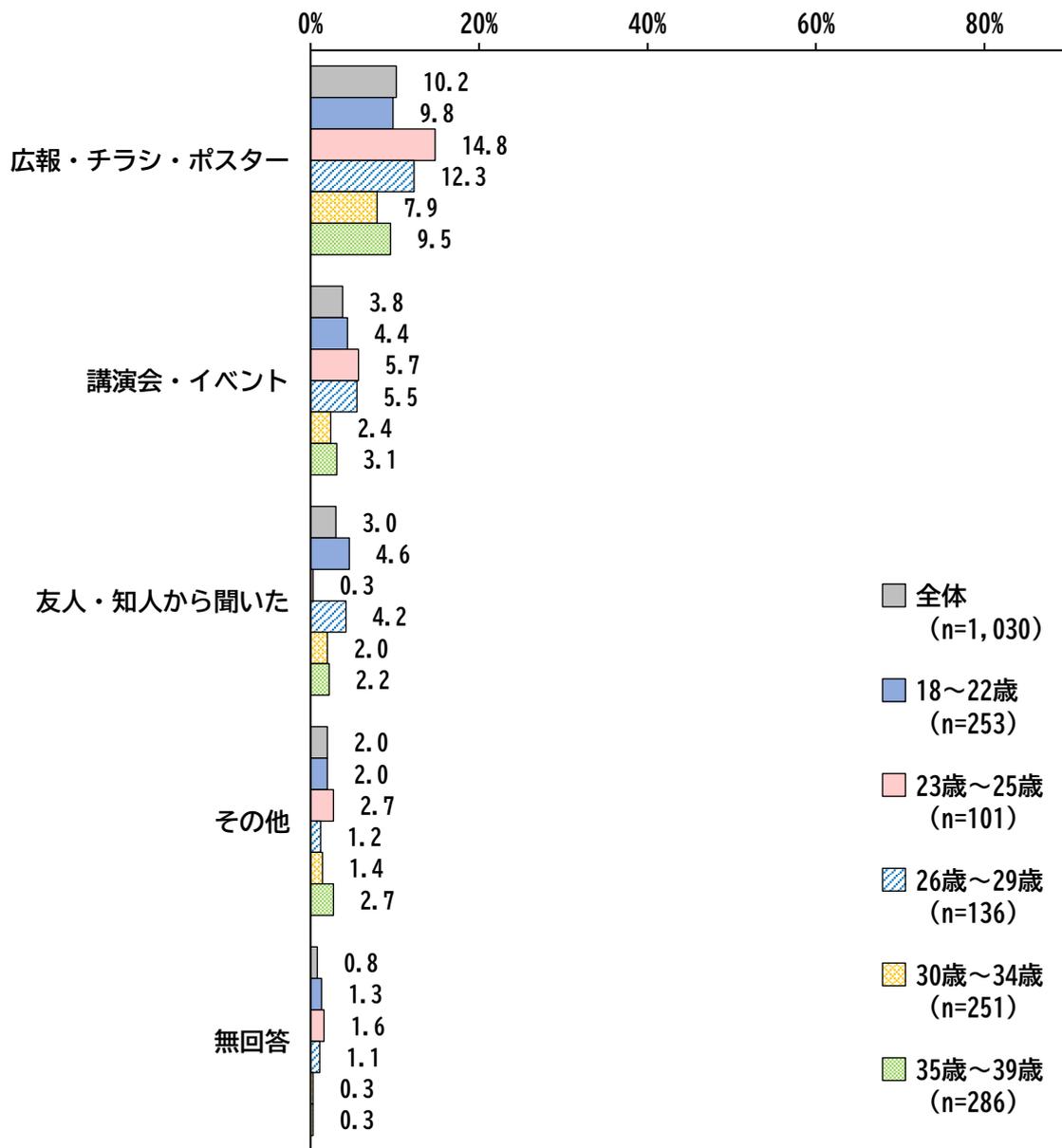
全年齢層で「テレビ」が最も高く、特に 30 歳～34 歳が 74.4%、35 歳～39 歳が 79.4%で割合が高くなっています。次いで 18 歳～22 歳では「職場・学校」が 54.6%、23 歳～39 歳ではいずれの年代も「SNS」となっています。

【性別】

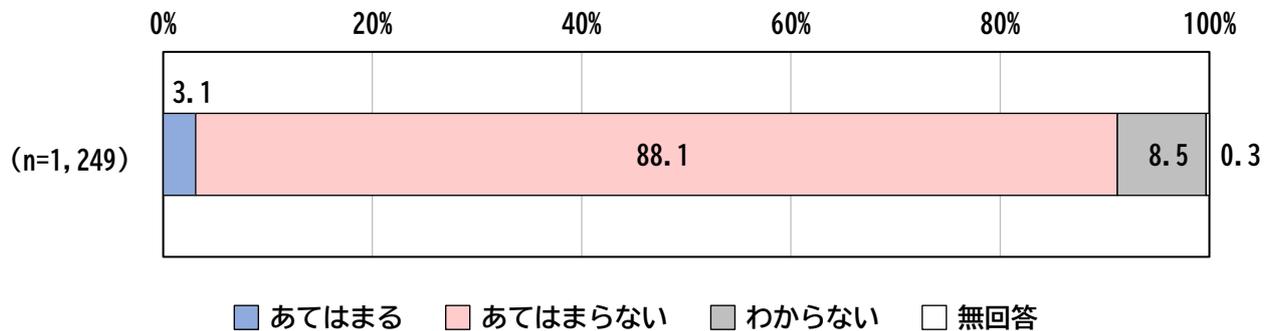


【年齢別】





問 12. あなたは自分が「ヤングケアラー」にあてはまると感じますか。
(あてはまるもの1つに○)



【全体結果】

自分が「ヤングケアラー」にあてはまると感じるかについては、「あてはまる」が 3.1%、「あてはまらない」が 88.1%、「わからない」が 8.5%となっています。

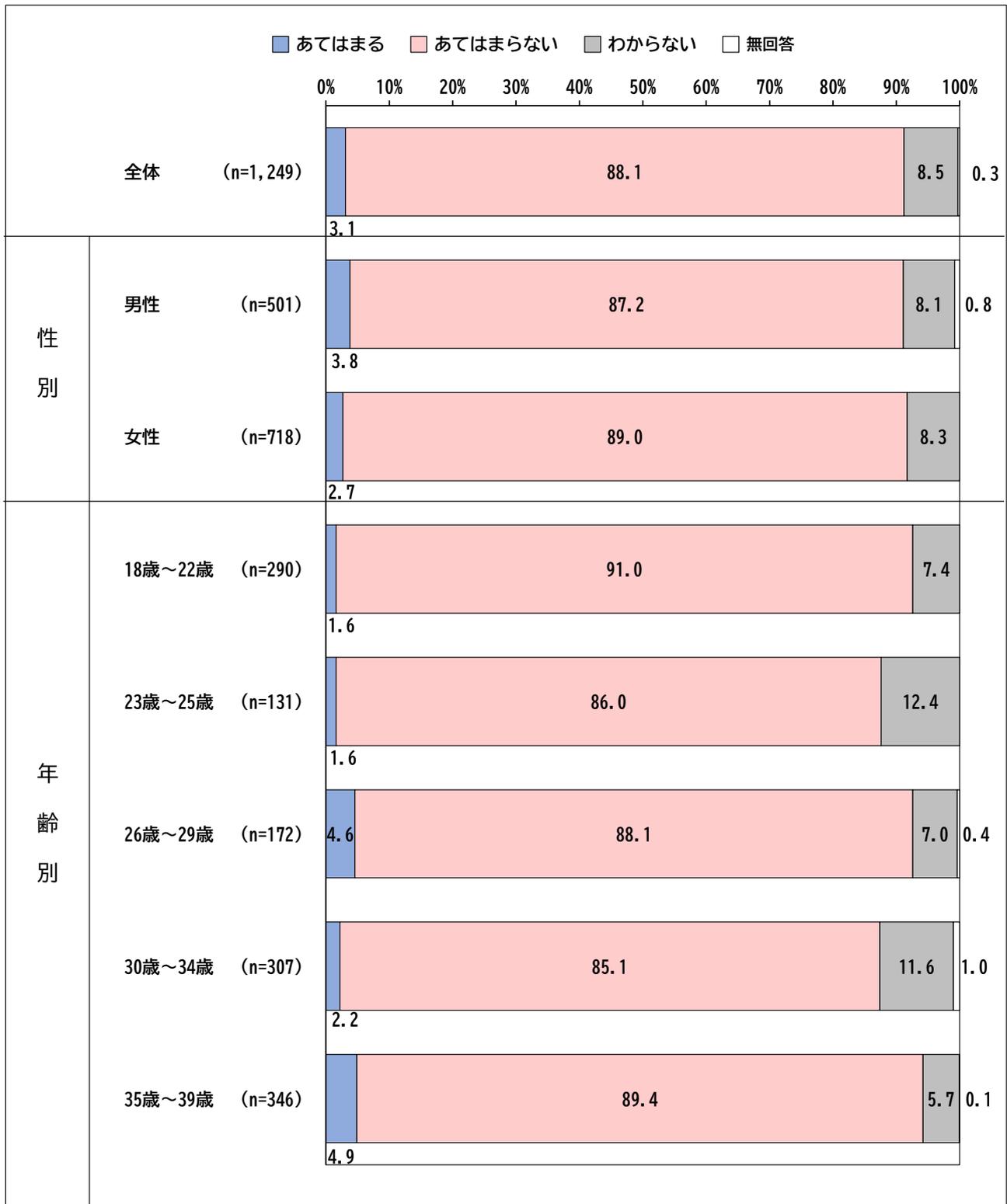
【属性別結果】

性別

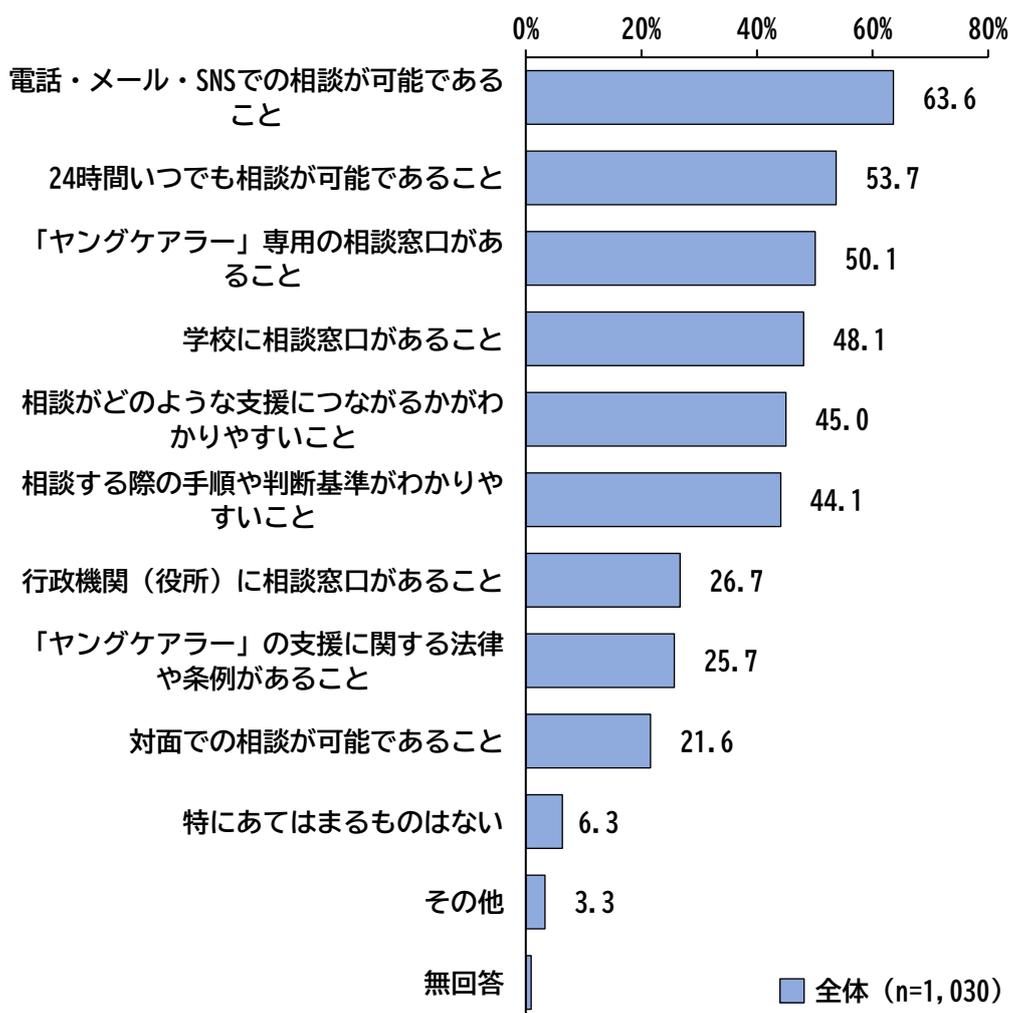
男女ともに「あてはまる」が4%未満と低く、「あてはまらない」が約9割となっています。

年齢別

年代別にみると「あてはまる」の割合が 26～29 歳で 4.6%、35～39 歳で 4.9%と、他の年代よりやや高くなっていますが、全体として年代間の差は大きくありません。



問 13. 「ヤングケアラー」に対してどのような仕組みや取組があると相談しやすい環境作りにつながるとお思いますか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

ヤングケアラーに関する相談しやすい環境作りについては、「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が63.6%で最も高く、次いで「24時間いつでも相談が可能であること」が53.7%、「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」が50.1%となっています。

【属性別結果】

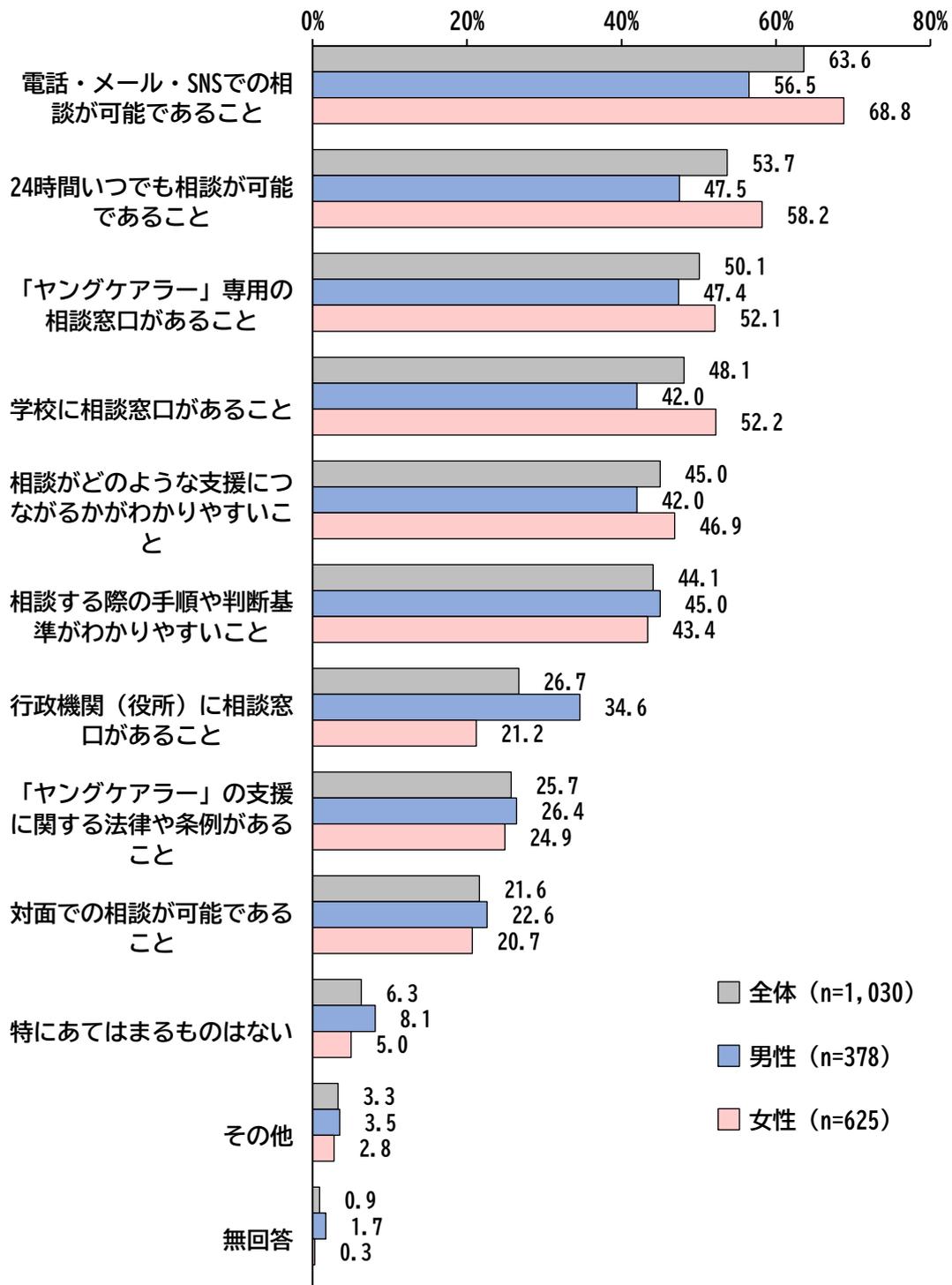
性別

男女ともに「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が最も高く、男性で56.5%、女性で68.8%となっています。次いで、「24時間いつでも相談が可能であること」が男性で47.5%、女性で58.2%と高くなっています。

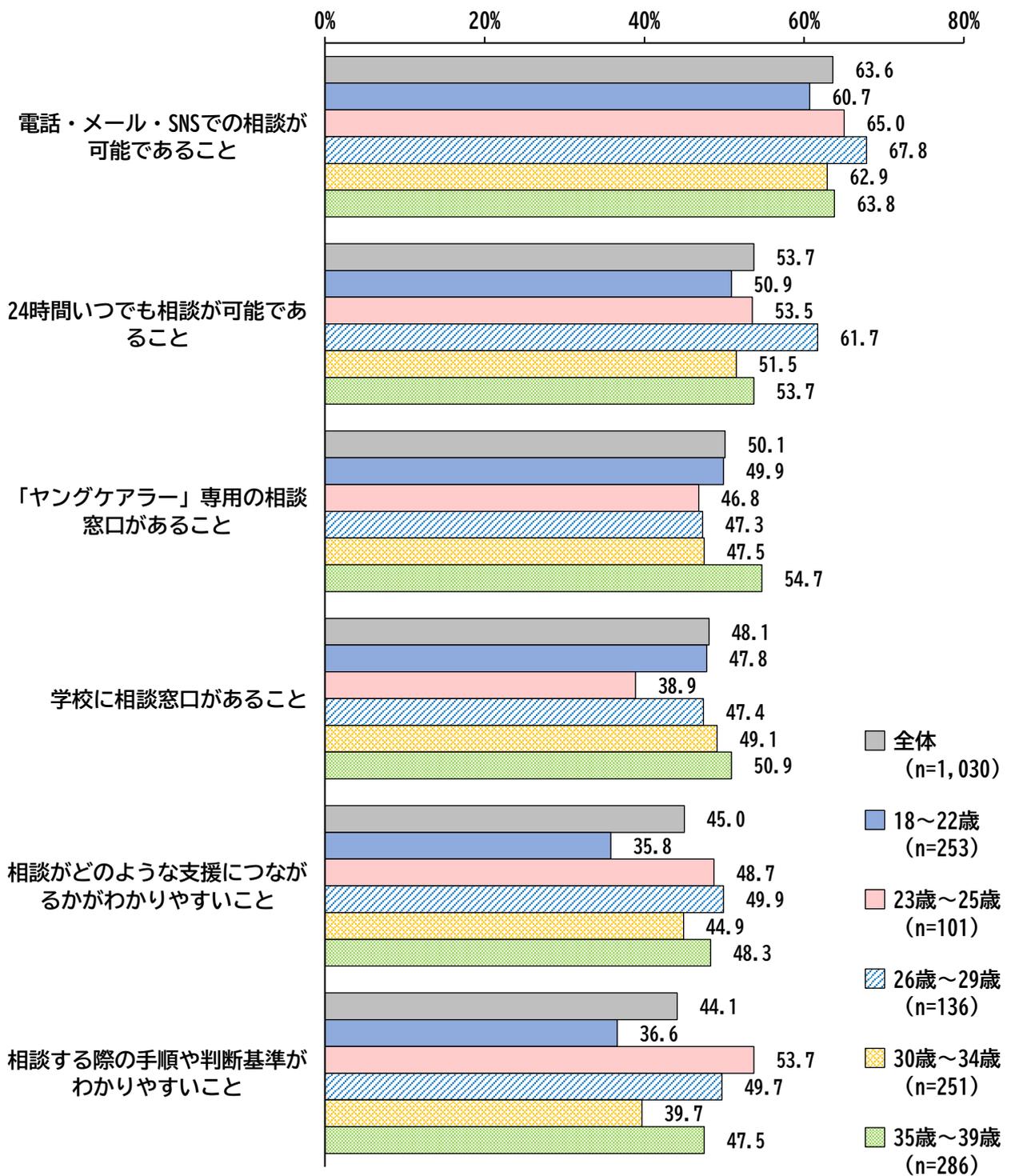
年齢別

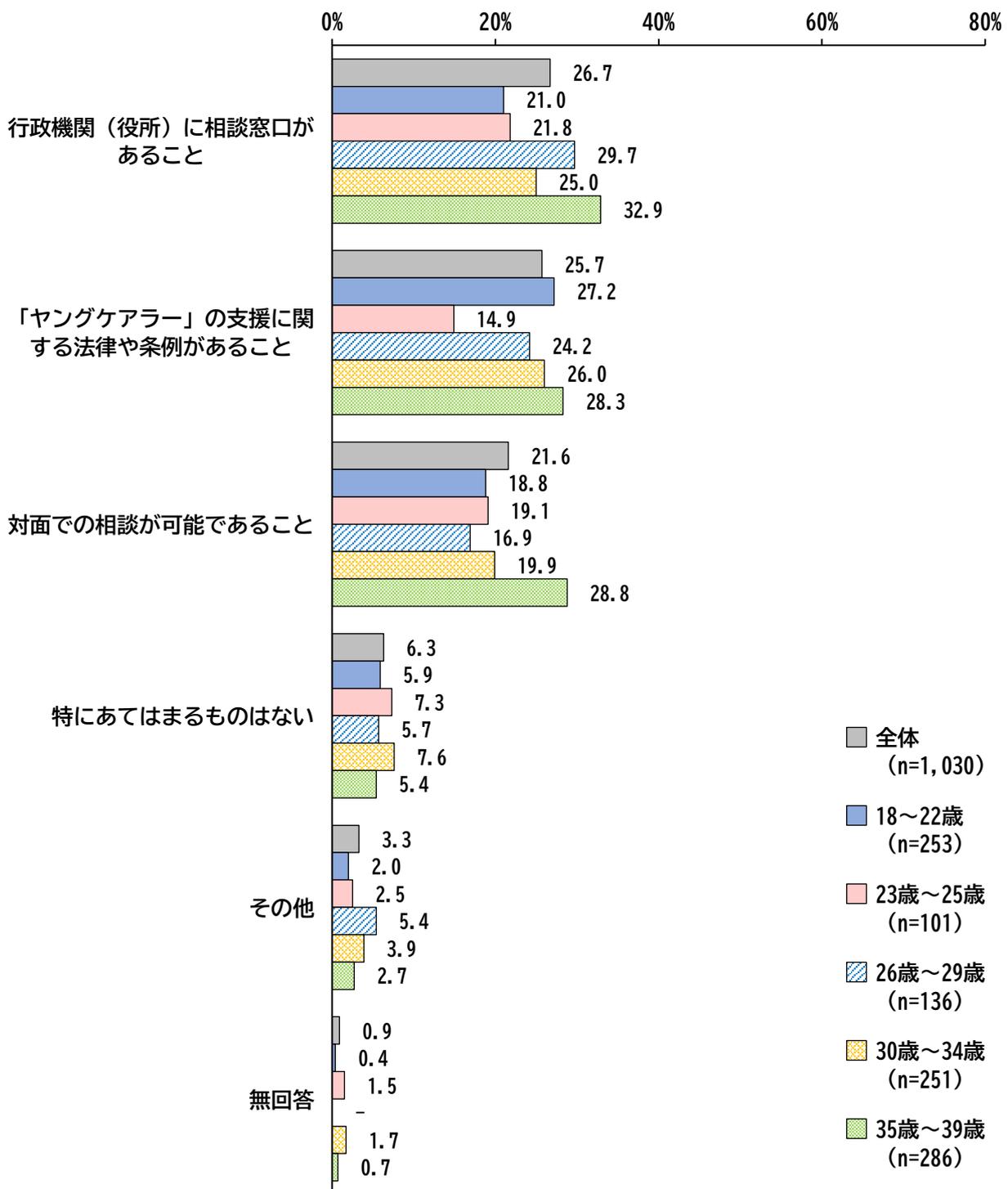
全年齢層で「電話・メール・SNSでの相談が可能であること」が最も高く、特に26歳～29歳が67.8%で割合が高くなっています。次いで18歳～22歳、26歳～29歳、30歳～34歳では「24時間いつでも相談が可能であること」、23歳～25歳では「相談する際の手順や判断基準がわかりやすいこと」、35歳～39歳では「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」となっています。

【性別】

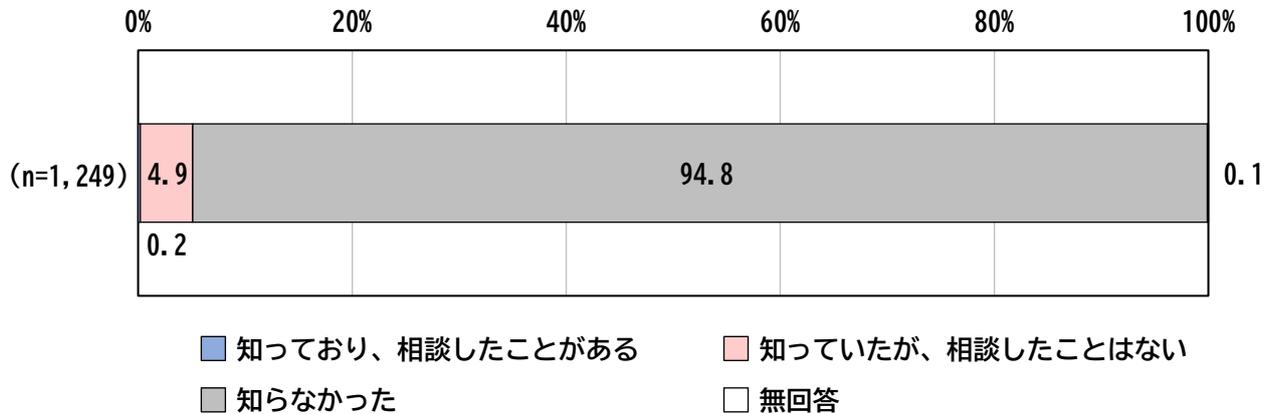


【年齢別】





問 14. このアンケート以前に、群馬県のヤングケアラー支援ワンストップ相談窓口（特定非営利活動法人虹色のかさ）を知っていましたか。（あてはまるもの1つに○）



【全体結果】

群馬県のヤングケアラー支援ワンストップ相談窓口（特定非営利活動法人虹色のかさ）については、「知っており、相談したことがある」が 0.2%、「知っていたが、相談したことはない」が 4.9%、「知らなかった」が 94.8%となっています。

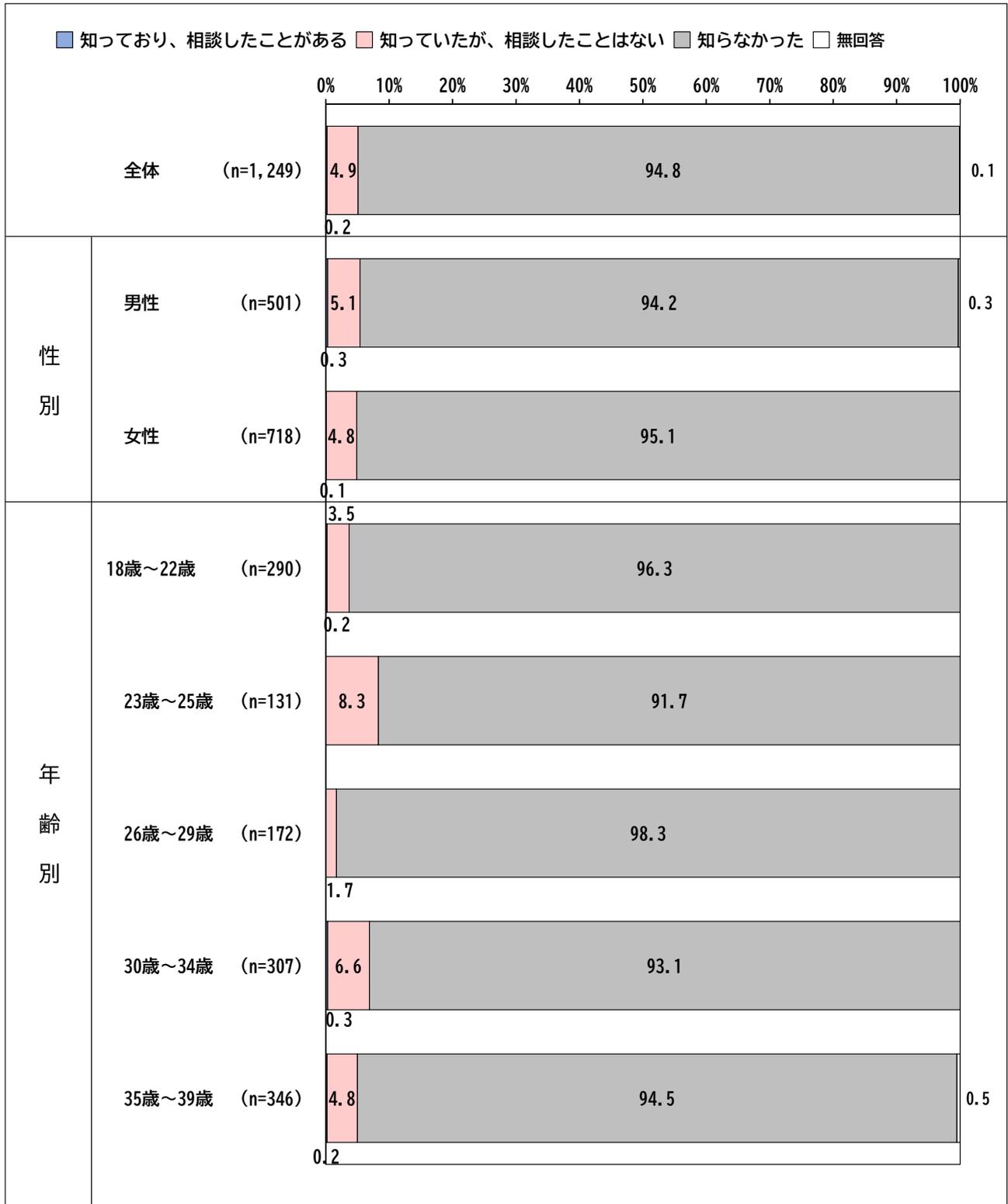
【属性別結果】

性別

男女ともに「知らなかった」が9割超となっています。

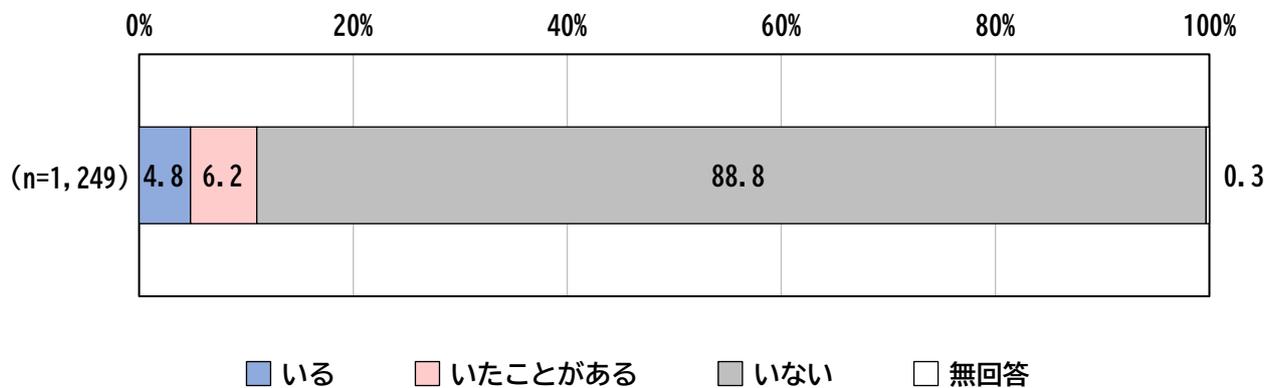
年齢別

いずれの年代においても「知らなかった」が9割を超えていますが、23～25歳が「知っていたが、相談したことはない」8.3%と、他の年代よりもやや高くなっています。



2. 家庭や家族のことについて

問15. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。または過去にお世話をしていた人がいましたか。(あてはまるもの1つに○)



【全体結果】

家族の中にお世話をしている人の有無については、「いる」が 4.8%、「いたことがある」が 6.2%、「いない」が 88.8%となっています。

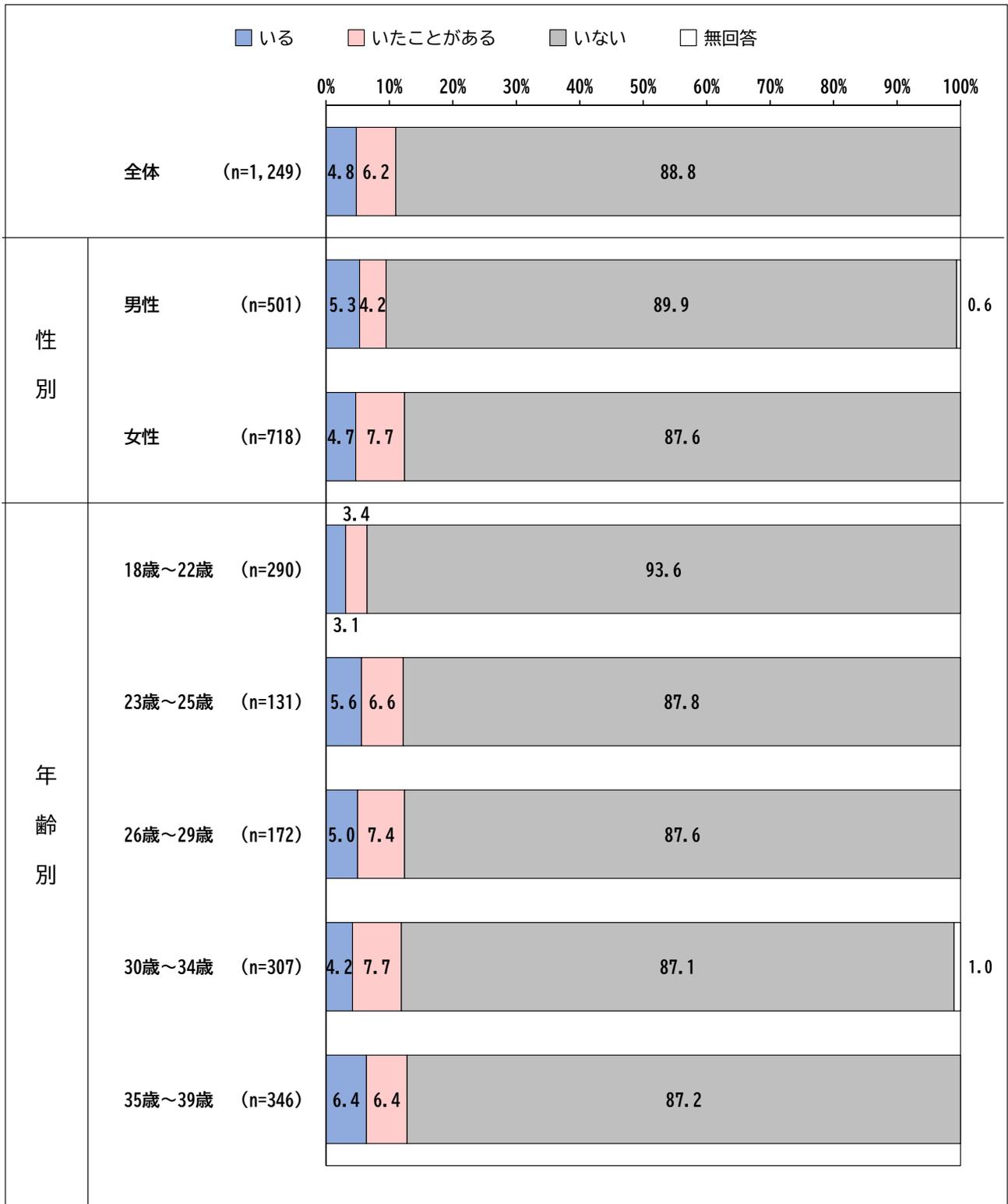
【属性別結果】

性別

男性は「いる」5.3%、「いたことがある」4.2%で、あわせて約1割が経験あり、「いない」が 89.9%となっています。女性は「いる」4.7%、「いたことがある」7.7%で、男性よりも「いたことがある」の割合がやや高く、「いない」が 87.6%となっています。

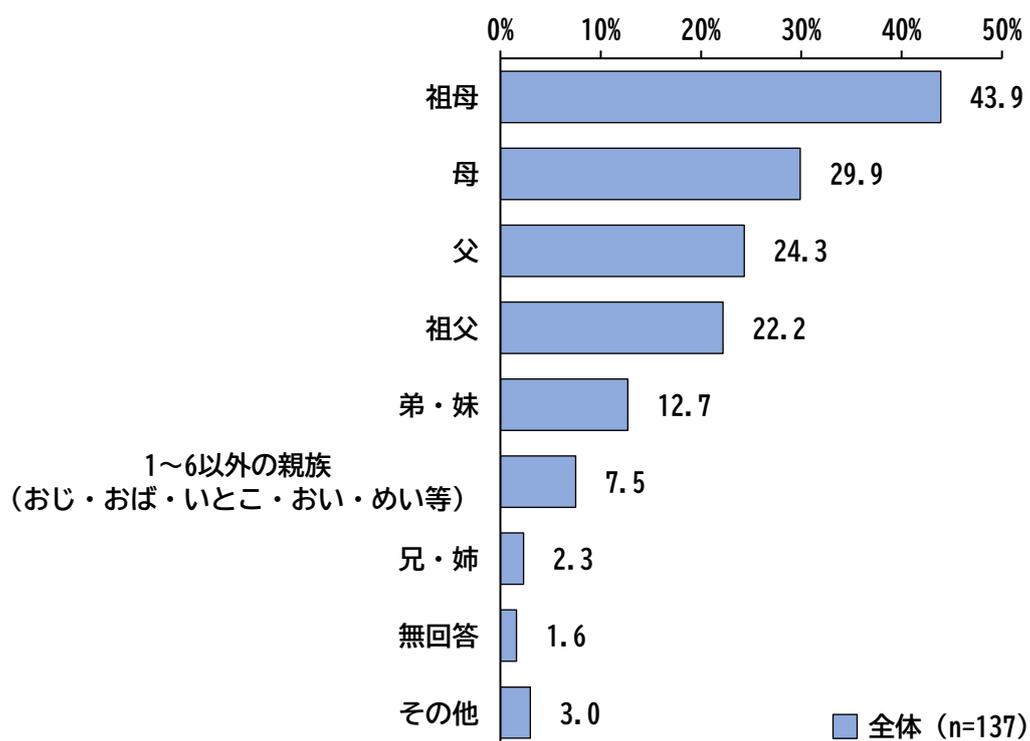
年齢別

18～22 歳では「いる」3.1%、「いたことがある」3.4%と、他の年代よりも経験ありの割合が低く、「いない」が 93.6%となっています。23～39 歳ではいずれの年代でも「いる」「いたことがある」を合わせた割合が1割前後で、年代間の差は小さく、約9割が「いない」と回答しています。



※【問 16～問 27 までは、問 15 で「いる」または「いたことがある」と回答した人にお聞きします。】

問 16. あなたがお世話をしている人、またはしていた人はだれですか。
(あてはまるものすべてに○)

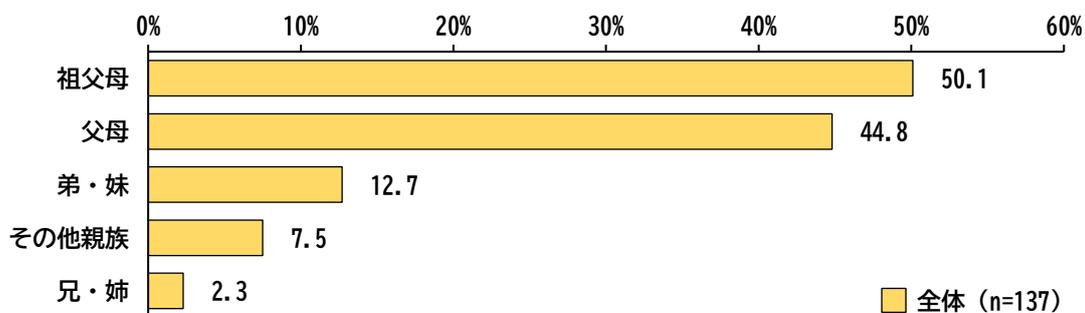


【全体結果】

お世話をしている人、またはしていた人については、「祖母」が 43.9%で最も高く、次いで「母」が 29.9%、「父」が 24.3%となっています。

【参考集計】

お世話をしている（していた）相手で「祖母」または「祖父」と回答した人を合わせて、重複回答を除いた割合は 50.1%でした。同様に、「母」または「父」と回答した人は 44.8%でした。



【属性別結果】

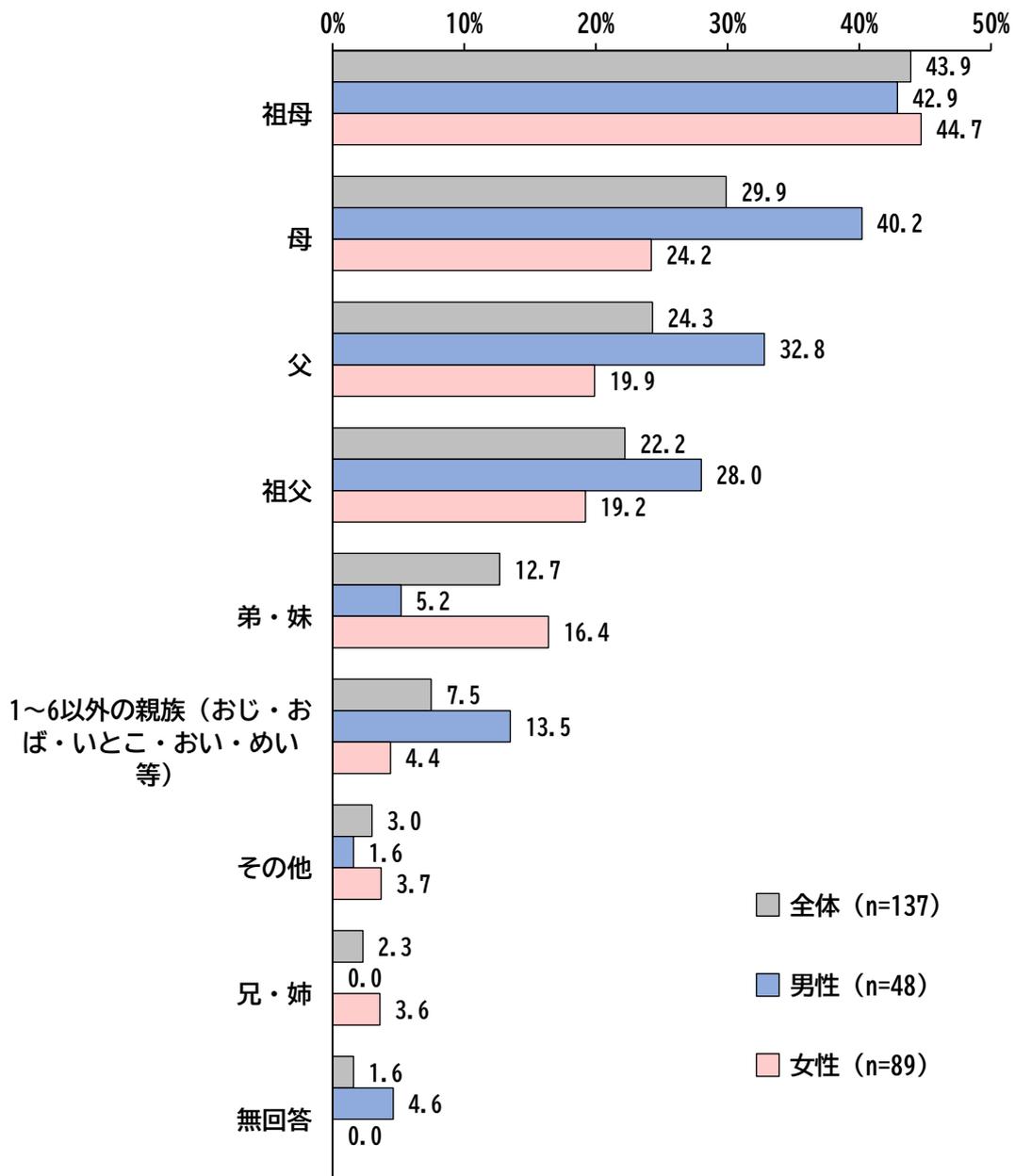
性別

男性は「祖母」42.9%、「母」40.2%、「父」32.8%となっており、女性は「祖母」44.7%、「母」24.2%、「父」19.9%となっています。「祖母」は男女差が小さいものの、「母」と「父」は男性の方が10ポイント以上女性より高くなっています。一方で、「弟・妹」は女性の方が10ポイント以上男性より高くなっています。

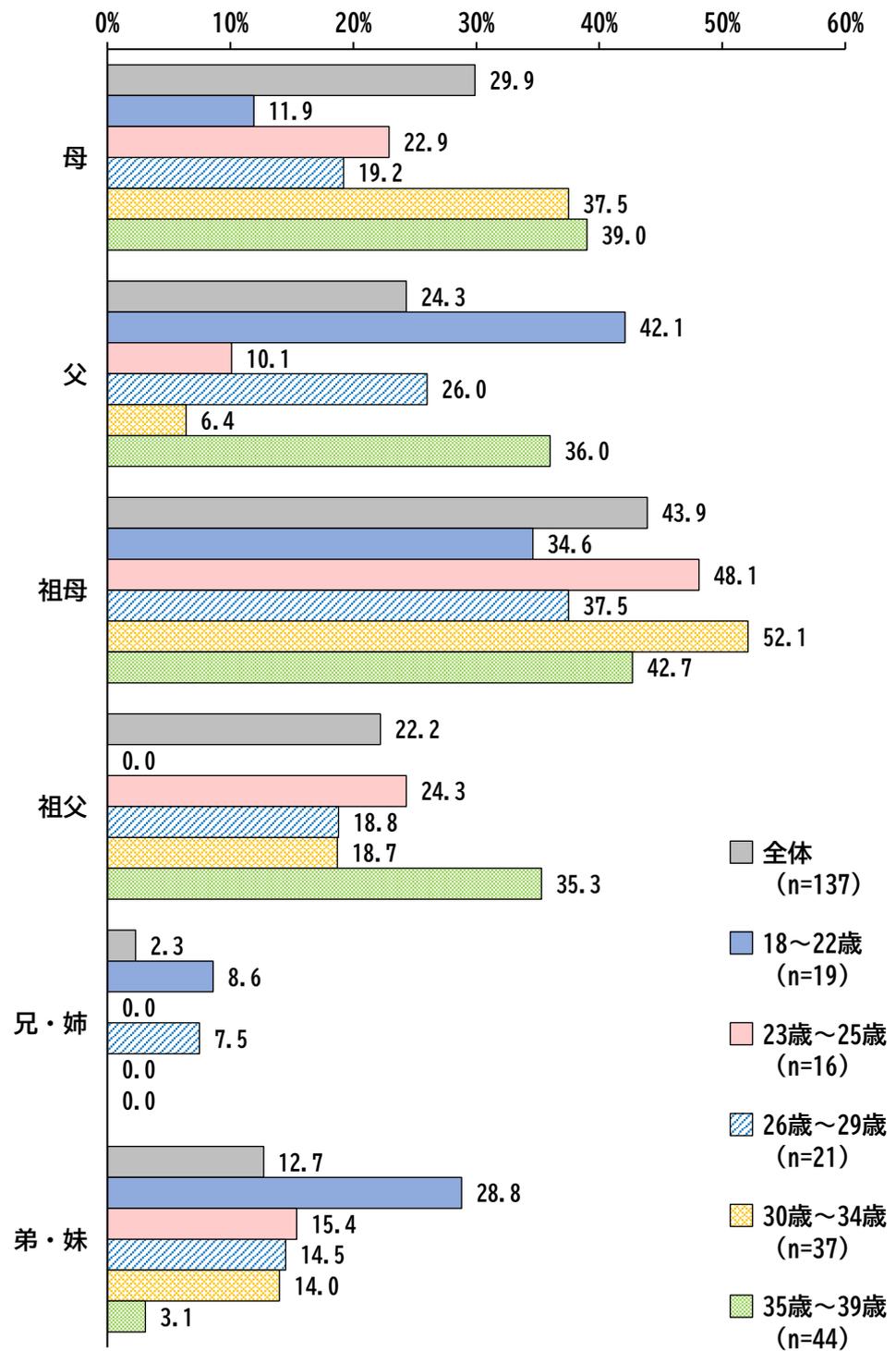
年齢別

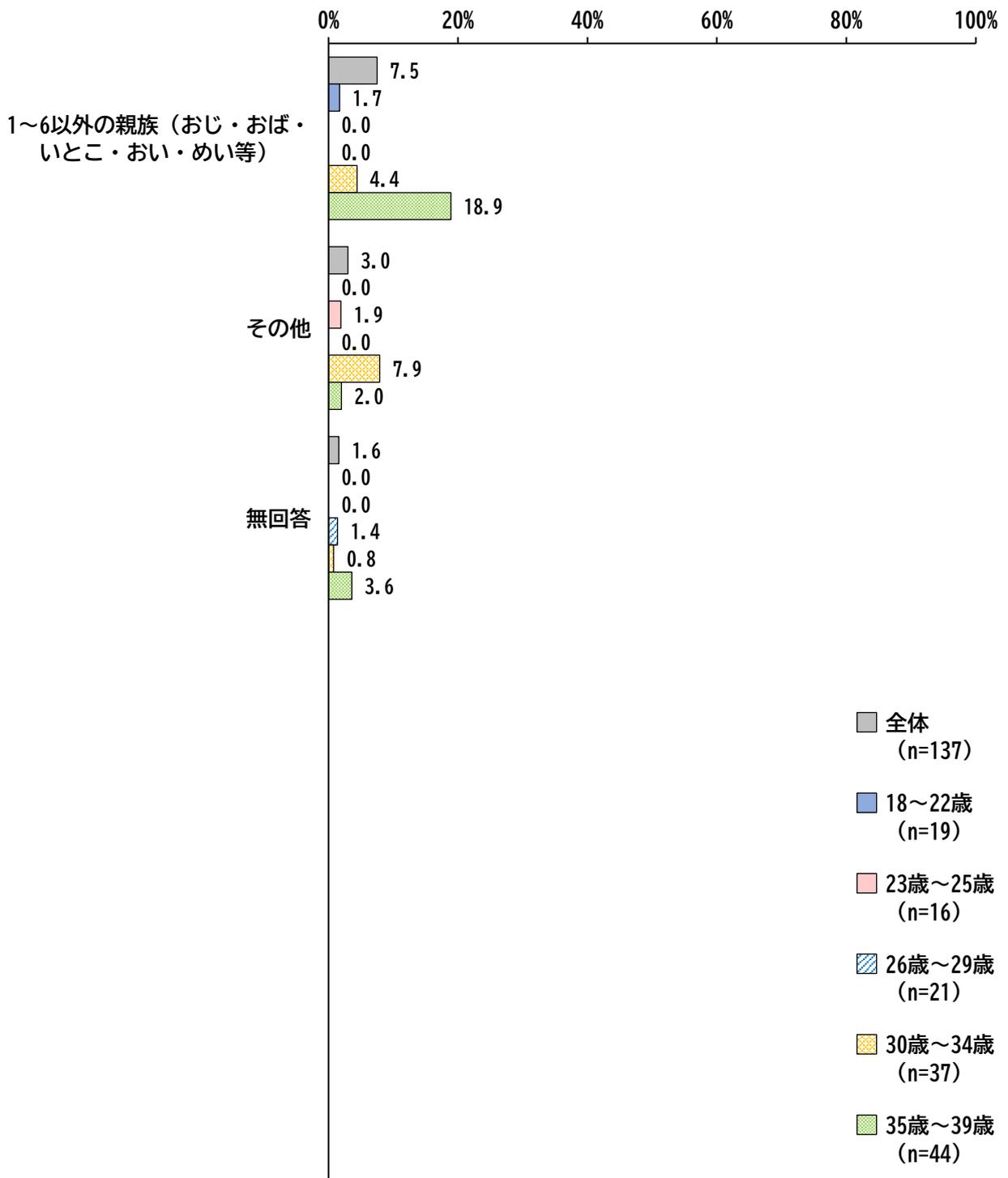
18～22歳は「父」が42.1%で最も高く、23～39歳はいずれの年代でも「祖母」が最も高くなっており、23～25歳が48.1%、26～29歳が37.5%、30～34歳が52.1%、35～39歳が42.7%となっています。次いで、18～22歳は「祖母」34.6%、23～25歳は「祖父」24.3%、26～29歳は「父」26.0%、30～34歳は「母」37.5%、35～39歳は「母」39.0%となっています。

【性別】

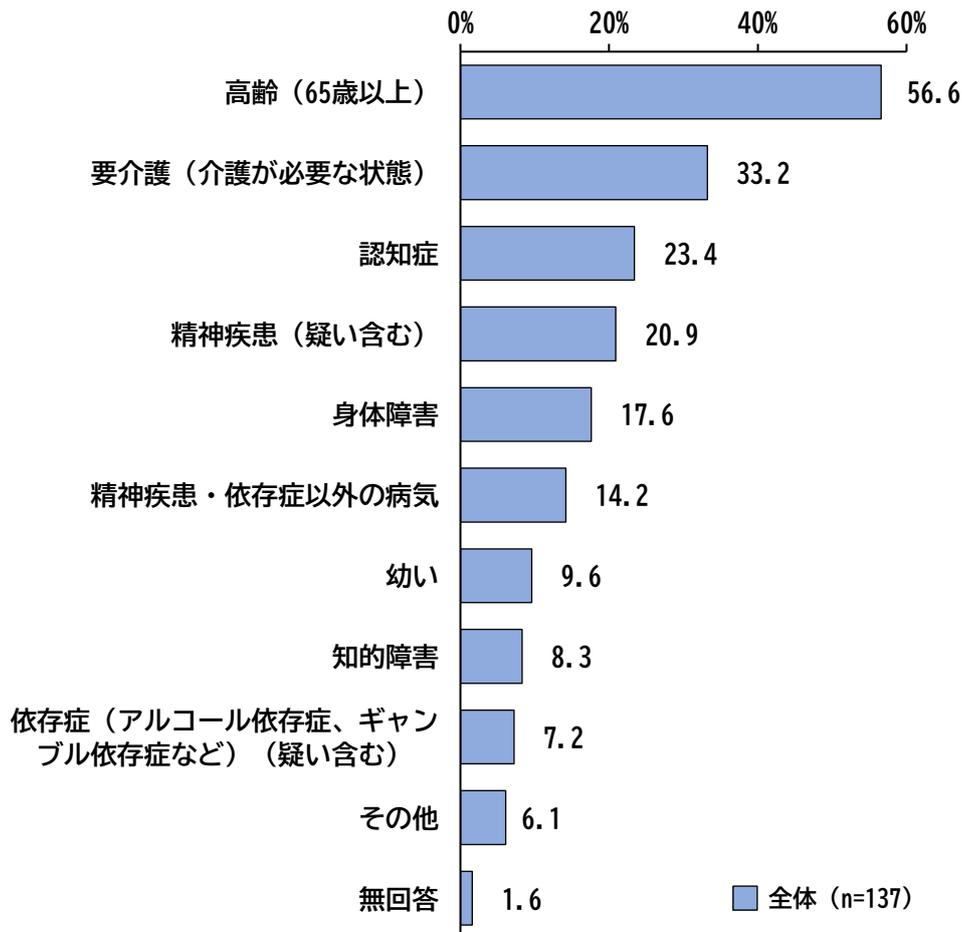


【年齢別】





問 17. 問 16 で答えた人の状況を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

お世話をしている人、またはしていた人の状況については、「高齢 (65 歳以上)」が 56.6%で最も高く、次いで「要介護 (介護が必要な状態)」が 33.2%、「認知症」が 23.4%となっています。

【属性別結果】

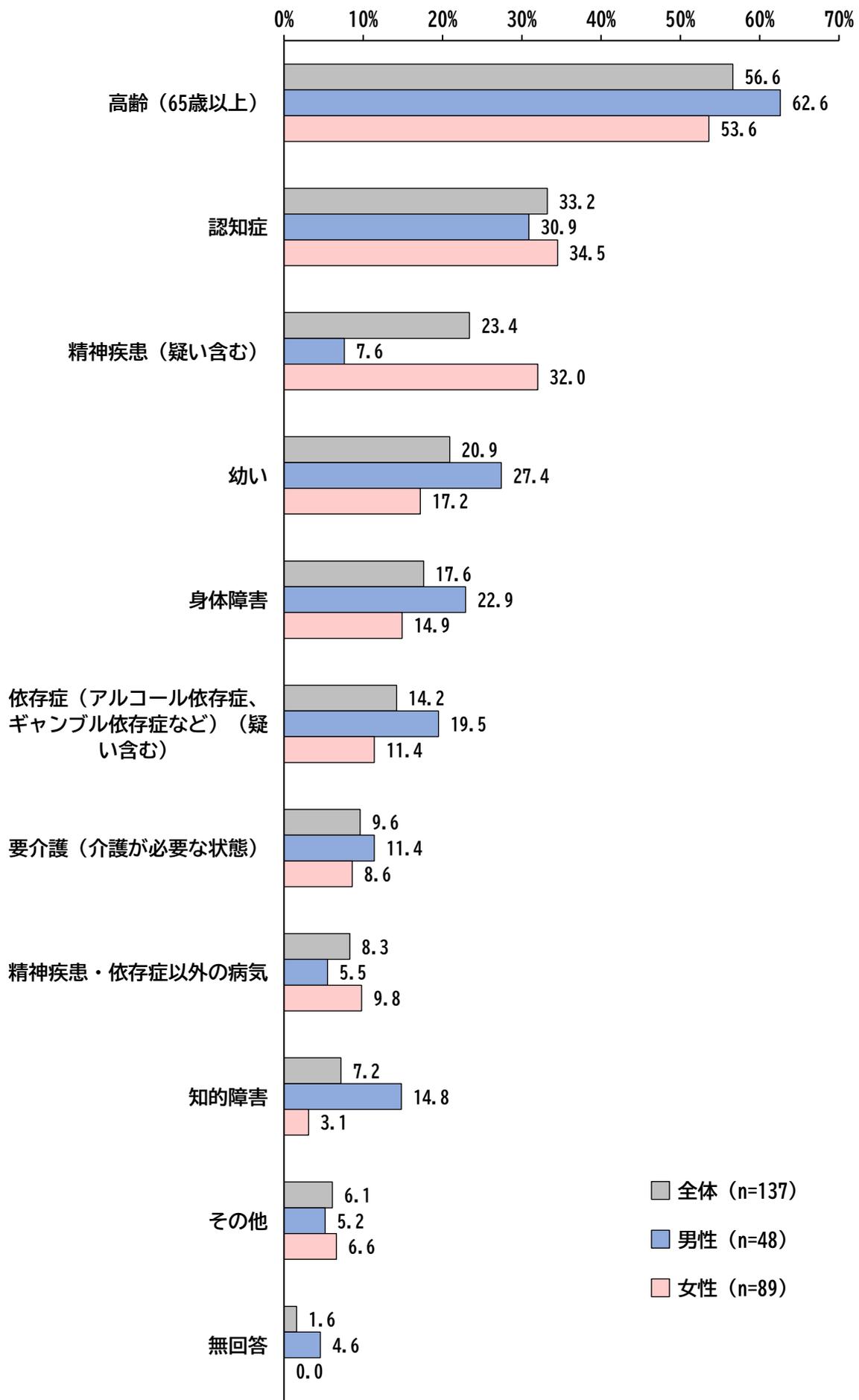
性別

男性は「高齢 (65 歳以上)」62.6%、「認知症」30.9%、「若い」27.4%となっており、女性は「高齢 (65 歳以上)」53.6%、「認知症」34.5%、「精神疾患 (疑い含む)」32.0%となっています。また、「精神疾患 (疑い含む)」は女性の方が男性より 20 ポイント以上高くなっている一方で、「若い」と「知的障害」は男性の方が女性より 10 ポイント以上高くなっています。

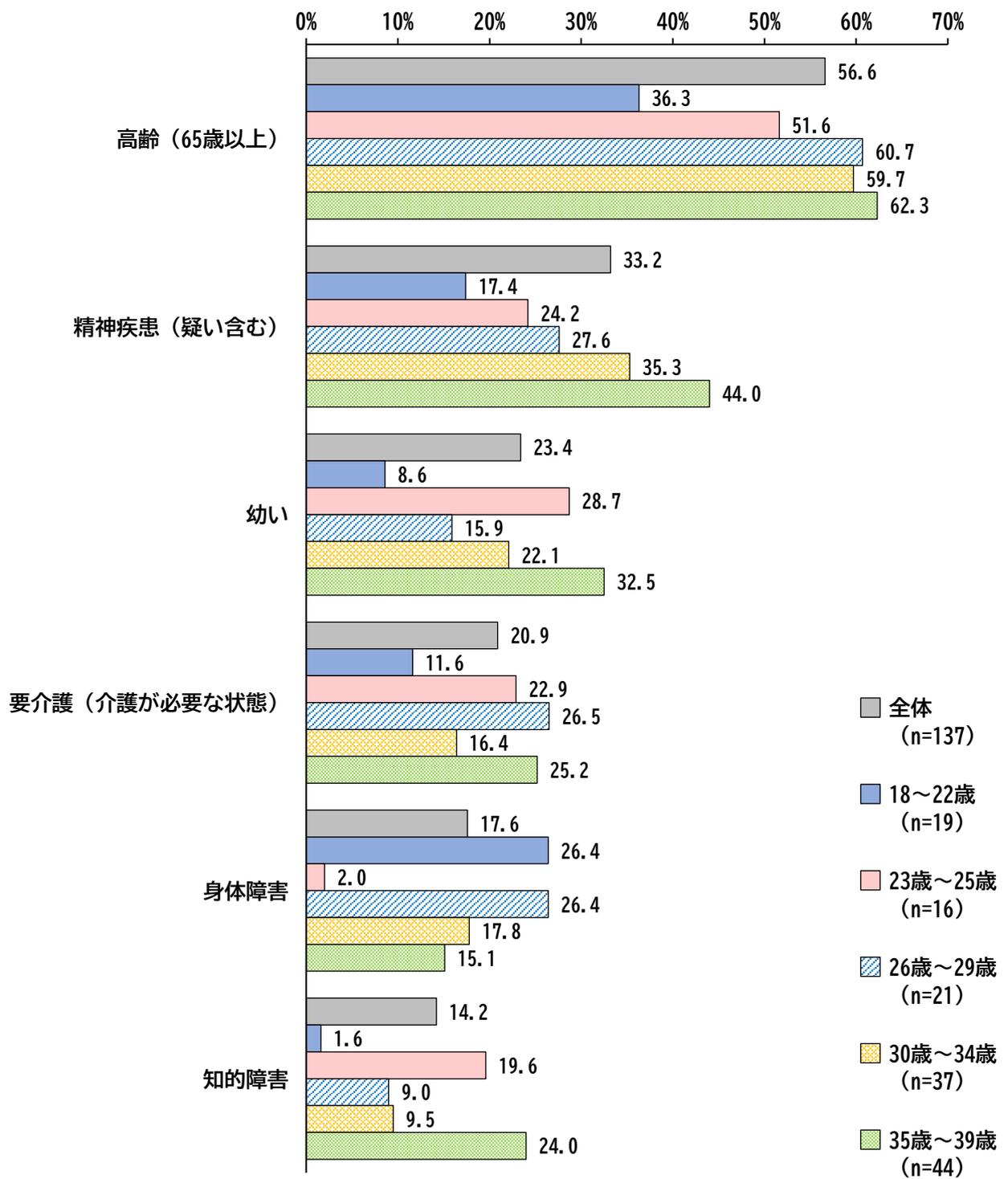
年齢別

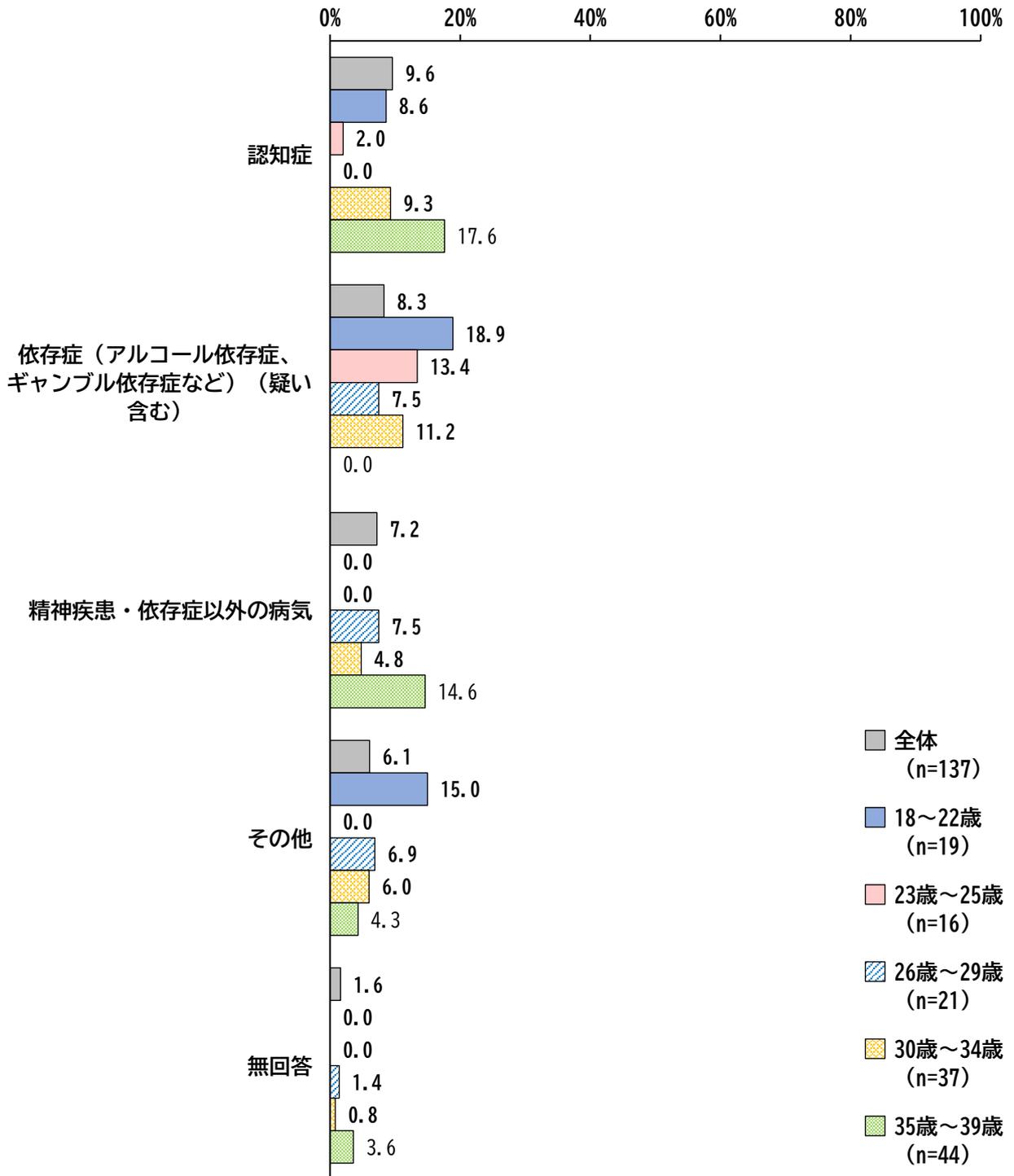
いずれの年代でも「高齢 (65 歳以上)」が最も高くなっていますが、18～22 歳が 36.3%と他の年代と比較すると低くなっており、23～25 歳が 51.6%、26～29 歳が 60.7%、30～34 歳が 59.7%、35～39 歳が 62.3%となっています。次いで、18～22 歳は「身体障害」26.4%、23～25 歳は「若い」28.7%、26～39 歳は「精神疾患 (疑い含む)」で 26～29 歳は 27.6%、30～34 歳は 35.3%、35～39 歳は 44.0%となっています。

【性別】

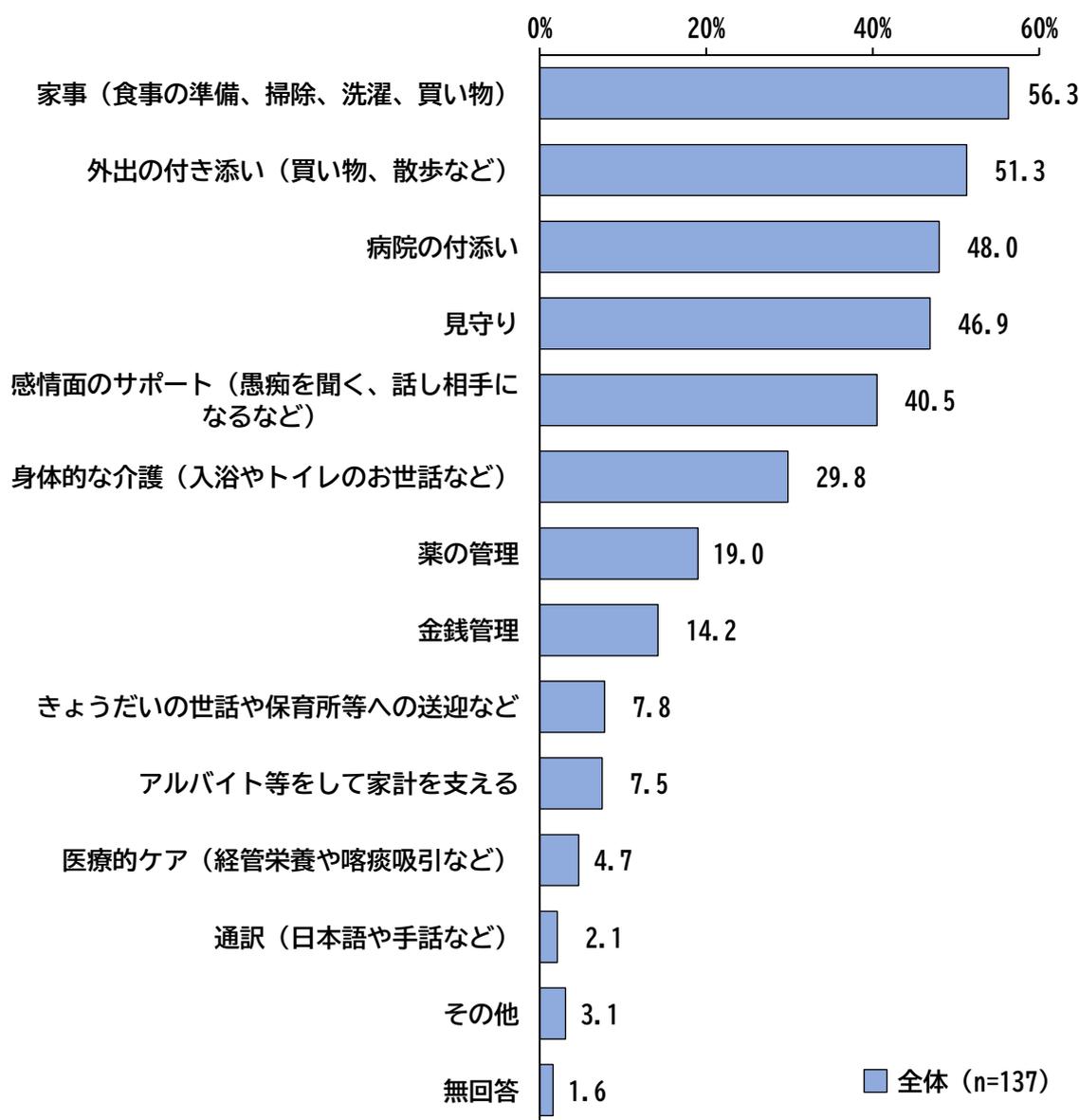


【年齢別】





問 18. 問 16 で答えた人に、あなたが行っている、または行っていたお世話の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

行っている、または行っていたお世話の内容については、「家事（食事の準備、掃除、洗濯、買い物）」が56.3%で最も高く、次いで「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が51.3%、「病院の付添い」が48.0%となっています。

【属性別結果】

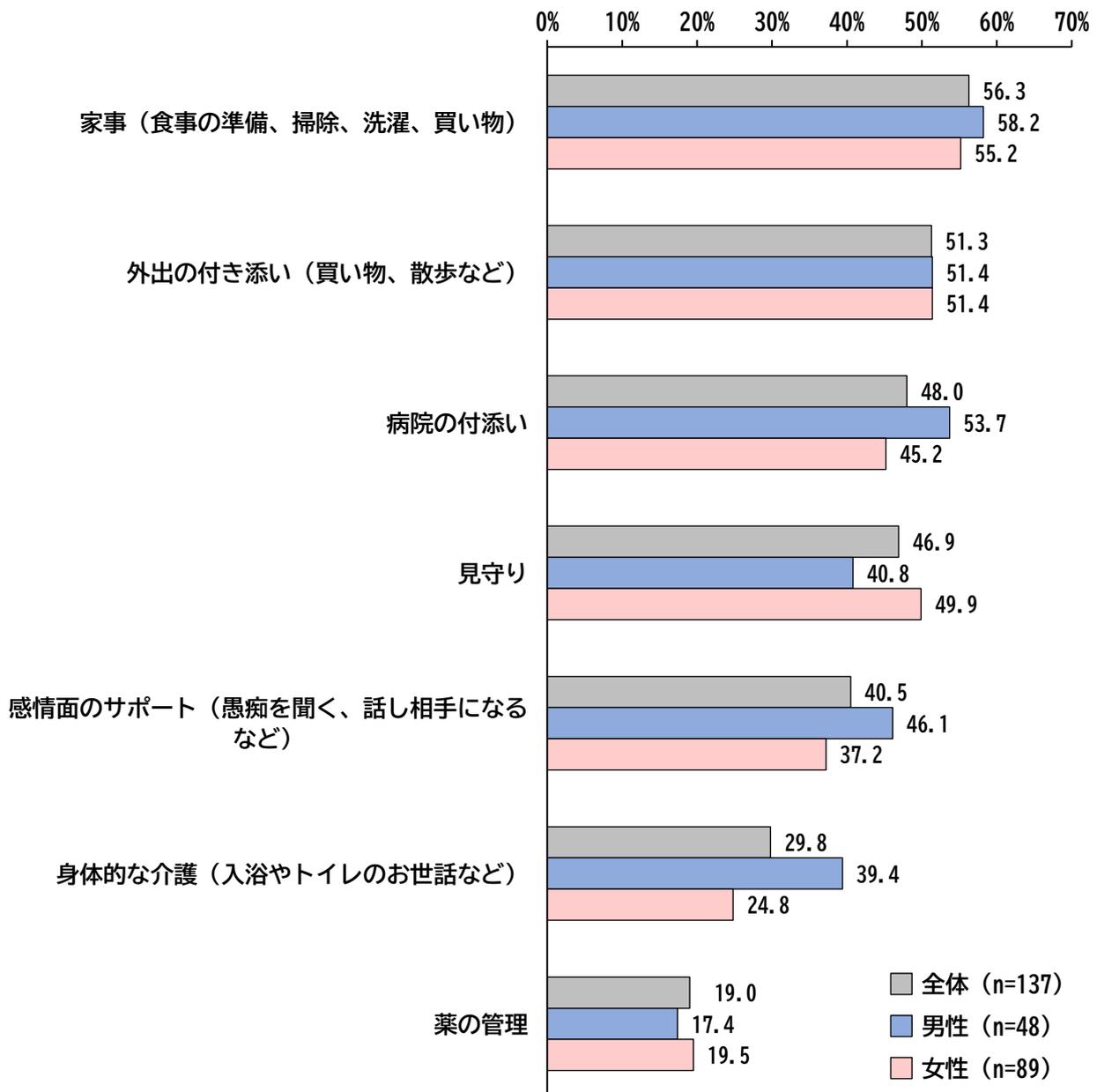
性別

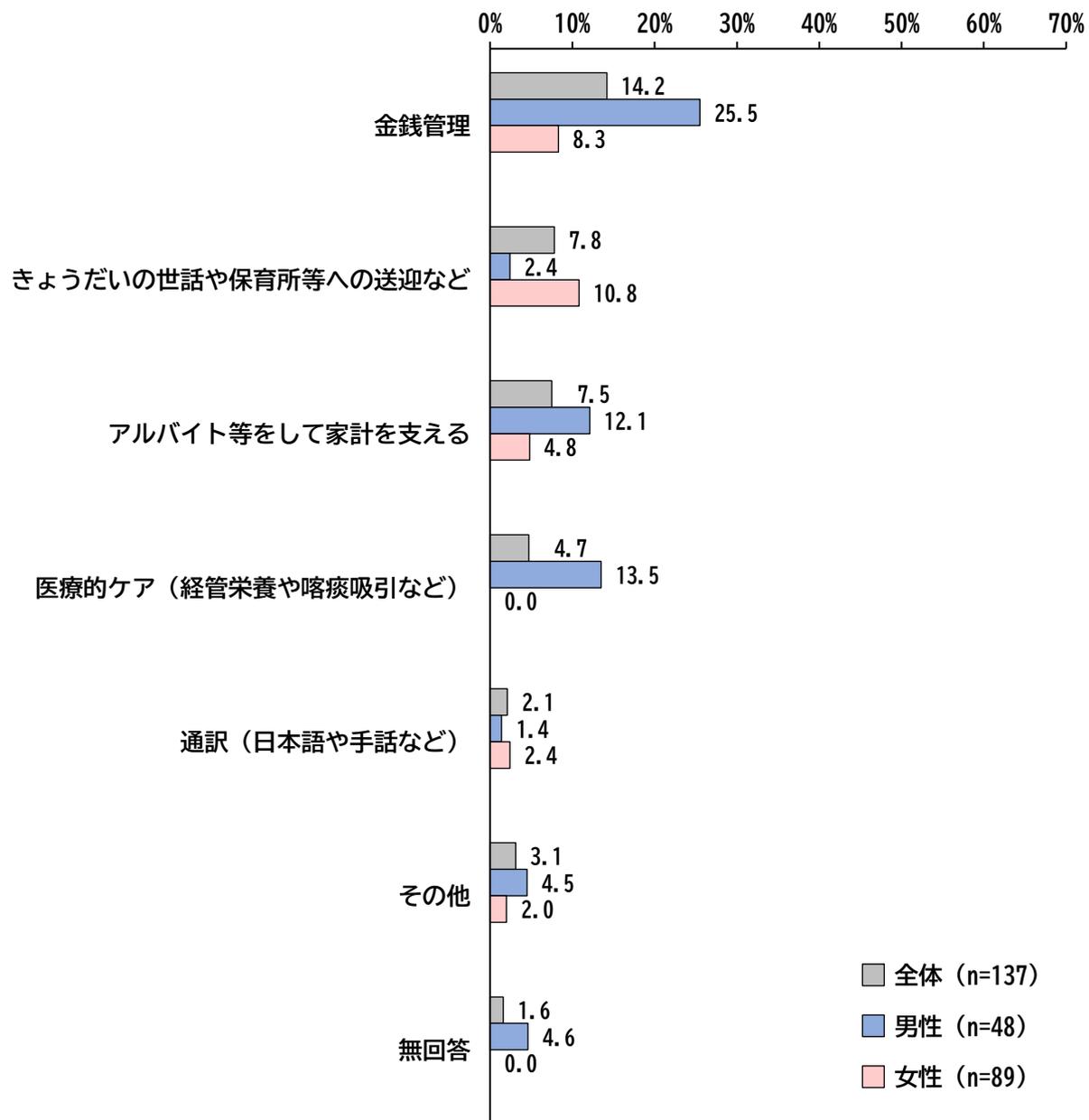
男女で特に差が見られたのは「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」、「金銭管理」、「医療的ケア（経管栄養や喀痰吸引など）」で、男性の方が女性より10ポイント以上高くなっています。一方で、「見守り」と「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」は女性の方が男性より高くなっています。

年齢別

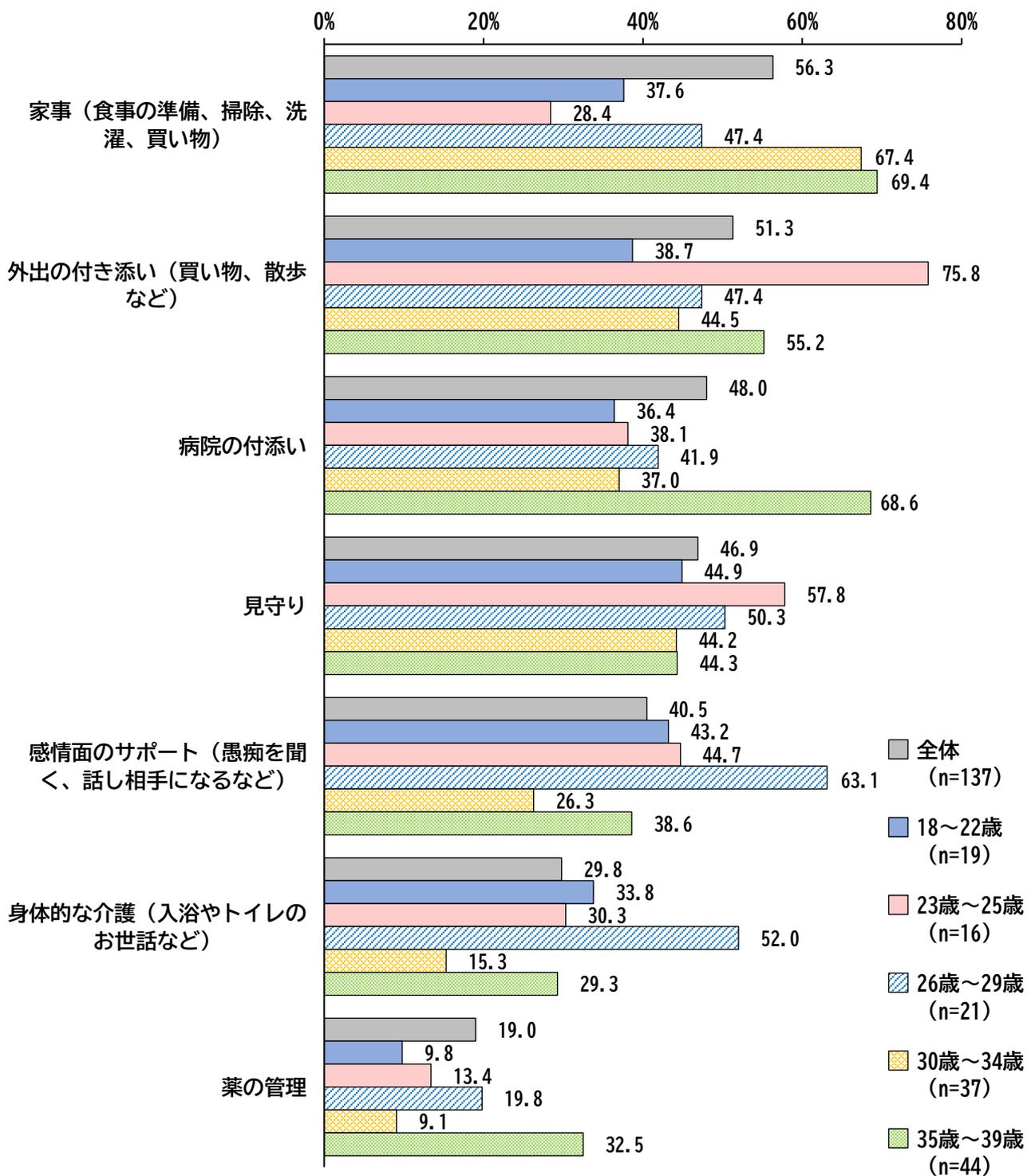
18～22 歳は「見守り」が 44.9%、23～25 歳は「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が 75.8%、26～29 歳は「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」が 63.1%、30～34 歳は「家事（食事の準備、掃除、洗濯、買い物）」が 67.4%、35～39 歳は「家事（食事の準備、掃除、洗濯、買い物）」が 69.4%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22 歳は「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」43.2%、23～25 歳は「見守り」57.8%、26～29 歳は「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」が 52.0%、30～34 歳は「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が 44.5%、35～39 歳は「病院の付添い」が 68.6%となっています。

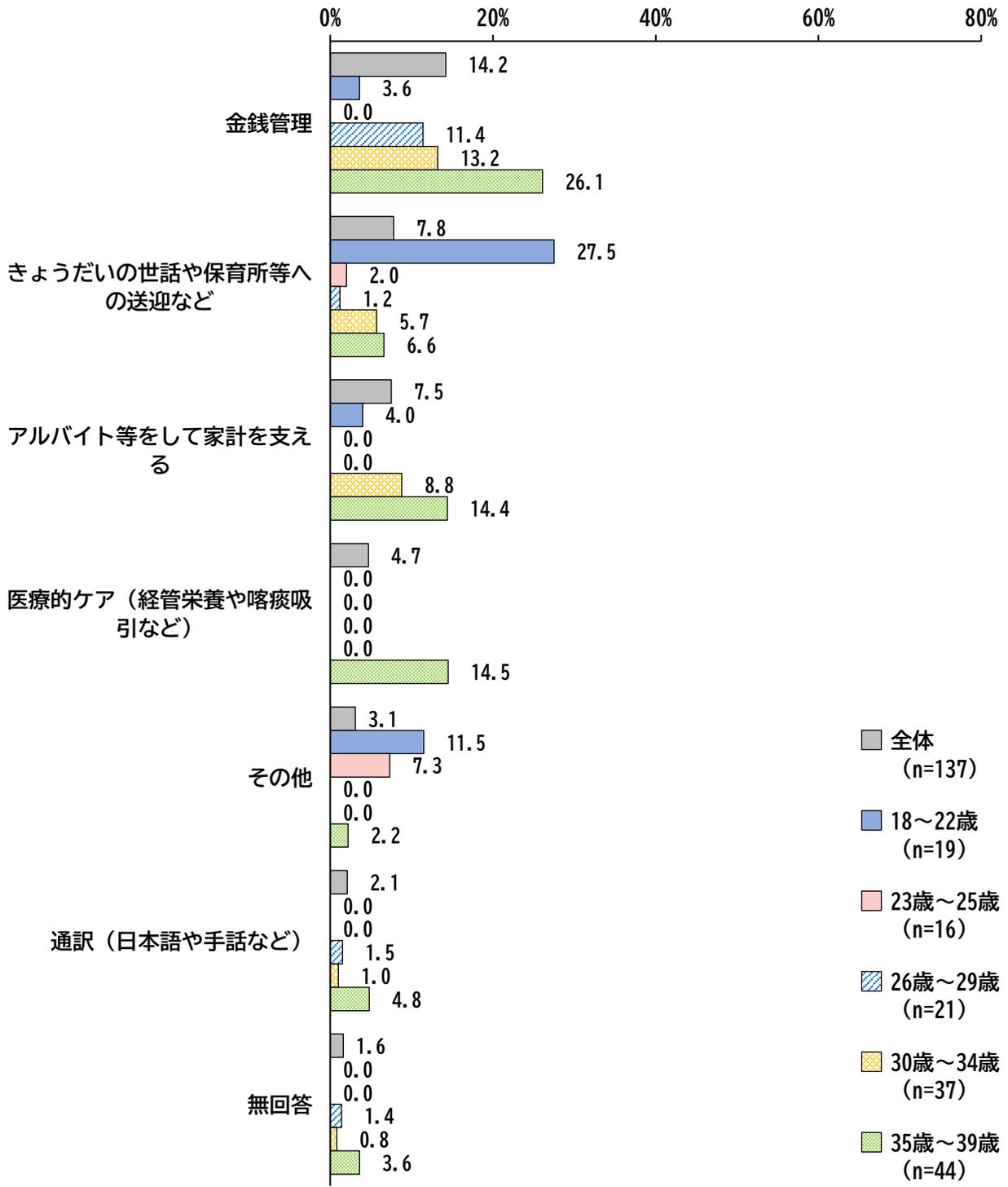
【性別】



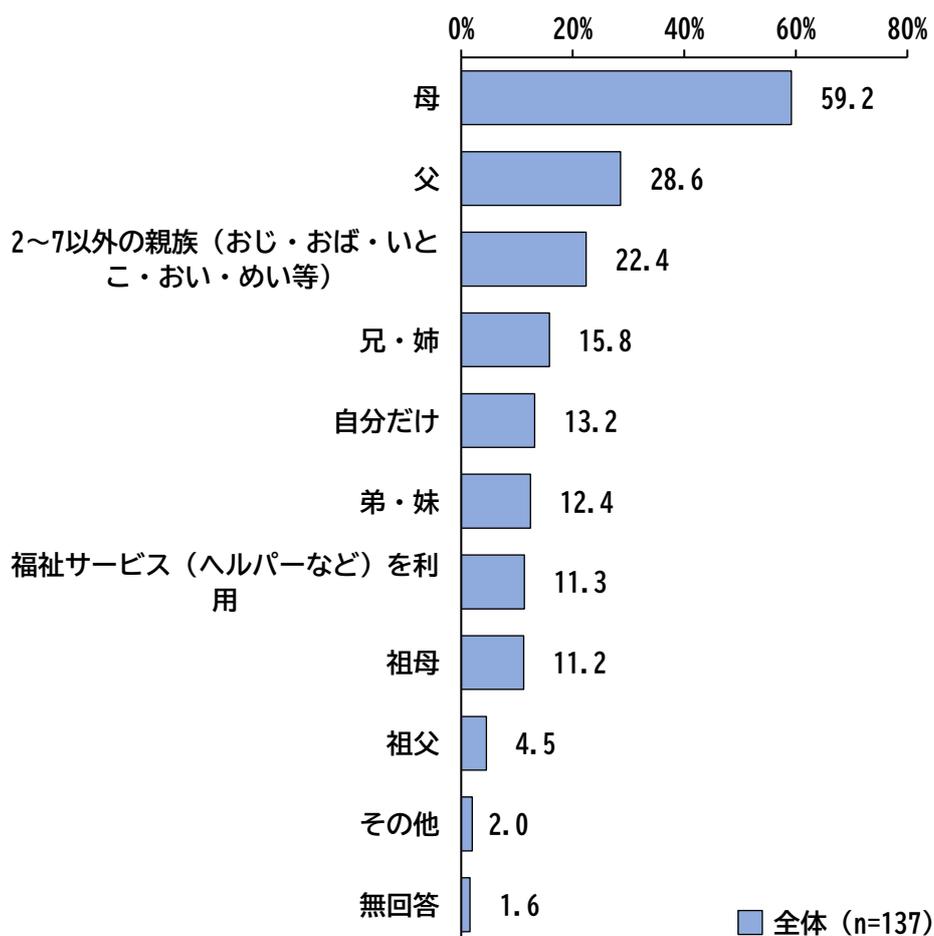


【年齢別】





問19. あなたが行っている、または行っていたお世話は、あなた以外にもする人はいますか、またはいましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

あなた以外にもお世話する人、またはしていた人については、「母」が 59.2%で最も高く、次いで「父」が 28.6%、「2～7以外の親族 (おじ・おば・いとこ・おい・めい等)」が 22.4%となっています。

【属性別結果】

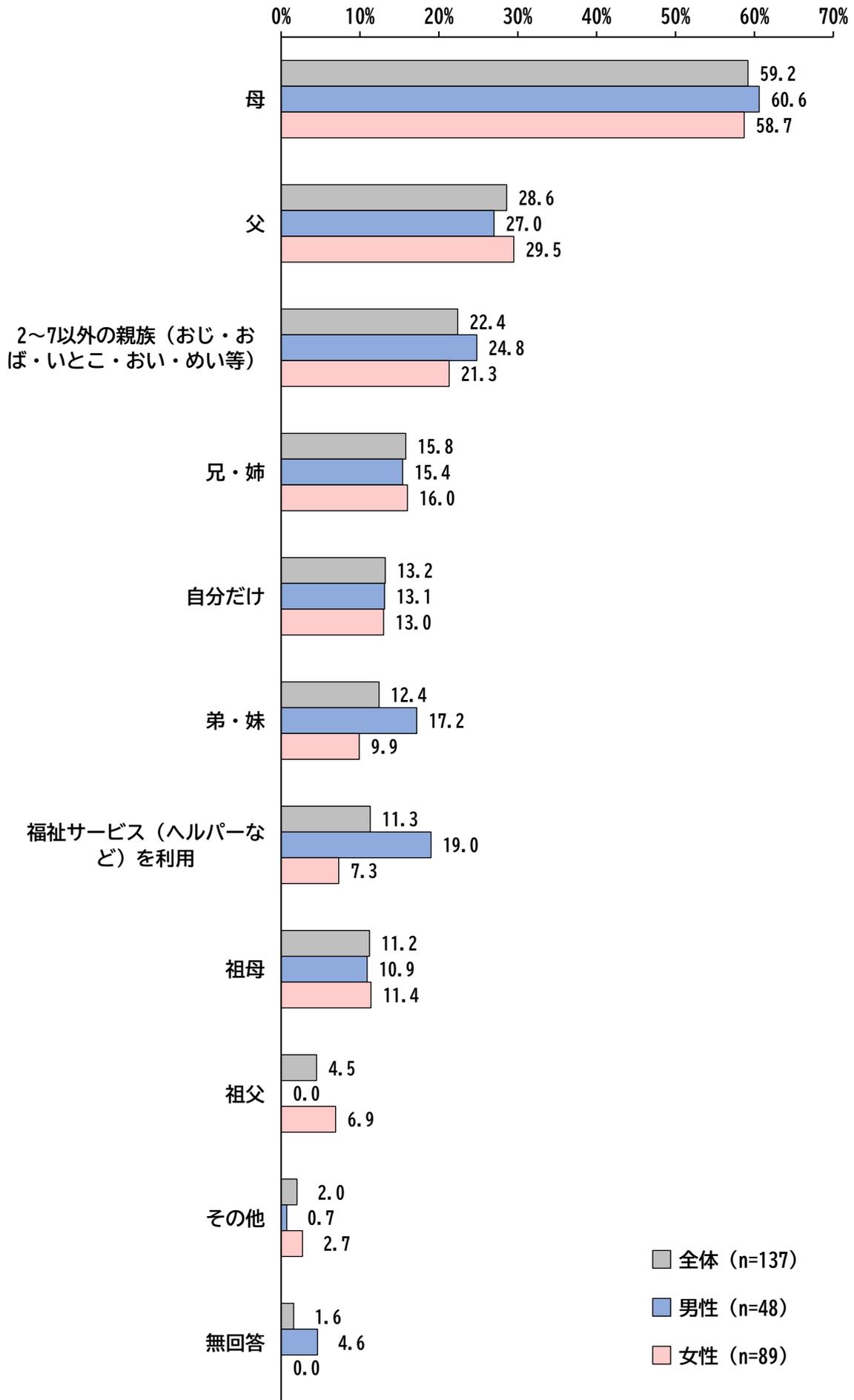
性別

男女ともに「母」が最も高く、男性 60.6%、女性 58.7%となっており、次いで「父」が男性 27.0%、女性 29.5%、「2～7以外の親族 (おじ・おば・いとこ・おい・めい等)」が男性 24.8%、女性 21.3%となっています。

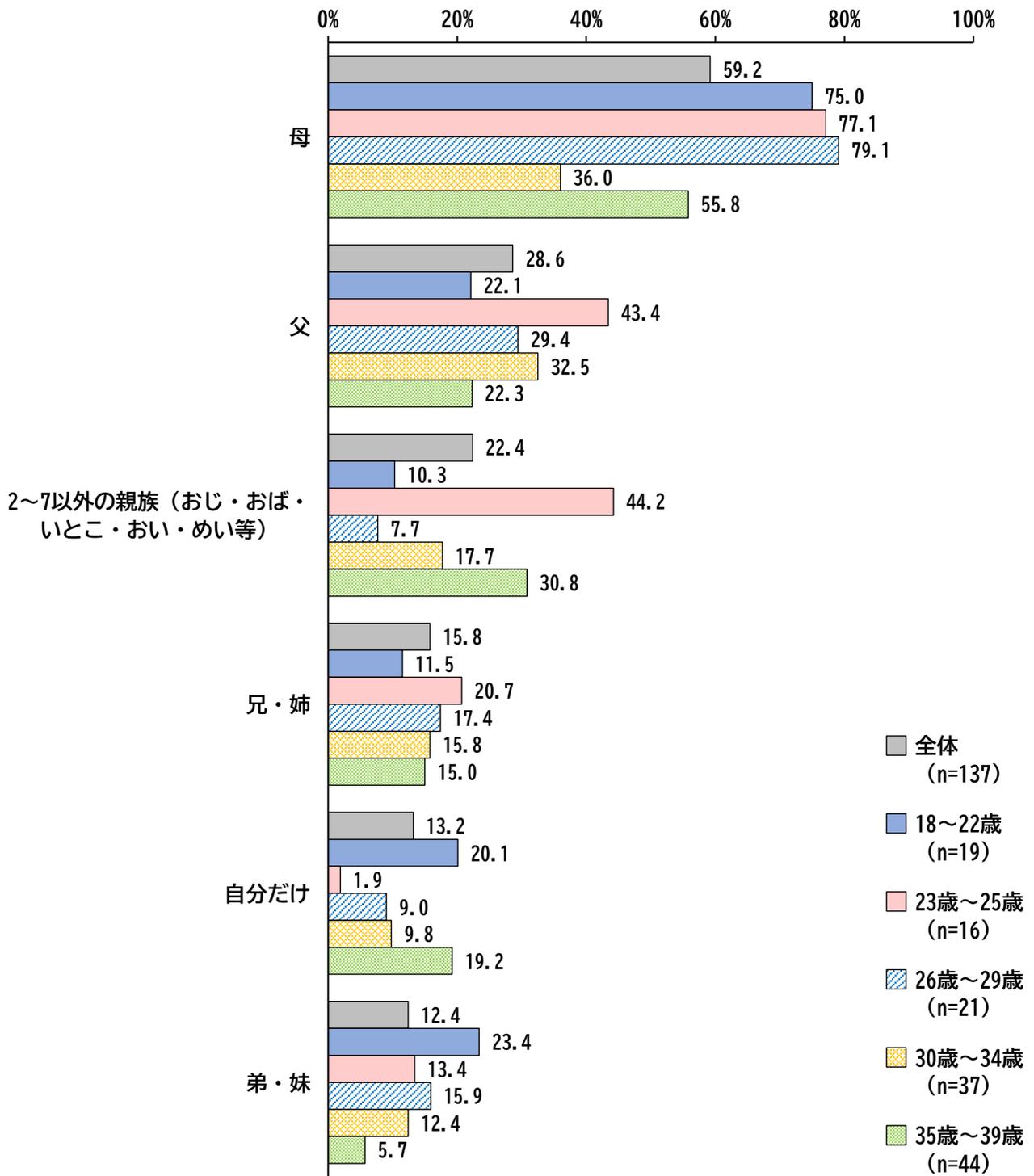
年齢別

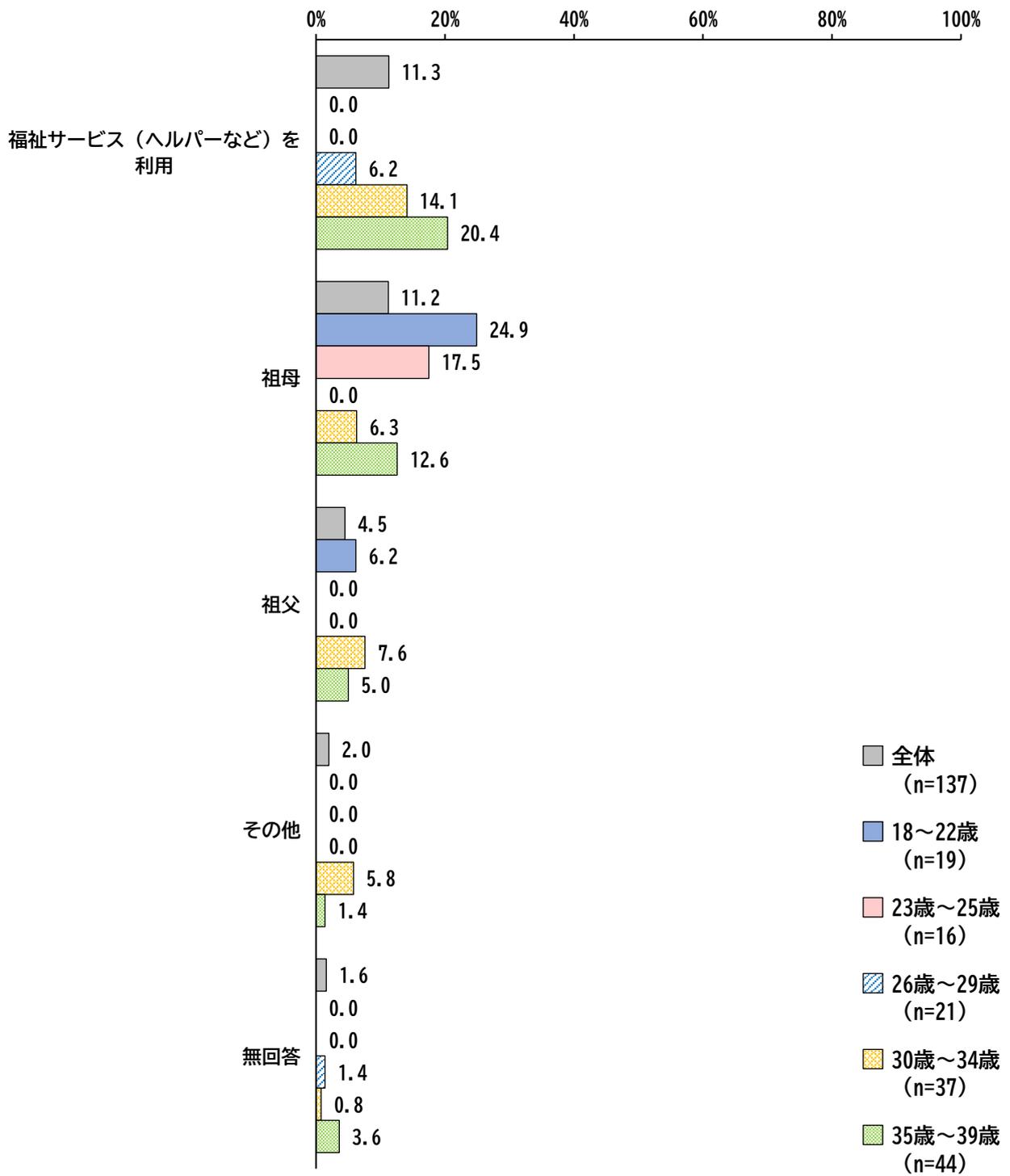
いずれの年代でも「母」が最も高く、18～22歳は75.0%、23～25歳は77.1%、26～29歳は79.1%、30～34歳は36.0%、35～39歳は55.8%となっています。次いで、18～22歳は「祖母」24.9%、23～25歳は「2～7以外の親族 (おじ・おば・いとこ・おい・めい等)」44.2%、26～29歳は「父」29.4%、30～34歳は「父」32.5%、35～39歳は「2～7以外の親族 (おじ・おば・いとこ・おい・めい等)」30.8%となっています。

【性別】

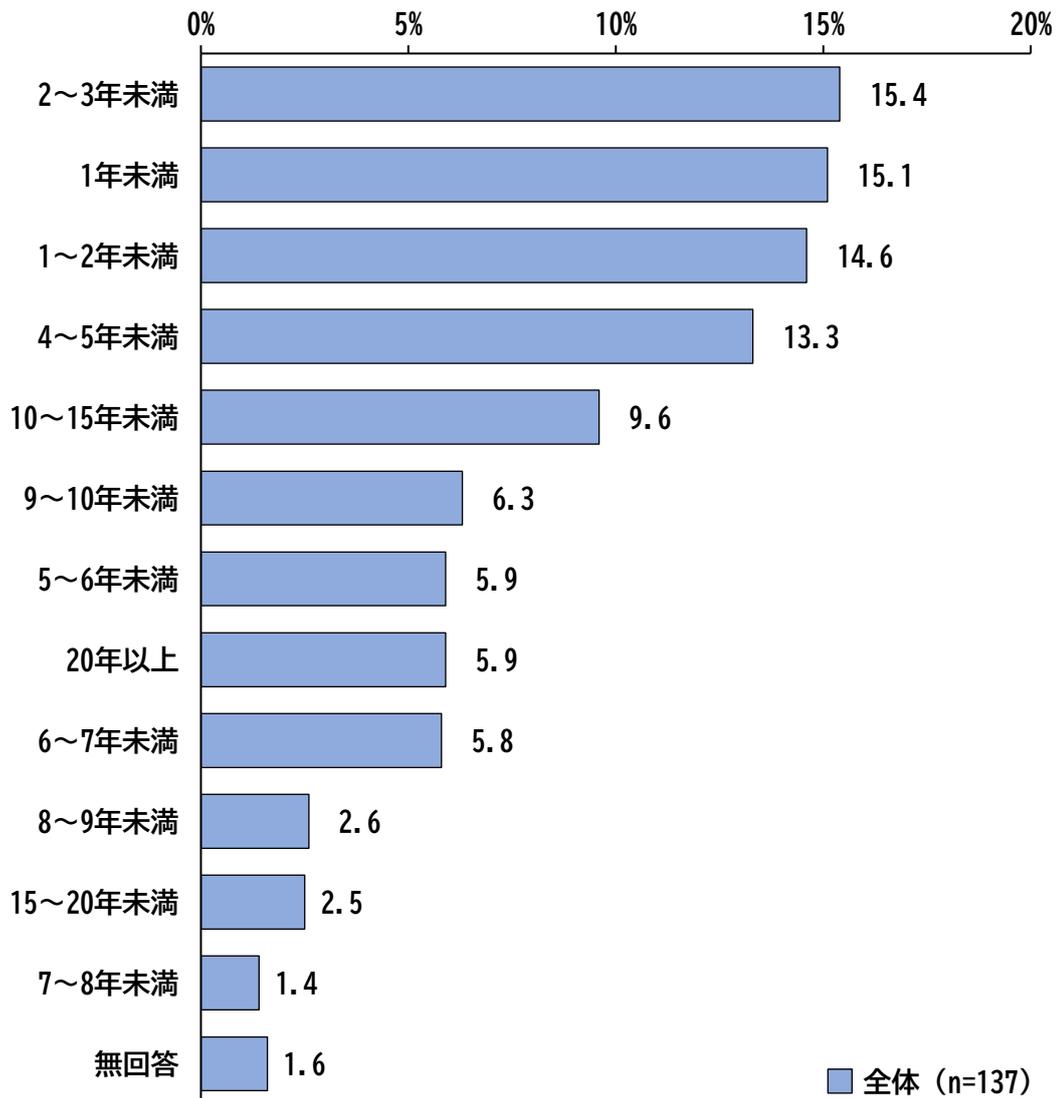


【年齢別】





問 20. あなたはどれくらいの期間お世話をしていますか、またはしていましたか。
 (あてはまるもの1つに○)
 ※お世話をしている人が複数いる場合は、通算の期間をお答えください。



【全体結果】

お世話している期間、またはしていた期間については、「2~3年未満」が15.4%で最も高く、次いで「1年未満」が15.1%、「1~2年未満」が14.6%となっています。

【属性別結果】

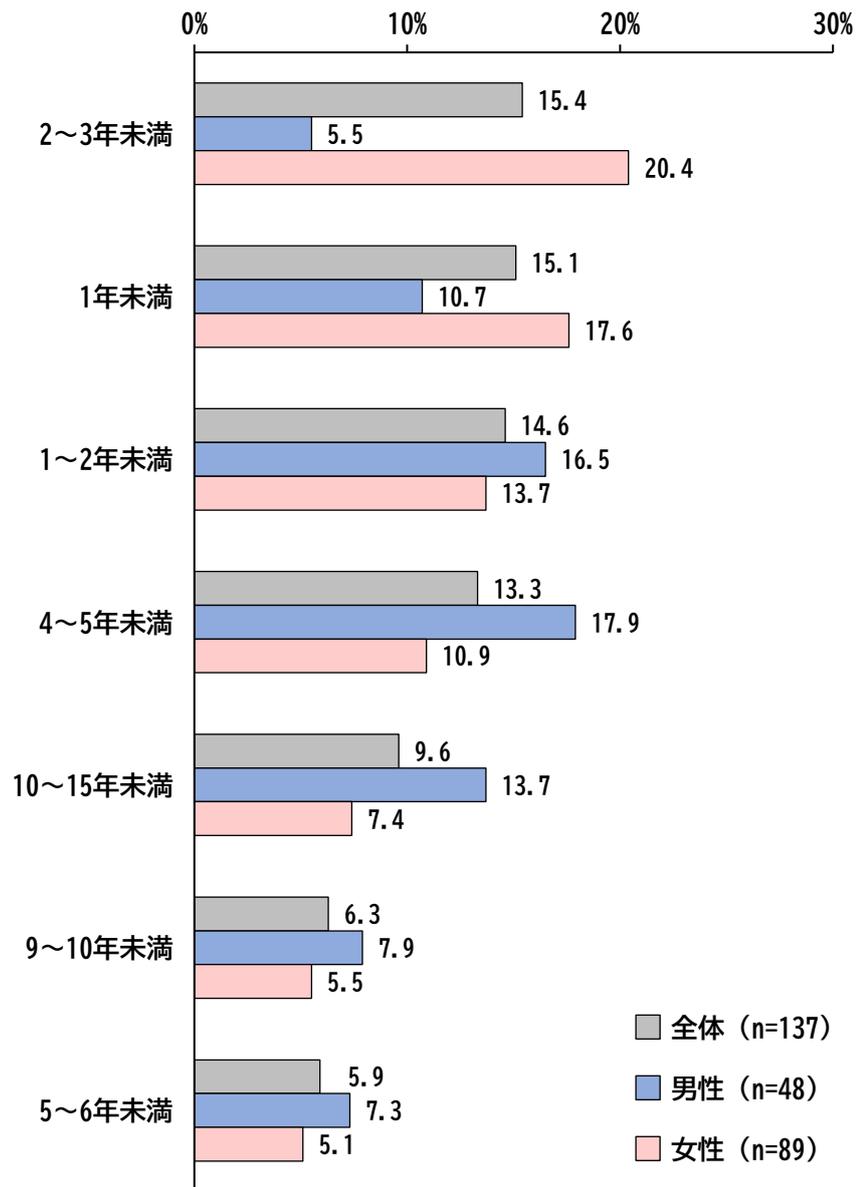
性別

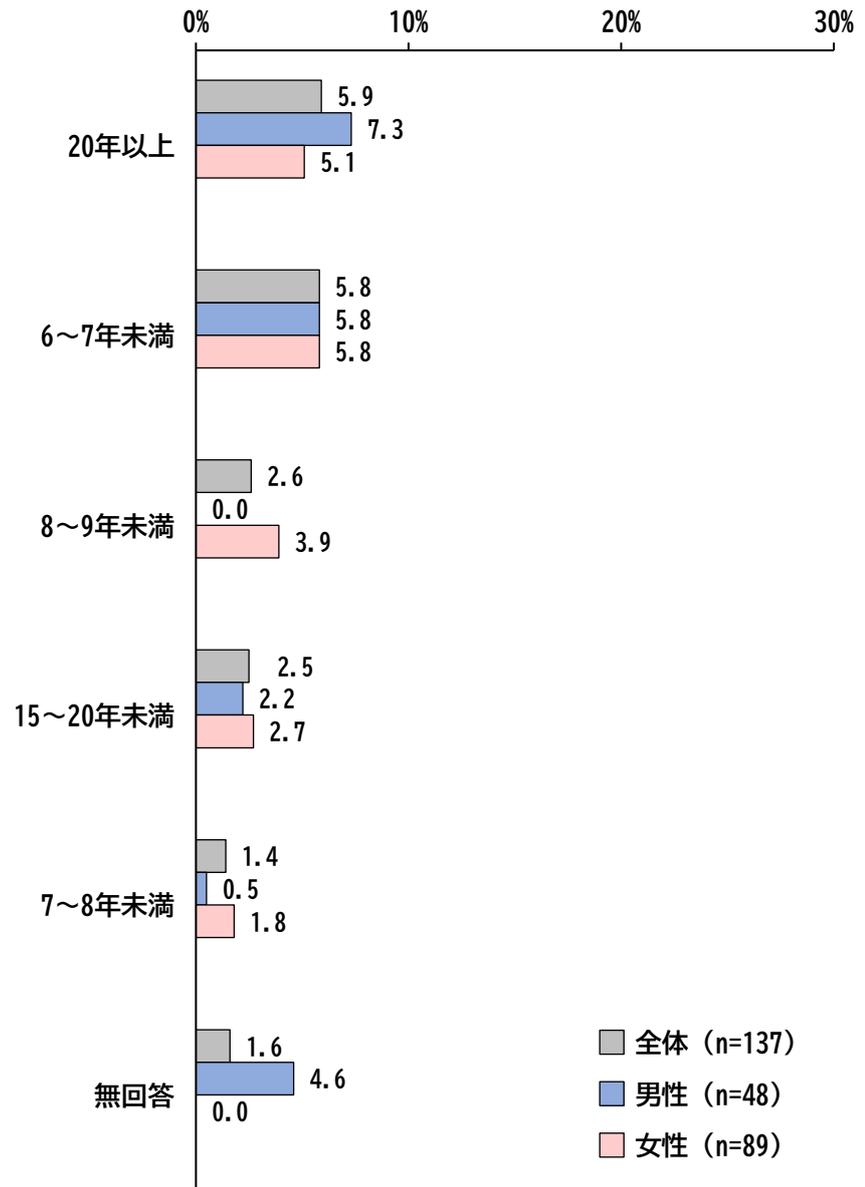
男性は「4~5年未満」が17.9%で最も高く、次いで「1~2年未満」16.5%、「10~15年未満」13.7%となっています。女性は「2~3年未満」が20.4%で最も高く、次いで「1年未満」17.6%、「1~2年未満」13.7%となっています。男女で特に差が見られたのは「2~3年未満」で、女性の方が男性より10ポイント以上高くなっています。一方で、4年以上でみると男性の方が女性より高くなる傾向があります。

年齢別

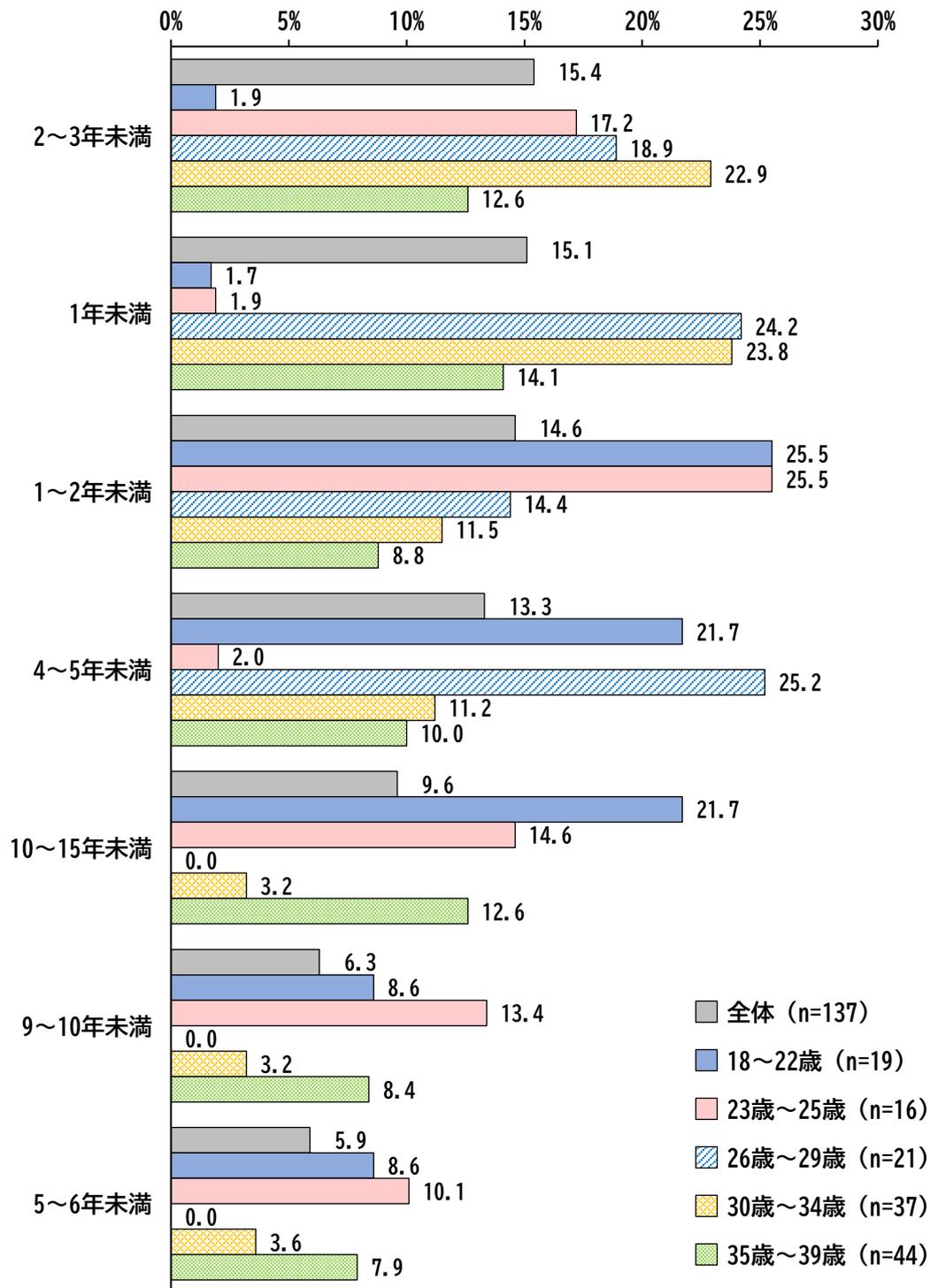
18～22 歳は「1～2 年未満」が 25.5%、23～25 歳は「1～2 年未満」が 25.5%、26～29 歳は「4～5 年未満」が 25.2%、30～34 歳は「1 年未満」が 23.8%、35～39 歳は「1 年未満」が 14.1%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22 歳は「4～5 年未満」及び「10～15 年未満」が 21.7%、23～25 歳は「2～3 年未満」17.2%、26～29 歳は「1 年未満」が 24.2%、30～34 歳は「2～3 年未満」が 22.9%、35～39 歳は「2～3 年未満」及び「10～15 年未満」が 12.6%となっています。

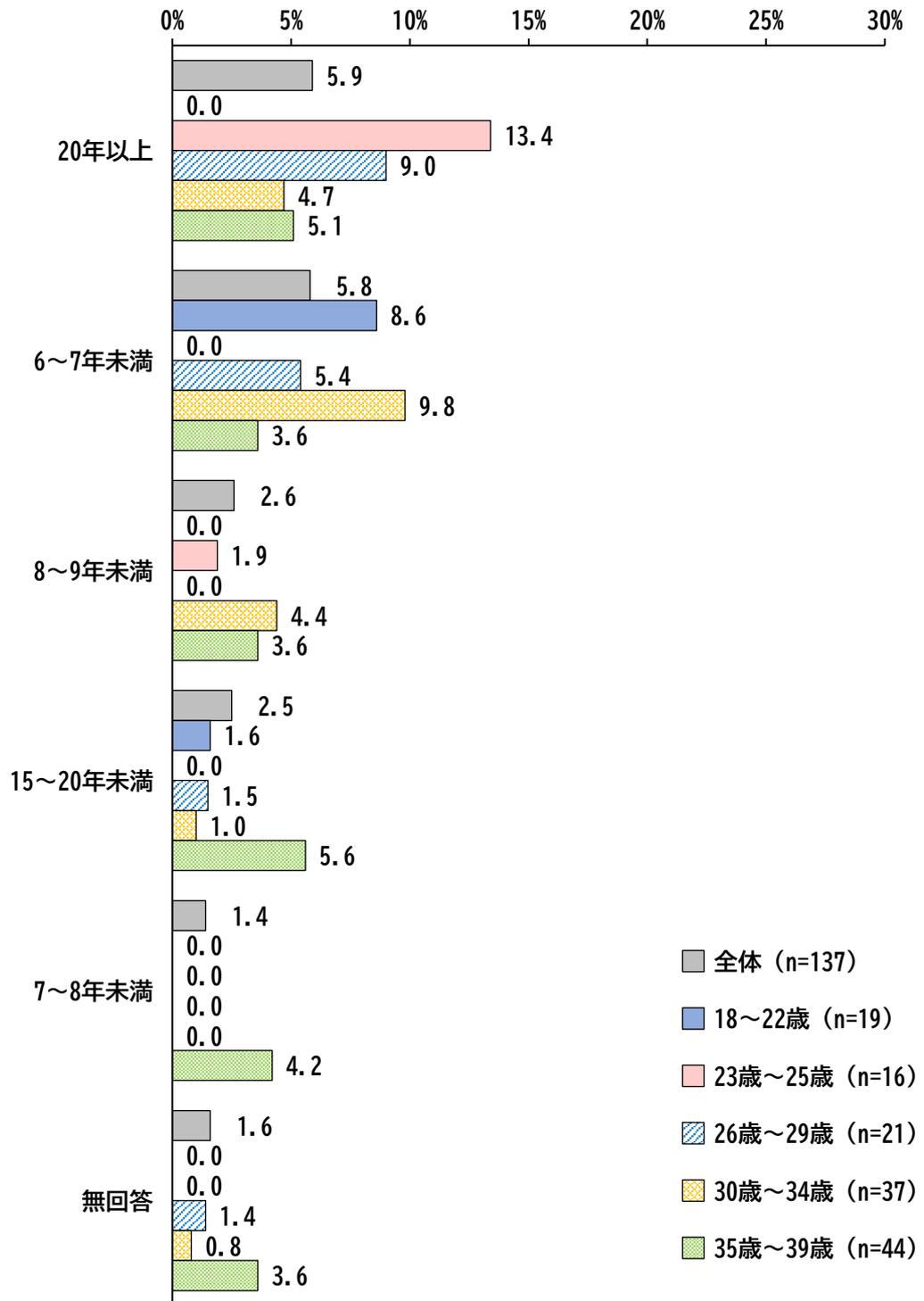
【性別】



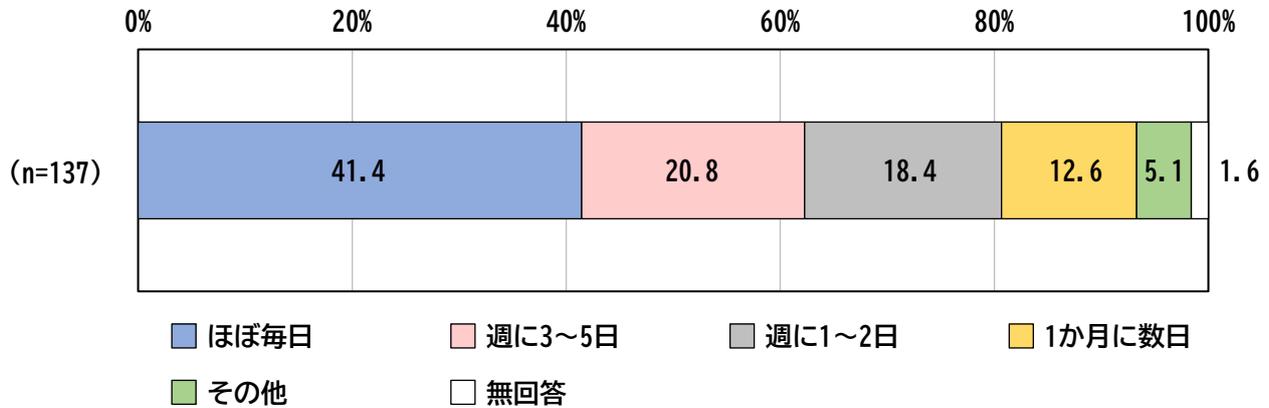


【年齢別】





問 21. あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか、またはしていましたか。日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)
 ※「その他」を選択した場合は、詳細を記入してください。お世話をしている人が複数いる場合は、合計日数で教えてください。



【全体結果】

お世話の頻度（日数）については、「ほぼ毎日」が 41.4%で最も高く、次いで「週に 3~5 日」が 20.8%、「週に 1~2 日」が 18.4%となっています。

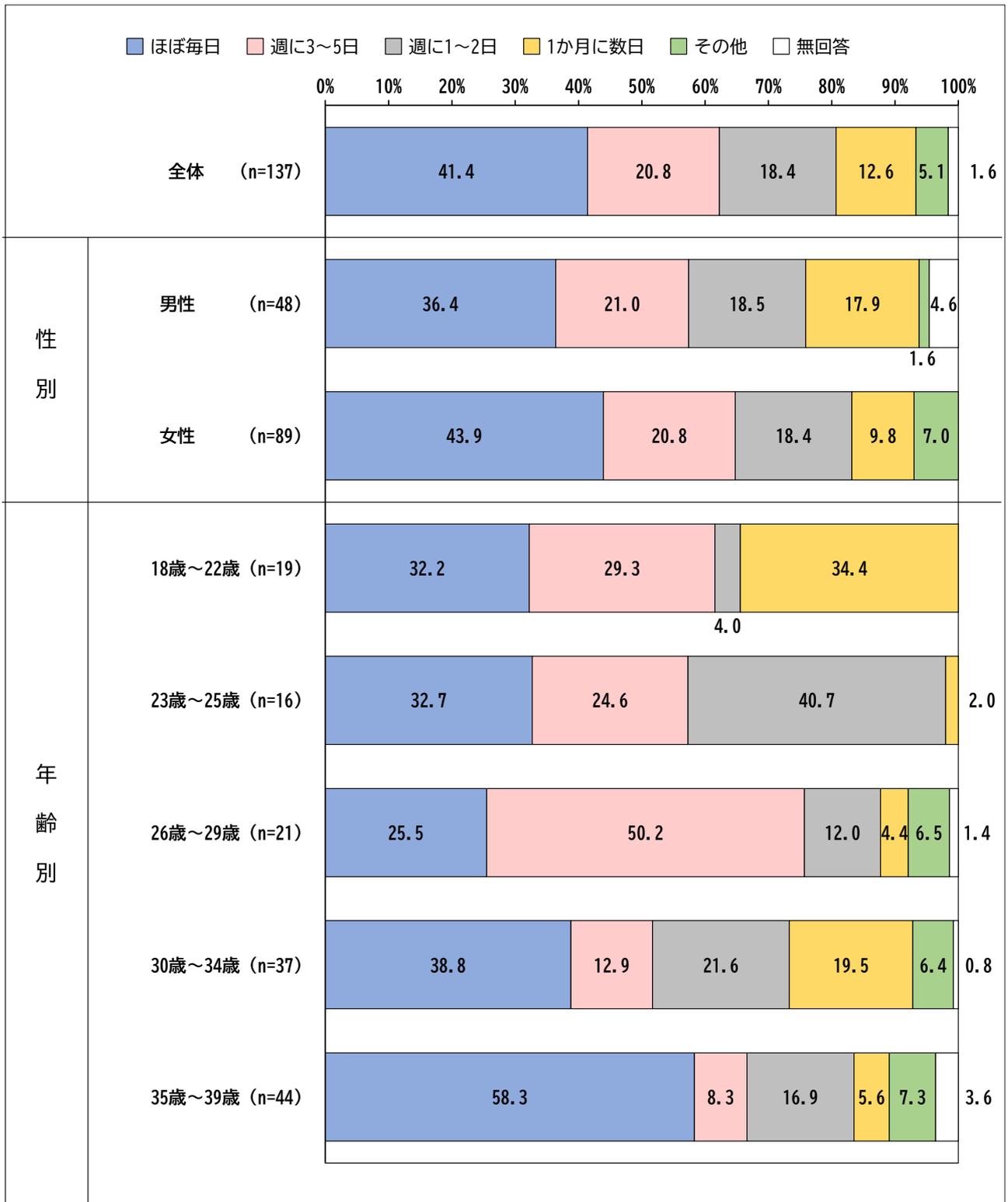
【属性別結果】

性別

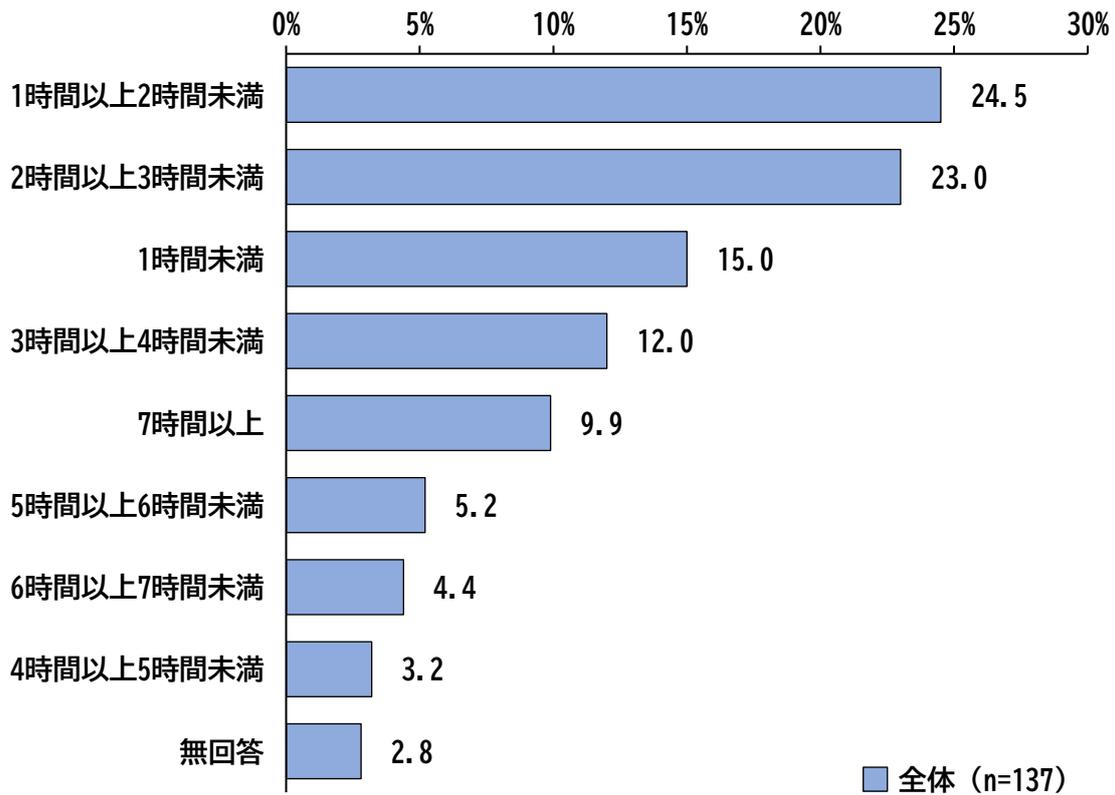
「ほぼ毎日」の割合が、男性 36.4%に対して女性 43.9%と女性の方が高く、「1 か月に数日」の割合は男性 17.9%、女性 9.8%と男性の方が高くなっています。

年齢別

35~39 歳では「ほぼ毎日」58.3%と、他の年代よりも割合が顕著に高くなっています。また、26~29 歳では「ほぼ毎日」が 25.5%とやや低いものの、「週に 3~5 日」は 50.2%となっており、他の年代よりも割合が顕著に高くなっています。



問 22. 平日のお世話時間は 1 日あたりどれくらいですか。(あてはまるもの 1 つに○)
 ※お世話をしている人が複数いる場合は、合計時間で教えてください。



【全体結果】

1 日あたりの平日のお世話時間については、「1 時間以上 2 時間未満」が 24.5%で最も高く、次いで「2 時間以上 3 時間未満」が 23.0%、「1 時間未満」が 15.0%となっています。

【属性別結果】

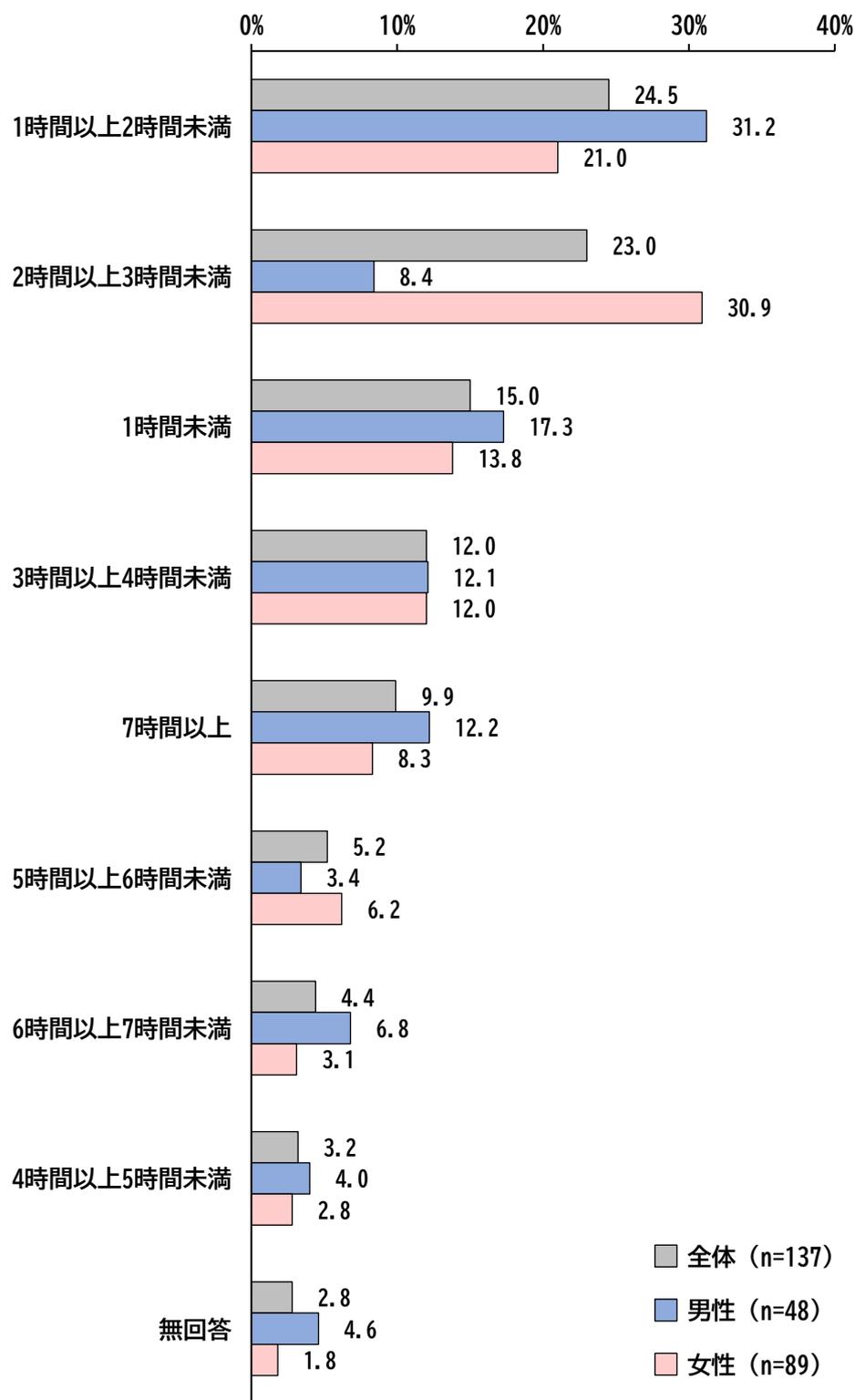
性別

男女で特に差が見られたのは「2 時間以上 3 時間未満」で、女性の方が男性より 20 ポイント以上高くなっています。一方で「1 時間以上 2 時間未満」は、男性の方が女性より 10 ポイント以上高くなっています。

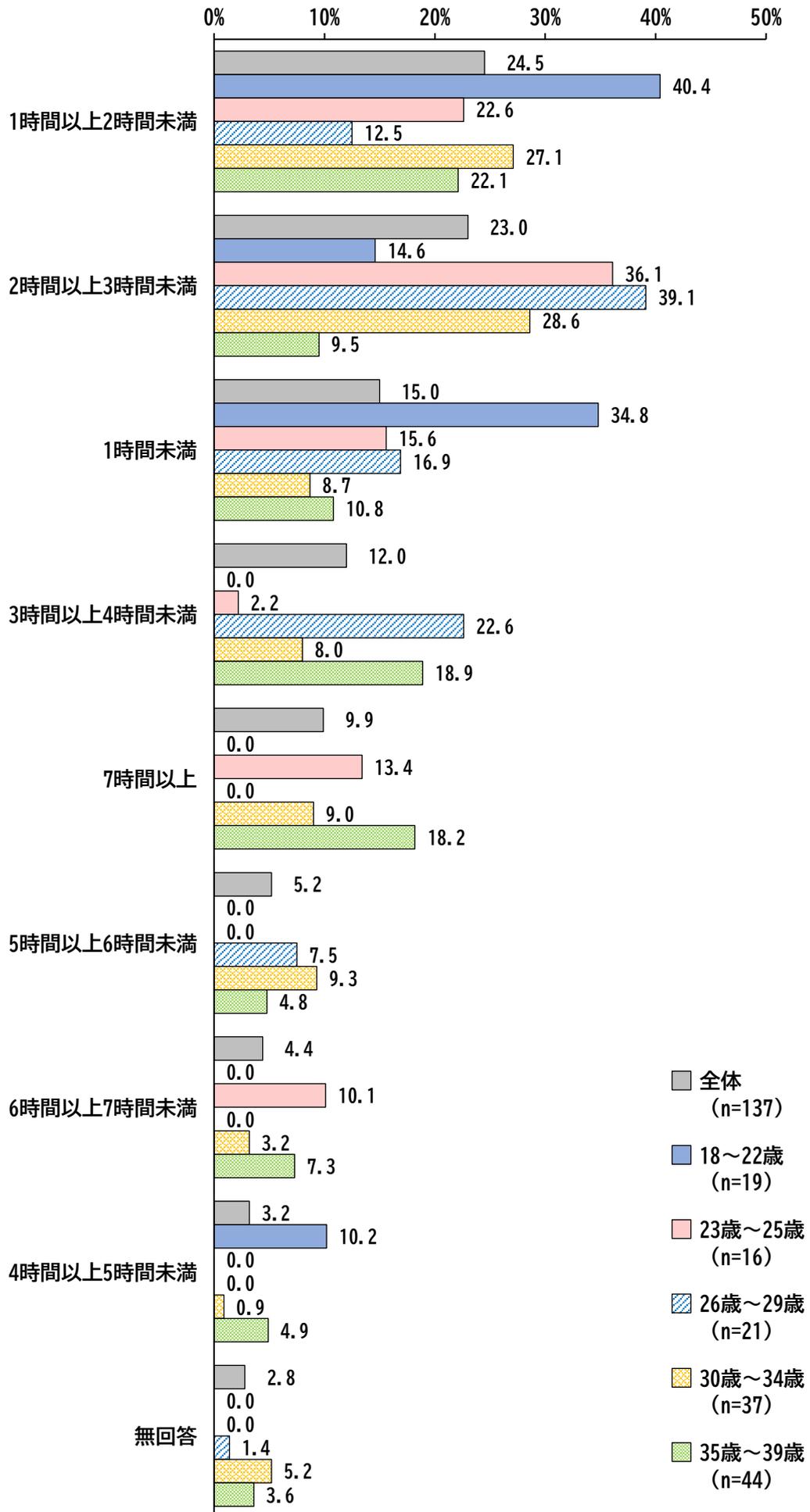
年齢別

18～22 歳は「1 時間以上 2 時間未満」が 40.4%、23～25 歳は「2 時間以上 3 時間未満」が 36.1%、26～29 歳は「2 時間以上 3 時間未満」が 39.1%、30～34 歳は「2 時間以上 3 時間未満」が 28.6%、35～39 歳は「1 時間以上 2 時間未満」が 22.1%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22 歳は「1 時間未満」34.8%、23～25 歳は「1 時間以上 2 時間未満」22.6%、26～29 歳は「3 時間以上 4 時間未満」22.6%、30～34 歳は「1 時間以上 2 時間未満」が 27.1%、35～39 歳は「3 時間以上 4 時間未満」が 18.9%となっています。

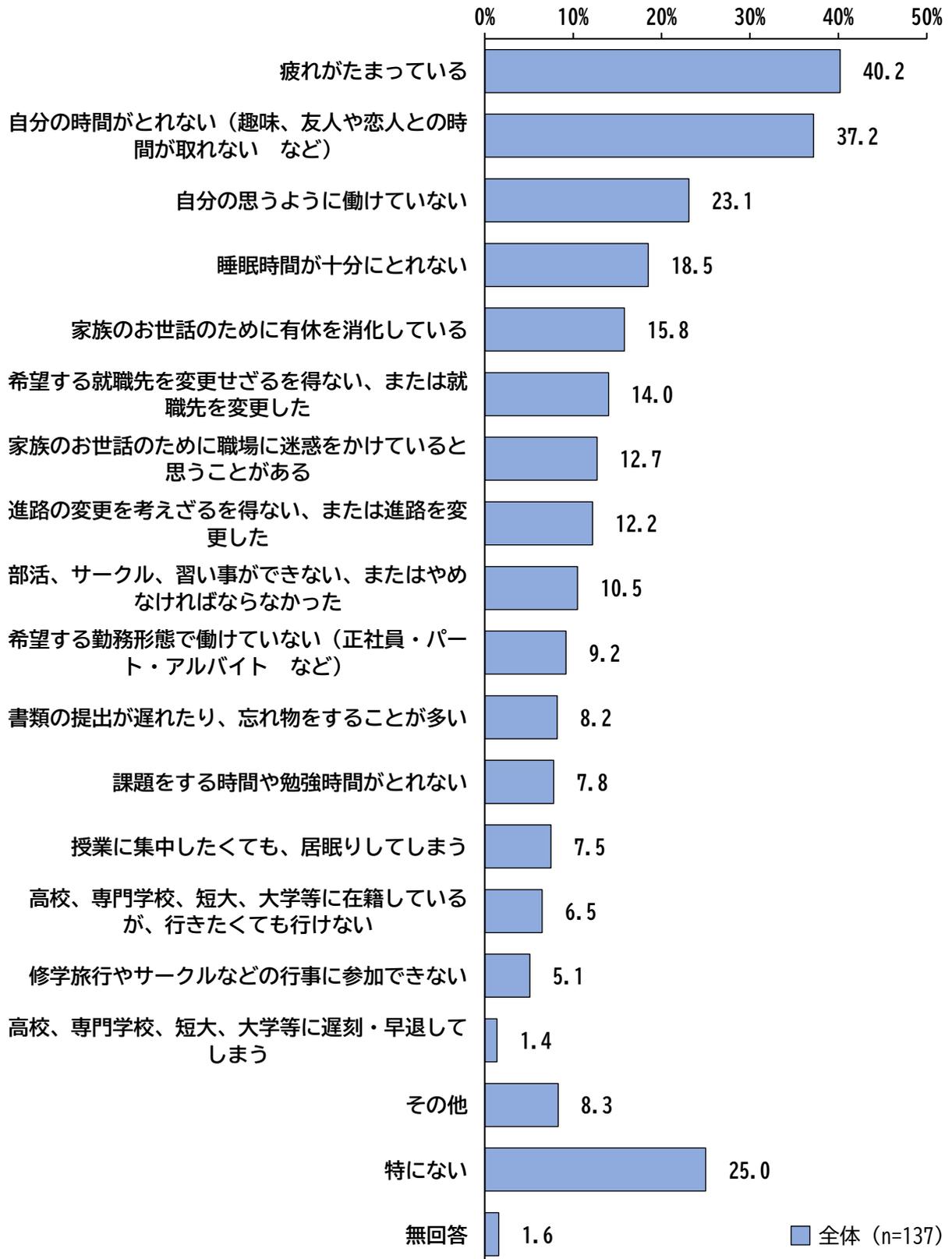
【性別】



【年齢別】



問23. お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことについては、「疲れがたまっている」が 40.2%で最も高く、次いで「自分の時間がとれない（趣味、友人や恋人との時間が取れないなど）」が 37.2%、「自分の思うように働けていない」が 23.1%となっています。また、「特にない」が 25.0%となっています。

【属性別結果】

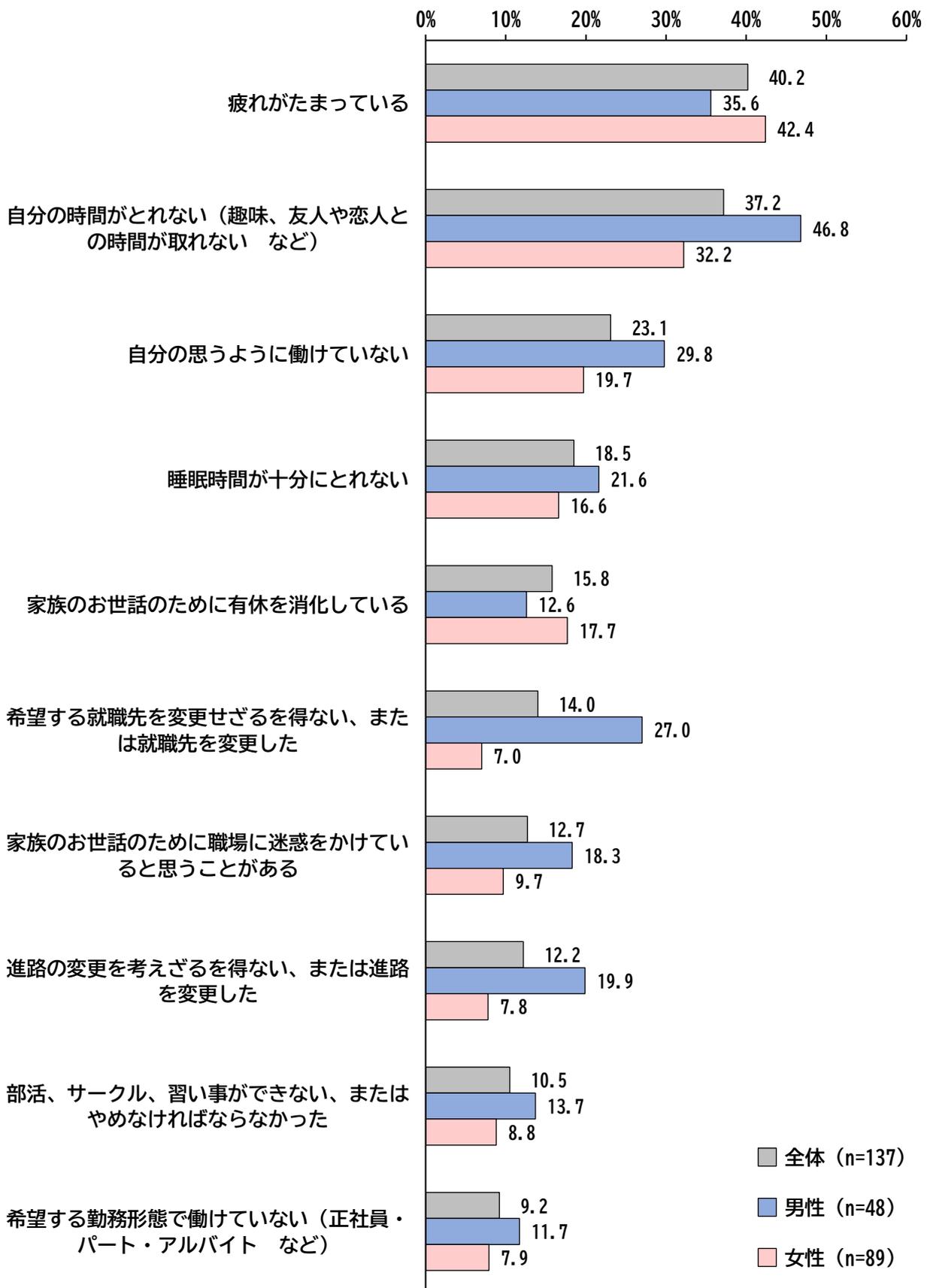
性別

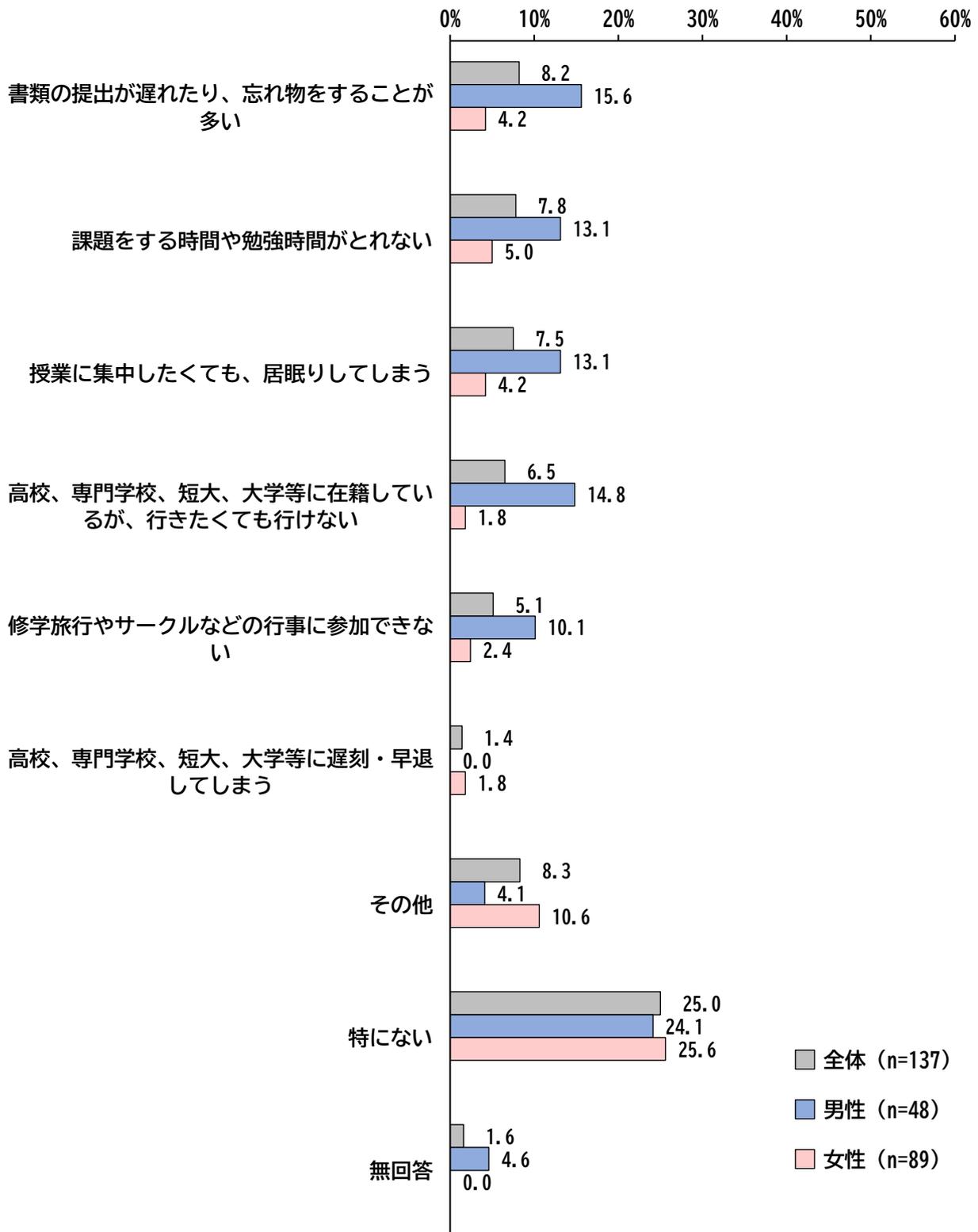
多くの項目で男性の方が女性より高くなっていますが、男女で特に差が見られたのは「希望する就職先を変更せざるを得ない、または就職先を変更した」で、男性の方が女性より 20 ポイント高くなっています。一方で、「疲れがたまっている」と「家族のお世話のために有休を消化している」は女性の方が男性より高くなっています。

年齢別

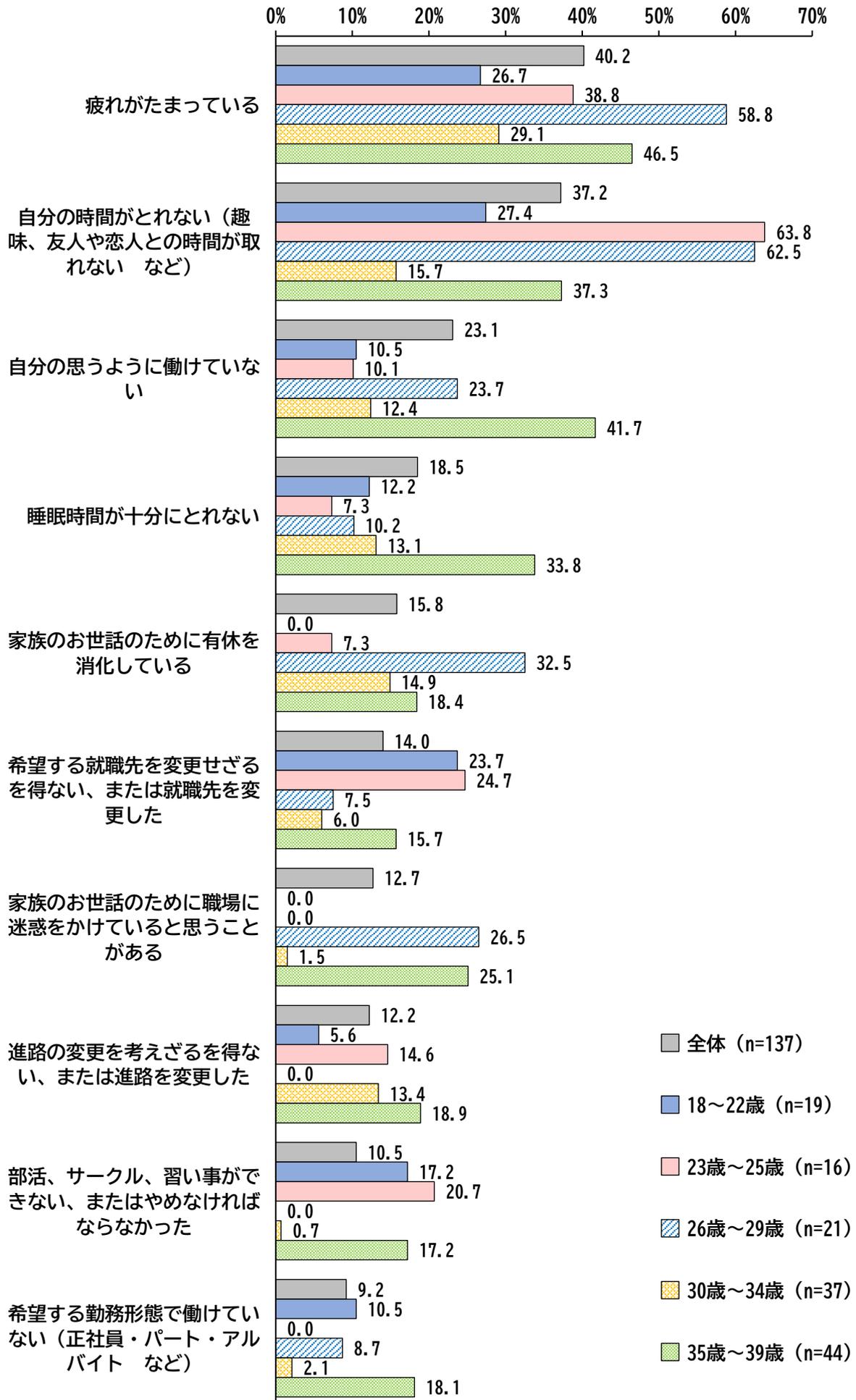
18～22 歳は「特にない」が 32.0%、23～25 歳は「自分の時間がとれない（趣味、友人や恋人との時間が取れないなど）」が 63.8%、26～29 歳は「自分の時間がとれない（趣味、友人や恋人との時間が取れないなど）」が 62.5%、30～34 歳は「特にない」が 34.2%、35～39 歳は「疲れがたまっている」が 46.5%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22 歳は「自分の時間がとれない（趣味、友人や恋人との時間が取れないなど）」27.4%、23～25 歳は「疲れがたまっている」38.8%、26～29 歳は「疲れがたまっている」58.8%、30～34 歳は「疲れがたまっている」29.1%、35～39 歳は「自分の思うように働けていない」が 41.7%となっています。

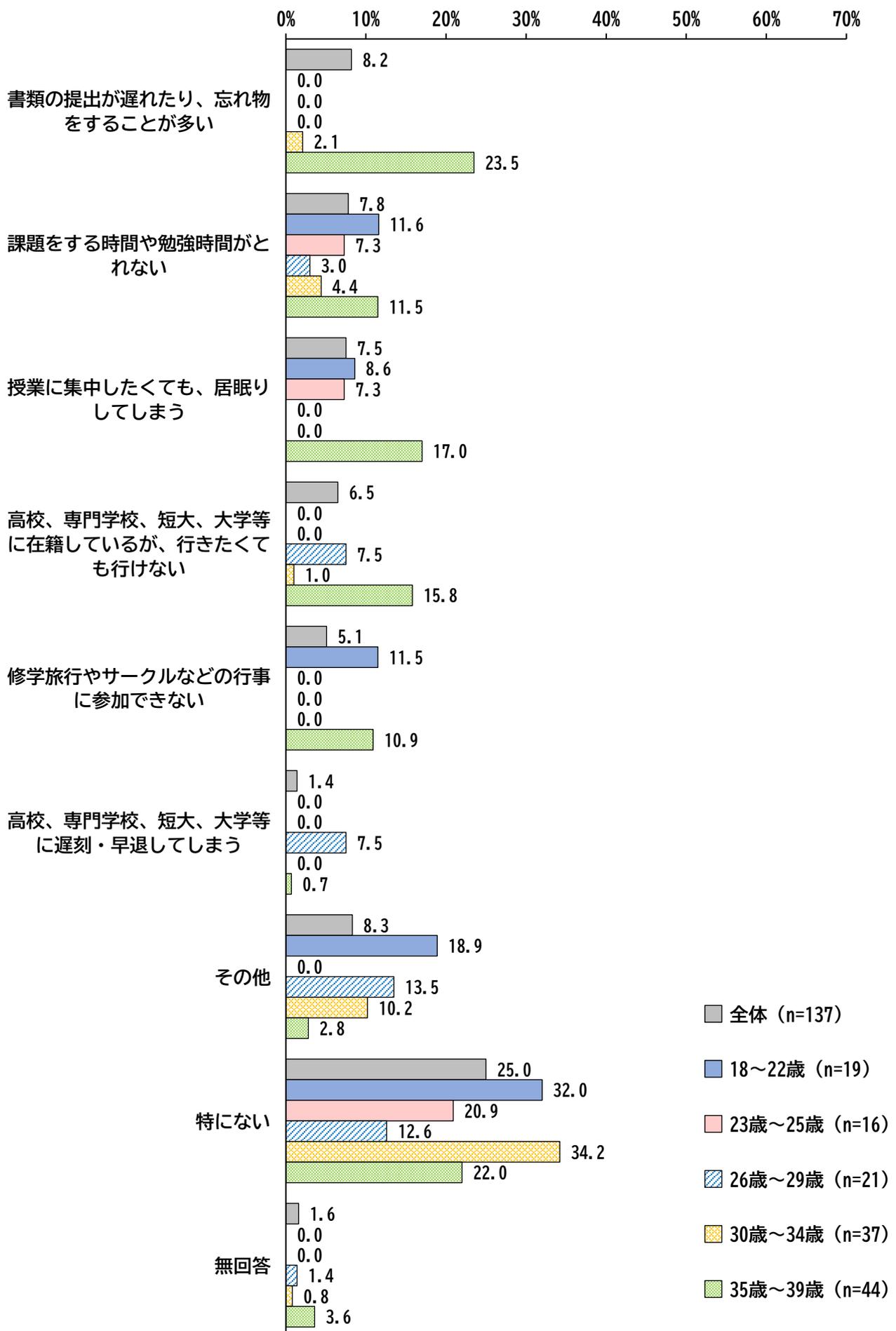
【性別】



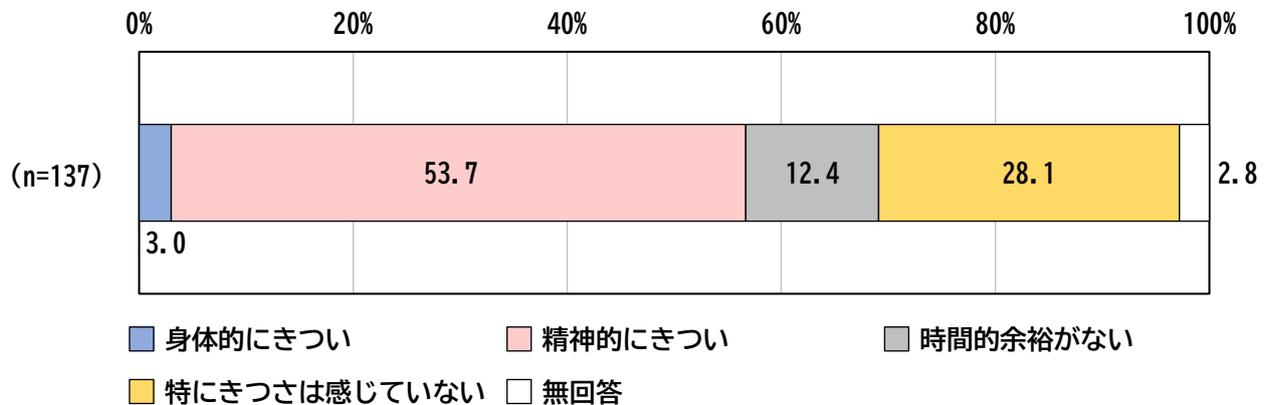


【年齢別】





問 24. お世話をすることに大変さを感じていますか、または感じていましたか。
(あてはまるもの1つに○)



【全体結果】

お世話をすることに大変さを感じているか（または感じていたか）については、「精神的にきつい」が 53.7%で最も高く、次いで「特にきつさは感じていない」が 28.1%、「時間的余裕がない」が 12.4%となっています。

【属性別結果】

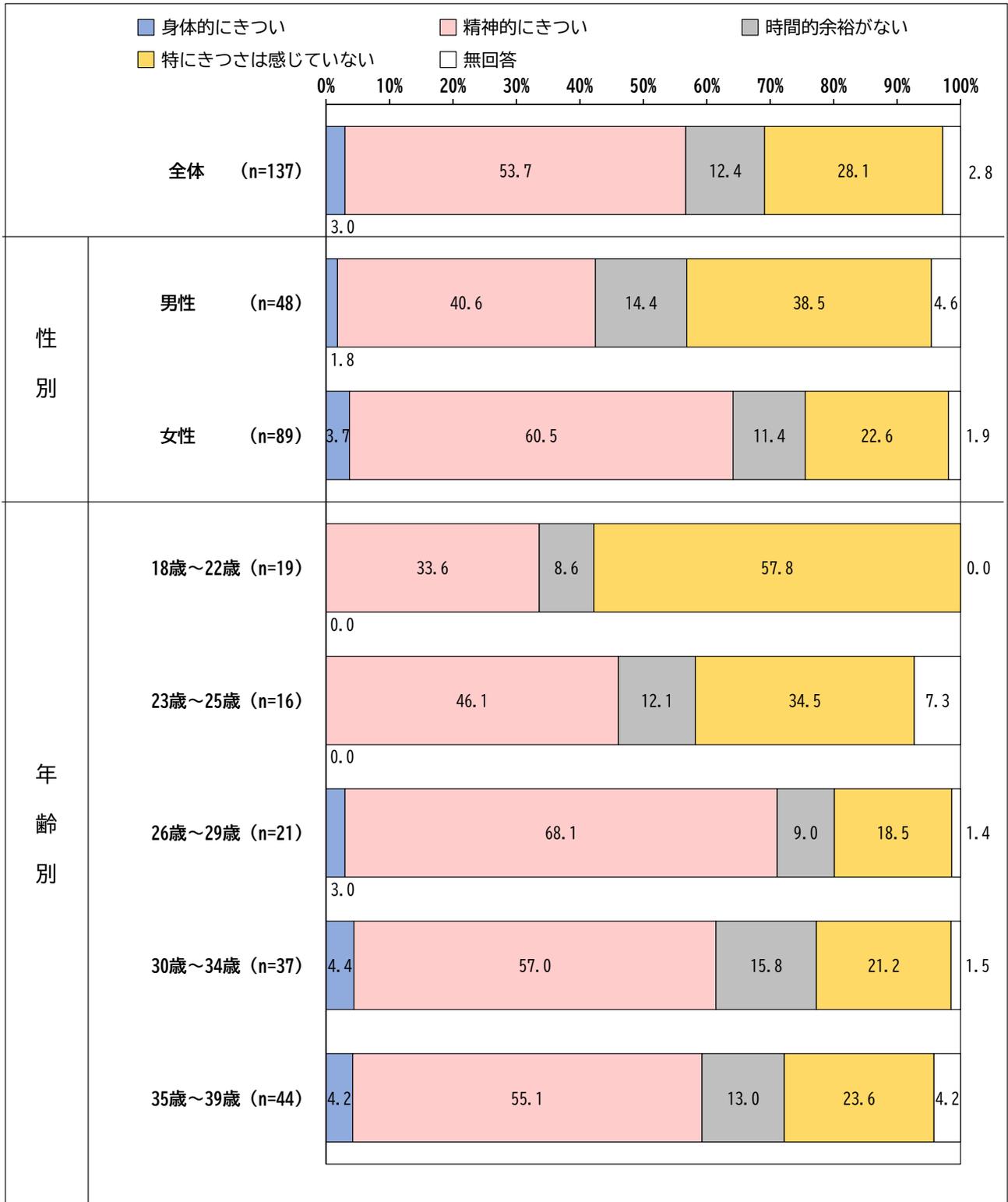
性別

男女で特に差が見られたのは「精神的にきつい」で、女性の方が男性より約 20 ポイント高くなっています。一方で、「特にきつさは感じていない」は男性の方が女性より高くなっています。

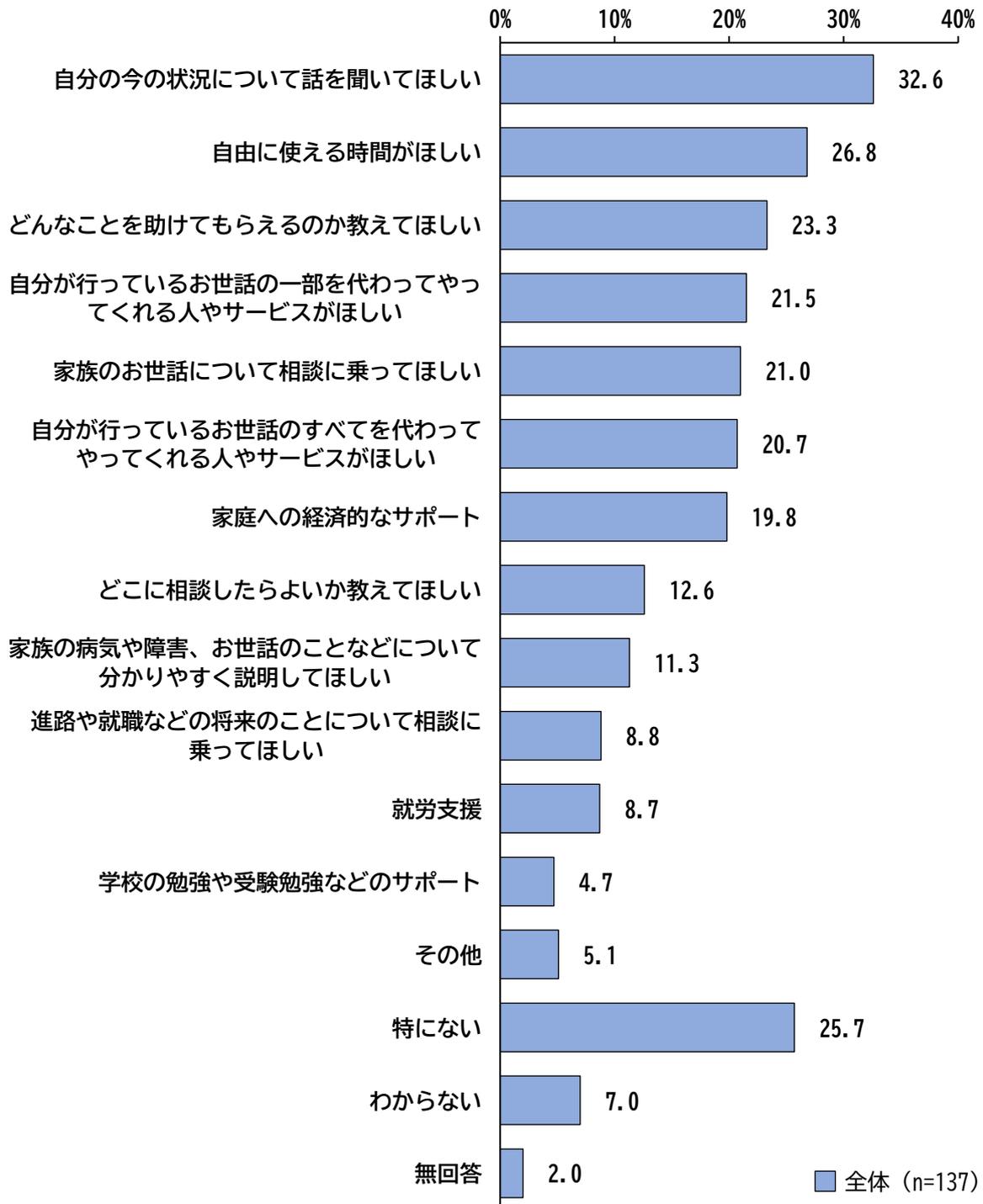
年齢別

「特にきつさは感じていない」の割合が、18～22 歳は 57.8%、23～25 歳は 34.5%に対し、26～29 歳は 18.5%、30～34 歳は 21.2%、35～39 歳は 23.6%となっており、20 代後半以降で「特にきつさは感じていない」の割合が低くなっています。一方で、「精神的にきつい」の割合が、18～22 歳は 33.6%、23～25 歳は 46.1%に対し、26～29 歳は 68.1%、30～34 歳は 57.0%、35～39 歳は 55.1%となっており、20 代後半以降で「精神的にきつい」の割合が高くなっています。

【性別】



問 25. 周囲の人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか、またはありましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

周囲の人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことについては、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が32.6%で最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」が26.8%、「どんなことを助けてもらえるのか教えてほしい」が23.3%となっています。また、「特にない」が25.7%となっています。

【属性別結果】

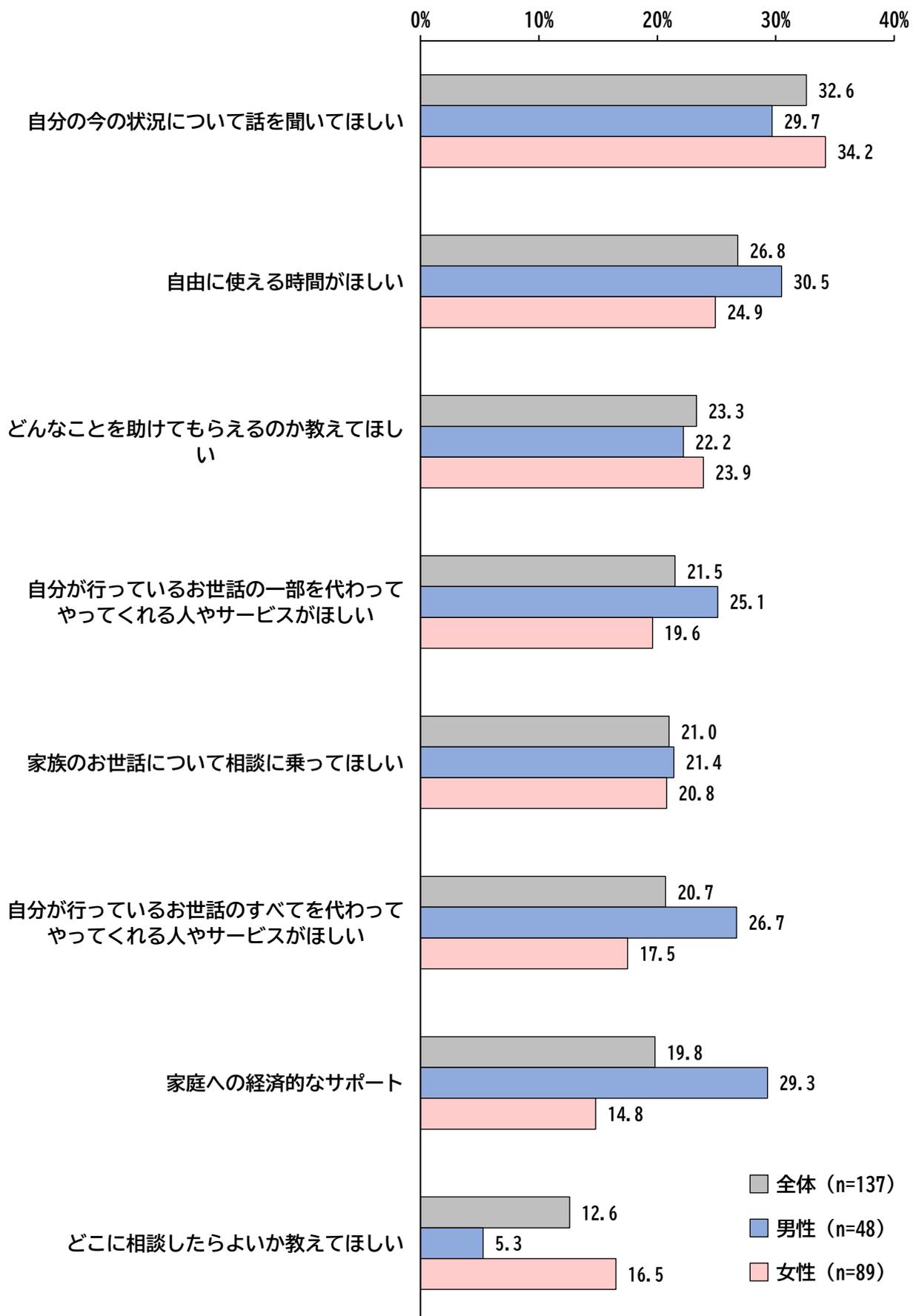
性別

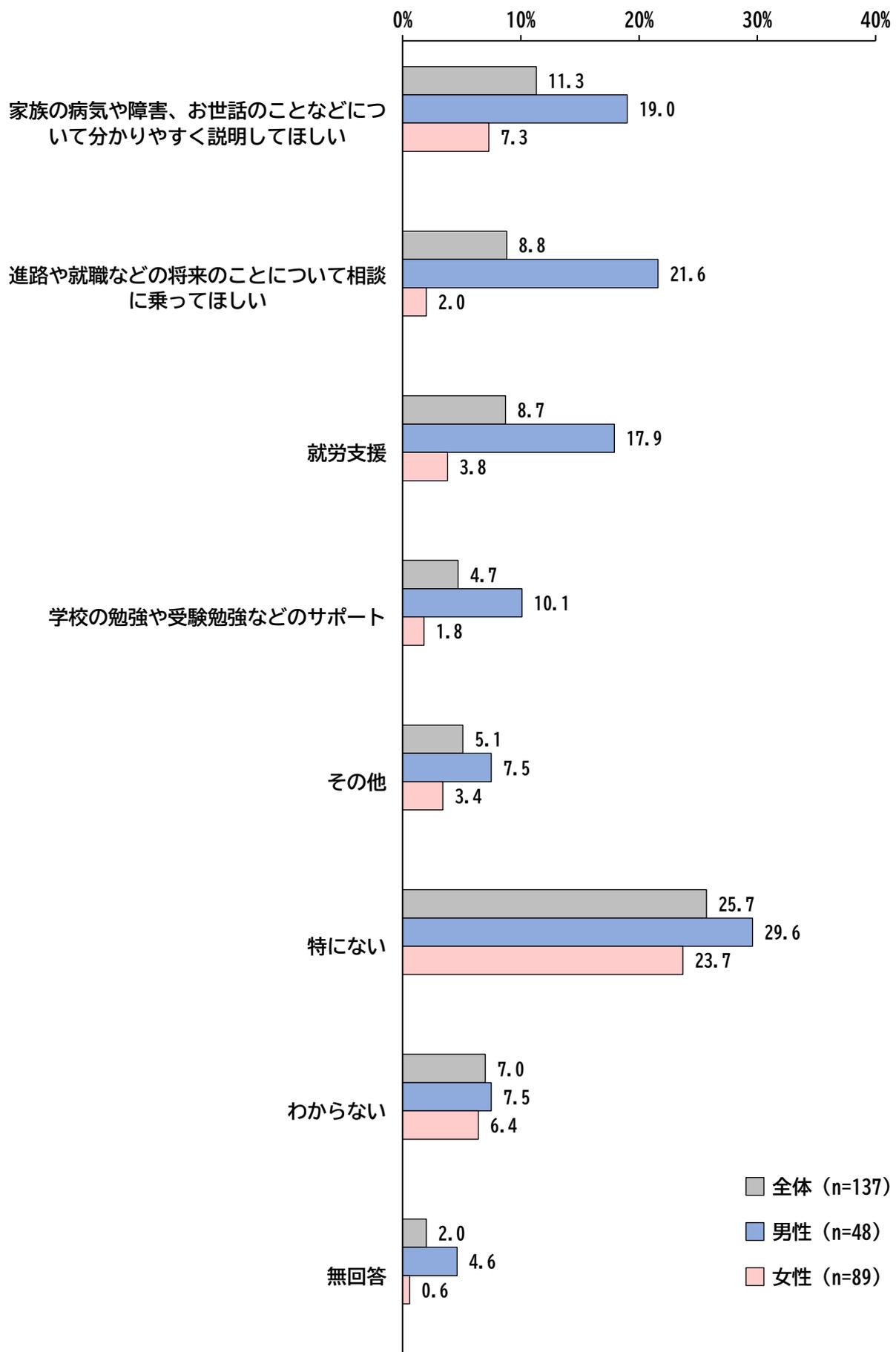
男女で特に差が見られたのは「家庭への経済的なサポート」、「家族の病気や障害、お世話のことなどについて分かりやすく説明してほしい」、「進路や就職などの将来のことについて相談に乗ってほしい」、「就労支援」で、男性の方が女性より10ポイント以上高くなっています。一方で、「どこに相談したらよいか教えてほしい」は女性の方が男性より10ポイント以上高くなっています。

年齢別

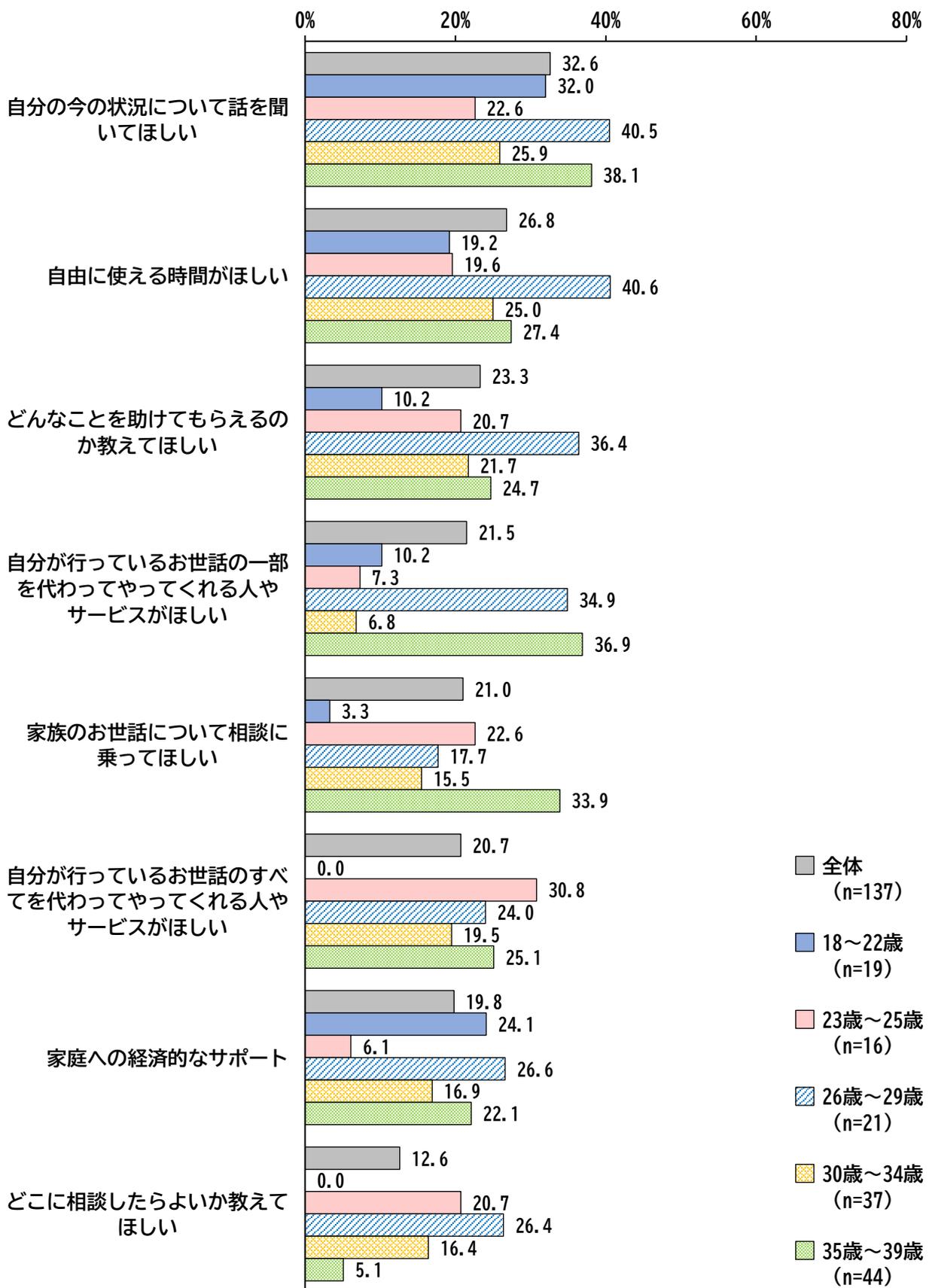
18～22歳は「特にない」が62.4%、23～25歳は「特にない」が40.5%、26～29歳は「自由に使える時間がほしい」が40.6%、30～34歳は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が25.9%、35～39歳は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が38.1%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22歳は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」32.0%、23～25歳は「自分が行っているお世話のすべてを代わってやってくれる人やサービスがほしい」30.8%、26～29歳は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が40.5%、30～34歳は「自由に使える時間がほしい」が25.0%、35～39歳は「自分が行っているお世話の一部を代わってやってくれる人やサービスがほしい」が36.9%となっています。

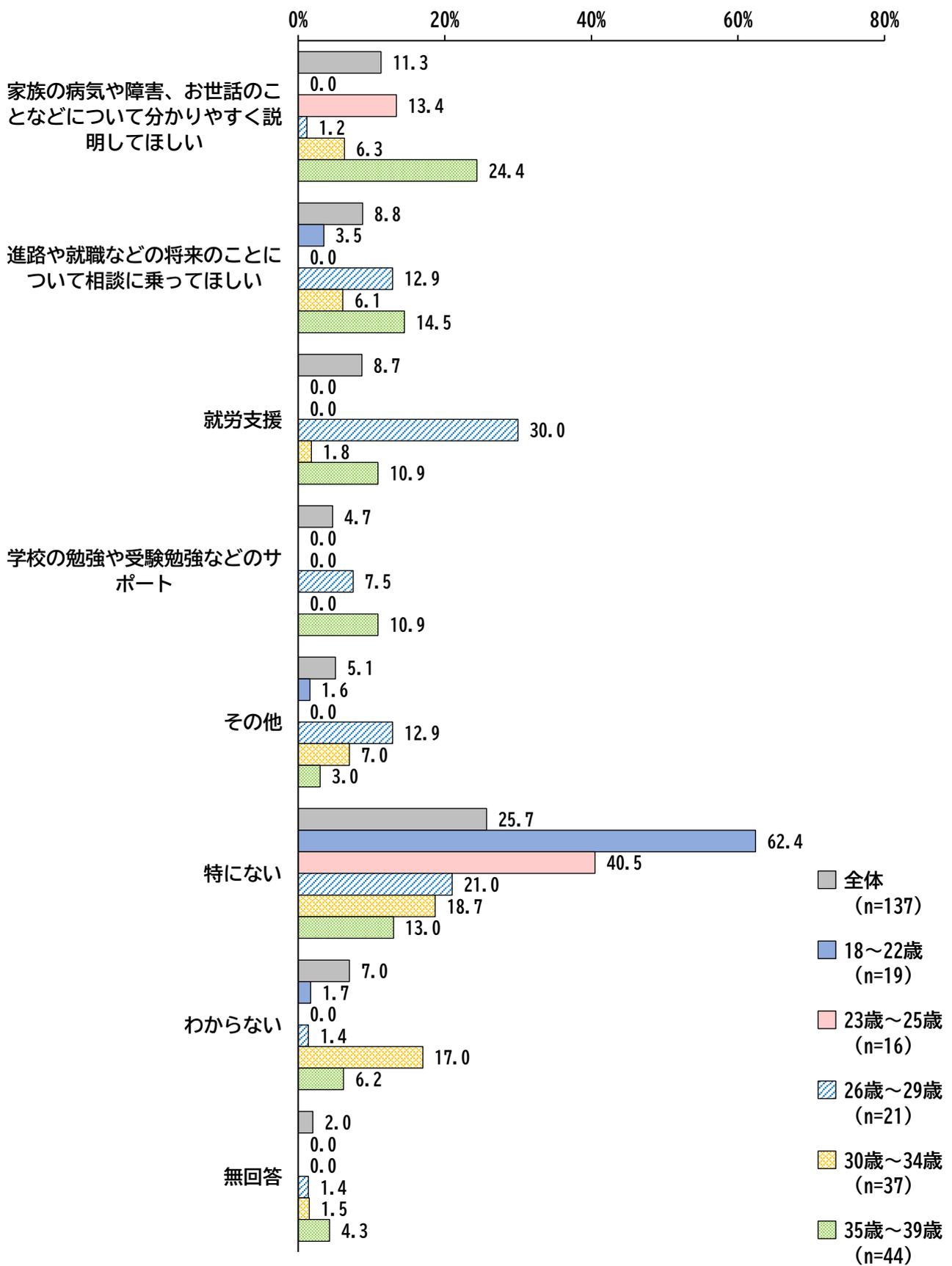
【性別】



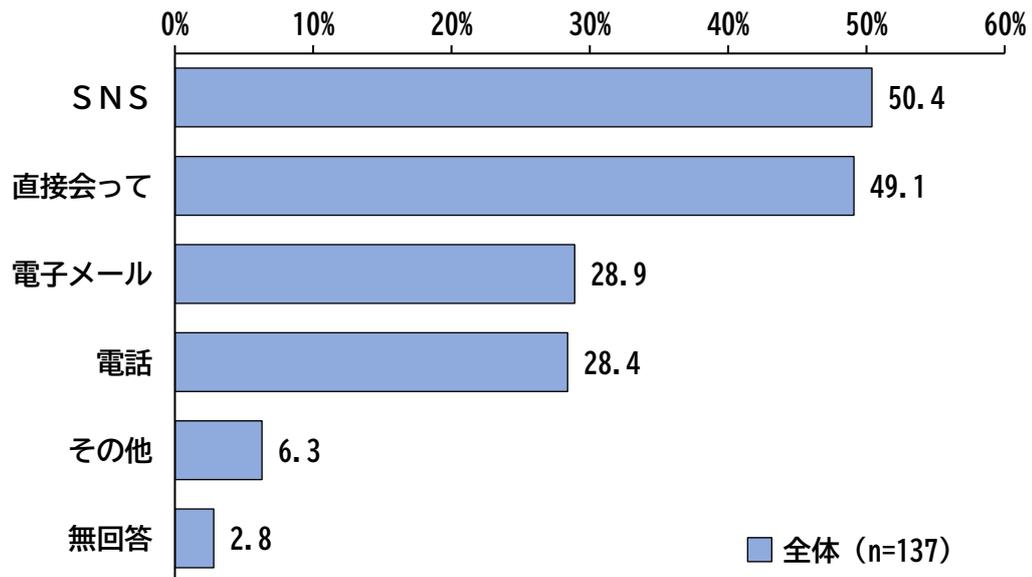


【年齢別】





問26. 誰かに相談する場合、どのような方法で話を聞いてもらったり、相談にのったりしてほしいですか、またはしてほしかったですか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

相談方法等については、「SNS」が 50.4%で最も高く、次いで「直接会って」が 49.1%、「電子メール」が 28.9%となっています。

【属性別結果】

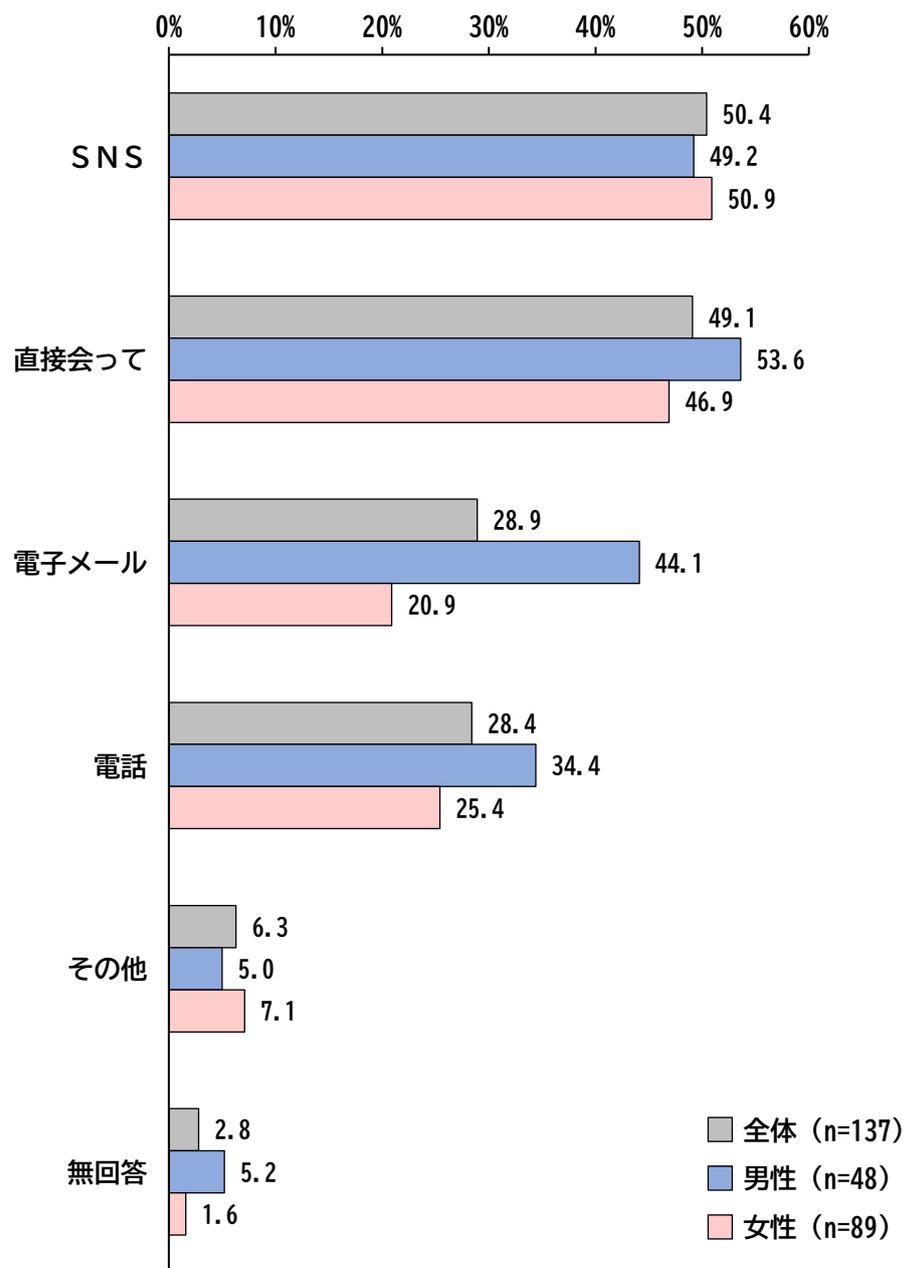
性別

男女で特に差が見られたのは「電子メール」で、男性の方が女性より 20 ポイント以上高くなっています。また、「電話」と「直接会って」も男性の方が女性より高くなっています。

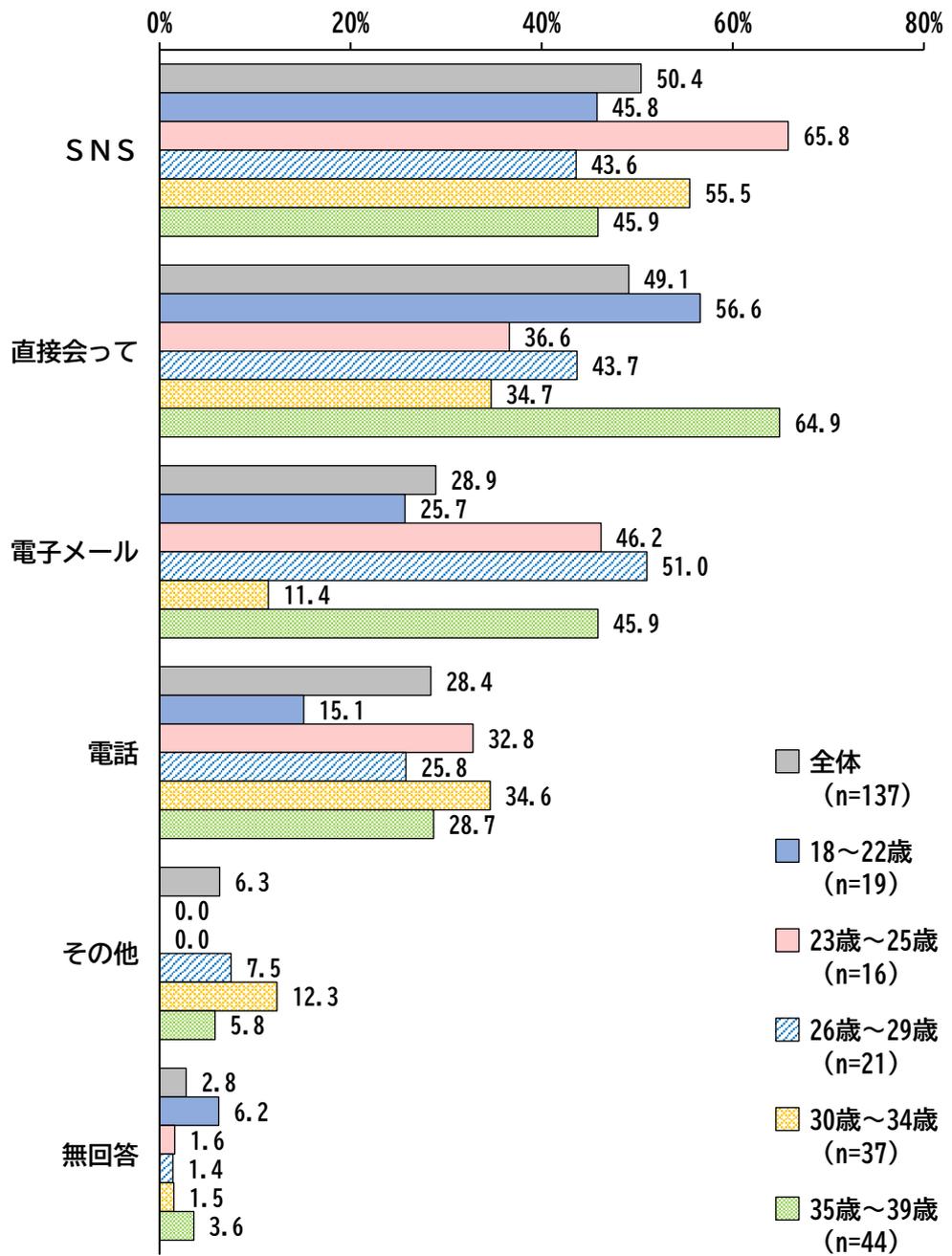
年齢別

18～22 歳は「直接会って」が 56.6%、23～25 歳は「SNS」が 65.8%、26～29 歳は「電子メール」が 51.0%、30～34 歳は「SNS」が 55.5%、35～39 歳は「直接会って」が 64.9%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22 歳は「SNS」45.8%、23～25 歳は「電子メール」46.2%、26～29 歳は「直接会って」が 43.7%、30～34 歳は「直接会って」が 34.7%、35～39 歳は「SNS」が 45.9%となっています。

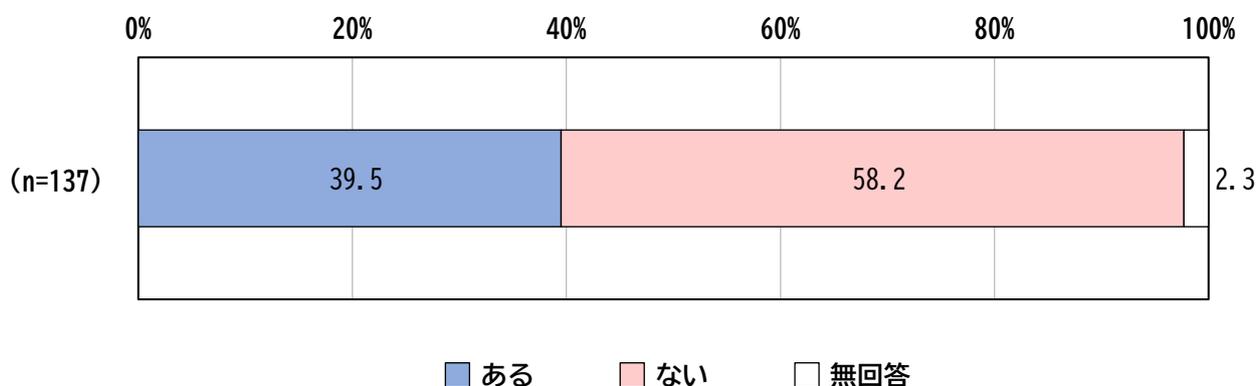
【性別】



【年齢別】



問 27. お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。
(あてはまるもの1つに○)



【全体結果】

お世話に関する悩み相談の有無については、「ある」が 39.5%、「ない」が 58.2%となっています。

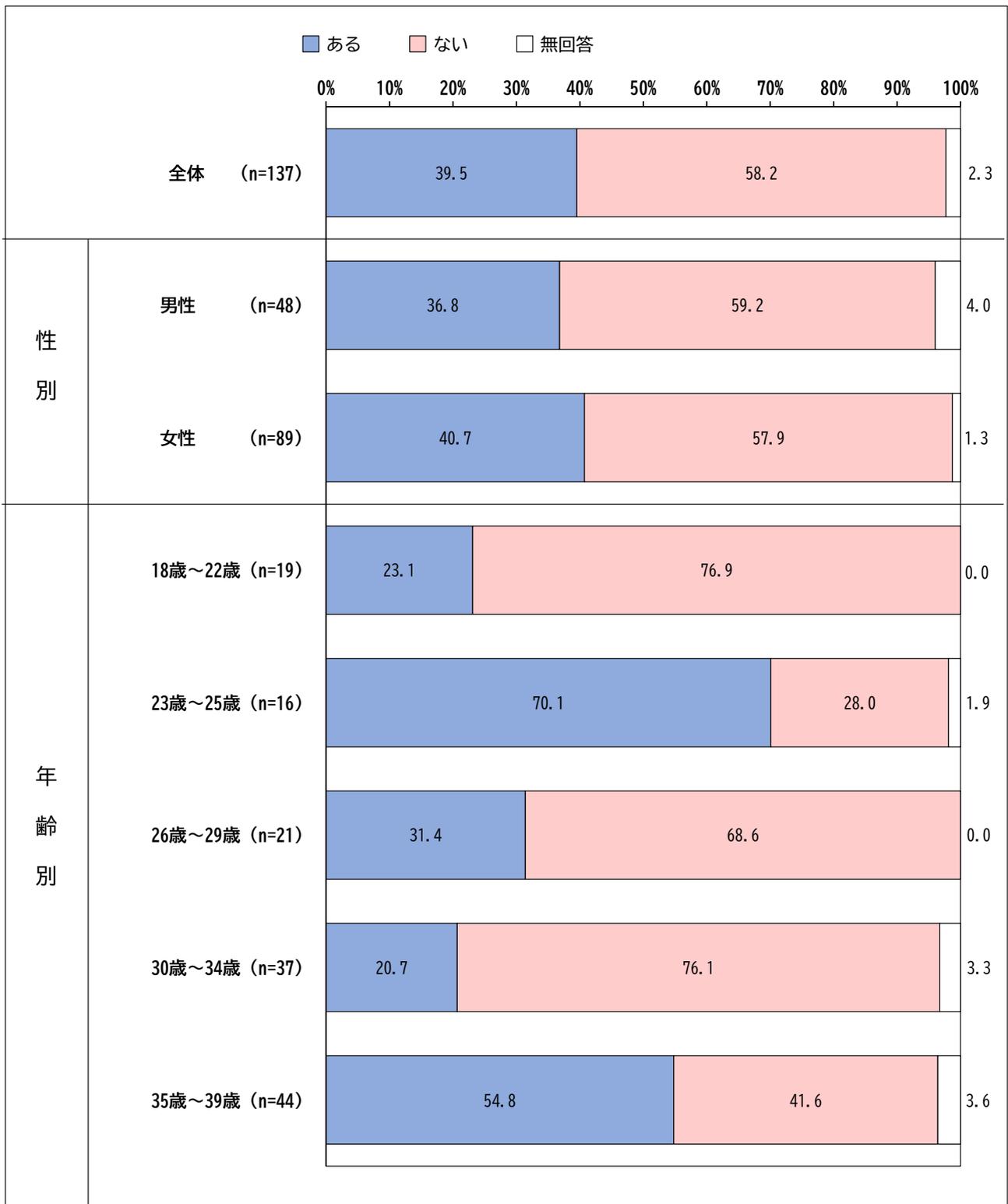
【属性別結果】

性別

男性は「ある」36.8%、女性は「ある」40.7%と、女性の方が高くなっています。

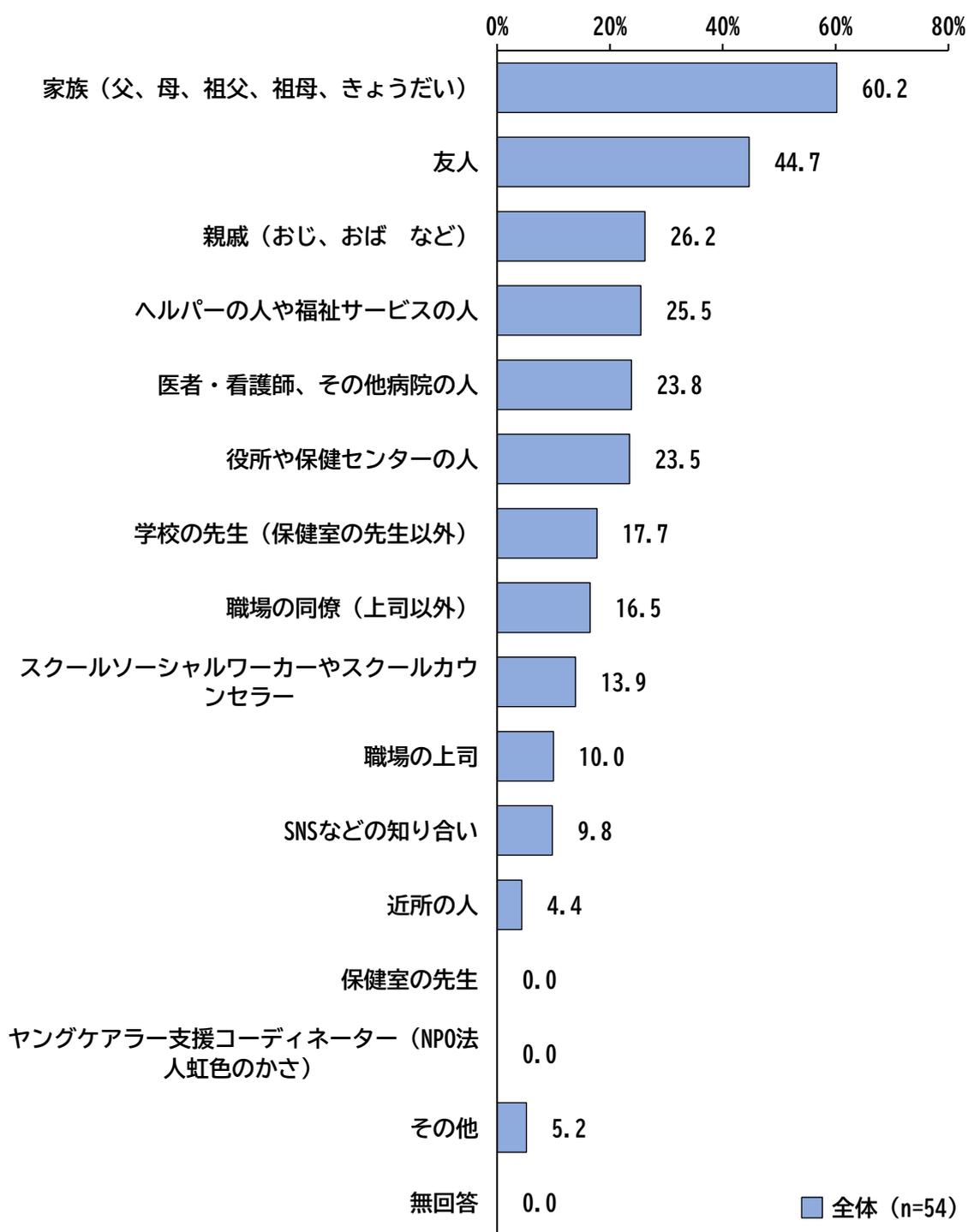
年齢別

23～25 歳と 35～39 歳は「ある」の割合が他の年代と比較して高く、23～25 歳は 70.1%、35～39 歳 54.8%となっています。



※【問 28～問 30 までは、問 27 で「ある」と回答した人にお聞きします。】

問 28. 誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

相談相手については、「家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が 60.2%で最も高く、次いで「友人」が 44.7%、「親戚 (おじ、おばなど)」が 26.2%となっています。

【属性別結果】

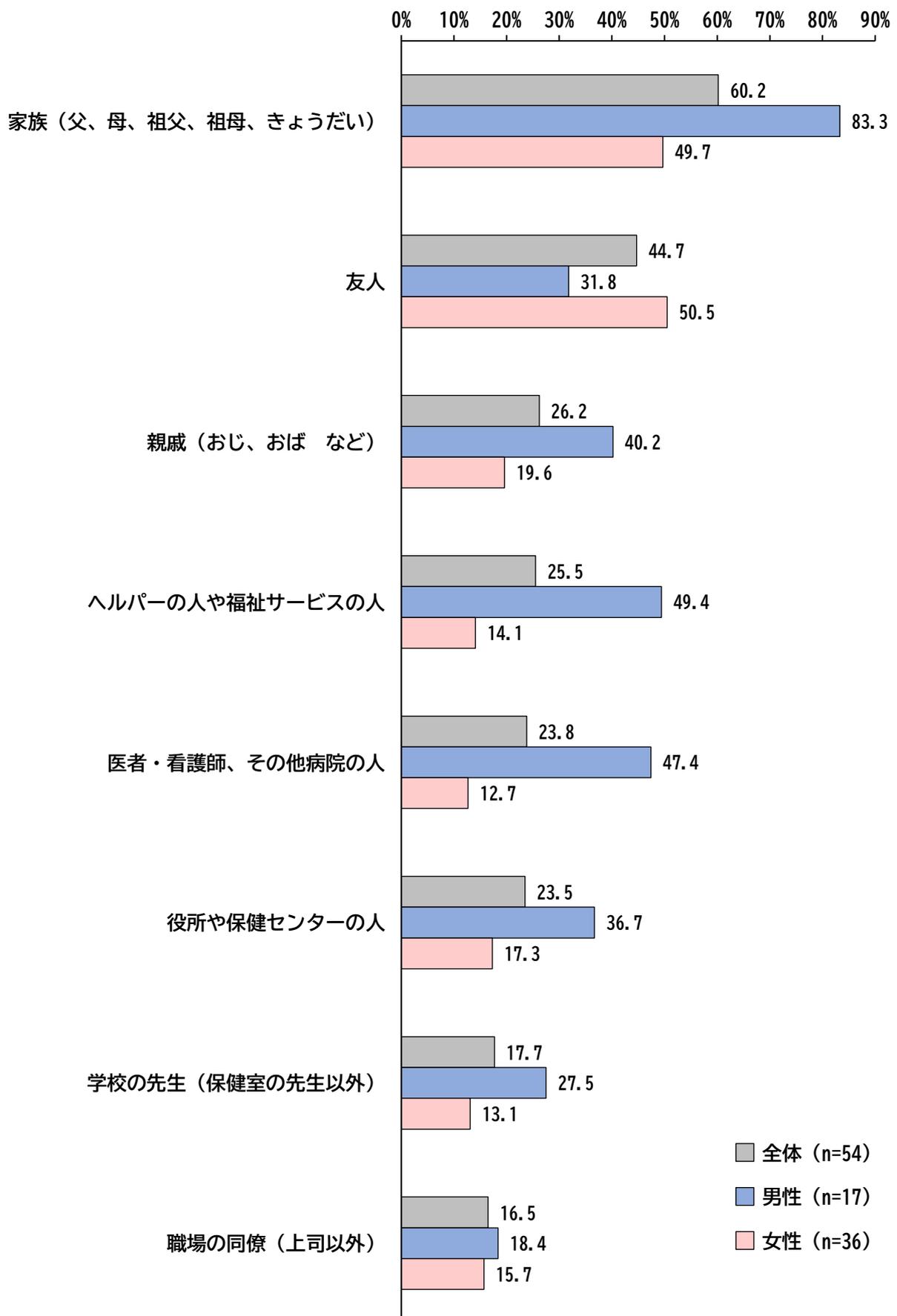
性別

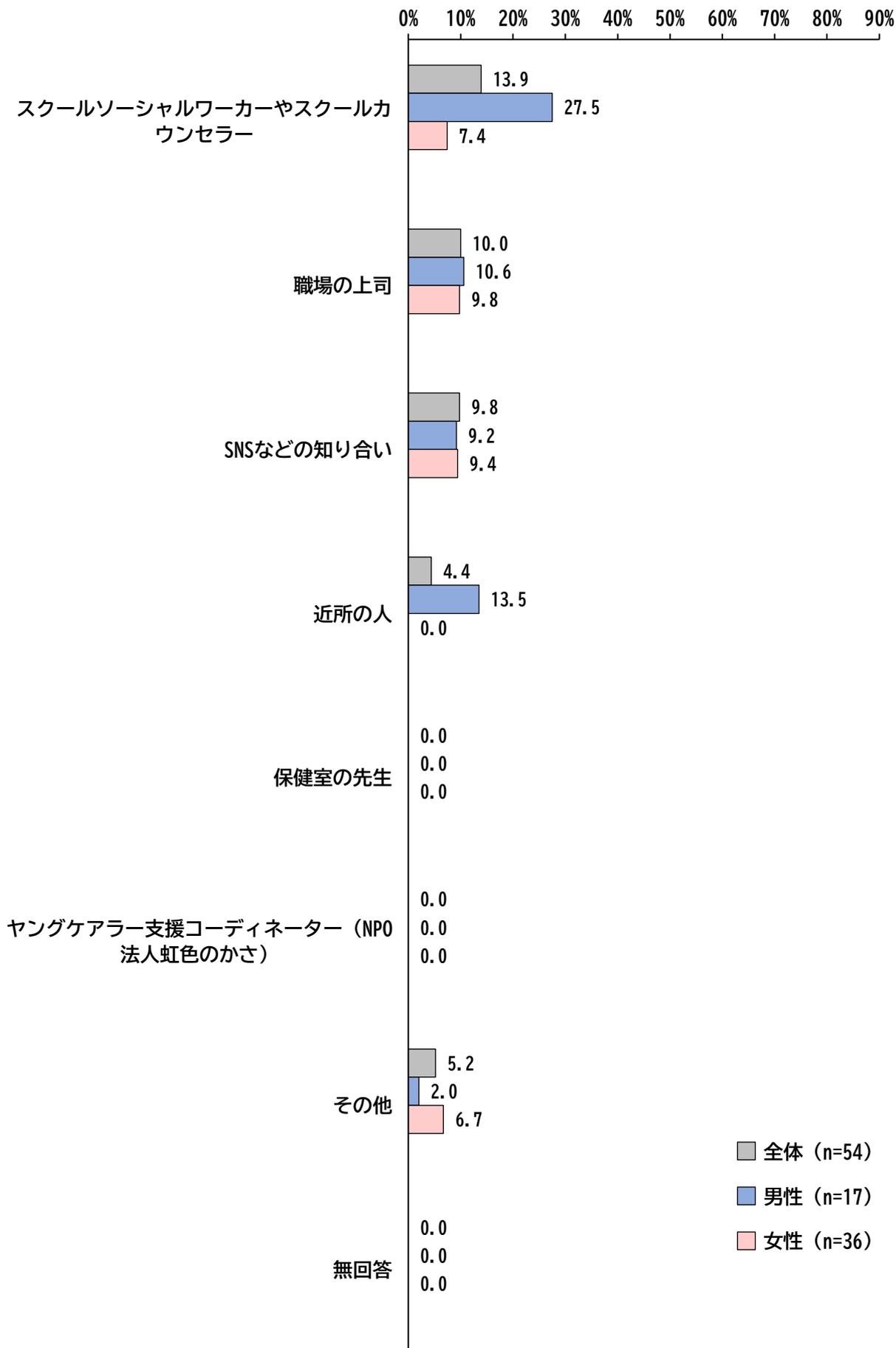
男性は「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が 83.3%で特に高く、次いで「ヘルパーの人や福祉サービスの人」49.4%、「医者・看護師、その他病院の人」47.4%となっています。女性は「友人」が50.5%と最も高く、次いで「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が49.7%となっています。また、ほとんどの項目で男性の方が女性より高くなっています。

年齢別

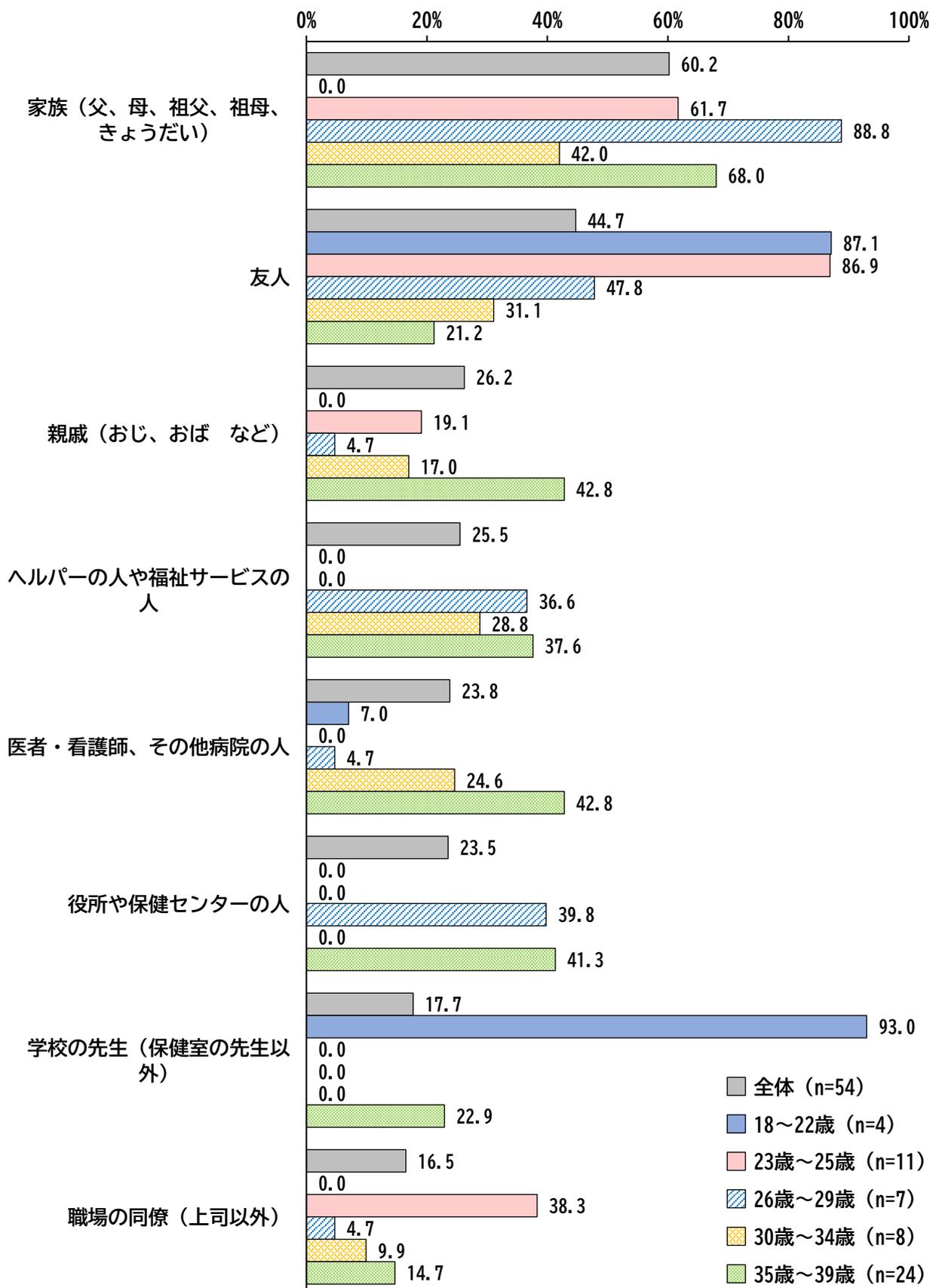
18～22 歳は「学校の先生（保健室の先生以外）」が 93.0%、23～25 歳は「友人」が 86.9%、26～29 歳は「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が88.8%、30～34歳は「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が 42.0%、35～39 歳は「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が 68.0%と、それぞれ最も高くなっています。次いで、18～22 歳は「友人」87.1%、23～25 歳は「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」61.7%、26～29 歳は「友人」が 47.8%、30～34 歳は「友人」が 31.1%、35～39 歳は「親戚（おじ、おばなど）」及び「医者・看護師、その他病院の人」が42.8%となっています。

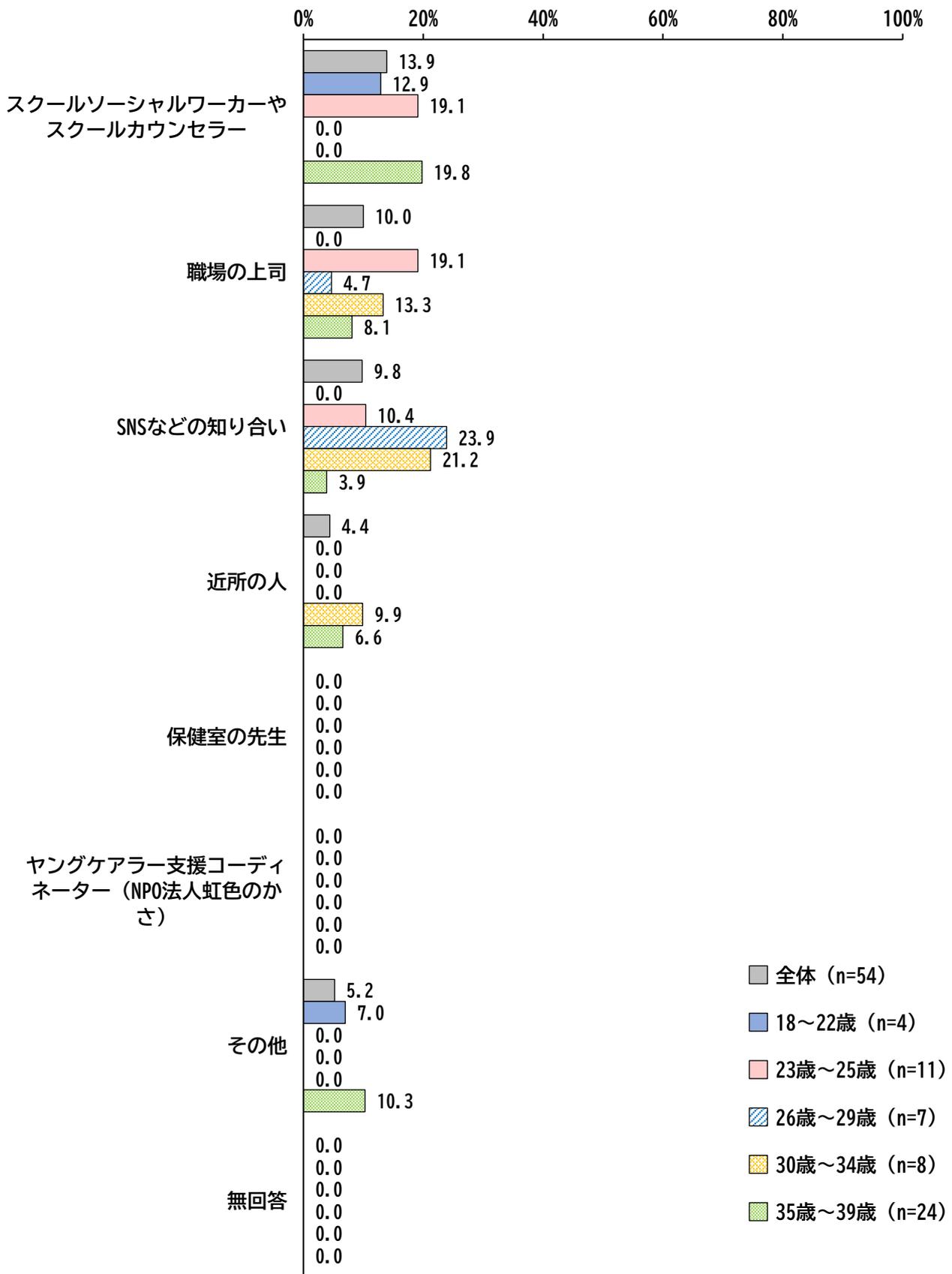
【性別】



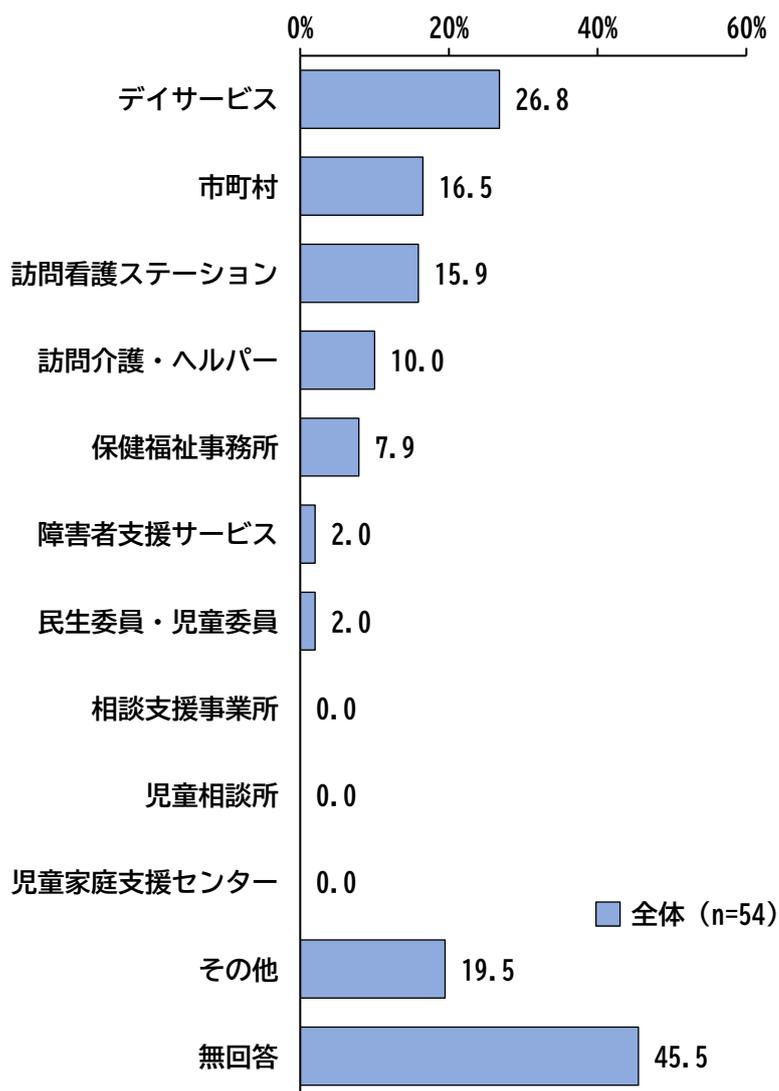


【年齢別】





問 29. 相談したことでどこかの支援先につながりましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

相談によりつながった支援先については、「デイサービス」が 26.8%で最も高く、次いで「市町村」が 16.5%、「訪問看護ステーション」が 15.9%となっています。また、「その他」が 19.5%となっています。

【属性別結果】

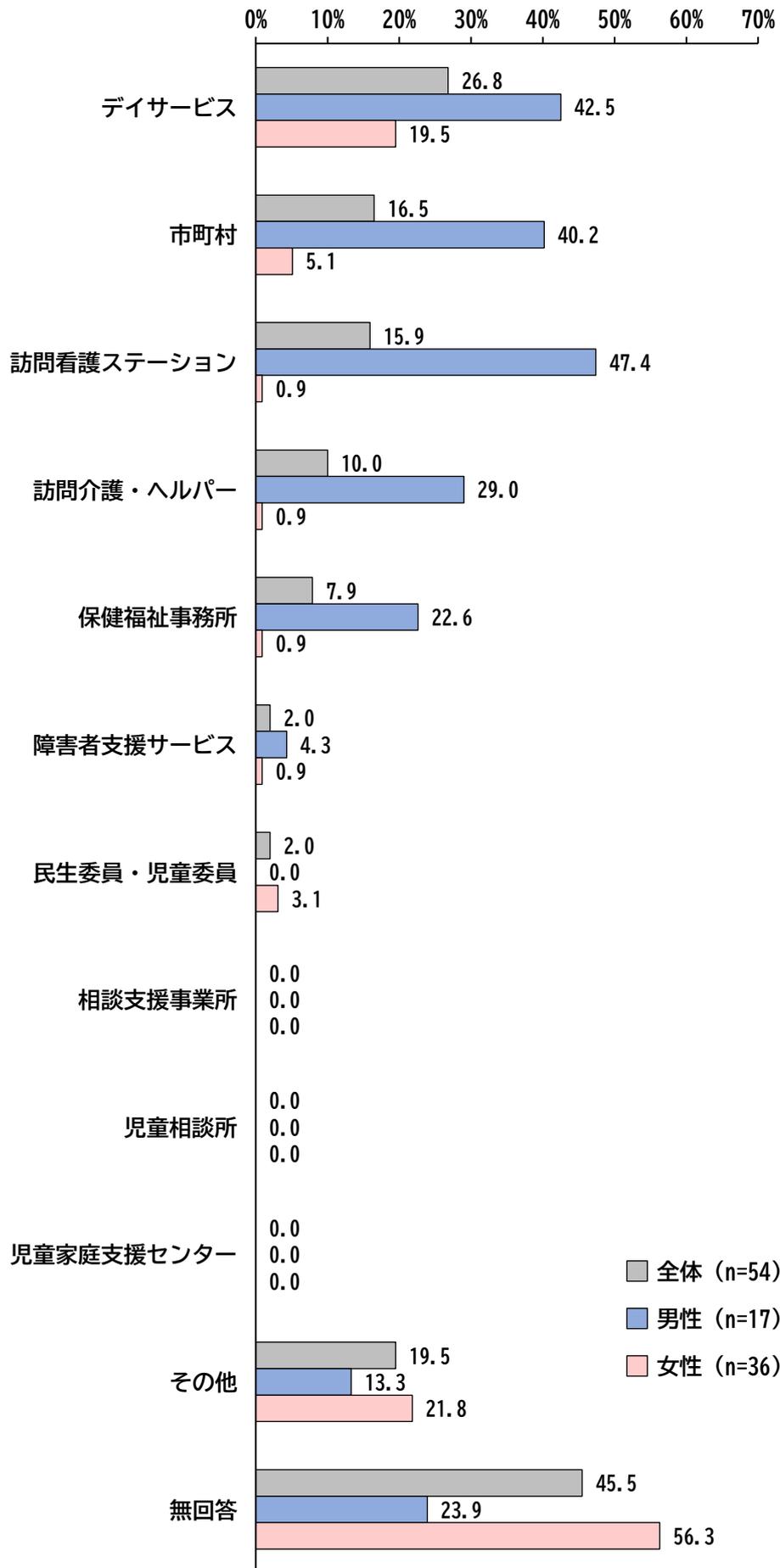
性別

男性は「訪問看護ステーション」47.4%が最も高く、次いで「デイサービス」42.5%となっていますが、女性は「デイサービス」19.5%が最も高く、次いで「市町村」が 5.1%と、ほとんどの項目で男性の方が女性より高くなっています。

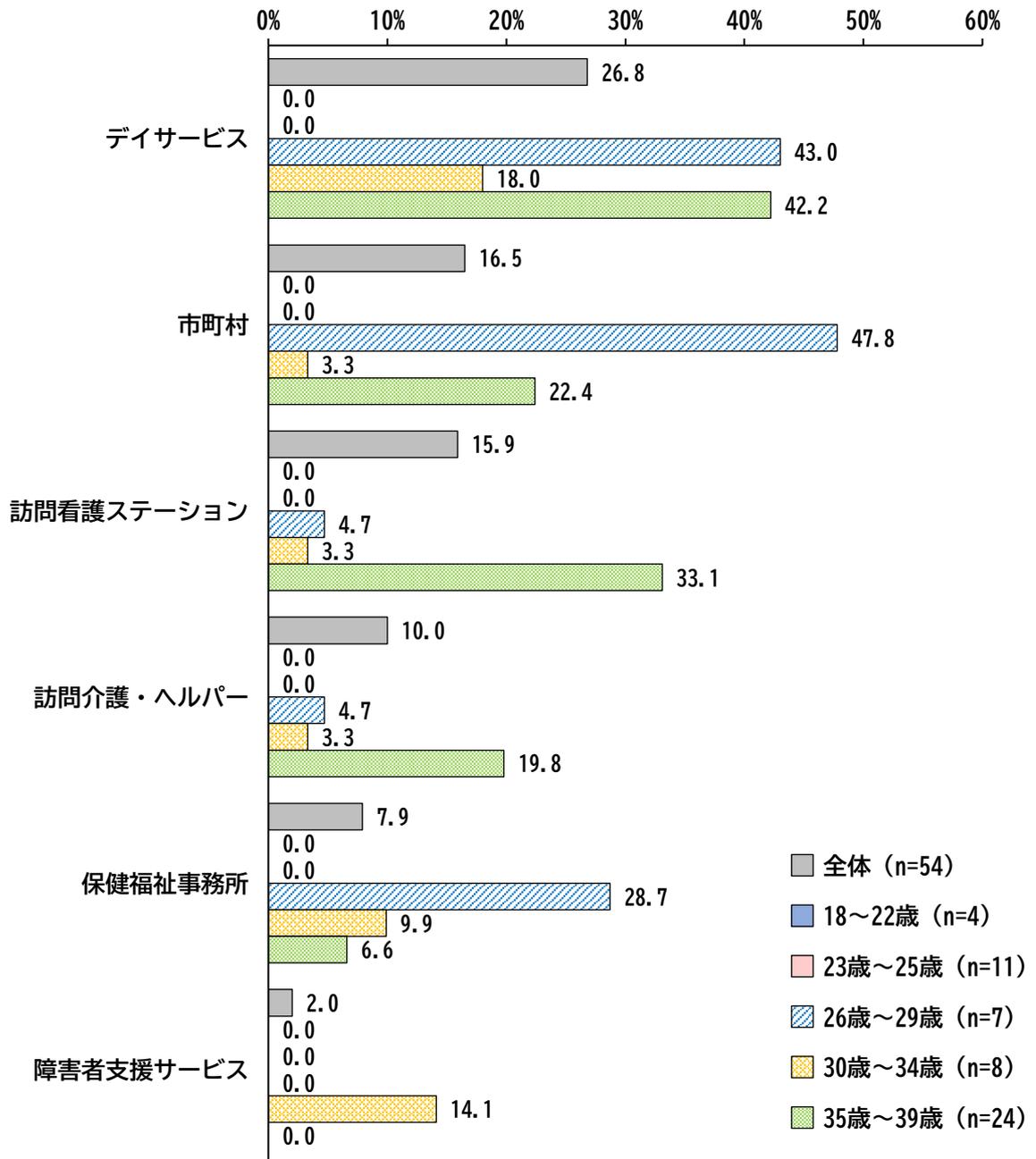
年齢別

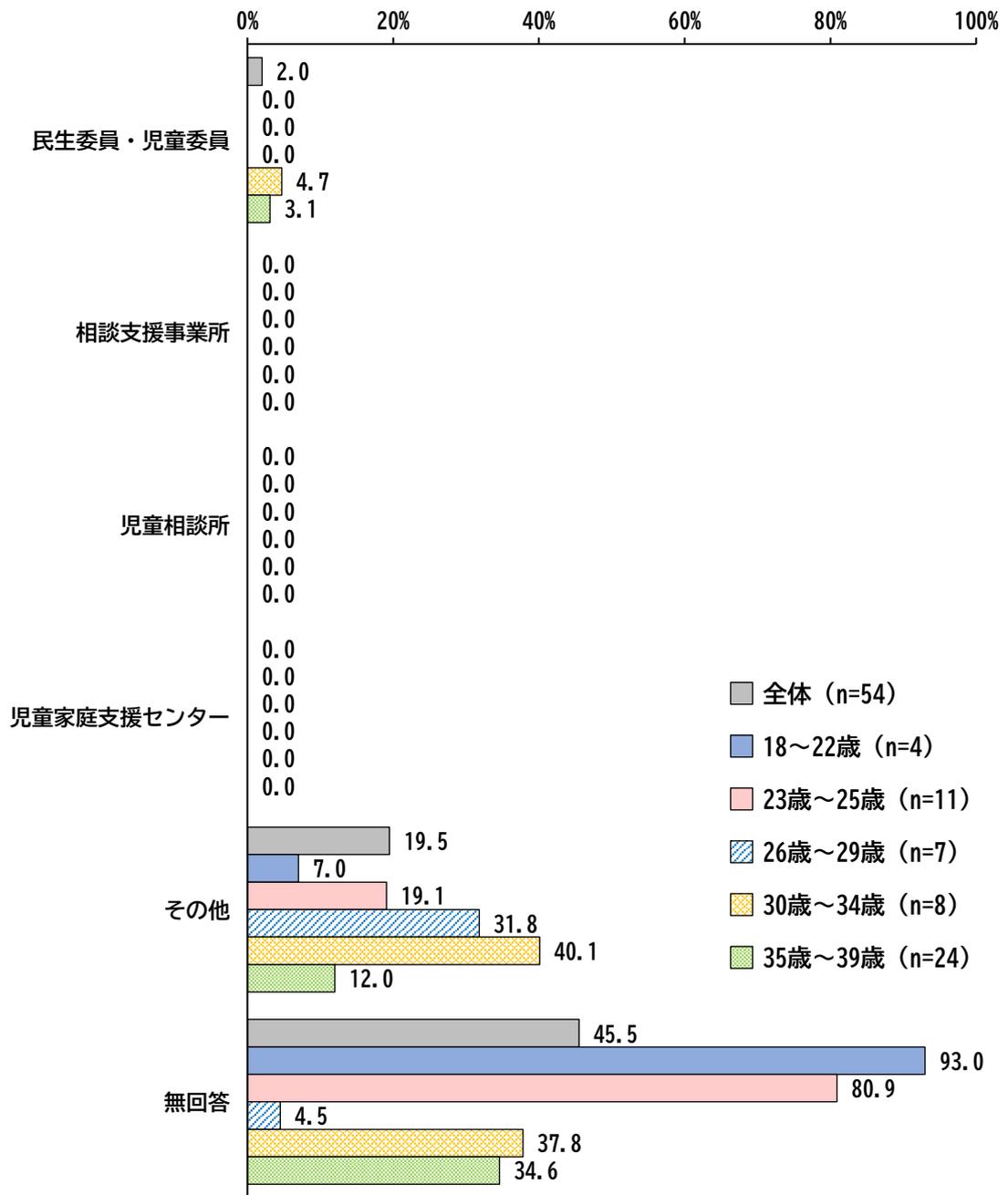
年代別にみると、18～25 歳では「その他」や「無回答」の割合が比較的高く、支援先が特定の機関に集中していない傾向がみられます。一方、26～29 歳では「デイサービス」43.0%、「市町村」47.8%、35～39 歳では「デイサービス」(42.2%)、「訪問看護ステーション」(33.1%)、「市町村」(22.4%)となっており、具体的な支援機関につながっているケースが多い状況がうかがえます。

【性別】

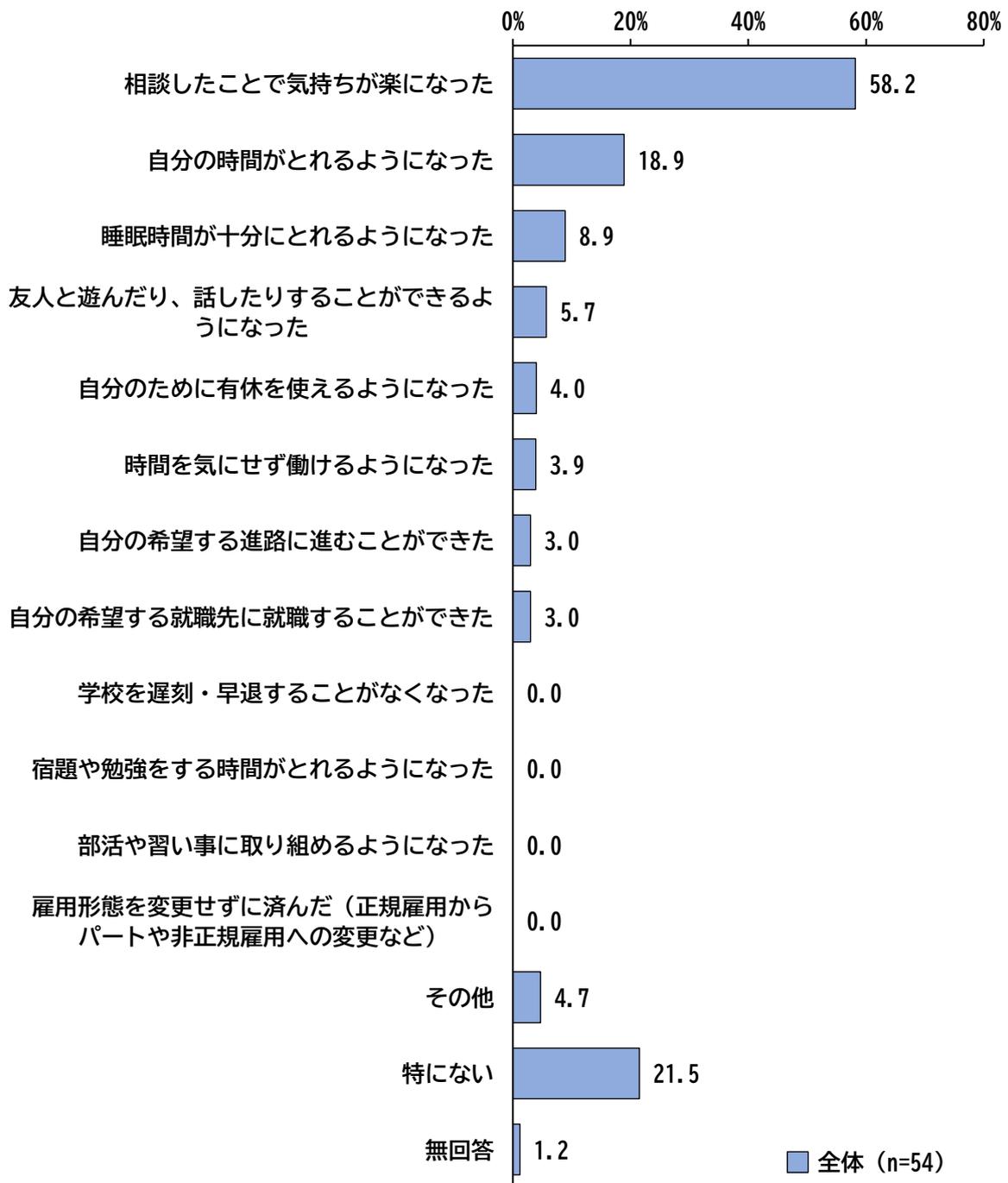


【年齢別】





問 30. 相談してからお世話をする状況に変化はありましたか。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

相談後の状況の変化については、「相談したことで気持ちが楽になった」が 58.2%で最も高く、次いで「自分の時間がとれるようになった」が 18.9%、「睡眠時間が十分にとれるようになった」が 8.9%となっています。また、「特にない」が 21.5%となっています。

【属性別結果】

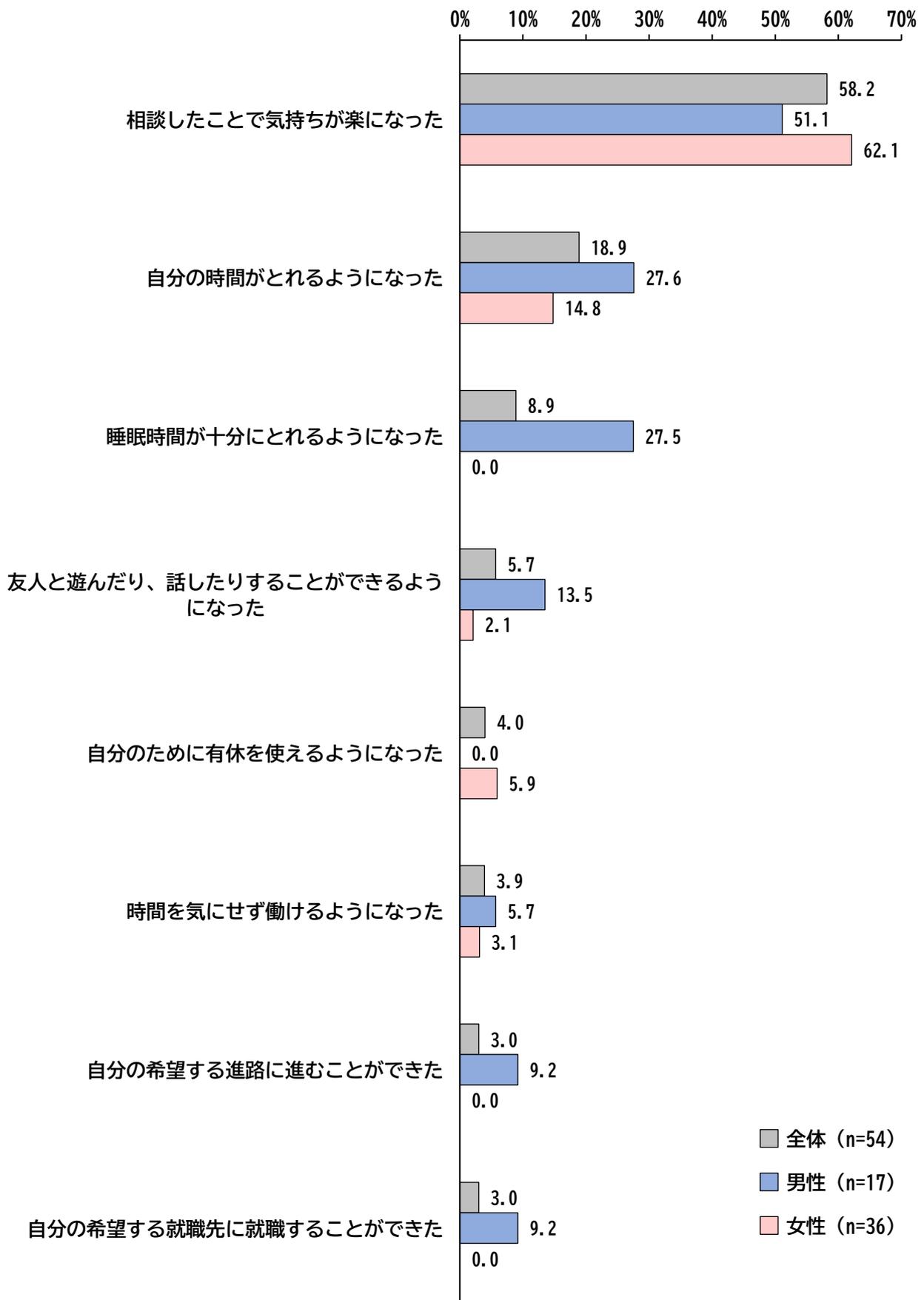
性別

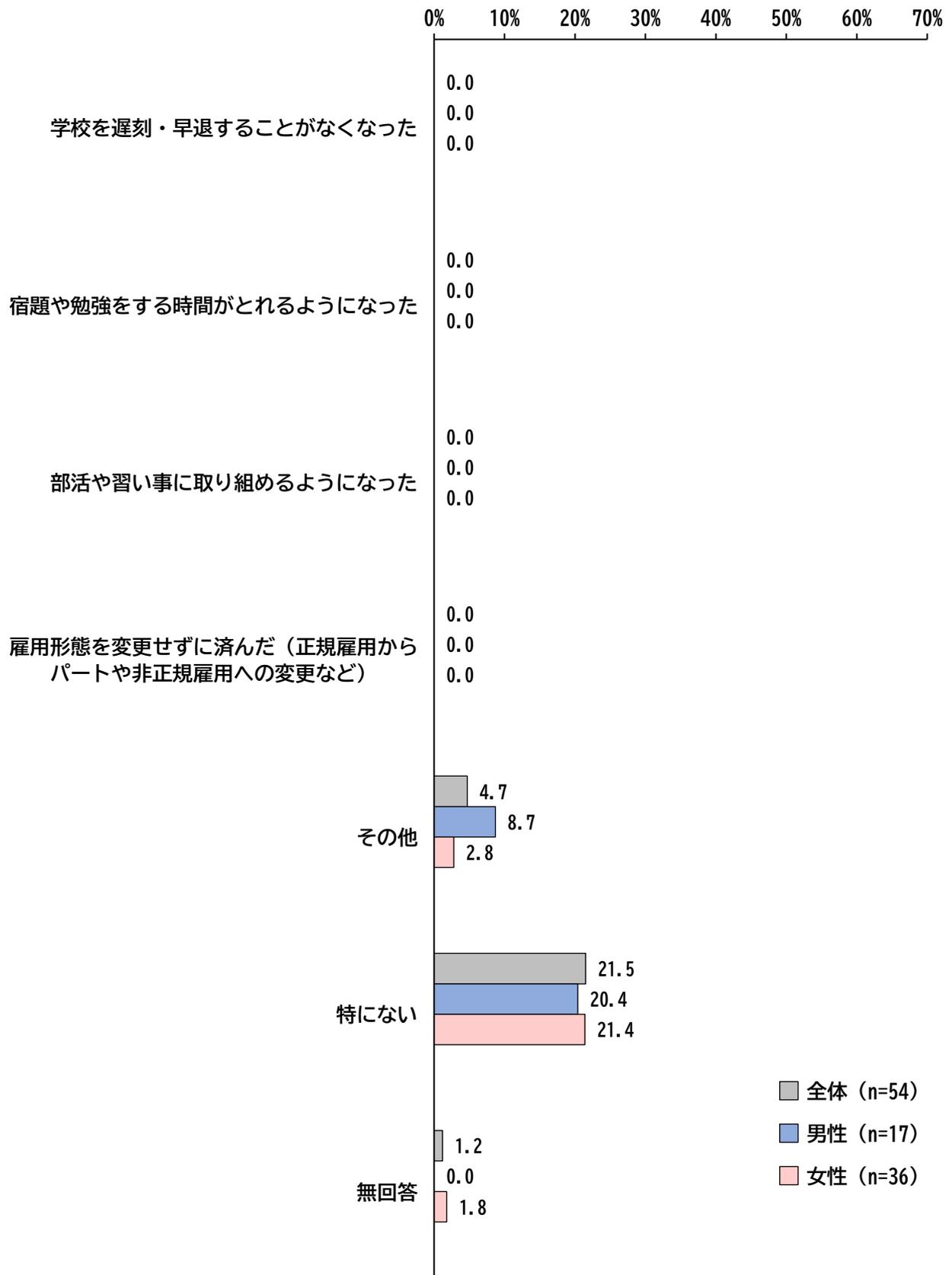
「相談したことで気持ちが楽になった」が、男女ともに5割超であった一方、「自分の時間がとれるようになった」は男性27.6%に対し、女性14.8%と男性の方が高くなっています。また、「睡眠時間が十分にとれるようになった」「友人と遊んだり、話したりすることができるようになった」「自分の希望する進路・就職先を実現できた」など、相談後の状況変化は男性に多い傾向が見られます。

年齢別

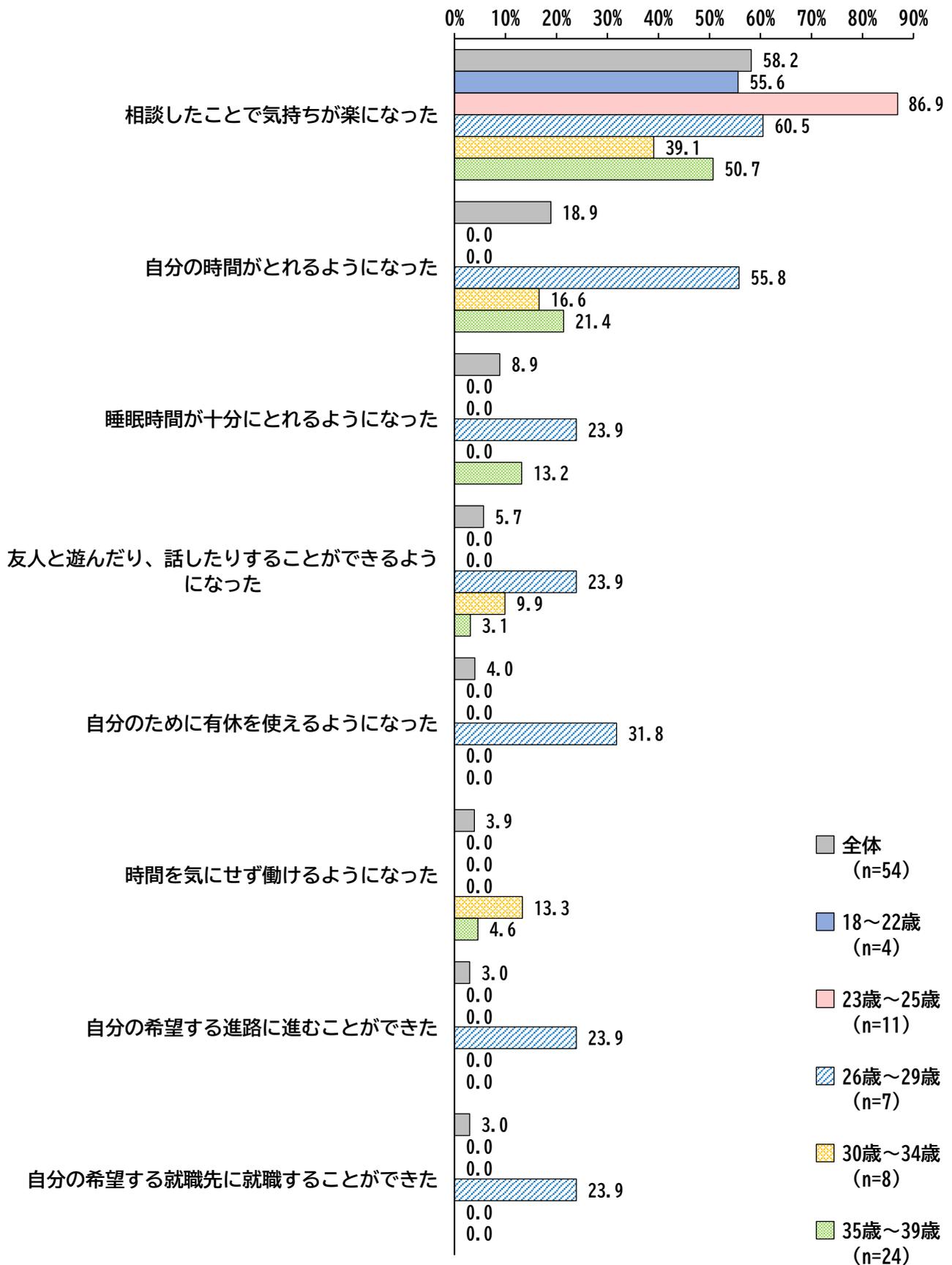
全年代で「気持ちが楽になった」が最も高く、特に23～25歳では8割超となっています。一方で、26～29歳では「自分の時間がとれるようになった」「睡眠時間が十分にとれるようになった」「自分のために有休を使えるようになった」「希望する進路・就職先を実現できた」など生活全般にわたる変化が多く、相談支援がライフイベント期の働き方やキャリア選択にも影響していると考えられます。

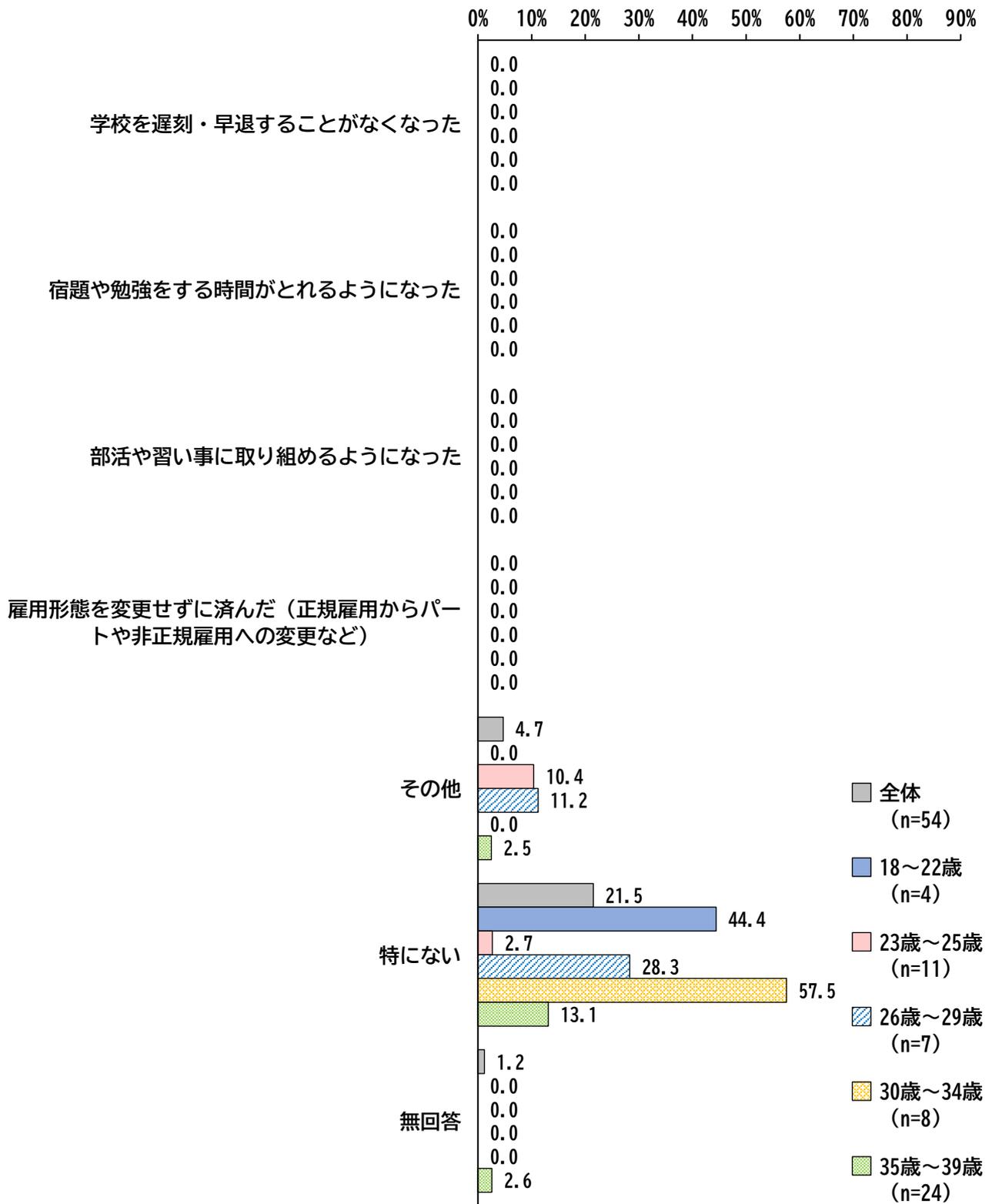
【性別】





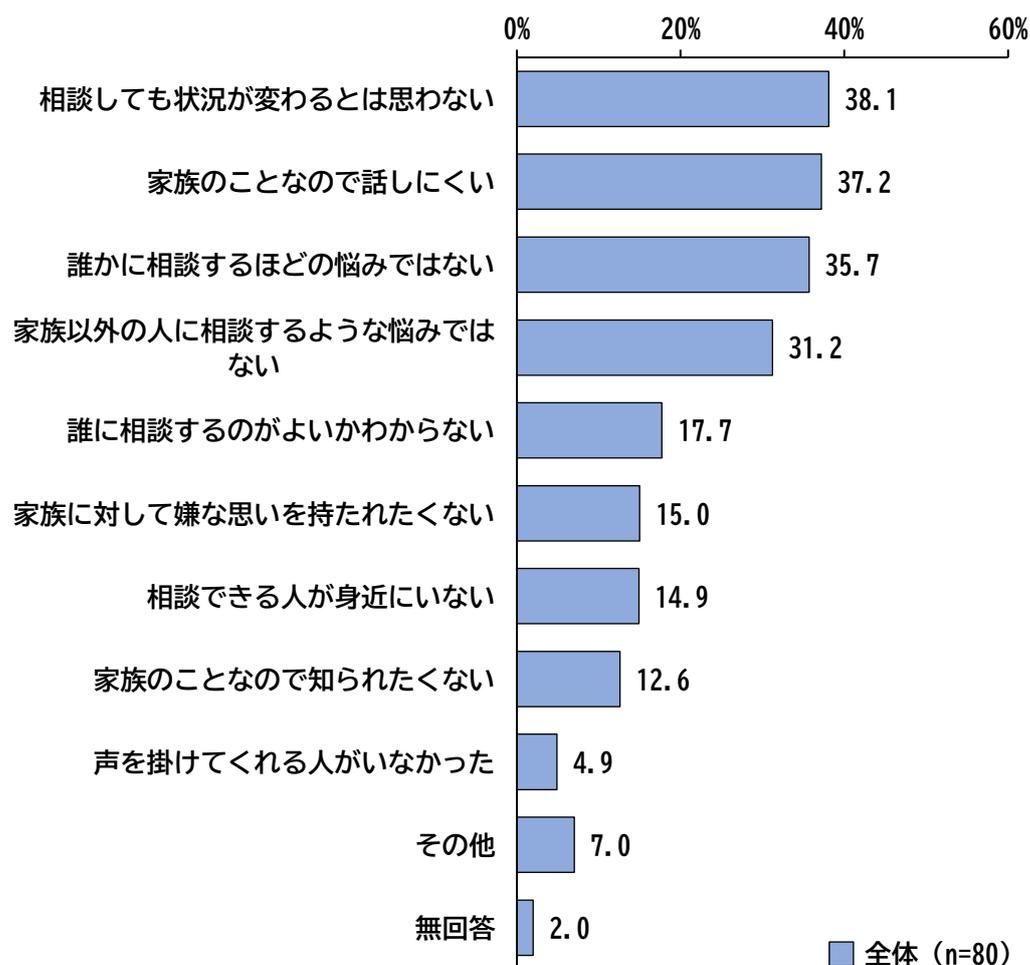
【年齢別】





※【問 31～問 32 は、問 27 で「ない」と回答した人にお聞きします。】

問 31. 相談していない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)



【全体結果】

相談していない理由については、「相談しても状況が変わるとは思わない」が 38.1%で最も高く、次いで「家族のことなので話しにくい」が 37.2%、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 35.7%となっています。

【属性別結果】

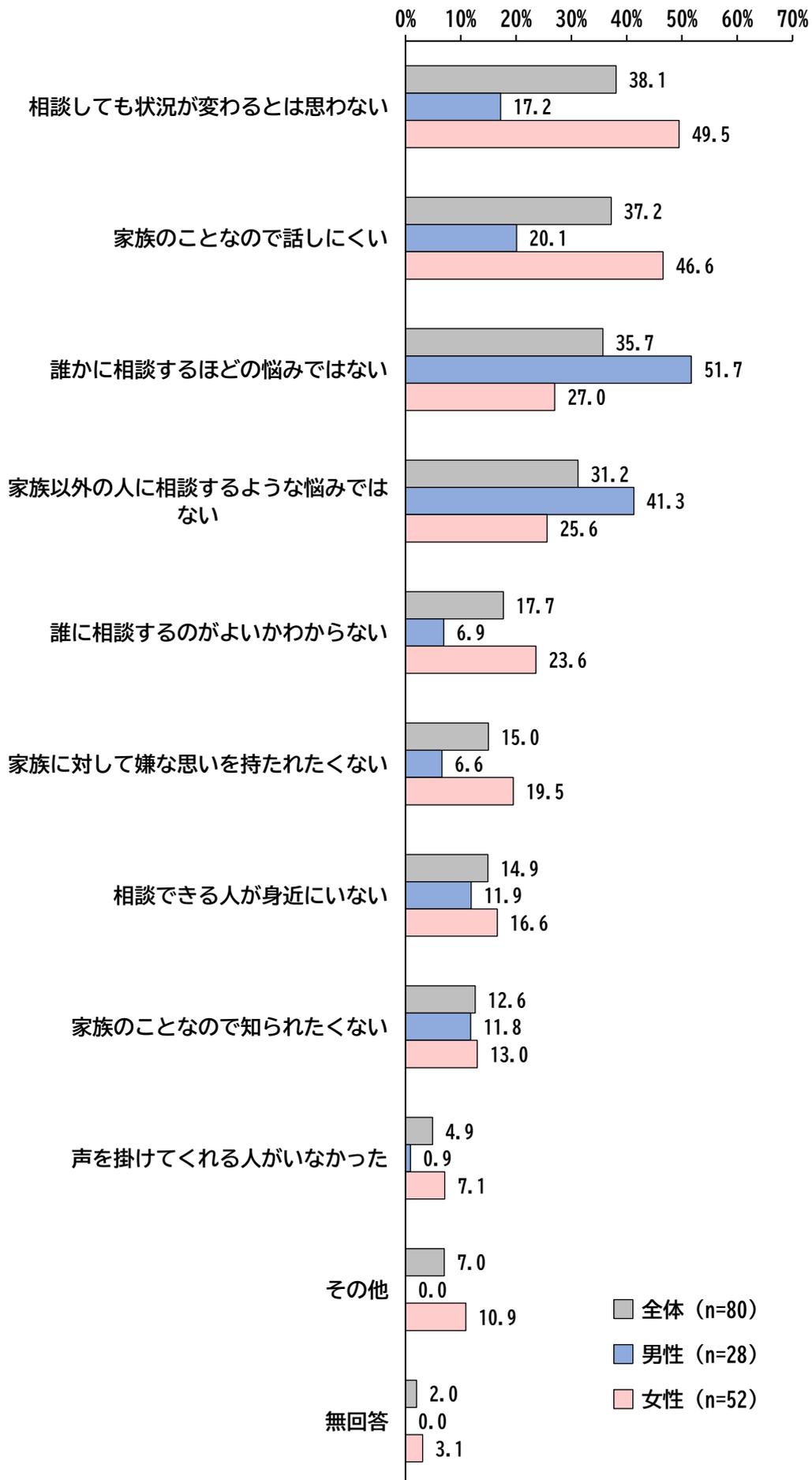
性別

男性は「誰かに相談するほどの悩みではない」51.7%、「家族以外の人に相談するような悩みではない」41.3%と高く、悩みの深刻度認識が相談抑制に影響していると考えられます。一方、女性は「相談しても状況が変わるとは思わない」49.5%、「家族のことなので話しにくい」46.6%と、相談による効果の疑念や家族への遠慮・葛藤が相談の壁となっていると考えられます。

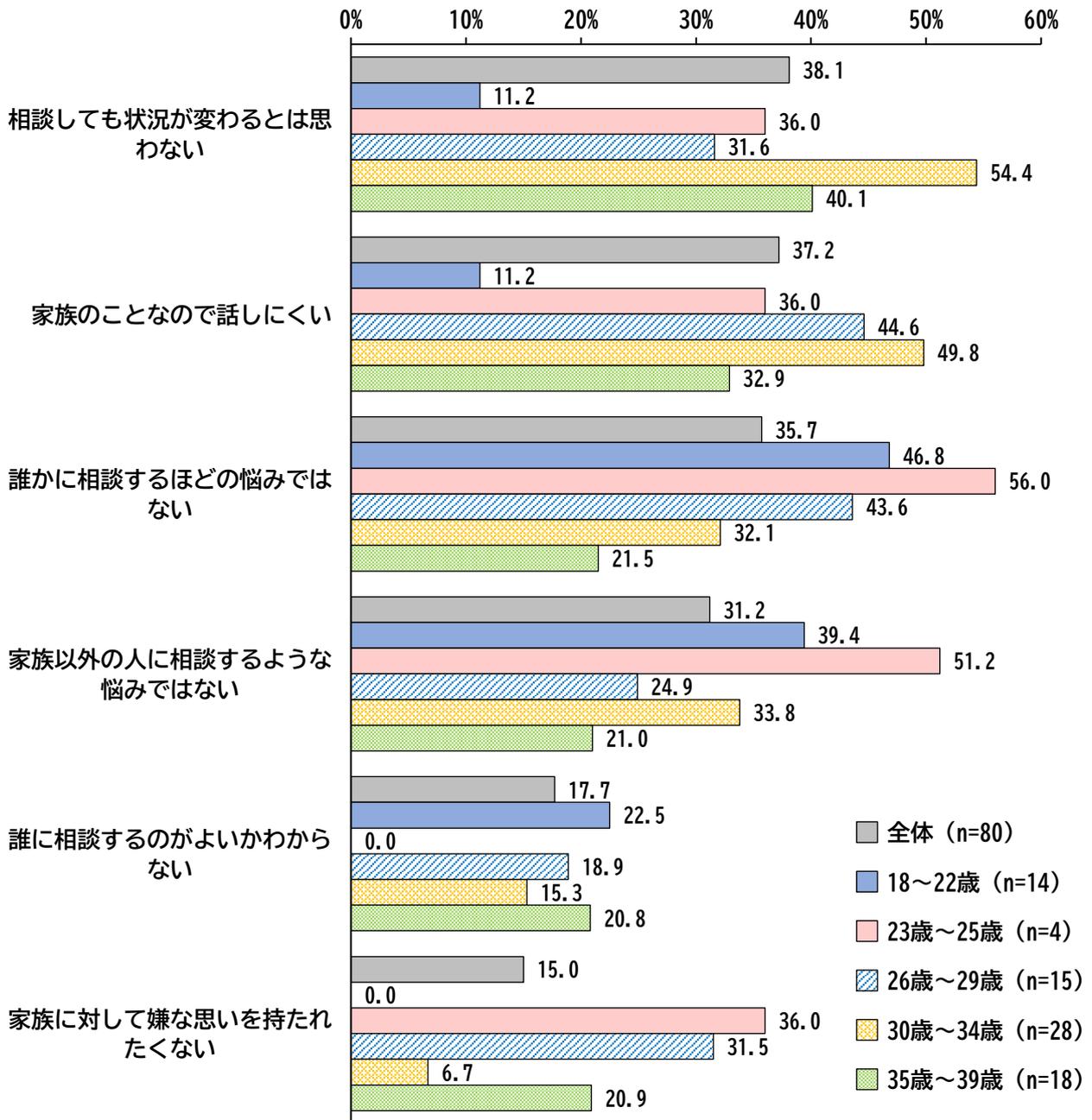
年齢別

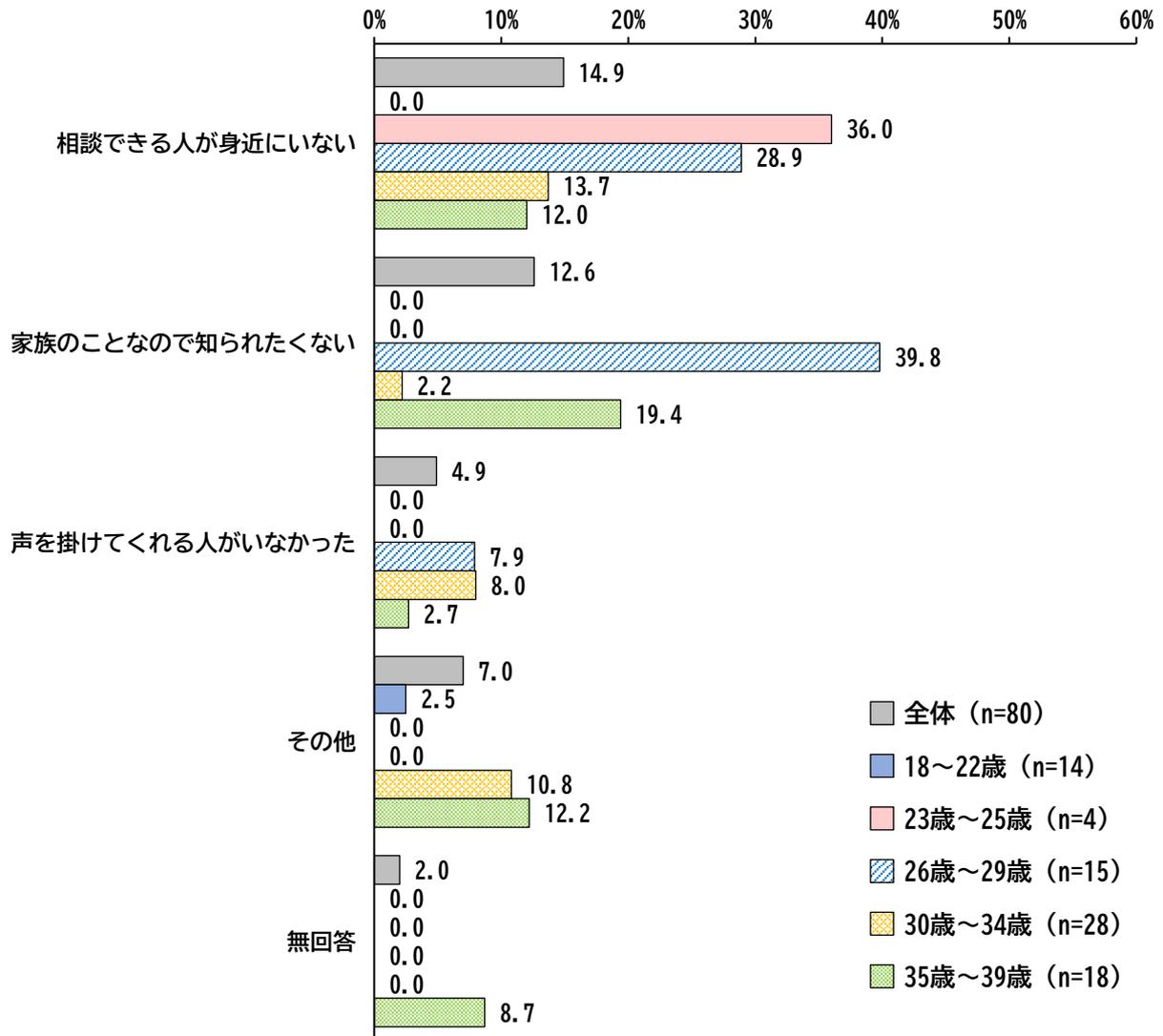
18～25 歳では「誰かに相談するほどの悩みではない」「家族以外の人に相談するような悩みではない」が高くなっており、悩みを軽く捉える傾向がみられます。一方、30 代では「相談しても状況が変わるとは思わない」「家族のことなので話しにくい」が高くなっており、状況改善への諦めや家族への配慮が大きな壁となっていることがうかがえます。

【性別】

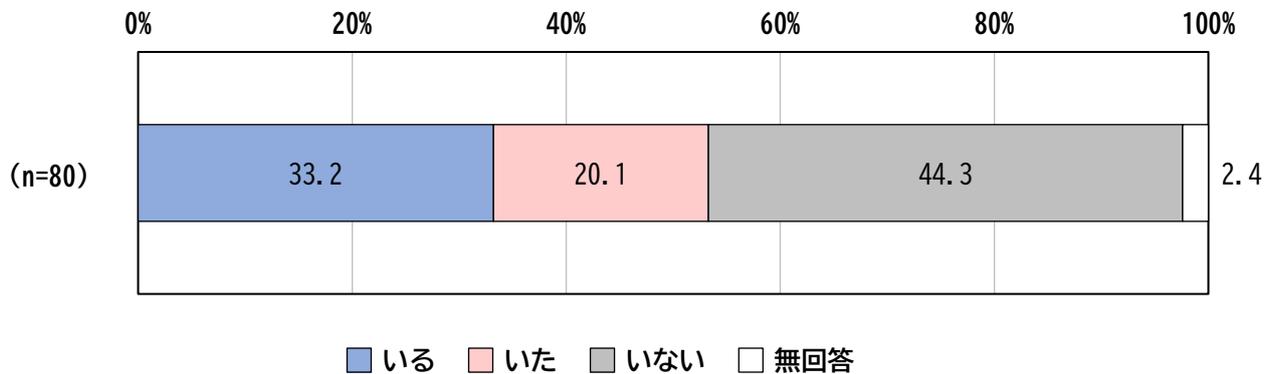


【年齢別】





問32. あなたのまわりにお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか、またはいましたか。(あてはまるもの1つに○)



【全体結果】

悩みを聞いてくれる人の有無については、「いる」が 33.2%、「いた」が 20.1%、「いない」が 44.3%となっています。

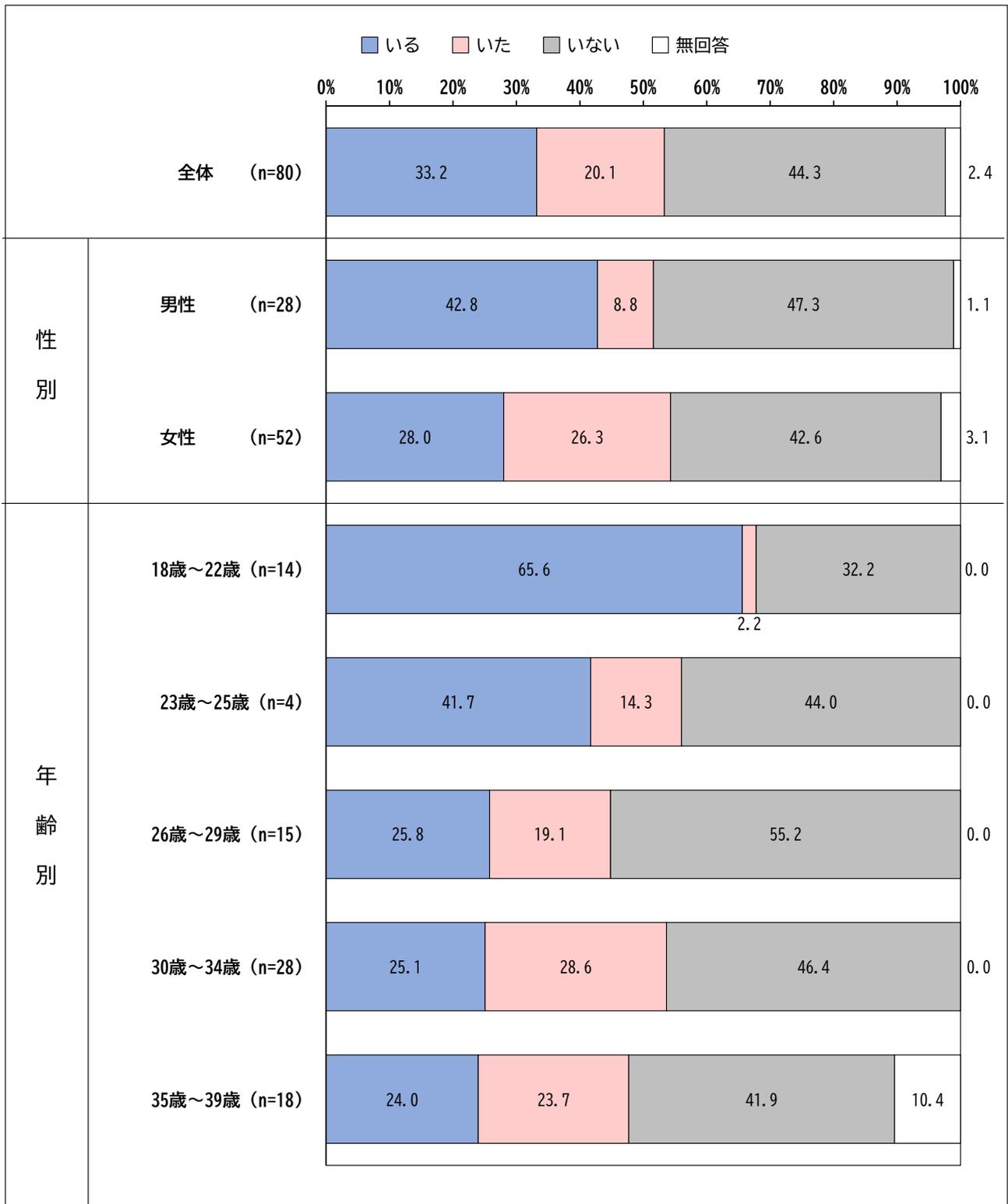
【属性別結果】

性別

男女ともに「いない」が4割超となっている一方で、男性の方が「いる」が 42.8%と高く、女性は「いた」26.3%と、相談相手の有無や時期に違いがみられます。

年齢別

18～22歳では「いる」が 65.6%と突出して高いのに対し、26～34歳では「いない」が5割前後と高くなっており、ライフステージが進むにつれて悩みを相談しにくくなる傾向がうかがえます。



3. 調査票

あなたの声が支援につながる

令和7年度 群馬県ヤングケアラー実態調査

※調査対象：満 18 歳～満 39 歳の方

【調査ご協力の願い】

県民の皆さまには、日頃から群馬県政に対し多大なる御理解、御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

群馬県では、県民の皆さまに、ヤングケアラーへの関心度や認知度に係る調査を実施させていただき、今後の支援施策や支援体制の充実を図りたいと考えています。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、趣旨を御理解いただき、皆さまの御意見をお聴かせくださいますようお願い申し上げます。

令和 7 年 12 月

群馬県 生活こども部 児童福祉課

～ ご回答前にお読みください ～

本調査は群馬県内にお住まいの満 18 歳～満 39 歳の方を対象に選挙人名簿から 3,300 人を無作為抽出して実施しており、個人情報調査終了後速やかに廃棄し、無記名回答のため個人が特定されることは一切ありません。回答時間は約 15 分ですので、貴重なお時間をいただきますがご協力をお願いします。

- ① あて名のご本人がお答えください(代筆・代理入力による回答も可能です)。
- ② 次のいずれかの方法でご回答ください。

Web での回答 | 令和 7 年 12 月 26 日(金)23:59 までに回答送信

- ◆ パソコン、スマートフォン、タブレットを使い、右図の QR コードを読み込むか、以下のアドレスを入力し、回答用ページを開き、入力してください。
<https://www17.webcas.net/form/pub/tsc59/gunmakenyangu>
- ◆ 本調査票を返送いただく必要はありません。



調査票に記入して回答 | 令和 7 年 12 月 26 日(金)までに投函

- ◆ あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。回答する数(○をつける数)は、各設問の()内の表記をご参照ください。
- ◆ 記入済みの本調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください(切手は不要です)。

1. あなたご自身について教えてください。

問 1. あなたの住んでいる市町村を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 前橋市	2. 高崎市	3. 桐生市	4. 伊勢崎市	5. 太田市
6. 沼田市	7. 館林市	8. 渋川市	9. 藤岡市	10. 富岡市
11. 安中市	12. みどり市	13. 榛東村	14. 吉岡町	15. 上野村
16. 神流町	17. 下仁田町	18. 南牧村	19. 甘楽町	20. 中之条町
21. 長野原町	22. 嬭恋村	23. 草津町	24. 高山村	25. 東吾妻町
26. 片品村	27. 川場村	28. 昭和村	29. みなかみ町	30. 玉村町
31. 板倉町	32. 明和町	33. 千代田町	34. 大泉町	35. 邑楽町

問 2. あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. どちらでもない	4. 答えたくない
-------	-------	------------	-----------

問 3. あなたの年齢について教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 18歳	2. 19歳	3. 20歳	4. 21歳
5. 22歳	6. 23歳～25歳	7. 26歳～29歳	8. 30歳～34歳
9. 35歳～39歳			

問 4. あなたの職種を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 高校生	2. 大学生	3. 高等専門学校生	4. 短大・専門学校生
5. 経営者・役員	6. 会社員（正社員）	7. 会社員（契約・派遣）	8. パート・アルバイト
9. 公務員（教職員を除く）	10. 教職員	11. 医療関係者	12. 自営業・自由業
13. 専業主婦・主夫	14. 士業	15. NGO・NPO法人職員	16. 団体職員
17. 無職	18. その他（		）

問 5. あなたの業種を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 農業・林業	2. 漁業	3. 鉱業・採石業・砂利採取業
4. 建設業	5. 製造業	6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業	8. 運輸業・郵便業	9. 卸売業・小売業
10. 金融業・保険業	11. 不動産業・物品賃貸業	12. 学術研究・専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業	14. 生活関連サービス業・娯楽業	15. 教育・学習支援業
16. 医療・福祉	17. 複合サービス事業	
18. サービス業（ほかに分類されないもの）		
19. 公務（ほかに分類されるものを除く）		
20. 分類不能の産業（		）

問 6. 現在の婚姻状態を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 未婚	2. 既婚（離死別を含む）
-------	---------------

問 7. こどもの有無を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. いる	2. いない ⇒ 問9へ
-------	--------------

※【問7で「1.いる」と回答した方にお聞きします。】

問 8. こどもの年代を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 小学校入学前	2. 小学生	3. 中学生
4. 高校生	5. 大学生・短大生・専門学生	6. 社会人
7. 妊娠中	8. その他（	）

問 9. 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 一人暮らし	2. 配偶者	3. 父親・母親
4. 祖父・祖母	5. きょうだい	6. 子・孫
7. その他（		）

2. ヤングケアラーについて教えてください。

【ヤングケアラーとは？】

“本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども・若者”のことを「ヤングケアラー」と言います。

責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

ヤングケアラーは18歳未満の子どもだけでなく、進学や就職、婚姻など人生に関わる大きなイベントを多く迎えることになる概ね30歳代ぐらい（状況によっては40歳未満まで）の方も含まれます。



障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

資料：子ども家庭庁ホームページよ

問10. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか(あてはまるもの1つに○)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない ⇒ 問12へ

※【問10で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」または「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。】

問11. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ
2. 新聞
3. 雑誌・本
4. 講演会・イベント
5. Webサイト
6. SNS
7. 広報・チラシ・ポスター
8. 友人・知人から聞いた
9. 職場・学校
10. その他 ()

【群馬県ヤングケアラー支援相談窓口】

群馬県では、ヤングケアラー自身や関係者が相談しやすく、また、地域での実態に応じたきめ細かな支援が行われるよう、ヤングケアラー支援のためのワンストップ相談窓口を設置しています。

ヤングケアラー本人やヤングケアラーを発見した関係者が、どこに相談したらよいかわからないといった場合は、「ヤングケアラー支援ワンストップ相談窓口」にご相談ください。

相談は、群馬県が委託している特定非営利活動法人虹色のかさの相談員が対応します。

◆電話相談

利用時間 平日 9:00～17:00(土日祝日除く)

相談専用ダイヤル 090-1158-4140

◆LINE 相談

24 時間いつでも相談を受け付けています。

※LINE の友だち登録が必要です

◆リアルタイムチャット相談

毎月第4火曜日 14:00～17:00

LINE でのチャット相談を実施しています。

※LINE の友だち登録が必要です

詳しくは虹色のかさのホームページをご覧ください。

<https://youngcarergunma.com/>



《虹色のかさホームページ》



ヤングケアラー支援ネットぐんま

虹色のかさ



《LINE の友だち登録はこちら》

3. 家庭や家族のことについて教えてください。

問15. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。または過去にお世話をしていた人がいましたか。(あてはまるもの1つに○)

※ここでの「お世話」とは、本来、あなた以外の大人がすると考えられる家事や家族の世話などをすることです。

- | | | |
|------------|---|-------------|
| 1. いる | } | 問 16～問 27 へ |
| 2. いたことがある | | |
| 3. いない | | |

※「3. いない」と回答した人は、アンケートはここで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

※【問 16～問 27 までは、問 15 で「いる」または「いたことがある」と回答した人にお聞きします。】

問 16. あなたがお世話をしている人、またはしていた人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------------------------|------------|--------|
| 1. 母 | 2. 父 | 3. 祖母 |
| 4. 祖父 | 5. 兄・姉 | 6. 弟・妹 |
| 7. 1～6 以外の親族 (おじ・おば・いとこ・おい・めい 等) | 8. その他 () | |

問 17. 問 16 で答えた人の状況を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------|-------------------------------------|-------------------|
| 1. 高齢 (65 歳以上) | 2. 若い | 3. 要介護 (介護が必要な状態) |
| 4. 認知症 | 5. 身体障害 | 6. 知的障害 |
| 7. 精神疾患 (疑い含む) | 8. 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む) | |
| 9. 7、8 以外の病気 | 10. その他 () | |

問 20. あなたはどれくらいの期間お世話をしていますか、またはしていましたか。

(あてはまるもの1つに○)

※お世話をしている人が複数いる場合は、通算の期間をお答えください。

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|-----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～2年未満 | 3. 2～3年未満 | 4. 4～5年未満 |
| 5. 5～6年未満 | 6. 6～7年未満 | 7. 7～8年未満 | 8. 8～9年未満 |
| 9. 9～10年未満 | 10. 10～15年未満 | 11. 15～20年未満 | 12. 20年以上 |

問 21. あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか、またはしていましたか。日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※「その他」を選択した場合は、詳細を記入してください。お世話をしている人が複数いる場合は、合計日数で教えてください。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3～5日 | 3. 週に1～2日 |
| 4. 1か月に数日 | 5. その他 () | |

問 22. 平日のお世話時間は1日あたりどれくらいですか。(あてはまるもの1つに○)

※お世話をしている人が複数いる場合は、合計時間で教えてください。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間以上2時間未満 | 3. 2時間以上3時間未満 |
| 4. 3時間以上4時間未満 | 5. 4時間以上5時間未満 | 6. 5時間以上6時間未満 |
| 7. 6時間以上7時間未満 | 8. 7時間以上 | |

問 25. 周囲の人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか、またはありましたか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の今の状況について話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談に乗ってほしい
3. 家族の病気や障害、お世話のことなどについて分かりやすく説明してほしい
4. 自分が行っているお世話のすべてを代わってやってくれる人やサービスがほしい
5. 自分が行っているお世話の一部を代わってやってくれる人やサービスがほしい
6. 自由に使える時間がほしい
7. 進路や就職などの将来のことについて相談に乗ってほしい
8. 学校の勉強や受験勉強などのサポート
9. 家庭への経済的なサポート
10. 就労支援
11. どこに相談したらよいか教えてほしい
12. どんなことを助けてもらえるのか教えてほしい
13. その他 ()
14. 特にない
15. わからない

問 26. 誰かに相談する場合、どのような方法で話を聞いてもらったり、相談にのったりしてほしいですか、またはしてほしかったですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 直接会って
2. 電話
3. SNS
4. 電子メール
5. その他 ()

問 27. お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。
(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. ある ⇒ 問 28～問 30 へ | 2. ない ⇒ 問 31 へ |
|---------------------|----------------|

※【問 31～問 32 は、問 27 で「ない」と回答した人にお聞きします。】

問 31. 相談していない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 誰かに相談するほどの悩みではない
2. 家族以外の人に相談するような悩みではない
3. 誰に相談するのがよいかわからない
4. 相談できる人が身近にいない
5. 家族のことなので話しにくい
6. 家族のことなので知られたくない
7. 家族に対して嫌な思いを持たれたくない
8. 相談しても状況が変わると思わない
9. 声を掛けてくれる人がいなかった
10. その他 ()

問 32. あなたのまわりにお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか、またはいましたか。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. いる | 2. いた | 3. いない |
|-------|-------|--------|

アンケートは以上で終わりです。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

この用紙(調査票)を同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、12月26日(金)までに郵便ポストに投函してください。

(オンライン上でご回答いただいた方は、調査票の返送は不要です。)

ご回答いただいた内容については統計的に分析し、県政運営のための貴重な資料として活用させていただきます。

※なお、本調査の概要については県ホームページにも掲載しています。

<https://www.pref.gunma.jp/page/730997.html>



4. その他記述 ※主なものを抜粋

問 4. あなたの職種を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自営手伝い | <input type="checkbox"/> 予備校生 |
| <input type="checkbox"/> 就労継続支援 B 型事業所 | <input type="checkbox"/> フリーター (1 件) |
| <input type="checkbox"/> 大学院生 | <input type="checkbox"/> 大学院生 (1 件) |
| <input type="checkbox"/> 就労 B 型 障害者就労施設 | <input type="checkbox"/> 県立学校校務補助職員 |
| <input type="checkbox"/> フリーランス | <input type="checkbox"/> 内職 |
| <input type="checkbox"/> 介護福祉士 | <input type="checkbox"/> ハンドメイド作家 |
| <input type="checkbox"/> 保育士 | <input type="checkbox"/> 農業 専従者 |
| <input type="checkbox"/> 福祉関係の契約社員 | <input type="checkbox"/> 個人事業家族従業員 |
| <input type="checkbox"/> 専業従事者 | <input type="checkbox"/> 専門職 |
| <input type="checkbox"/> 病気の為、一時的に無職 | <input type="checkbox"/> 会計年度任用職員 |

問 5. あなたの業種を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 学生 (20 件) | <input type="checkbox"/> 医療食品株式会社 |
| <input type="checkbox"/> 電気機器 | <input type="checkbox"/> 畜産業 |
| <input type="checkbox"/> 車のディーラーで整備士 | <input type="checkbox"/> 図書館司書 |
| <input type="checkbox"/> 営業 | <input type="checkbox"/> 主婦 |
| <input type="checkbox"/> レタスの栽培 | <input type="checkbox"/> 大学生 (1 件) |
| <input type="checkbox"/> 元看護師 | <input type="checkbox"/> こども園 |
| <input type="checkbox"/> 栄養士 | <input type="checkbox"/> web デザイナー |
| <input type="checkbox"/> 就労 B 型 | <input type="checkbox"/> 主婦 |
| <input type="checkbox"/> 高校生 | <input type="checkbox"/> 学業 (2 件) |
| <input type="checkbox"/> 事務 | <input type="checkbox"/> 自己制作・販売活動 |
| <input type="checkbox"/> 行政書士 | <input type="checkbox"/> 遺跡発掘の発掘作業員 |
| <input type="checkbox"/> 清掃業 | <input type="checkbox"/> ペットショップ |
| <input type="checkbox"/> 無職 (4 件) | <input type="checkbox"/> 発掘作業員 |
| <input type="checkbox"/> 浪人 | |

問 8. こどもの年代を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 記述なし

問 9. 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 姪 (1 件) | <input type="checkbox"/> ペット |
| <input type="checkbox"/> 姉妹 | <input type="checkbox"/> 叔父 |
| <input type="checkbox"/> パートナー (4 件) | <input type="checkbox"/> 叔母 (1 件) |
| <input type="checkbox"/> グループホーム | <input type="checkbox"/> 県外在住 |
| <input type="checkbox"/> 母親 (1 件) | <input type="checkbox"/> 婚約者 |

問 11. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 「母親がしんどい」という本で知った | <input type="checkbox"/> 漫画でヤングケアラーを取り扱ったのを読んだ、携帯のニュースで読んだ事がある |
| <input type="checkbox"/> YouTube | <input type="checkbox"/> 自分が現在その状況である |
| <input type="checkbox"/> 家族 (1 件) | <input type="checkbox"/> 研修会 |
| <input type="checkbox"/> 母 | <input type="checkbox"/> 自身が青年期アダルトチルドレンだった為 |
| <input type="checkbox"/> 漫画 (1 件) | <input type="checkbox"/> 大学の社会福祉に関する授業 |
| <input type="checkbox"/> 親 (1 件) | <input type="checkbox"/> きっかけを覚えていない |
| <input type="checkbox"/> CM | <input type="checkbox"/> 学校内の活動、市政の協力要請で会合あり |
| <input type="checkbox"/> 会社の社労士さんから回覧で | |

問 13. 「ヤングケアラー」に対してどのような仕組みや取組があると相談しやすい環境作りにつながるとお思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 市などで管理すること。ex 家族(親)が癌で入院していることが戸籍で分かれば、市からこのような仕組みがあることを知らせたり、税金減額を自動ですれば安心だと思ふ。
- 自分からではなく、学校(先生)からヤングケアラーではないか?と聞いてくれる機会があれば、相談しやすい。
- 相談した後に、どのような支援を受けられるか相談したことで、相談者が家族から不利な状況にならないように、その後も支援をし続けてもらえるか。
- ヤングケアラーの定義を多くの人を知る。
- なるべく若い方が対応に当たること。
- 若い世代が多いはずなので、匿名でも良い相談窓口があると良いと思います。
- 自分の家庭を客観視できる機会があること。
- サポーター派遣が充実し、そのような制度を県民が理解している必要がある。
- ヤングケアラー同士の会話の機会。
- ヤングケアラーじゃない人が、ヤングケアラーの人がどこかに頼れないか知っている(周知している)状態を作ること。
- 相談した所で、どんな支援があるのか分からないので、相談しないかも。ヘルパーが無料で月〇日使えるなど具体的対策が、前もって分かれば相談しやすい。
- 個人情報を守られる制度作り。
- ヤングケアラーの行きそうな学校やスーパー等に、ポスターの掲示。
- 専門性が高く、理解があり、こんこんと対応して下さるスタッフの充実。
- 自分の立場がそうであるのか?を知る手段が重要。自分の立場を理解していないと相談も何もできない。相談前にヤングケアラーに関しての講演など、まずは小学校~高校で実施されることを望む。知識や情報発信は、浅くても良いので、広く提供することが必要だと思う。小さい子が一人で悩まなくても良い世の中になってほしいです。
- 本人に自覚がない以上周りの大人が気付いて対処してあげられないと思う。ヤングケアラーだとしても家族から引き離されることなく、本人の暮らす環境を変えず、周りの家族ごとカウンセリングできる仕組みが必要だと思う。
- 実際ヤングケアラーに該当する人達は幼い頃からそれを当たり前だと思っている部分はあると思うので、SNS 対応も大切ですが小学校~高校で講演会をすることでヤングケアラーについて周知することも支援に繋がるとお思います。大学生とか自分で気づいた時からでの対応では遅いとお思います。
- 相談窓口の存在の周知。
- そもそも、そういう相談できる場所があり、どういった方法で相談できるのかという認知させてあげることも大事。相談できる場所があることを知らないとお相談もできない。また、相談を聞く側の態度や対応も重要。
- 講演会や学校の授業などで本人が自覚できたり、周囲の人がヤングケアラーについて知ったりする機会を設けること。
- 自身が「ヤングケアラー」に該当すると気付けない、気付くきっかけがない人の為の支援
- 子供をヤングケアラーにさせないための支援があること。
- 支援してる方がいると良い。食事の提供。
- まずはヤングケアラーというのがどのようなものなのか、該当者が「自分はそうなんだ」と気付けるように知ってもらふ事も相談の入り口になるのではないかとお思う。
- 可能性があるけど気づけていない人が気づけるような機会。
- ヤングケアラーの子が自分から相談するのが疑問がある。大変な事だと思ふが、家族に障害、介護、片親など、行政や学校が事前に把握できて、そちらの方からその子に、定期的に面談というか、会話をする機会があればいいなとお思う。
- ヤングケアラーの相談員が専門員の高齢者ではなく、虐待支援などの複合的な知識を持つ専門家であること。
- ヤングケアラー自身がヤングケアラーの存在を知らないと思ふので、介護対象者が通院する病院などがヤングケアラーの相談窓口を家族(ヤングケアラー)に周知すること
- 明確な金銭的、人的援助があること・その周知。
- 相談ではなく、訪問サービスのような、具体的なサポートがあるといいと思ふ。どんな支援があるのか分かりやすく見られる/一覧になっている。
- 当事者がヤングケアラーであることを認知できる場を設けること。
- ヤングケアラーは、自分がヤングケアラーである(かもしれない)という自覚がない可能性もあると感じる。他の家庭と自分の家庭を比べることもないため、やはり学校で教員などが気づくことが多いのではないか。そのため、本人がというよりはヤングケアラーのケースにどう対応したらよいか困る教員が相談に乗ってもらえる体制を強化したほうがよいと思ふ。スクールカウンセラー訪問日を増やすことで、児童生徒本人が直接支援してもらえらるというのもある。
- 中学、高等学校で説明や学習して認知を広げる機会があること。

- 当時を思い出すと話を聴いてくれるだけでも違うものがあると思う。
- ヤングケアラーに当てはまらない人が、ヤングケアラーを支援（募金）したいと思える行政法人の設立。
- 自覚のないヤングケアラーたちにも届くように分かりやすく周知すること。
- 当人がヤングケアラーだと気づいていない場合など、当事者ではない誰かがその事に相談などする場所や機会があれば良いと思う、もしくはもっとヤングケアラーについて知る機会を作る。
- 地域ごとでヤングケアラーに気づくことができる環境整備。
- そもそもヤングケアラーの自覚がないかも。

問 16. あなたがお世話をしている人、またはしていた人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 曾祖母
- おじ x2
- 義祖母
- 義祖母、義祖父
- 子供

問 17. 問 16 で答えた人の状況を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- 後遺症
- 発達障害 (ADHD)
- 持病
- 外国人
- 腎疾患
- 第一言語が日本語ではない。
- たまに母が仕事疲弊、多忙により、家事の代行(料理・洗濯等)をしていた。
- 怪我・後遺症・神経痛など。

問 18. 問 16 で答えた人に、あなたが行っている、または行っていたお世話の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- 片付けができない。散らかっている。
- 農作業。
- 着替えの手伝い、爪切りなど。

問 19. あなたが行っている、または行っていたお世話は、あなた以外にもする人はいますか、またはいましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 義父
- 配偶者
- 嫁

問 21. あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか、またはしていましたか。日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- 必要なときに。
- 家にいた頃は毎日。出てからは月1～5。
- 2週間
- 母にお願いされた時のみ。
- 自宅にいる日は見守る程度。

問 23. お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 外出が自由にできなかった。
- 精神面の安定。
- 祖母を一人にできなかったのも、誰かが家にはいないといけず、予定を思うように立てられない。
- 自分の子どもの育児があるのに思うようにならない。
- お金。
- 進学先を県内に留める選択肢を選ぶ。
- 金銭面の都合により高校に進学せず中学卒業後働いていた。
- 結婚する際の同居別居問題、子育てとの両立への負担による夫婦間の減少、疲れ。
- 家族の精神的負担を見ているのが辛い。

問 25. 周囲の人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか、またはありましたか。
(あてはまるものすべてに○)

- 全てが嫌になって、数日間家出した。
- 自分以外のお世話をする人が、もっと理性的にお世話をして欲しかった。
- 独立したい。
- 親戚に協力してほしかった。
- 家族の中でも介護への理解度に差があり、また介護は女がするものという父の考えにより家族への負担が大きかった。男性に対してレクチャーしてほしい。
- 当時大人が信用ならなかった。

問 26. 誰かに相談する場合、どのような方法で話を聞いてもらったり、相談にのったりしてほしいですか、またはしてほしかったですか。(あてはまるものすべてに○)

- 訪問
- オンライン (zoom など)
- まずは匿名で。相談にいたるまで勇気が必要だと思う。
- その時は、その事がヤングケアラーだとは思っていなかった。

問 28. 誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 心理士、教育関係者の知人
- 嫁
- 夫

問 29. 相談したことでどこかの支援先につながりましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 毒親について理解が得られない。
- 病院
- つながっていない (3件)
- 特別養護老人ホーム (2件)
- 特になし (本人が自ら支援先を見つけた為)

問 30. 相談してからお世話をする状況に変化はありましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 精神面が安定した。
- 家族の負担が減った。
- 妻との時間が増え子育てに専念できた。

問 31. 相談していない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- 家族のことなので自分がやるべきという義務感がある。自分がやるのが義務だと他の人も思っているだろうという気持ちがあり、自分の立場に不満を抱くことは甘えや責任感が無いと人に思われるかもしれない、軽蔑されるかもしれないという不安がある。
- 私自身ではなく、母の方が探していた。
- 何も変わらないと思う。
- 話しても「家族なんだから面倒みてやんなきゃ(文句言っちゃダメ)」と言われた。
- 家族なので世話をすることや手伝うことを当たり前と思っていた。

III 分析結果

分析結果

本章では、調査結果についてクロス集計分析を行い、設問間の関連性や傾向を明らかにします。分析は全9項目で構成されており、お世話の大変さ、生活への影響、お世話の内容、相談行動、ヤングケアラーの自己認識などの関係性を多角的に検討しています。

【分析における選択肢の整理について】

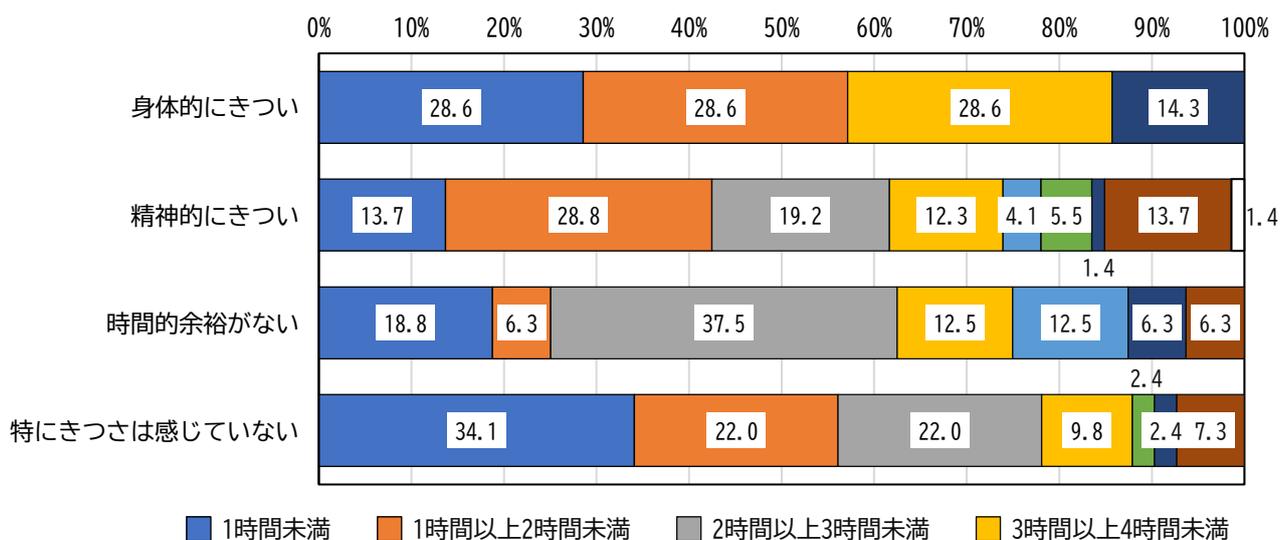
本分析では、選択肢数の多い一部の設問について、分析結果の傾向を把握しやすくする観点から、内容の類似する選択肢を一定の区分に整理して集計しています。対象設問は、問18「問16で答えた人に、あなたが行っている、または行っていたお世話の内容を教えてください。」、問19「あなたが行っている、または行っていたお世話は、あなた以外にもする人はいますか、またはいましたか。」、問23「お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。」の3問です。

1. お世話の大変さ別にみた平日のお世話時間の分布

問24. お世話をすることに大変さを感じていますか、または感じていましたか。

×

問22. 平日のお世話時間は1日あたりどれくらいですか。



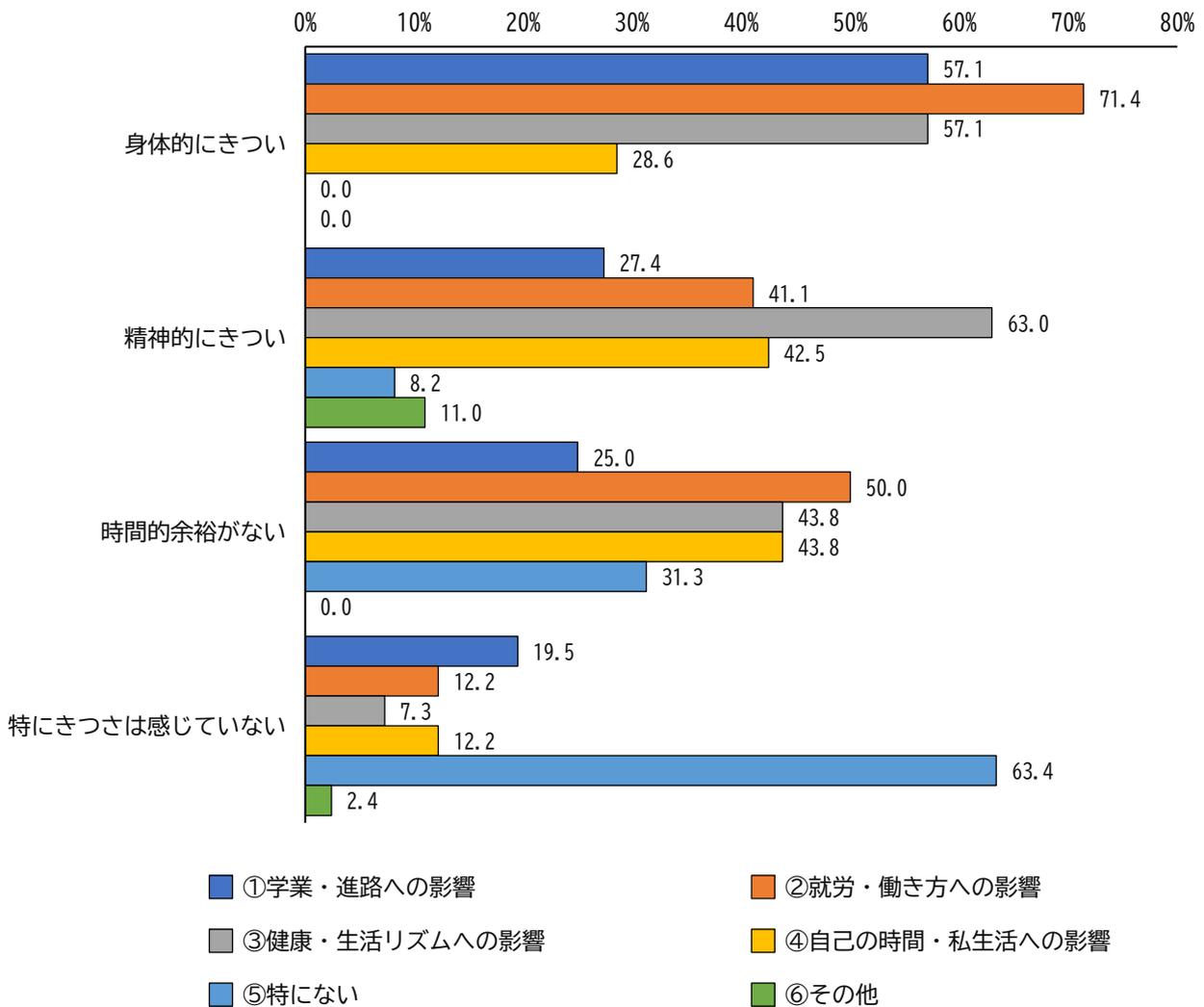
「特にきつさは感じていない」と回答した方では、1時間未満が34.1%と最も高く、お世話時間が短い層に集中する傾向がみられます。一方、「精神的にきつい」と回答した方では、お世話時間が幅広く分散しており、1時間以上2時間未満が28.8%で最多であるものの、7時間以上も13.7%と一定の割合を占めています。「時間的余裕がない」と回答した方では、2時間以上3時間未満が37.5%と突出して高く、比較的まとまった時間のお世話を担っている方が時間的な負担感を強く感じていることがうかがえます。「身体的にきつい」と回答した方は、1時間未満、1時間以上2時間未満、3時間以上4時間未満がいずれも28.6%となっており、お世話時間の長短にかかわらず身体的な負担を感じている実態が示されています。

2. お世話の大変さ別にみた生活への影響

問 24. お世話をすることに大変さを感じていますか、または感じていましたか。

×

問 23. お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。



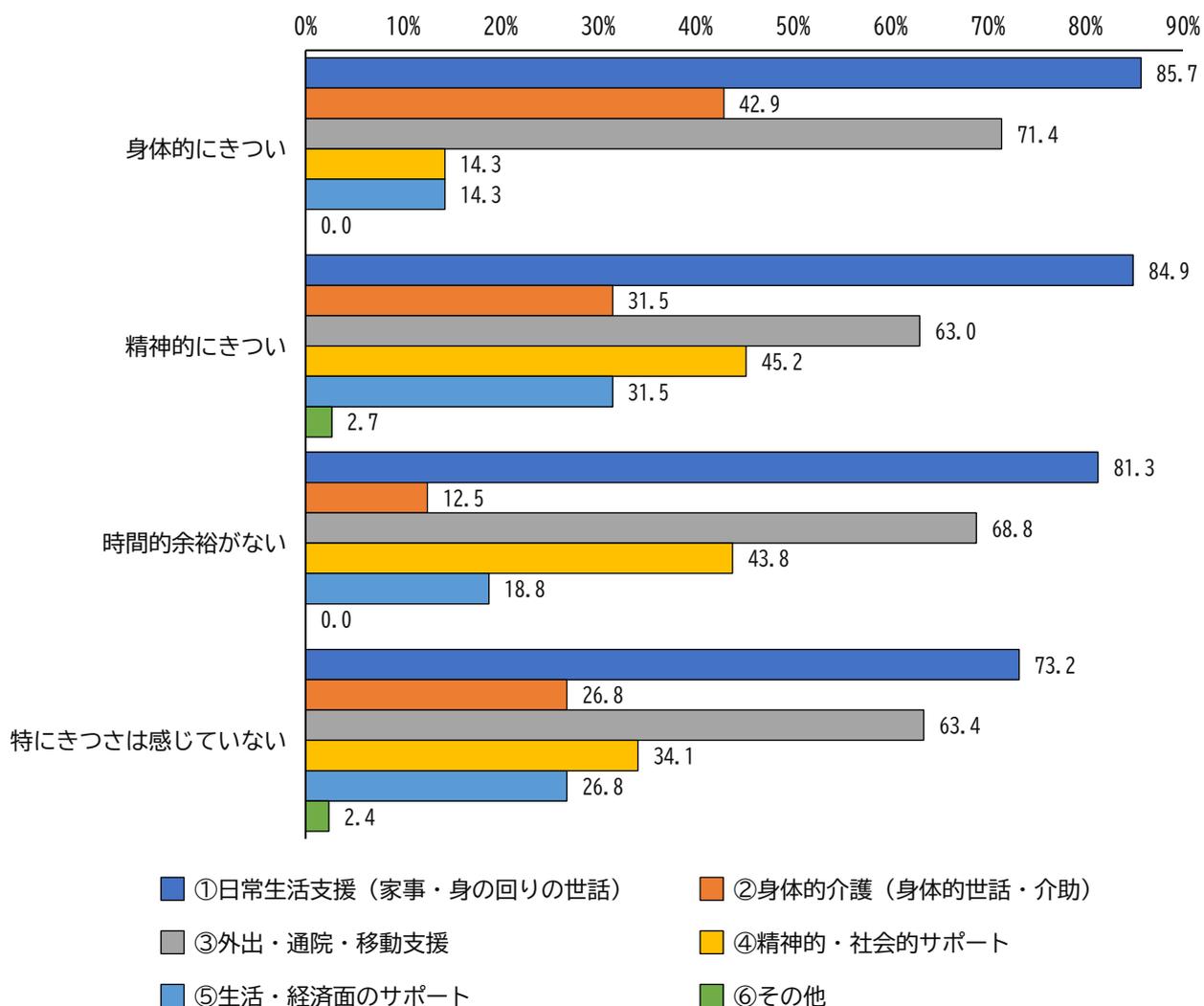
「身体的にきつい」と回答した方では、「②就労・働き方への影響」が 71.4%と最も高く、「①学業・進路への影響」と「③健康・生活リズムへの影響」もともに 57.1%に達しています。身体的な負担感は、就労面を中心に生活全般に広く影響を及ぼしていることがわかります。「精神的にきつい」と回答した方では、「③健康・生活リズムへの影響」が 63.0%で最も高く、精神的な大変さが睡眠不足や疲労の蓄積といった健康面の問題と強く結びついている傾向がみられます。また、「④自己の時間・私生活への影響」も 42.5%と高く、精神的な負担が私生活にも波及している実態が示されています。「特にきつさは感じていない」と回答した方では、「⑤特にない」が 63.4%と大半を占める一方、「①学業・進路への影響」が 19.5%、「②就労・働き方への影響」と「④自己の時間・私生活への影響」がそれぞれ 12.2%となっており、大変さを自覚していなくても一定の影響が生じているケースがあることに留意が必要です。

3. お世話の大変さ別にみたお世話の内容

問 24. お世話をすることに大変さを感じていますか、または感じていましたか。

×

問 18. あなたが行っている、または行っていたお世話の内容を教えてください。



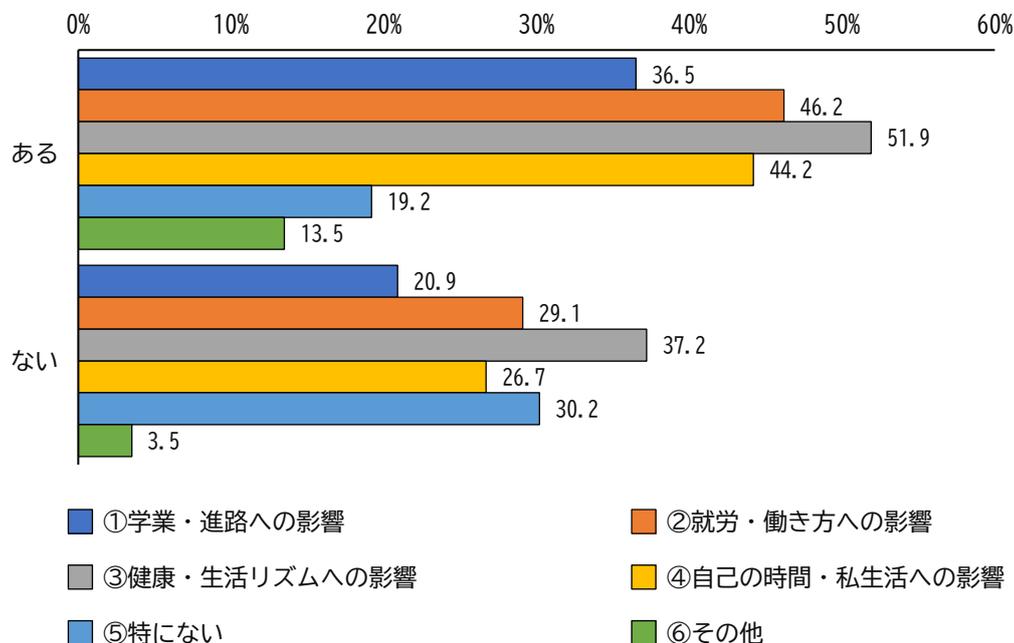
いずれの大変さの種類においても、「①日常生活支援（家事・身の回りの世話）」の割合が最も高く、73.2%～85.7%の範囲となっています。日常生活支援はお世話の基本的な内容であり、大変さの有無にかかわらず広く行われていることがわかります。「身体的にきつい」と回答した方では、「②身体的介護」が42.9%と他の区分に比べて最も高く、入浴やトイレの介助、医療的ケアなどの身体的介護が身体的負担感の主要因となっていることがうかがえます。また、「③外出・通院・移動支援」も71.4%と高い水準です。「精神的にきつい」と回答した方では、「④精神的・社会的サポート」が45.2%と全区分中で最も高い値を示しています。愚痴を聞く、話し相手になるなどの感情面のサポートが、精神的な負担感に直結していることが示唆されます。加えて、「⑤生活・経済面のサポート」も31.5%と比較的高く、金銭管理や家計を支えるための就労なども精神的な重荷になっている可能性があります。

4. 相談経験の有無別にみた生活への影響

問 27. お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

×

問 23. お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。



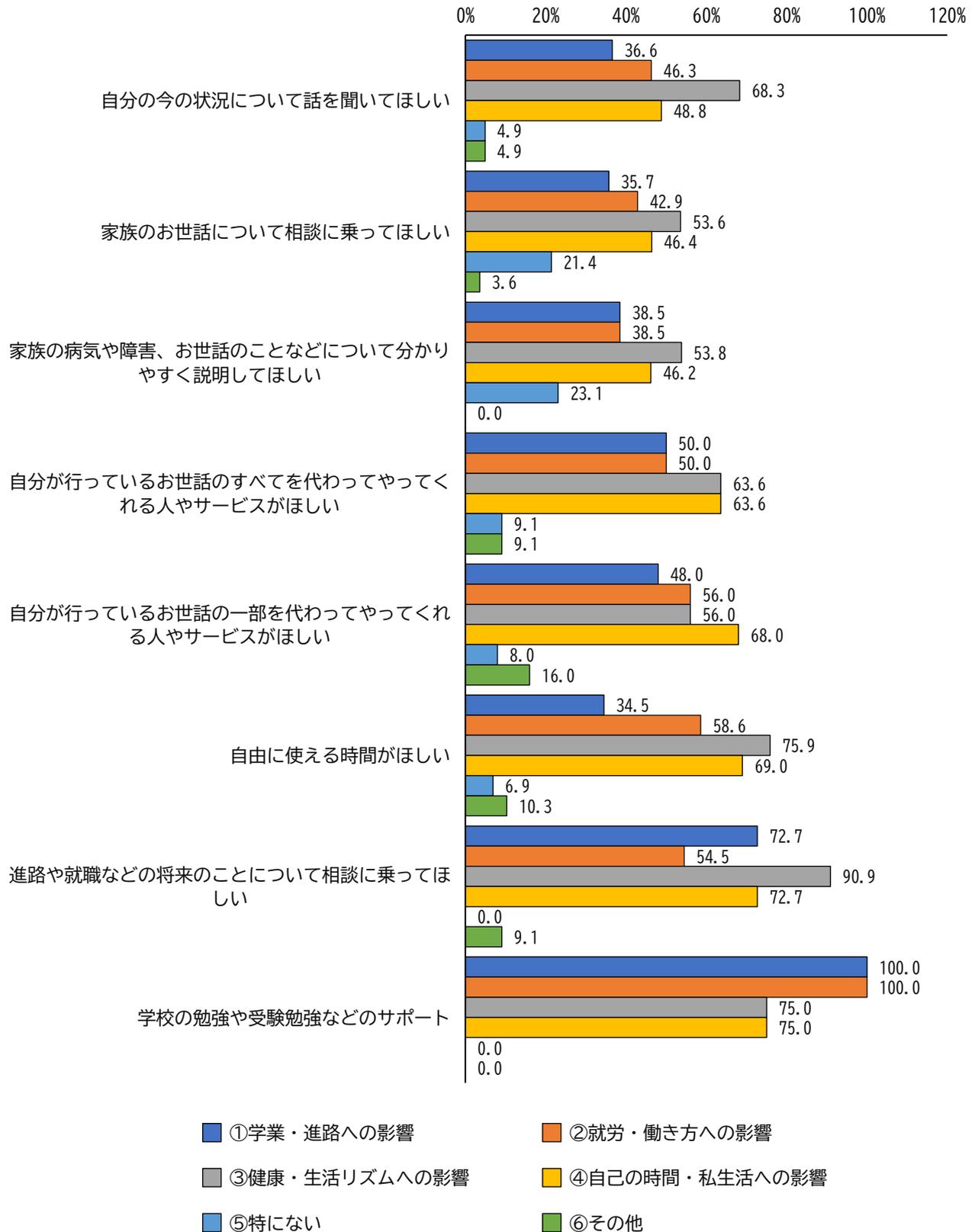
相談経験が「ある」と回答した方は、すべての影響項目において「ない」と回答した方よりも高い割合を示しています。特に「③健康・生活リズムへの影響」は、相談経験ありが 51.9%に対し、なしが 37.2%と 14.7 ポイントの差がみられます。この結果は、生活への影響が大きいほど相談行動に至りやすいことを示唆しています。「②就労・働き方への影響」でも相談あり 46.2%に対しなし 29.1%（差 17.1 ポイント）、「④自己の時間・私生活への影響」でも相談あり 44.2%に対しなし 26.7%（差 17.5 ポイント）と、顕著な差が確認されます。一方、「⑤特にない」は相談なしの方が 30.2%と高く、生活への影響を感じていない方は相談に至らない傾向があります。ただし、相談経験がない方でも「③健康・生活リズムへの影響」が 37.2%、「②就労・働き方への影響」が 29.1%と一定の影響を受けているにもかかわらず相談していない層が存在しており、潜在的な支援ニーズの把握が課題といえます。

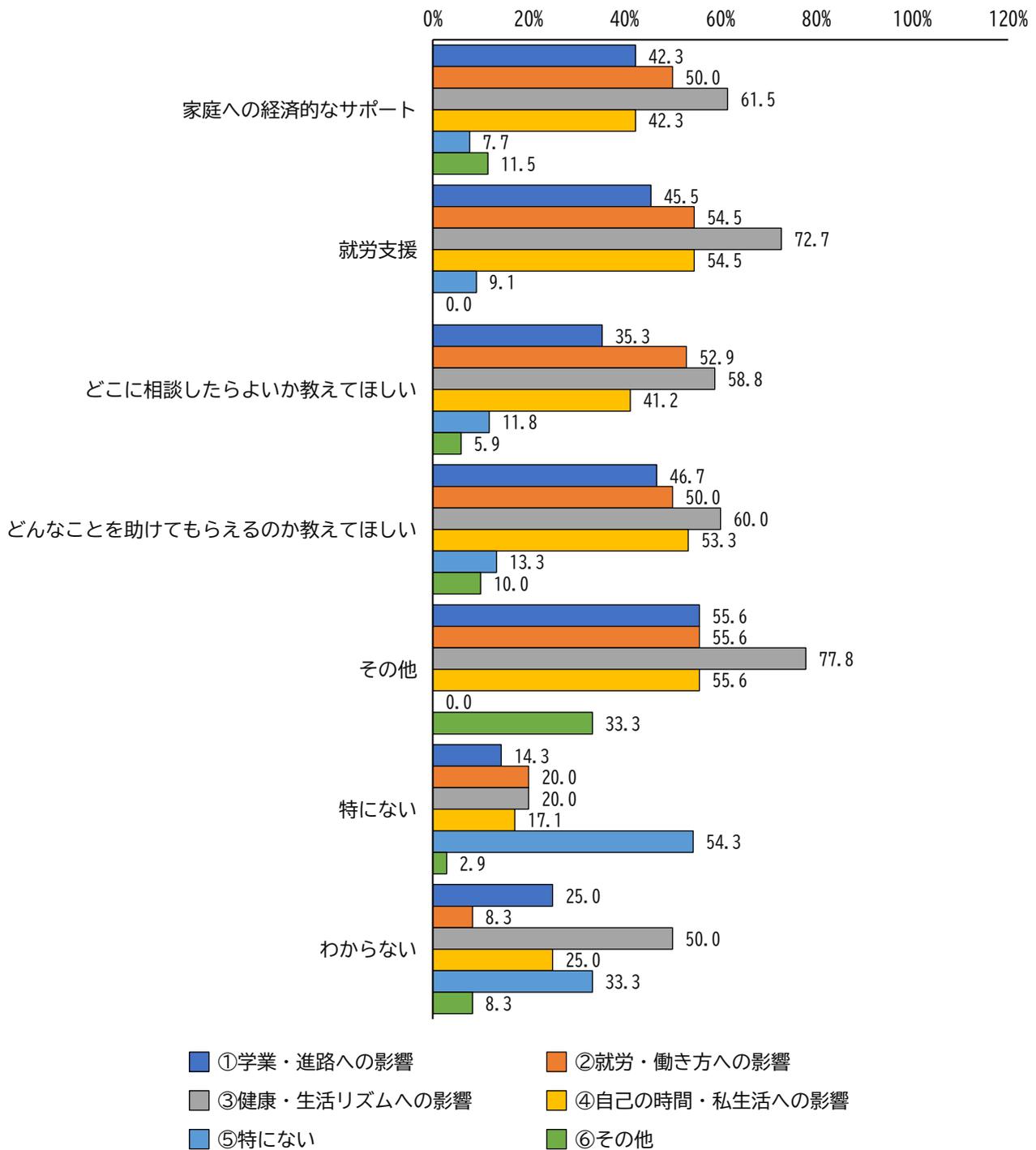
5. 周囲に助けてほしいこと別にみた生活への影響

問 25. 周囲の人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか、またはありましたか。

×

問 23. お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。





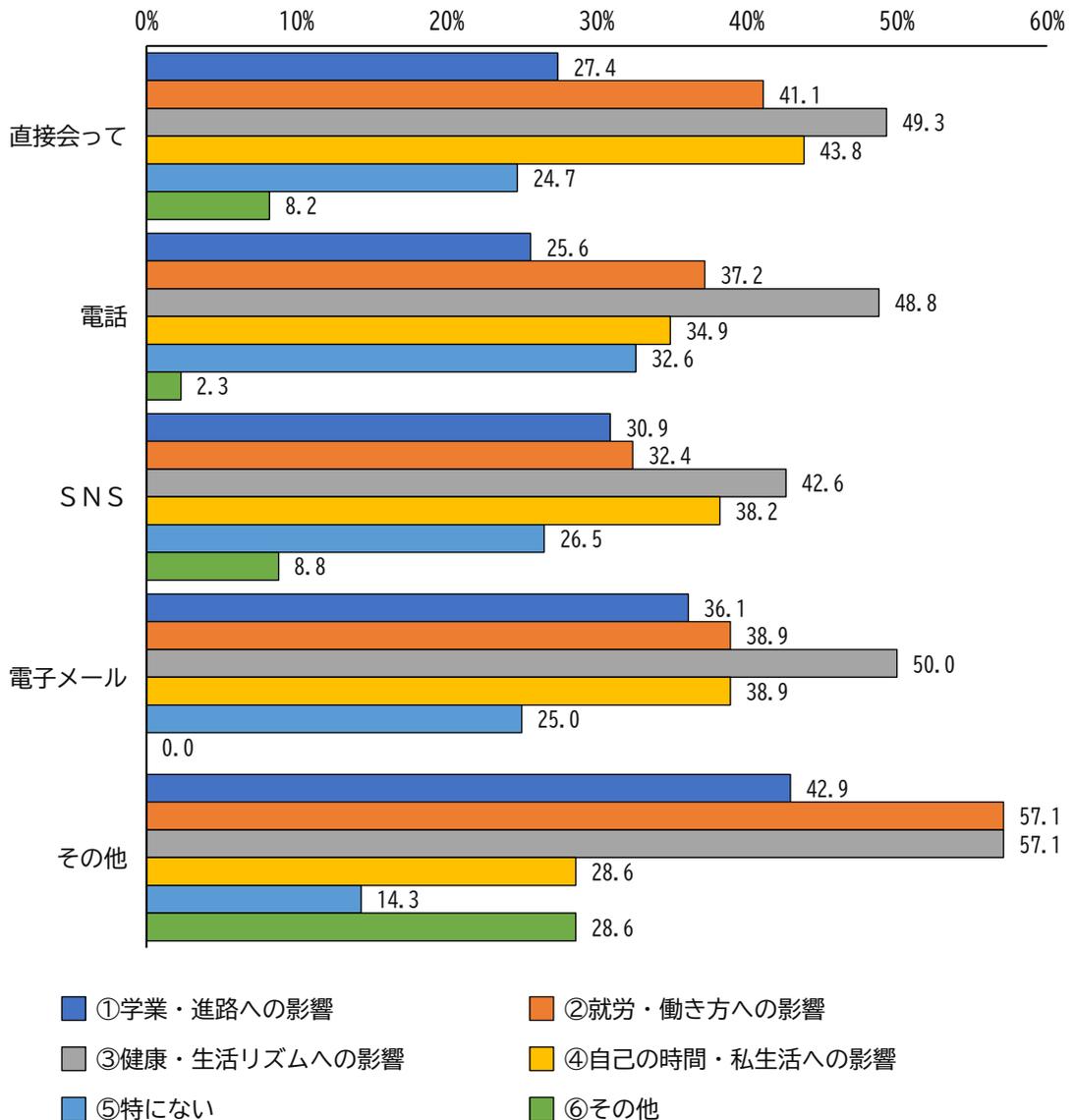
「学校の勉強や受験勉強などのサポート」を求めている方では、「①学業・進路への影響」と「②就労・働き方への影響」がともに100%となっており、学習面の支援ニーズと生活への深刻な影響が強く結びついています。「進路や就職などの将来のことについて相談に乗ってほしい」と回答した方では、「③健康・生活リズムへの影響」が90.9%、「①学業・進路への影響」と「④自己の時間・私生活への影響」がともに72.7%と、生活の多方面にわたる影響を受けていることがわかります。「自由に使える時間がほしい」と回答した方では、「③健康・生活リズムへの影響」が75.9%、「④自己の時間・私生活への影響」が69.0%と高く、時間的拘束が健康面と私生活の双方に影響している様子がうかがえます。全体的に、具体的な支援ニーズを持つ方ほど「③健康・生活リズムへの影響」の割合が高い傾向があり、健康面への配慮を含む支援体制の整備が重要であることが示唆されます。一方、「特にない」と回答した方では、「⑤特にない」が54.3%と過半数を占めますが、「②就労・働き方への影響」が20.0%、「③健康・生活リズムへの影響」も20.0%と、支援を求めている方の中にも影響を受けている層が存在しています。

6. 希望する相談方法別にみた生活への影響

問 26. 誰かに相談する場合、どのような方法で話を聞いてもらったり、相談にのったりしてほしいですか、またはしてほしかったですか。

×

問 23. お世話をしていることで、あなたがやりたいこと、できていないことはありますか、またはありましたか。



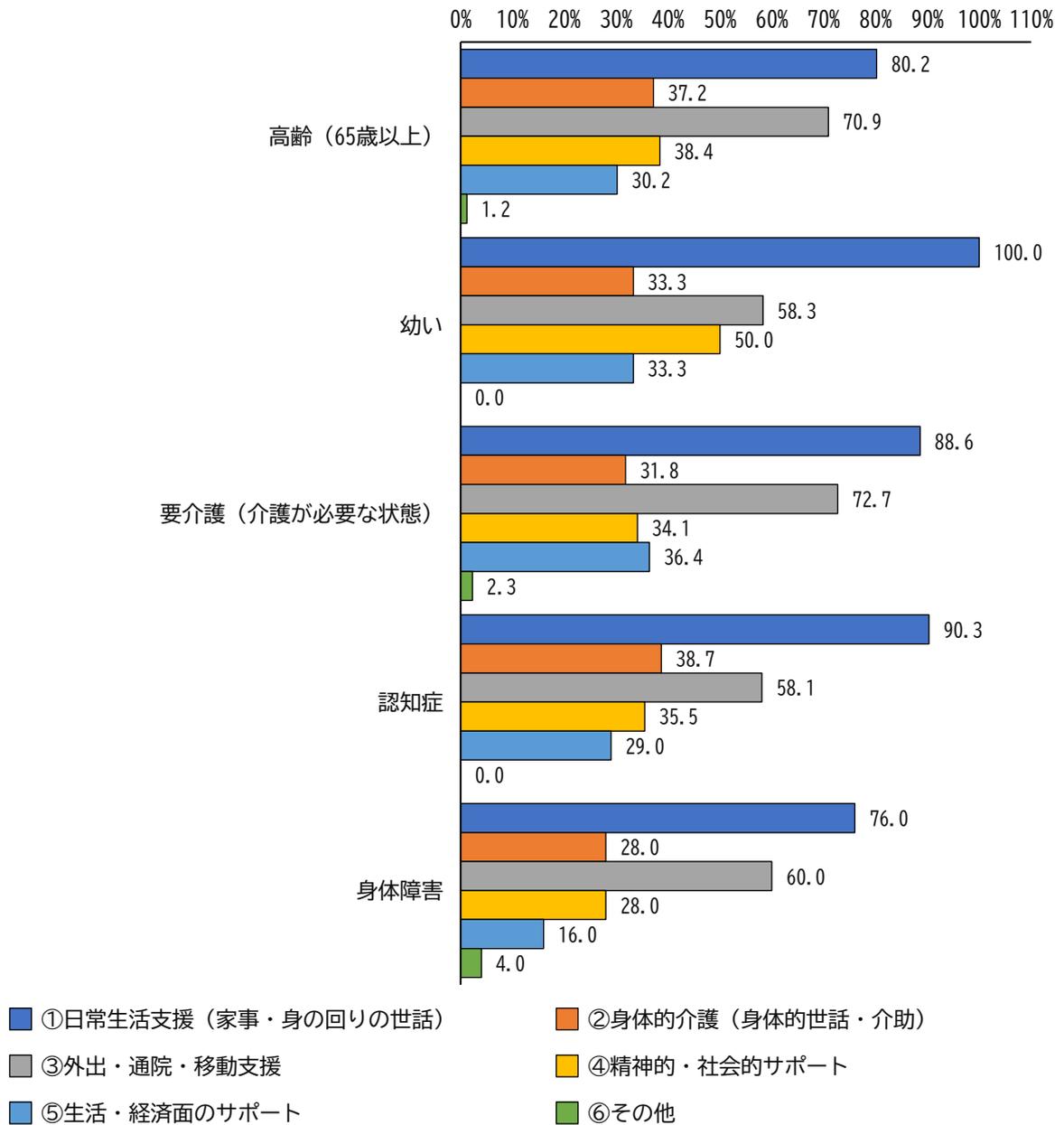
すべての相談方法において、「③健康・生活リズムへの影響」の割合が最も高い傾向にあり、42.6%～57.1%の範囲となっています。相談方法の希望にかかわらず、健康面の問題が共通の課題であることがわかります。「直接会って」を希望する方では、「④自己の時間・私生活への影響」が43.8%と比較的高く、私生活への影響が深刻な方ほど対面でのきめ細かな相談を求める傾向がみられます。「電子メール」を希望する方では、「①学業・進路への影響」が36.1%と他の方法に比べて高く、学業上の影響を抱える方がメールという時間に縛られない手段を選好している可能性が考えられます。「SNS」を希望する方では、各影響項目がいずれも30～42%程度とバランスよく分布しており、多様な課題を抱える方が利用しやすいツールとして認識されていることがうかがえます。相談窓口の整備にあたっては、対面・電話・SNS・電子メールなど複数の手段を確保し、相談者の状況やニーズに応じた多様なアクセス方法を提供することが重要です。

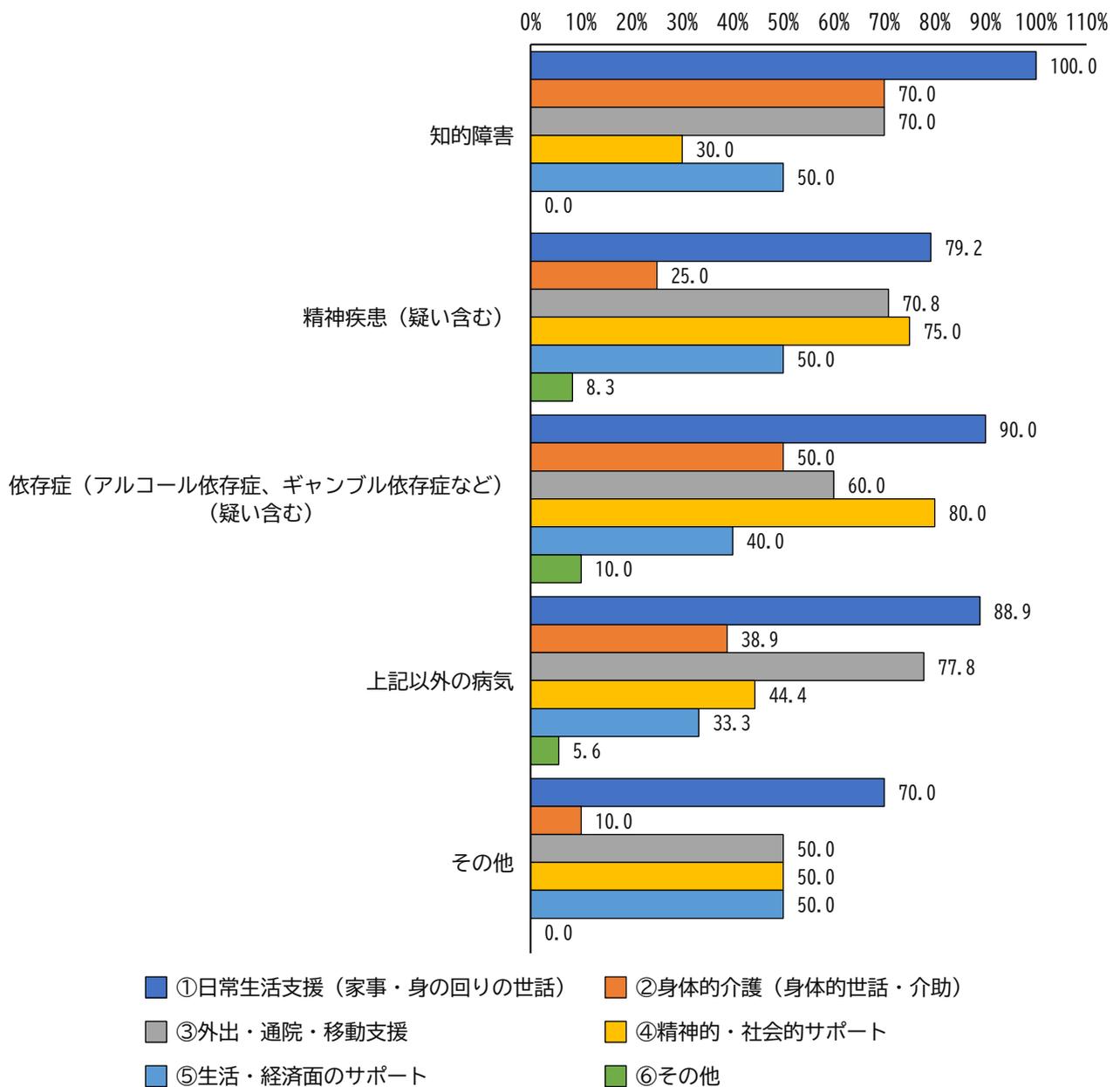
7. お世話対象者の状況別にみたお世話の内容

問 17. あなたがお世話をしている人、またはしていた人の状況を教えてください。

×

問 18. あなたが行っている、または行っていたお世話の内容を教えてください。





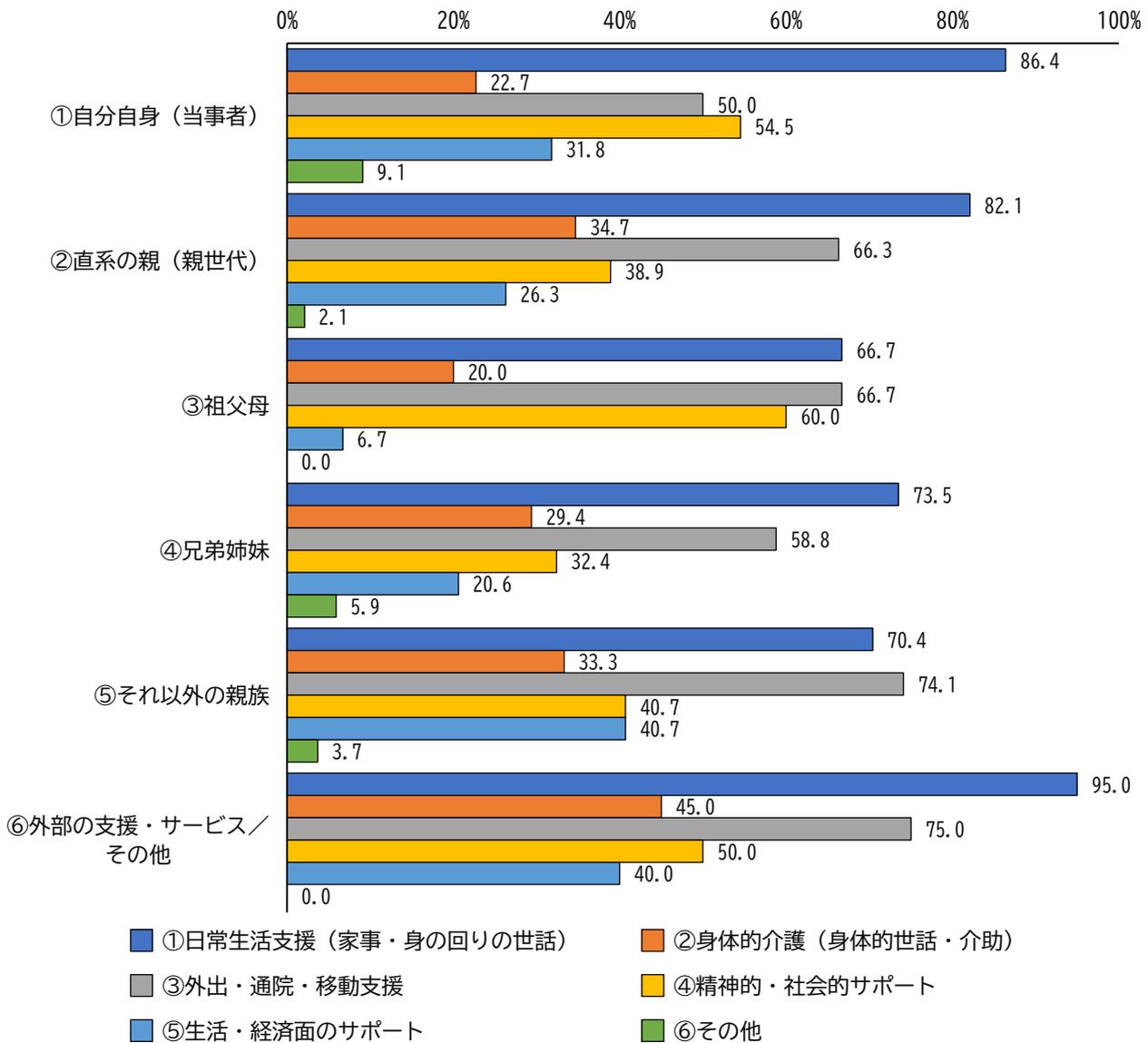
お世話対象者の状況によって、お世話の内容に明確な特徴の違いがみられます。「知的障害」では、「②身体的介護」が70.0%と全状況中で最も高く、「⑤生活・経済面のサポート」も50.0%に達しています。身体的な介助に加え、金銭管理等の生活面のサポートまで幅広いケアが求められている実態がわかります。「精神疾患 (疑い含む)」では、「④精神的・社会的サポート」が75.0%と顕著に高く、感情面のサポートや話し相手としての役割が大きな比重を占めています。「⑤生活・経済面のサポート」も50.0%と高い水準です。同様に、「依存症 (疑い含む)」では「④精神的・社会的サポート」が80.0%と最も高く、精神疾患や依存症を抱える家族のケアでは精神的な負担が特に大きいことが示されています。「高齢 (65歳以上)」と「要介護」では、「①日常生活支援」がそれぞれ80.2%、88.6%、「③外出・通院・移動支援」がそれぞれ70.9%、72.7%と高く、日常的な家事支援と通院等の付き添いが中心なお世話の内容となっています。「若い」家族のケアでは、「①日常生活支援」が100%と全員が該当しており、きょうだいの世話や送迎などが日常的に行われている状況です。

8. お世話を他にする人別にみたお世話の内容

問 19. あなたが行っている、または行っていたお世話は、あなた以外にもする人はいますか、またはいましたか。

×

問 18. あなたが行っている、または行っていたお世話の内容を教えてください。



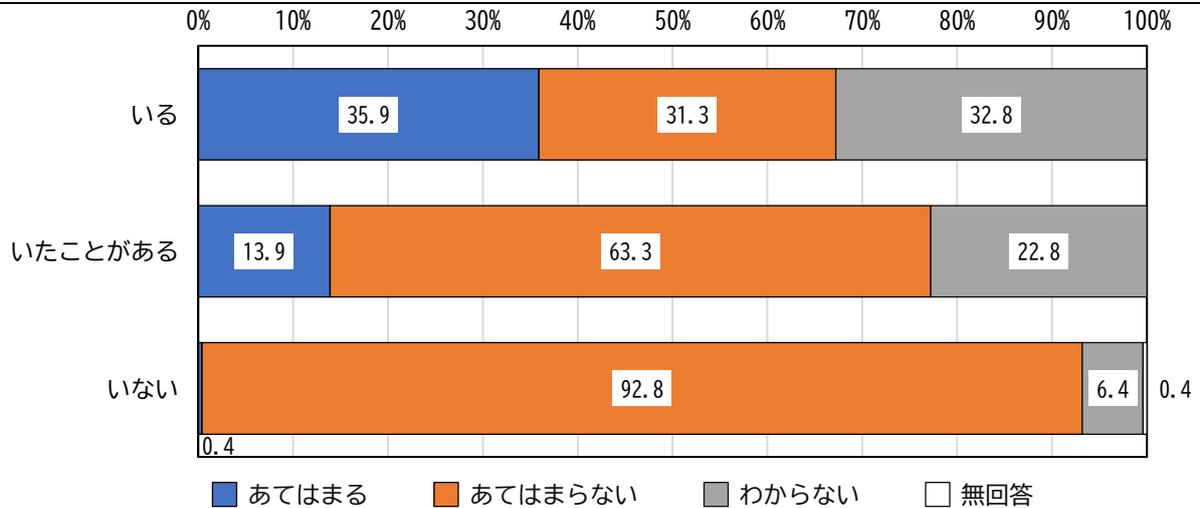
「①自分自身 (当事者のみ)」、すなわちお世話を自分だけで担っている方では、「④精神的・社会的サポート」が 54.5%と全区分中で 2 番目に高い値を示しています。一方で、「③外出・通院・移動支援」は 50.0%と他の区分に比べて低く、外出の付き添いや通院サポートについては他に担い手があるケースが多いことがうかがえます。「⑥外部の支援・サービス/その他」を利用している方では、「①日常生活支援」が 95.0%と最も高く、「③外出・通院・移動支援」も 75.0%、「②身体的介護」も 45.0%と全区分中で最高値です。外部サービスを利用している方は、お世話の内容が多岐にわたっており、それだけケアの負担が大きいために外部支援につながっている可能性が考えられます。「③祖父母」がお世話を分担している場合は、「④精神的・社会的サポート」が 60.0%と高い一方、「⑤生活・経済面のサポート」は 6.7%と極めて低く、祖父母は精神面での支えにはなるものの、経済面での分担には限界がある状況が読み取れます。「⑤それ以外の親族」では、「③外出・通院・移動支援」が 74.1%と最も高く、通院や外出の付き添いにおいて親族の協力が得られやすい傾向がみられます。

9. お世話の有無別にみたヤングケアラーの自己認識

問 12. あなたは自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。

×

問 15. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。または過去にお世話をしていた人がいましたか。



現在お世話をしている家族が「いる」と回答した方のうち、自身がヤングケアラーに「あてはまる」と認識している方は 35.9%にとどまっています。「あてはまらない」が 31.3%、「わからない」が 32.8%とほぼ 3 分の 1 ずつに分かれており、現にケアを担っていながらもヤングケアラーとしての自己認識が明確でない方が約 3 分の 2 を占めている点は、重要な課題です。過去にお世話をしていた家族が「いたことがある」と回答した方では、「あてはまる」が 13.9%とさらに低く、「あてはまらない」が 63.3%と大半を占めています。過去のケア経験があっても、振り返ってヤングケアラーだったと認識する方は少数にとどまっており、当時の自覚の乏しさや、ヤングケアラーという概念が認知される以前にケアを行っていた可能性が考えられます。お世話をしている家族が「いない」と回答した方では、「あてはまらない」が 92.8%と大多数を占めています。この結果は全体として総合的ですが、「わからない」が 6.4%存在しており、お世話をしていないと回答しつつも自身の状況の判断に迷いを感じている方が一定数いることも注目されます。ヤングケアラー支援施策を推進するうえでは、現にケアを担っている方の自己認識を高めるための周知啓発の取組が不可欠であり、「わからない」と回答した層へのアプローチも重要な課題といえます。

分析のまとめ

お世話に伴う負担は、生活全般に広範な影響を及ぼしていることがうかがえます。身体的・精神的・時間的な負担を感じている方は、就労・働き方、健康・生活リズム、自己の時間・私生活など、複数の生活領域に影響を受けており、特に、精神的な負担は健康面の問題と、身体的な負担は就労面への影響と、それぞれ強く結びついている状況がみられます。また、負担の種類によってお世話の内容にも一定の違いがみられることから、負担の状況に応じたきめ細かな支援の必要性が示されています。

あわせて、お世話対象者の状況によって、ケアの内容や負担の質に違いがみられます。精神疾患や依存症を抱える家族のケアでは精神的・社会的サポートの比重が高く、知的障害のある家族のケアでは身体的介護から経済面の管理まで多岐にわたるお世話が求められており、支援策の検討に当たっては、対象者の状況に応じた支援策の充実が重要であると考えられます。

また、生活への影響が大きい方ほど相談行動に至る傾向がみられる一方で、影響を受けながらも相談に至っていない方が一定数存在しています。相談経験のない方の中にも、健康面や就労面で影響を受けている方がみられることから、支援ニーズを十分に自覚していない層も含めた、早期把握や働きかけの必要性が示唆されます。

さらに、支援ニーズが具体的かつ切実である方ほど、生活への影響も深刻である傾向がみられます。学習支援や進路相談を求める方では学業面や健康面への影響が大きく、自由に使える時間や代替的な支援を求める方では健康面や私生活面への影響が大きいことから、相談者の状況に応じた支援内容の提供とともに、対面、電話、SNS、電子メール等の多様な相談手段を確保することが重要です。

加えて、現にケアを担っている方においても、ヤングケアラーとしての自己認識が十分に形成されていない状況がみられます。現在お世話をしている家族がいる方のうち、自身がヤングケアラーに「あてはまる」と認識している方は 35.9%にとどまっており、「あてはまらない」または「わからない」とする回答も多くみられました。このため、支援につながる前提として、自身の状況への気づきを促す周知啓発の充実が重要であると考えられます。

以上の分析結果を踏まえると、今後のヤングケアラー支援施策においては、対象者の状況に応じた支援策の充実、潜在的な支援ニーズを有する層への働きかけの強化、ヤングケアラーに関する認知度向上と自己認識を促す周知啓発の推進、さらには対面・電話・SNS・電子メール等による多様な相談チャネルの確保を総合的に進めていくことが重要であると考えられます。

令和8年3月

群馬県 生活こども部 児童福祉課

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1